第 10 次芦屋すこやか長寿プラン 21

策定に向けたアンケート調査

結　果　報　告　書

芦屋市

目　次

Ⅰ. 調査の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

1　調査目的 ・・・ 1
2　実施要領 ・・・ 1
3　報告書の見方 ・・・ 2

Ⅱ. 調査結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

調査対象者の基本属性 ・・・ 3
1　ご家族や生活状況について ・・・ 6
2　からだを動かすことについて ・・・ 10
3　新型コロナウイルス感染症の影響について ・・・ 22
4　食べることについて ・・・ 26
5　毎日の生活について ・・・ 31
6　地域での活動について ・・・ 57
7　たすけあいについて ・・・ 70
8　健康について ・・・ 81
9　認知症について ・・・ 94
10　災害時や緊急時の対応などについて ・・・ 103
11　今後のサービスの利用について ・・・ 107
12　生活機能評価等に関する分析 ・・・ 113

2. 在宅介護実態調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 124

調査対象者の基本属性 ・・・ 124
1　調査対象者本人について ・・・ 128
2　主な介護者について ・・・ 173
3　介護者の就労について ・・・ 182

3. 介護人材実態調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 188

Ⅰ.調査の概要

1 調査目的

本調査は、令和６年度を初年度とする「第 10 次芦屋すこやか長寿プラン 21（第 10 次芦屋市高齢者福祉計画及び第９期介護保険事業計画）」の策定にあたり、市民の生活の実態や介護保険に対する考え・意向などを把握するとともに、計画策定の基礎資料とすることを目的として実施したものです。

2 実施要領

	調査区分	
	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査
（１）調査対象	令和５年１月１日現在で、市内在住の要介護認定を受けていない 65 歳以上の方から無作為抽出	令和５年１月１日現在で、市内在住の要支援・要介護認定者から無作為抽出 ※施設入所者を除く
（２）調査期間	令和５年２月１日～２月１５日 （２月８日にリマインドを行い、２月２２日まで延長して回収）	
（３）調査方法	郵送による配布、郵送・WEB による回収	
（４）配布数	３，０００ 件	２，０００件
（５）有効回収数 ［有効回収率］	２，００８件 （郵送１，８７２件、ＷＥＢ１３６件） ［６６．９％］	１，１７６件 （郵送１，１０７件、ＷＥＢ６９件） ［５８．８％］

	調査区分
	介護人材実態調査
（１）調査対象	市内の介護サービスを提供事業者等
（２）調査期間	令和５年２月１０日～２月 24 日
（３）調査方法	Ｅメールによる配布、回収
（４）配布数	１１２件
（５）有効回収数 ［有効回収率］	５９件 ［５２．７％］

３ 報告書の見方

（１）図表中の「ｎ（number of case）」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

（２）回答結果の割合「％」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第２位で四捨五入したものです。そのため、単数回答であっても合計値が 100.0％にならない場合があります。

（３）複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0％を超える場合があります。

（４）図表中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問を示しています。

・ＭＡ％（Multiple Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合

・３ＬＡ％（3 Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを３つ以内で選択する場合

これ以外の場合は、特に断りがない限り、単数回答（回答選択肢の中からあてはまるものを１つだけ選択する）形式の設問です。

（５）図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものです。

（６）表中の■は一番目に多い割合の項目、■は二番目に多い割合の項目、□は三番目に多い割合の項目を示しています。

（７）比較可能な設問については、前回調査（令和２年度（2020 年度））の結果を掲載しています。

Ⅱ. 調査結果

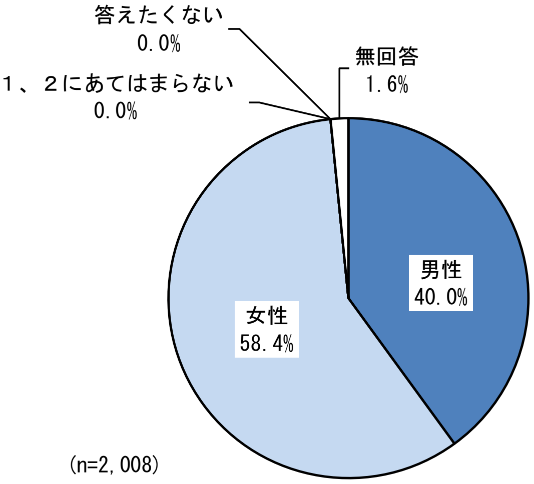
1. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査対象者の基本属性

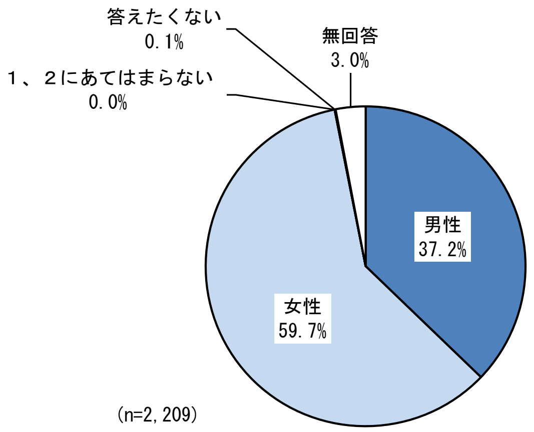
〔1〕性別

性別は、「男性」が 40.0%、「女性」が 58.4%となっています。

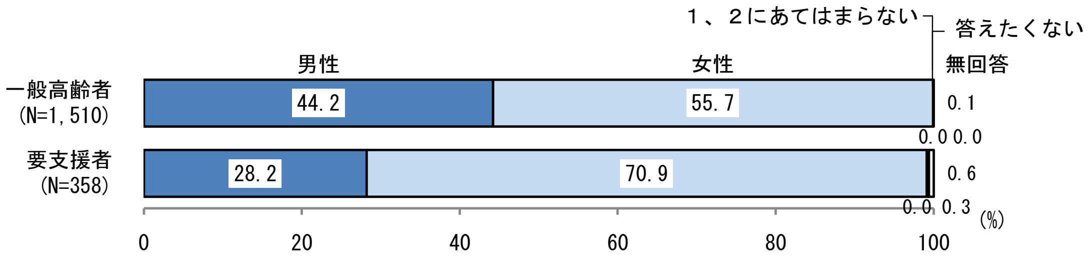
今回調査



前回調査



【認定状況別　性別】

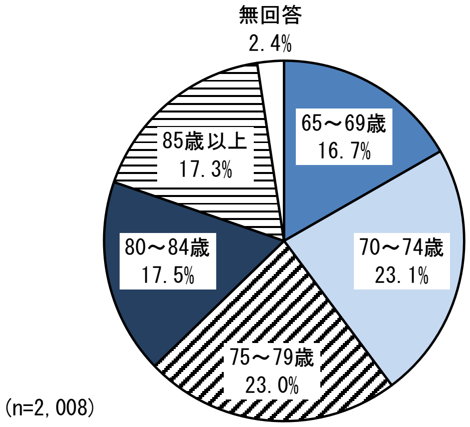


〔2〕年齢

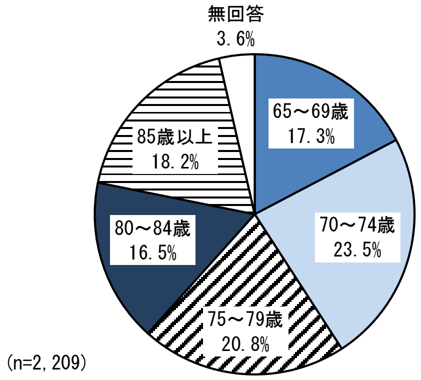
年齢は、「70～74 歳」が 23.1%と最も多く、65～74 歳の前期高齢者は合計 39.8%、75 歳以上の後期高齢者は合計 57.8%で、前回調査に比べて後期高齢者の割合が 2.3 ポイント減少しています。

居住地域別にみると、西山手生活圏域では後期高齢者の割合が 62.1%と多くなっています。

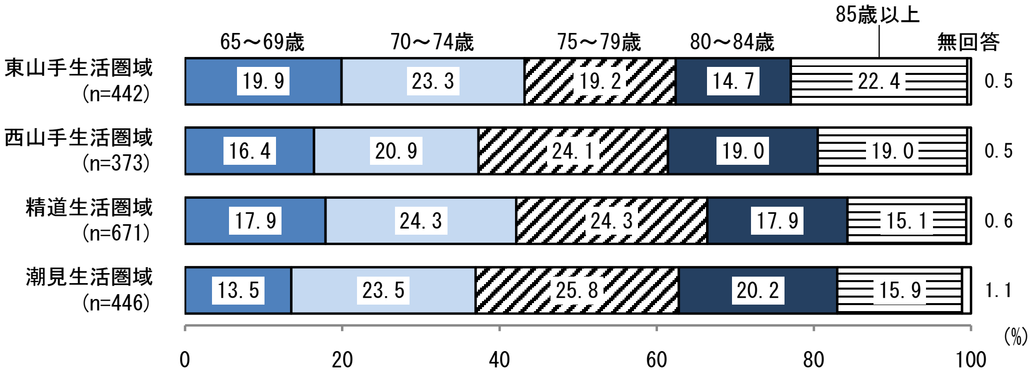
今回調査



前回調査



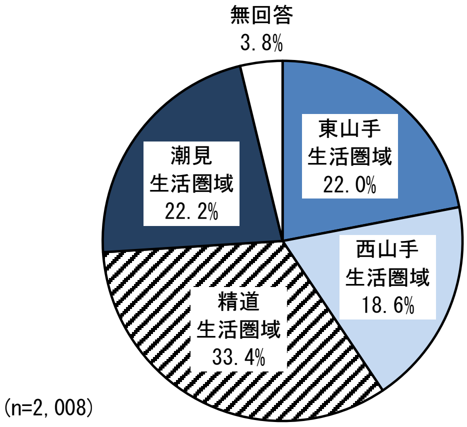
【居住地域別　年齢】



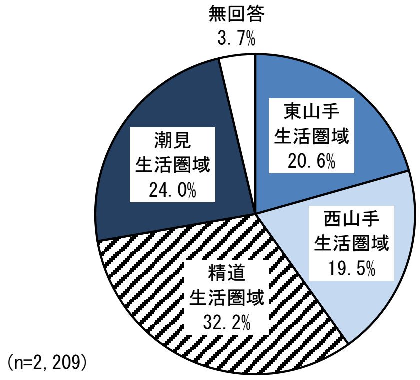
〔3〕居住地域

居住地域は「東山手生活圏域」が 22.0%、「西山手生活圏域」が 18.6%、「精道生活圏域」が 33.4%、「潮見生活圏域」が 22.2%となっています。

今回調査



前回調査

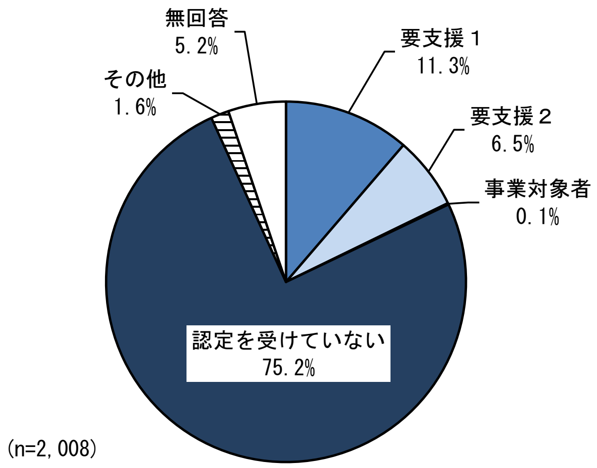


〔４〕要介護認定状況

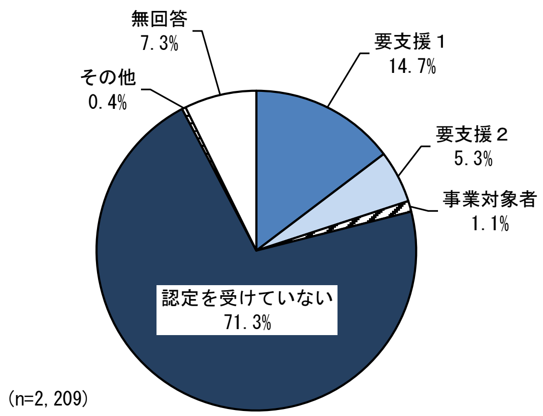
要介護認定状況については、「要支援１」が 11.3%、「要支援２」が 6.5%で、要支援認定者は合計 17.8%で、前回調査に比べて 2.2 ポイント減少しています。

居住地域別にみると、西山手生活圏域では要支援認定者は 19.9%と、他の地域に比べてやや多くなっています。

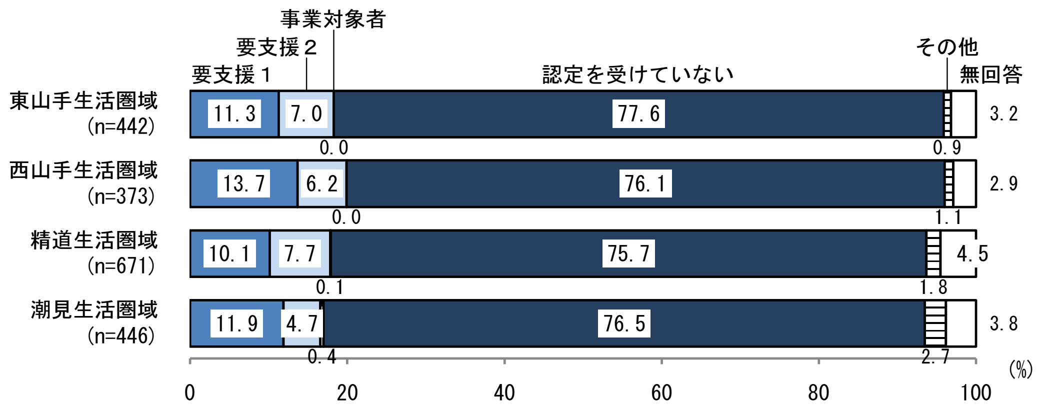
今回調査



前回調査



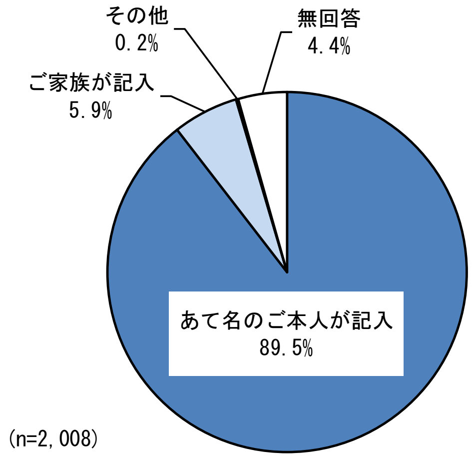
【居住地域別　要介護認定状況】



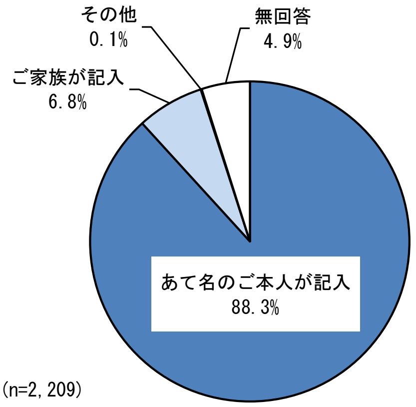
〔５〕調査票の記入者

調査票の記入者は、「あて名の本人が記入」が 89.5%と多く、「家族が記入」が 5.9%となっています。

今回調査



前回調査



１　ご家族や生活状況について

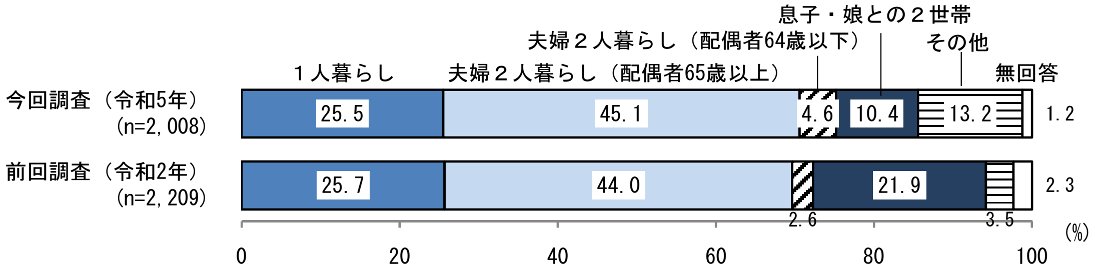
〔1〕家族構成

問1（1）　家族構成をお教えください（1つに○）

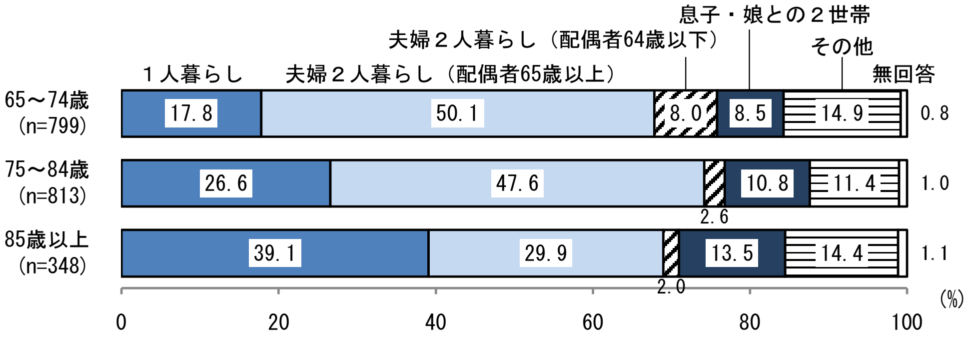
家族構成は、「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」が 45.1%と最も多く、次いで、「１人暮らし」が 25.5%、「息子・娘との２世帯」が 10.4%、「夫婦２人暮らし（配偶者 64 歳以下）」が 4.6%となっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「1 人暮らし」の割合は多くなり、85 歳以上では 39.1%と多くなっています。

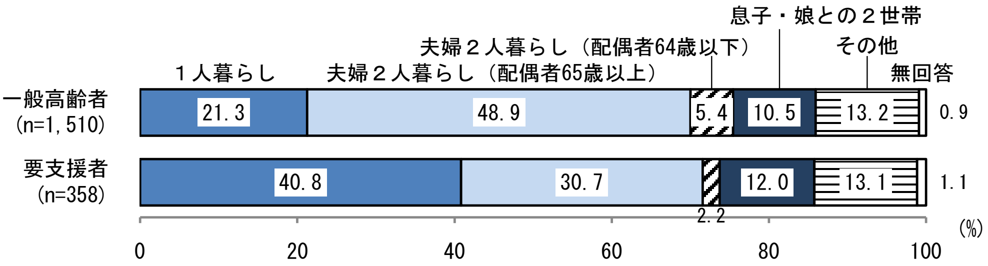
認定状況別にみると、要支援認定者では「１人暮らし」が 40.8%と、一般高齢者よりも 19.5 ポイント多くなっています。



【年齢別　家族構成】



【認定状況別　家族構成】



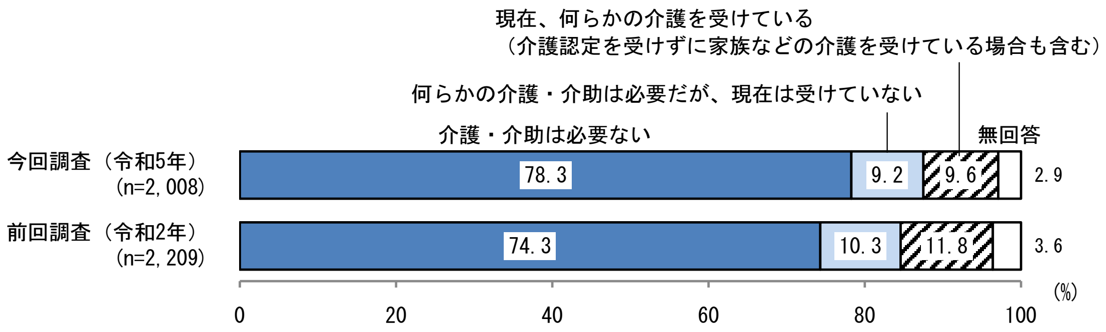
〔２〕介護・介助の必要性

問１（２）普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか （1つに○）

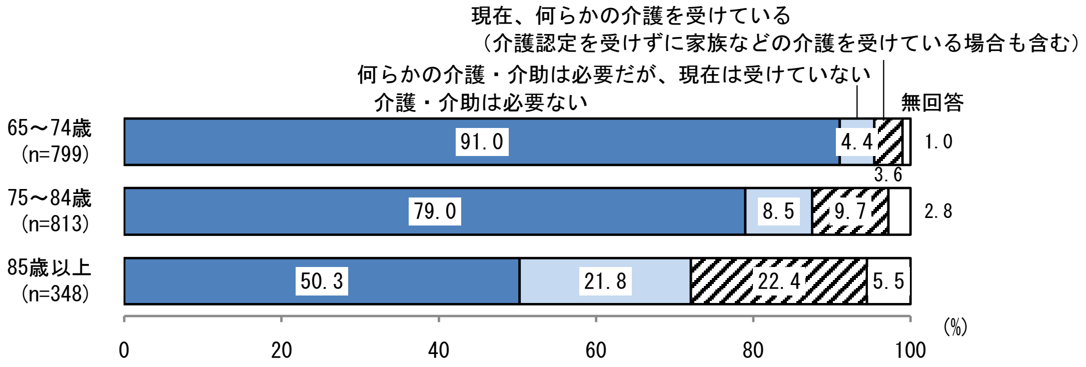
介護・介助の必要性については、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が9.2%、「現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族等の介護を受けている場合も含む） 」が 9.6%で、介護・介助の必要な人は合計 18.8%となっています。前回調査に比べて、介護・介助の必要な人は 3.3 ポイント減少しています。

年齢別にみると、介護・介助の必要な人は 75～84 歳で 18.2%、85 歳以上で 44.2%と、年齢が上がるにつれて多くなっています。

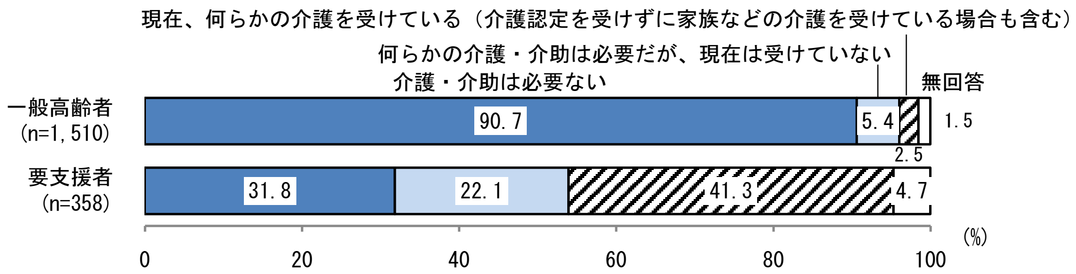
認定別にみると、要支援認定を受けているにもかかわらず、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」人は 22.1%みられます。



【年齢別　介護・介助の必要性】



【認定状況別　介護・介助の必要性】

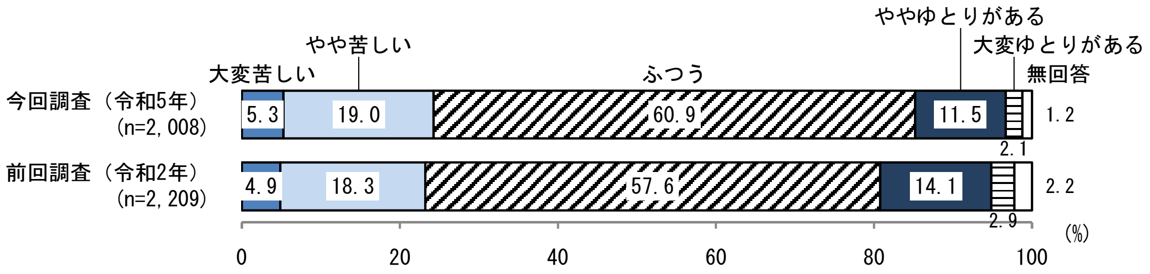


〔３〕暮らしの状況

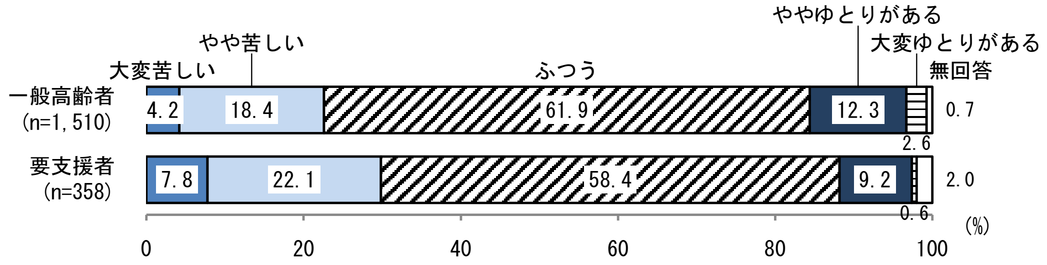
問１（３）現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか （1つに○）

現在の暮らしの状況については、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』が合計24.3%、「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』が合計 13.6%となっています。前回調査に比べて、『ゆとりがある』は 3.4 ポイント減少しています。

認定状況別にみると、要支援認定者では『苦しい』が 29.9%と一般高齢者に比べて 7.3 ポイント多くなっています。



【認定状況別　暮らしの状況】



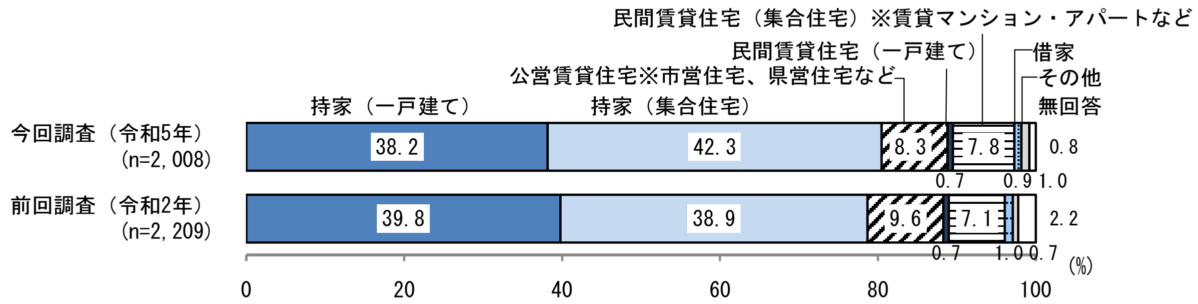
〔4〕住居形態

問1（4）お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか （1つに○）

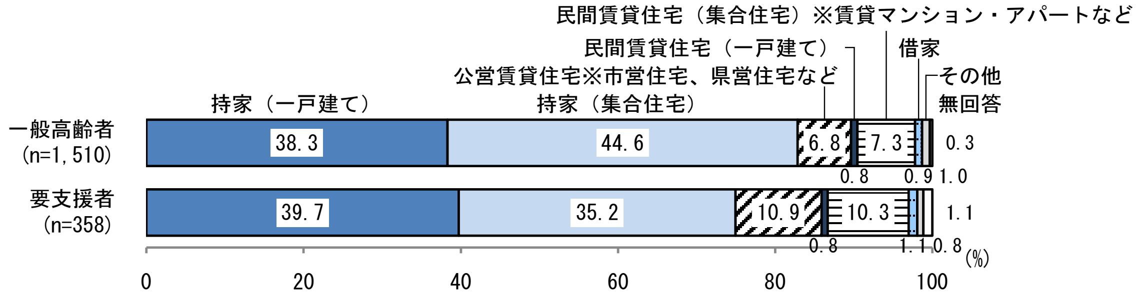
住居形態は、「持家（集合住宅）」が 42.3%と最も多く、次いで、「持家（一戸建て）」が38.2%となっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「公営賃貸住宅」が 10.9%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が 10.3%と、一般高齢者よりも多くなっています。

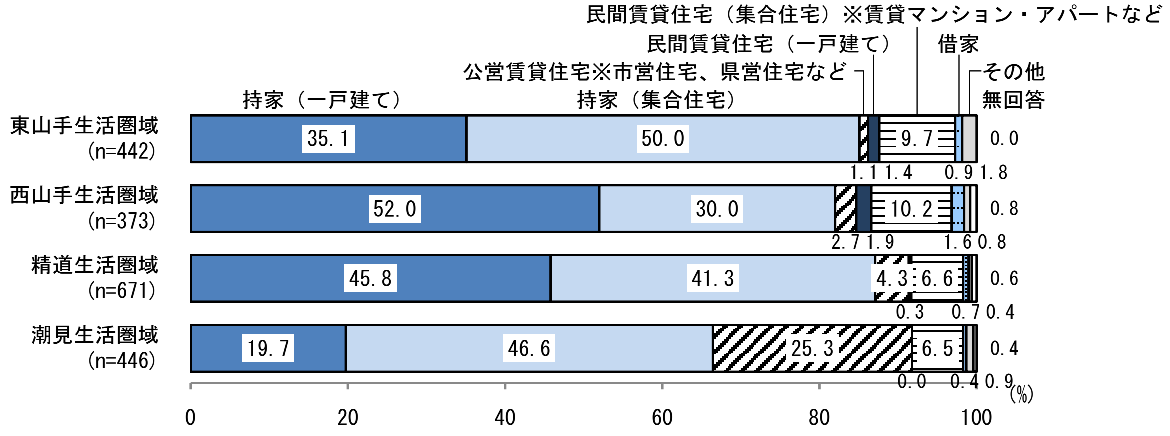
居住地域別にみると、潮見生活圏域では、他の生活圏域に比べて「持家（一戸建て）」の割合が少なく、「公営賃貸住宅」が多くなっています。



【認定状況別　住居形態】



【居住地域別　住居形態】

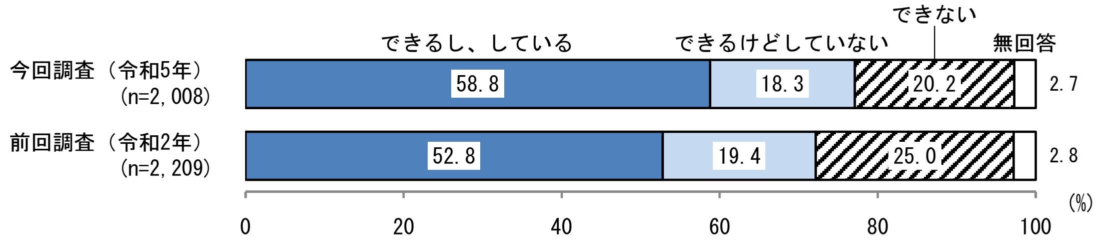


２　からだを動かすことについて

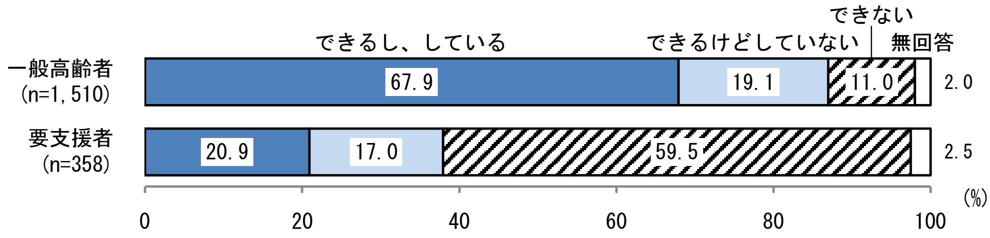
〔１〕運動機能の状況

問２（１）階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか　（1つに○）

階段を手すりや壁をつたわらずに昇っているかについては、「できるし、している」が 58.8%となっています。前回調査に比べて、「できるし、している」が 6.0 ポイント増加しています。

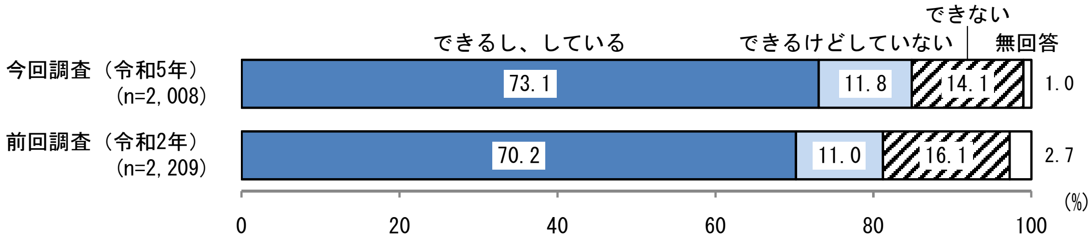


【認定状況別　階段を手すりや壁をつたわらずに上っているか】

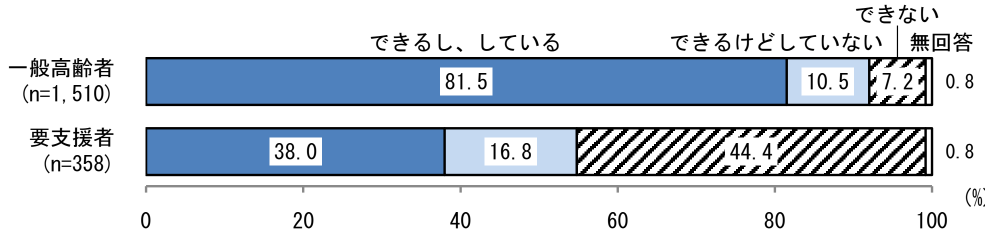


問２（２）椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか　（1つに○）

椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているかについては、「できるし、している」が 73.1%となっています。前回調査に比べて、「できるし、している」が 2.9 ポイント増加しています。

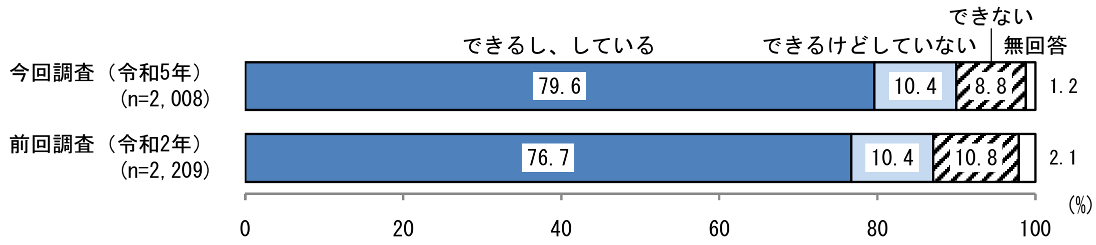


【認定状況別　椅子に座わった状態から何もつかまらずに立ち上がっているか】

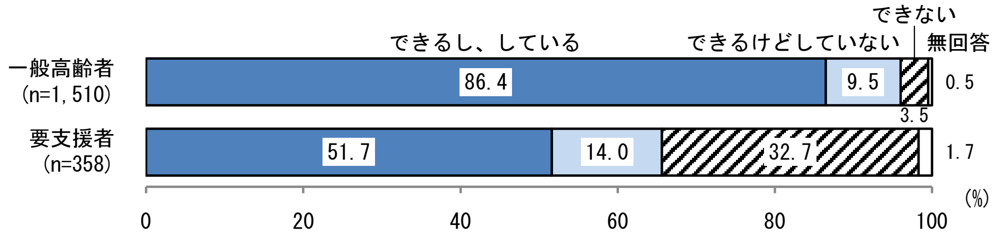


問２（３）15分位続けて歩いていますか　（1つに〇）

15 分位続けて歩いているかについては、「できてるし、している」が 79.6%と多くなっています。前回調査に比べて、「できるし、している」が 2.9 ポイント増加しています。

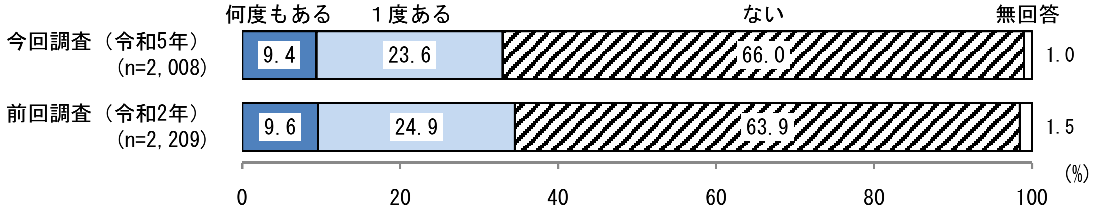


【認定状況別　15 分位続けて歩いているか】

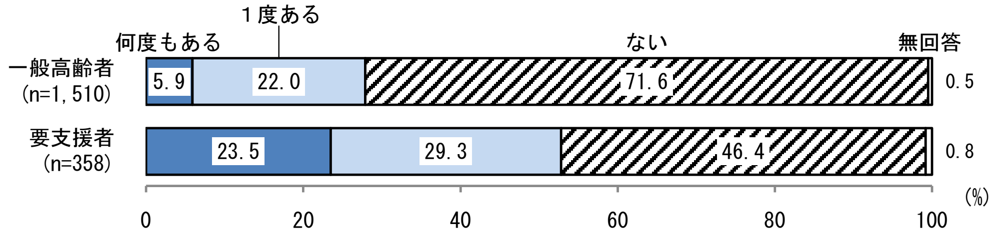


問２（４）過去１年間に転んだ経験がありますか　（1つに〇）

過去 1 年間に転んだ経験があるかについては、「ない」が 66.0%と多く、「何度もある」と「 1 度ある」を合わせた『ある』は合計 33.0%となっています。

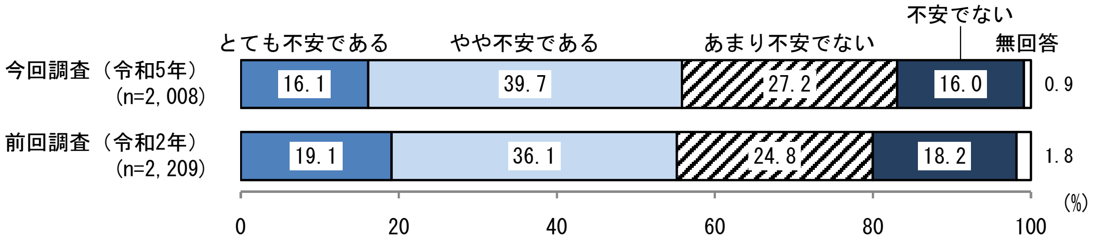


【認定状況別　過去 1 年間に転んだ経験の有無】

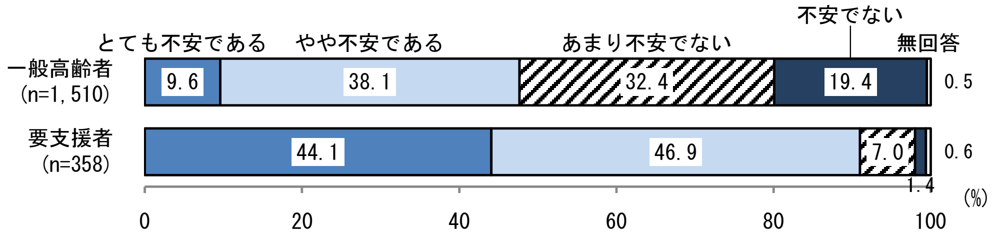


問２(５)転倒に対する不安は大きいですか　(1つに○)

転倒に対する不安については、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』が合計55.8%となっています。



【認定状況別　転倒に対する不安の有無】



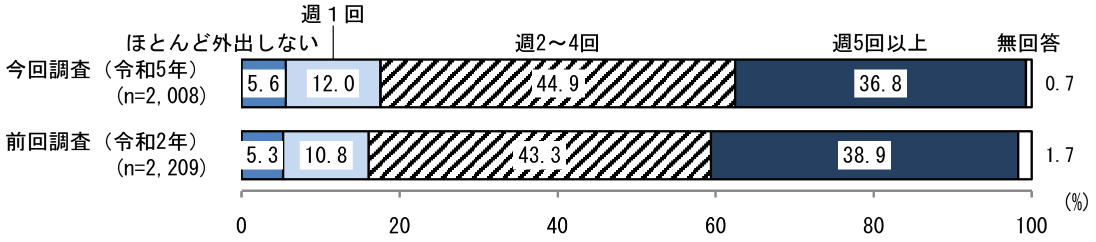
〔２〕1週間の外出回数

問２（６）週に1回以上は外出していますか （1つに〇）

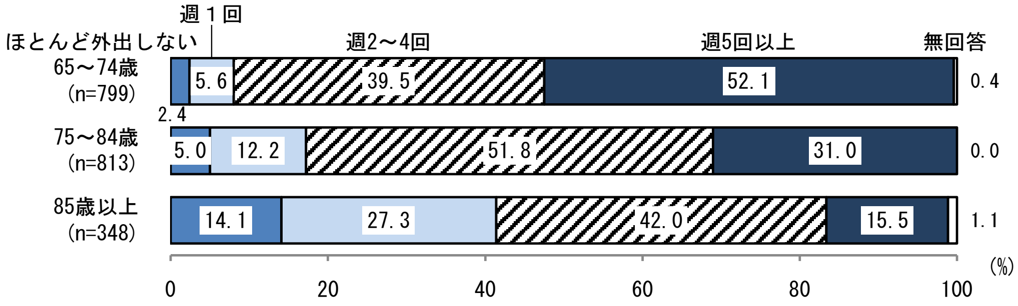
１週間の外出回数は、「週２～４回」が 44.9%と最も多く、次いで、「週５回以上」が 36.8%、「週１回」が 12.0%、「ほとんど外出しない」が 5.6%となっています。外出回数が『週１回以下』（「週１回」、「ほとんど外出しない」）は合計 17.6%で、前回調査に比べて 1.5 ポイント増加しています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて外出の頻度は少なくなる傾向がみられ、85 歳以上では『週１回以下』が４割強となっています。

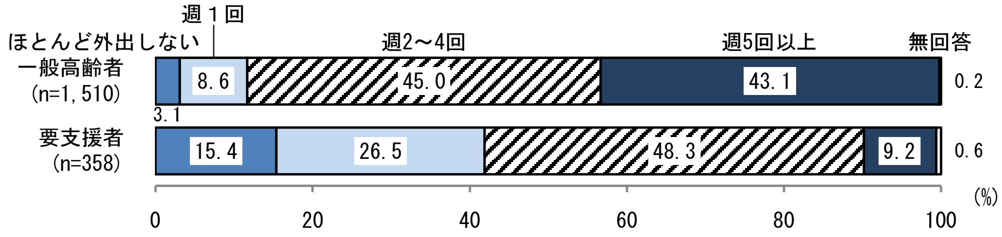
認定状況別にみると、要支援認定者では『週１回以下』が４割強となっています。



【年齢別　外出の頻度】



【認定状況別　外出の頻度】



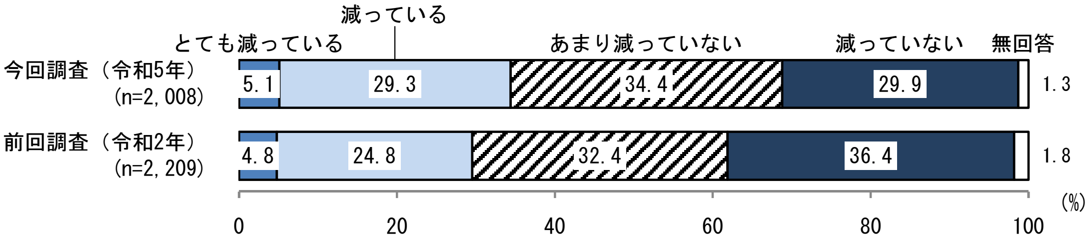
〔3〕外出回数の変化

問２(７)昨年と比べて外出の回数が減っていますか　（1つに○）

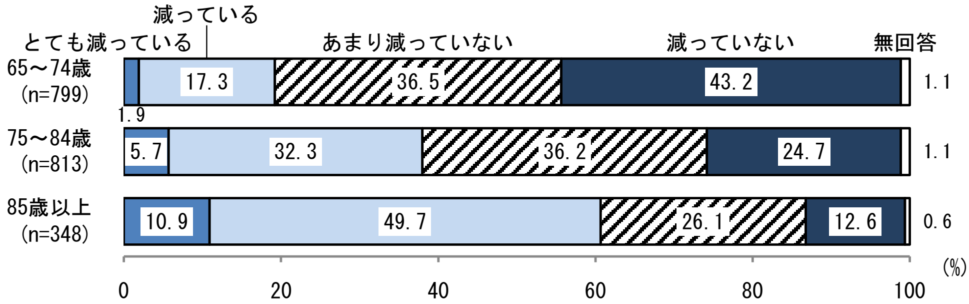
昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』が 34.4%、「減っていない」と「あまり減っていない」を合わせた『減っていない』が 64.3%となっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて『減っている』の割合は多くなり、85 歳以上では60.6%となっています。

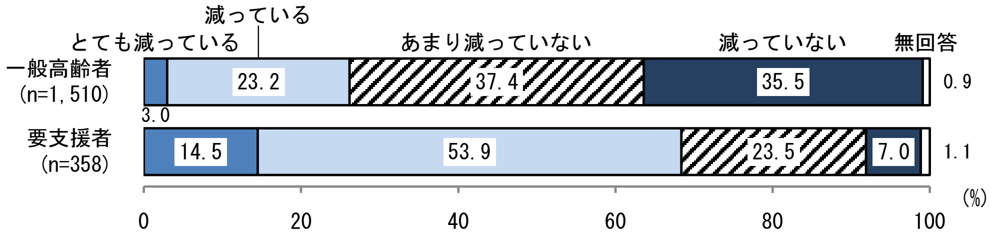
認定状況別にみると、要支援認定者では『減っている』の割合が 68.4%と多くなっているのに対し、一般高齢者では『減っていない』が 72.9%となっています。



【年齢別　外出回数の減少度合い】



【認定状況別　外出回数の減少度合い】



〔4〕外出する際の移動手段

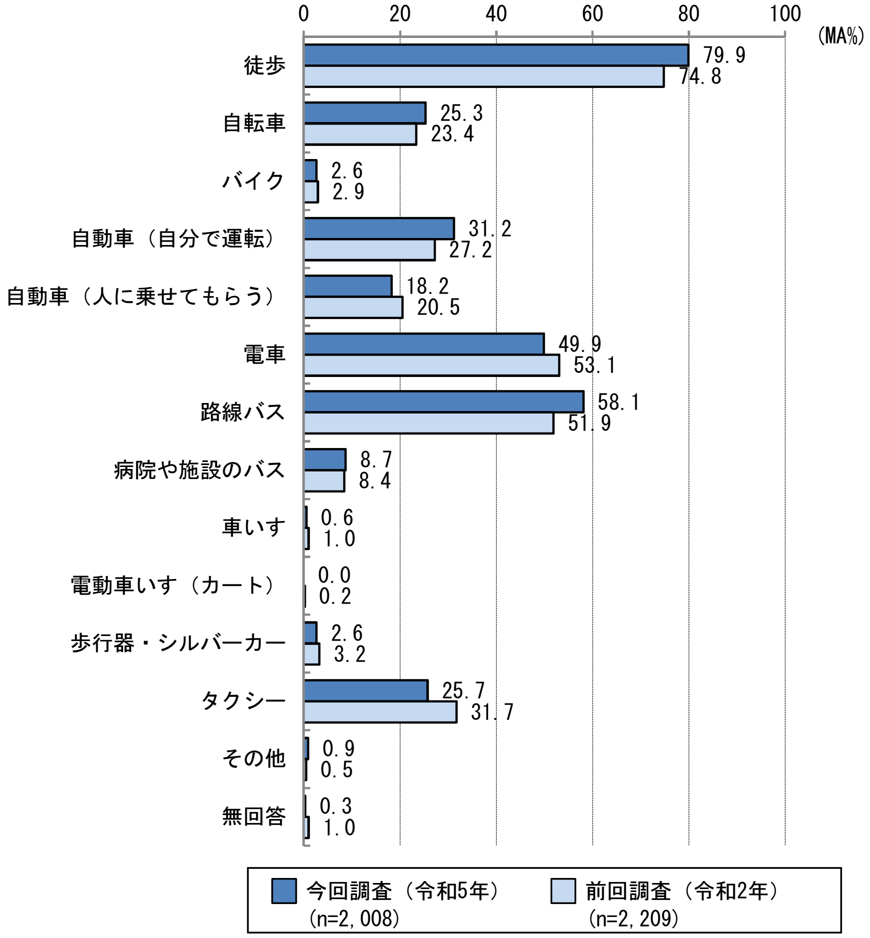
問２（８）外出する際の移動手段は何ですか （○はいくつでも）

外出時の移動手段については、「徒歩」が 79.9%と最も多く、次いで、「路線バス」が 58.1%、「電車」が 49.9%となっています。前回調査に比べて、「路線バス」が 6.2 ポイント増加し、「タクシー」が 6.0 ポイント減少しています。

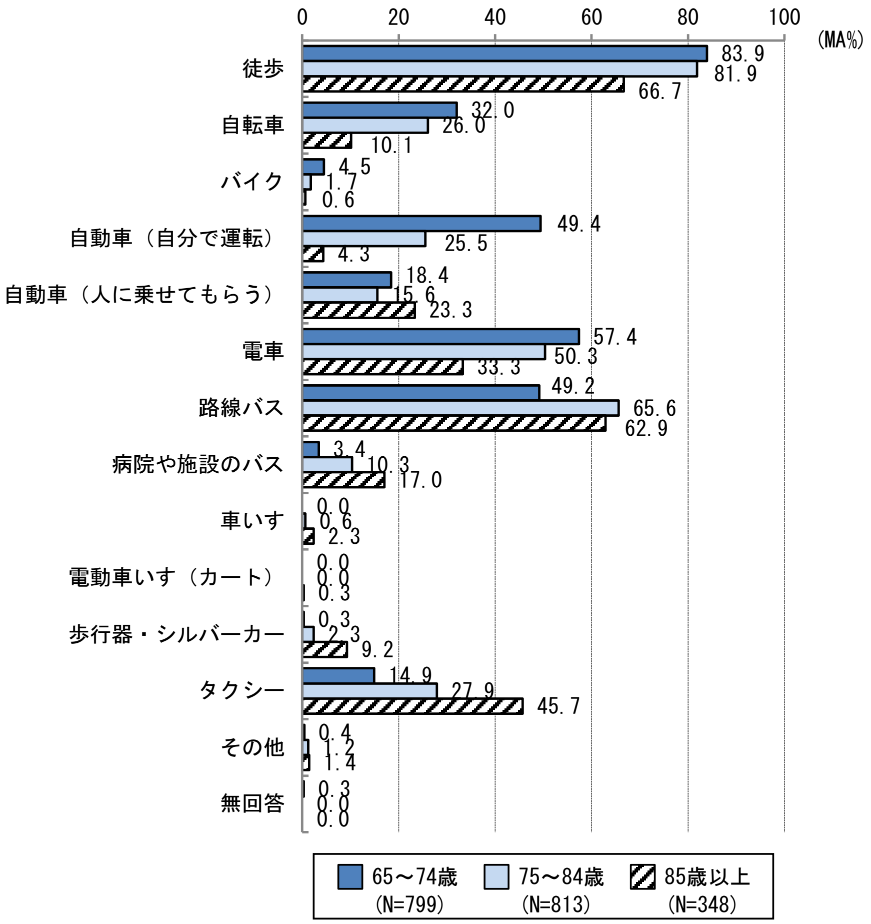
年齢別にみると、「病院や施設のバス」、「車いす」、「歩行器・シルバーカー」、「タクシー」は、年齢が上がるにつれてその割合が増加しています。

認定状況別にみると、「タクシー」が要支援認定者では 55.0%と、一般高齢者に比べて 35.5 ポイント多くなっています。

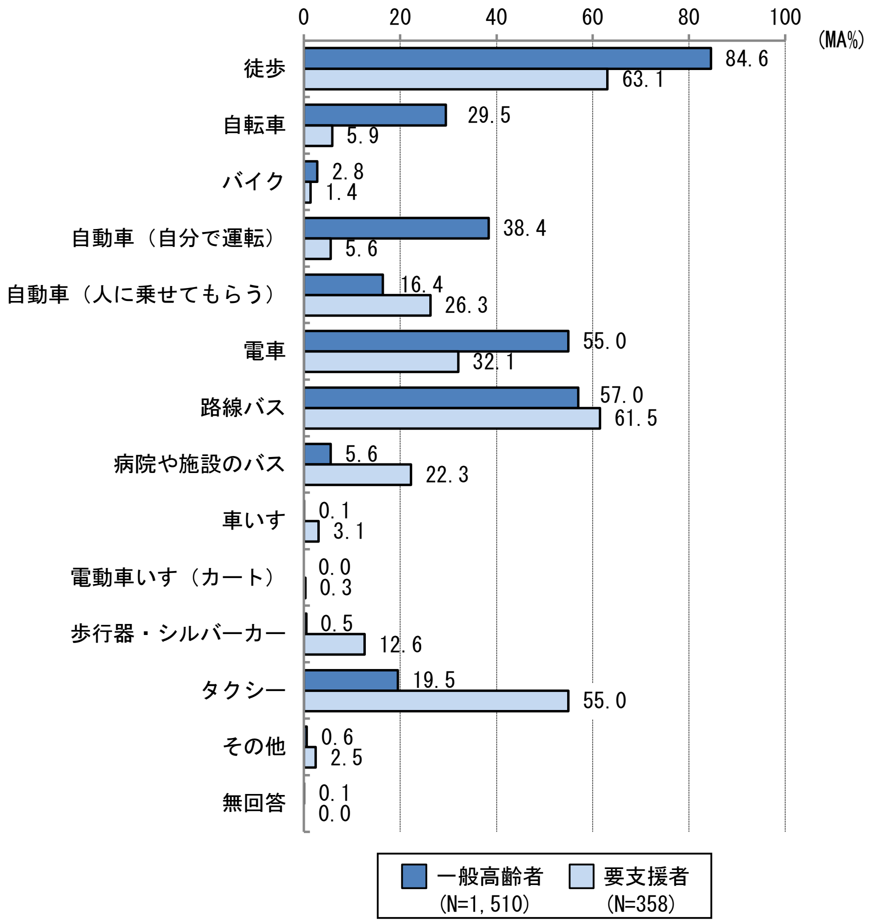
居住地域別にみると、潮見生活圏域では「路線バス」が 80.9%、その他の生活圏域では「徒歩」が最も多くなっています。



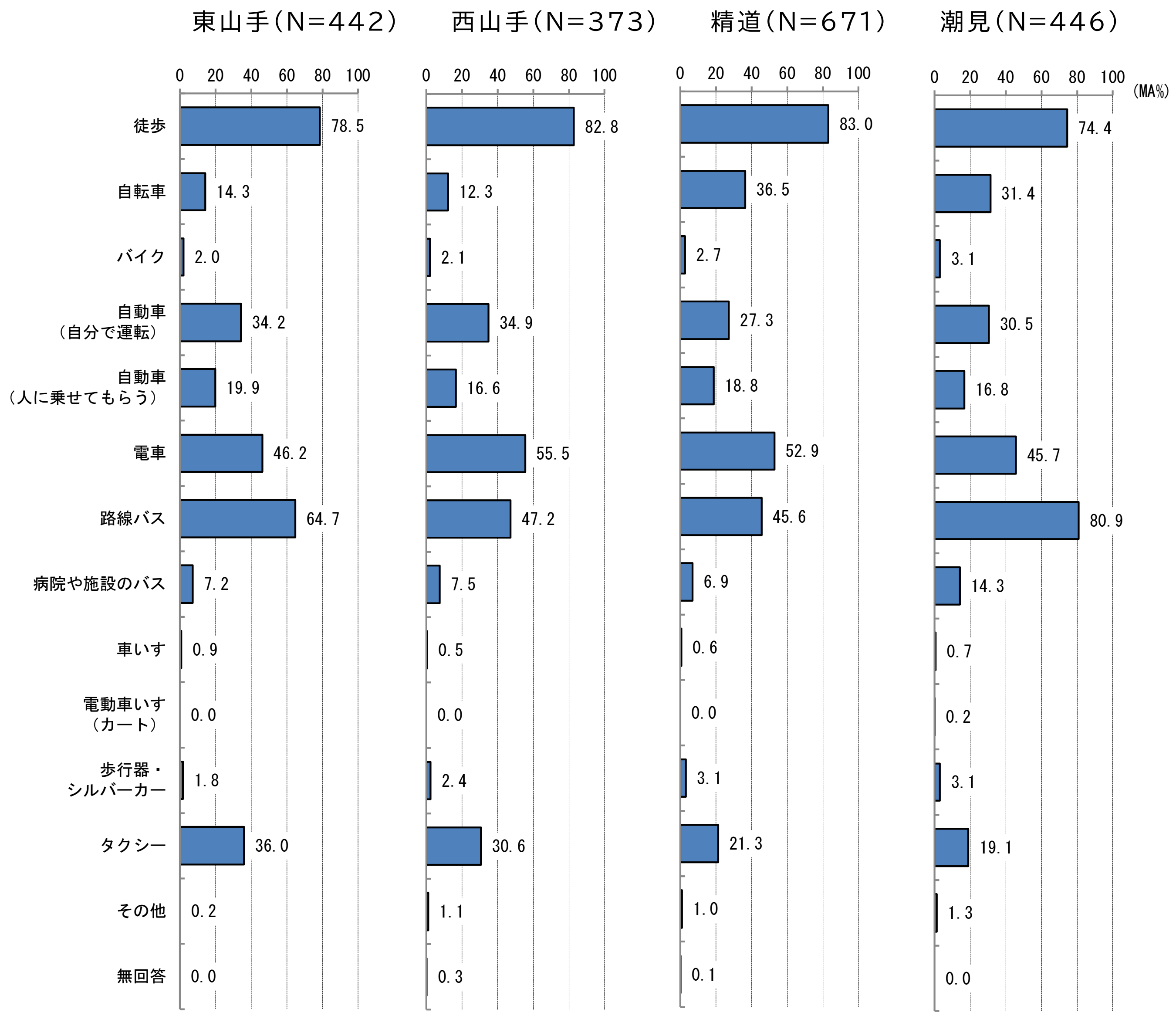
【年齢別　外出時の移動手段】



【認定状況別　外出時の移動手段】



【居住地域別　外出時の移動手段】

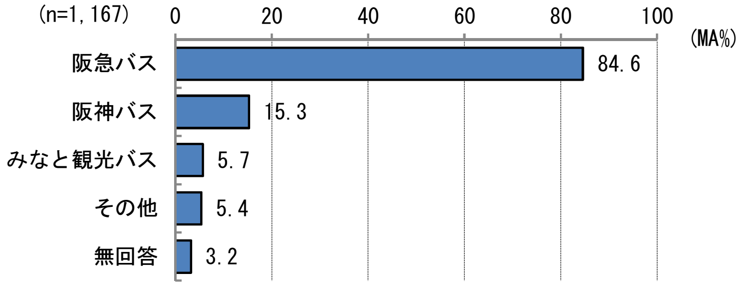


〔5〕路線バスの利用について

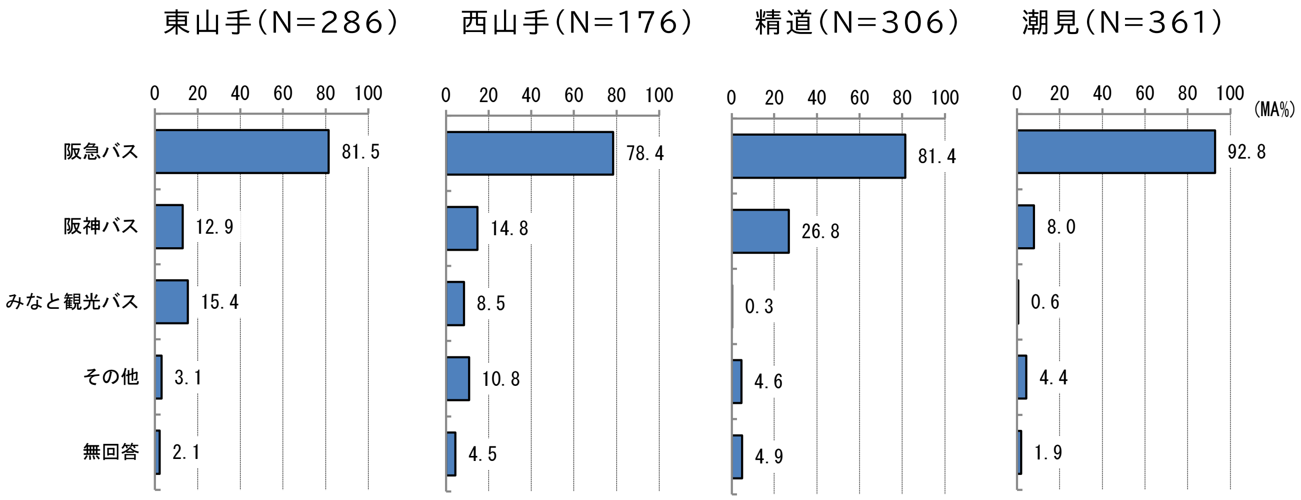
【問２（８）で「7.路線バス」とお答えの方】
問２（８）-１　ご本人が、普段利用する路線バスは何ですか　（○はいくつでも）

普段利用する路線バスは、「阪急バス」が 84.6%と最も多く、次いで「阪神バス」が 15.3%、「みなと観光バス」が 5.7%となっています。

居住地域別にみると、すべての地域で「阪急バス」の利用が最も多くなっていますが、精道生活圏域では「阪神バス」が、東山手生活圏域では「みなと観光バス」が、それぞれ他の地域よりも利用が多くなっています。

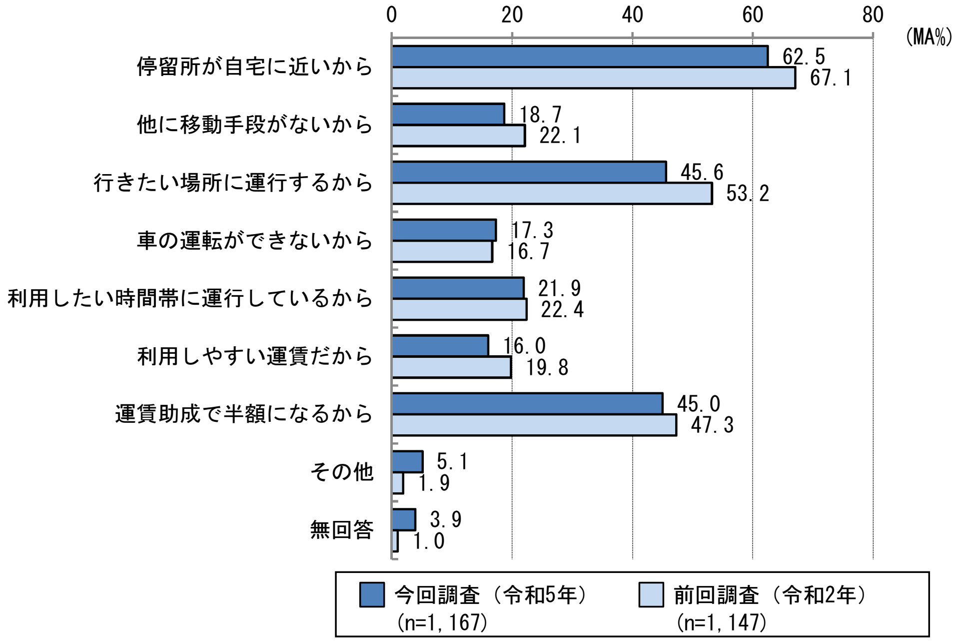


【居住地域別　外出時に利用する路線バス】

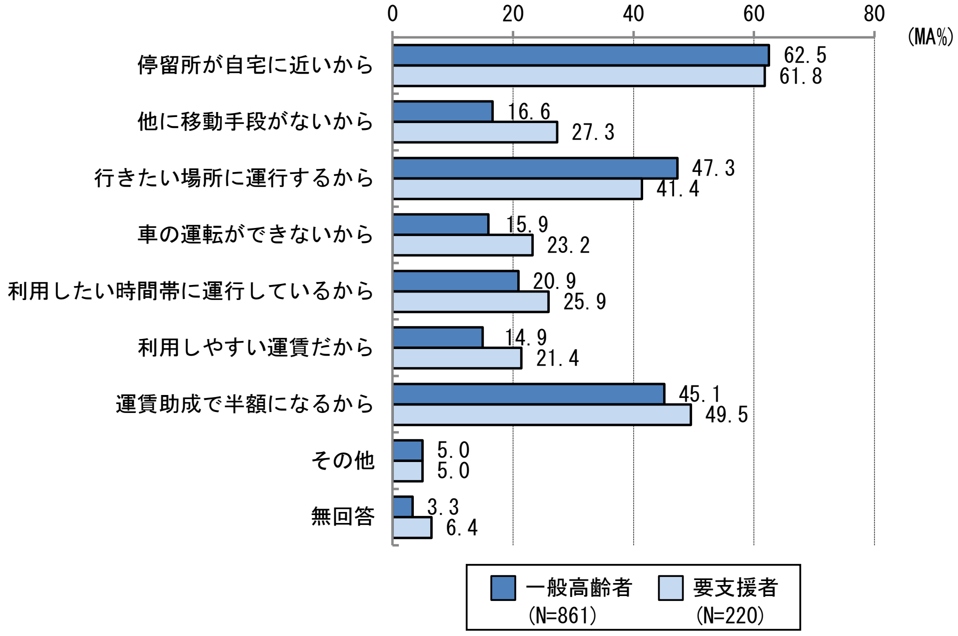


問2（8）-2　ご本人が、路線バスを利用する理由は何ですか　（○はいくつでも）

路線バスを利用する理由は、「停留所が自宅に近いから」が 62.5%と最も多く、次いで「行きたい場所に運行するから」が 45.6%、「運賃助成で半額になるから」が 45.0%となっています。前回調査に比べて、「車の運転ができないから」のみが 0.6 ポイントの微増となっており、その他の項目についてはすべて減少しています。

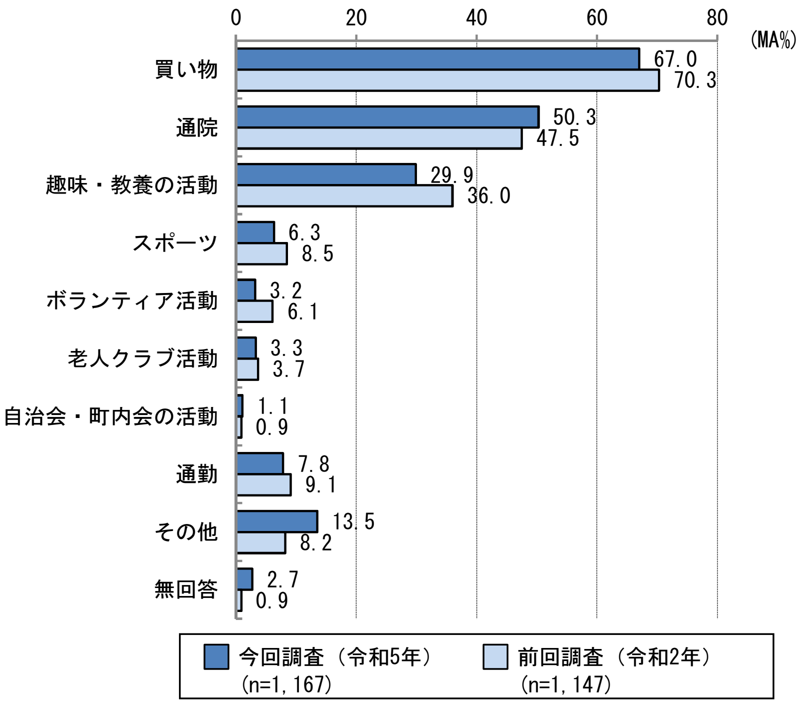


【認定状況別　路線バスの利用理由】

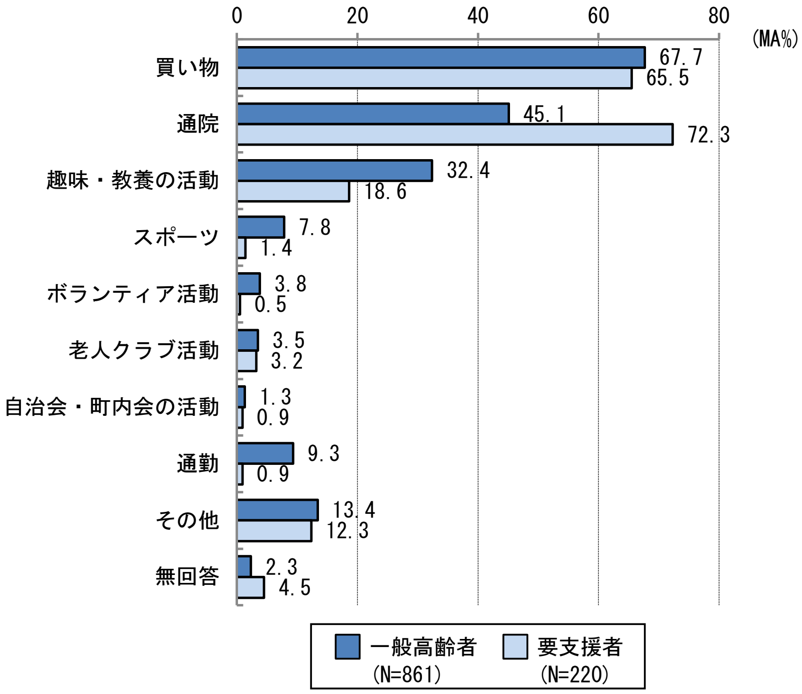


問２（８）-３　ご本人が、路線バスを利用する目的は何ですか　（〇はいくつでも）

路線バスを利用する目的については、「買い物」が 67.0%と最も多く、次いで、「通院」が 50.3%、「趣味・教養の活動」が 29.9%となっています。



【認定状況別　路線バスの利用目的】



３　新型コロナウイルス感染症の影響について

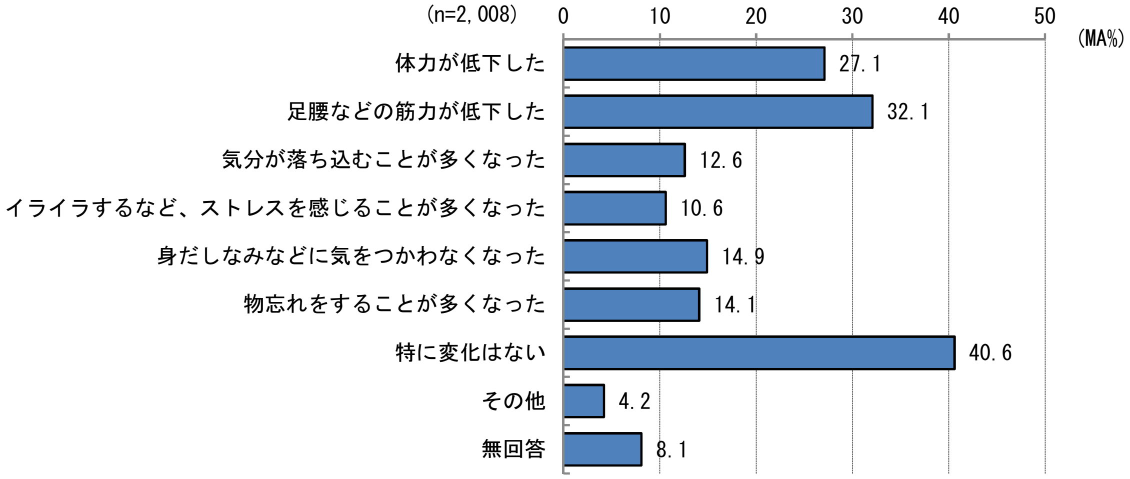
〔１〕新型コロナウイルス感染症が与えた影響

問３（１）　ご本人は、新型コロナウイルス感染症の影響で、以下のような変化はありましたか　（〇はいくつでも）

新型コロナウイルス感染症が心身に与えた影響については、「足腰などの筋力が低下した」が 32.1%と最も多く、次いで、「体力が低下した」が 27.1%となっていますが、「特に変化はない」も 40.6%みられます。

性別にみると、「特に変化はない」以外のすべての項目で、女性の方が多くなっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「足腰などの筋力が低下した」が 54.2%、「体力が低下した」が 43.6%と、一般高齢者に比べてそれぞれ 26.7 ポイント、19.8 ポイント多くなっています。



/

【性別・年齢別・認定状況別・居住地域別　新型コロナウイルス感染症の影響】

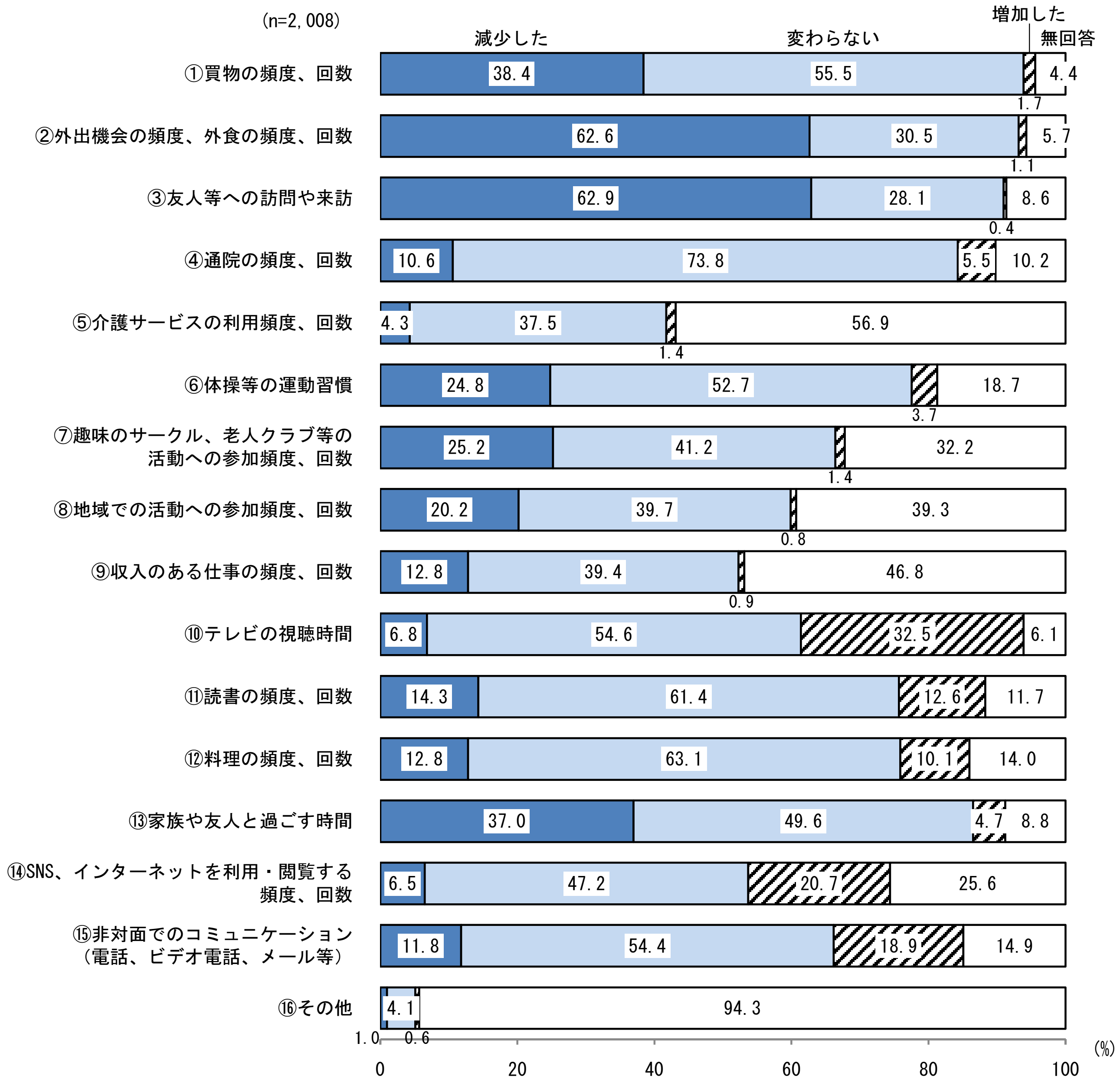
(MA%)

		n	体力が低下した	足腰などの筋力が低下した	気分が落ち込むことが多くなった	イライラするなど、ストレスを感じることが多くなった	身だしなみなどに気をつかわなくなった	物忘れをすることが多くなった	特に変化はない	その他	無回答
全体		2008	544	645	254	213	299	284	815	85	163
		100.0	27.1	32.1	12.6	10.6	14.9	14.1	40.6	4.2	8.1
性別	男性	803	180	219	58	71	71	94	400	33	56
		100.0	22.4	27.3	7.2	8.8	8.8	11.7	49.8	4.1	7.0
	女性	1172	355	416	190	137	223	188	409	51	97
		100.0	30.3	35.5	16.2	11.7	19.0	16.0	34.9	4.4	8.3
年齢別	65～74歳	799	162	180	83	81	114	69	404	35	41
		100.0	20.3	22.5	10.4	10.1	14.3	8.6	50.6	4.4	5.1
	75～84歳	813	252	305	106	91	126	135	290	35	71
		100.0	31.0	37.5	13.0	11.2	15.5	16.6	35.7	4.3	8.7
	85歳以上	348	119	149	59	35	53	78	105	13	39
		100.0	34.2	42.8	17.0	10.1	15.2	22.4	30.2	3.7	11.2
認定状況別	一般高齢者	1510	359	416	161	149	212	179	699	64	101
		100.0	23.8	27.5	10.7	9.9	14.0	11.9	46.3	4.2	6.7
	要支援者	358	156	194	78	53	67	89	72	14	37
		100.0	43.6	54.2	21.8	14.8	18.7	24.9	20.1	3.9	10.3
地域別	東山手生活圏域	442	123	140	61	46	57	59	182	22	31
		100.0	27.8	31.7	13.8	10.4	12.9	13.3	41.2	5.0	7.0
	西山手生活圏域	373	111	135	53	45	68	54	145	14	30
		100.0	29.8	36.2	14.2	12.1	18.2	14.5	38.9	3.8	8.0
	精道生活圏域	671	169	207	81	74	100	102	280	27	51
		100.0	25.2	30.8	12.1	11.0	14.9	15.2	41.7	4.0	7.6
	潮見生活圏域	446	125	141	48	38	61	61	180	20	39
		100.0	28.0	31.6	10.8	8.5	13.7	13.7	40.4	4.5	8.7

〔２〕コロナ禍前との日常生活の変化

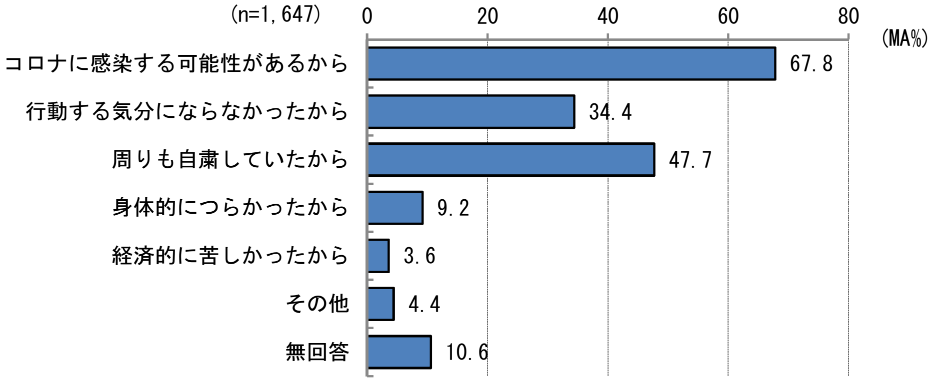
問３（２） コロナ禍前と現在を比較して、ご本人の日常生活はどのように変化しましたか （それぞれに○は1つ）

コロナ禍前と比較した日常生活の変化については、ほとんどの項目で「変わらない」が最も多くなっていますが、「減少した」が目立つものとしては、「②外出機会の頻度、外食の頻度、回数」、「③友人等への訪問や来訪」で６割強、「①買物の頻度、回数」、「⑬家族や友人と過ごす時間」で４割弱となっています。「増加した」が目立つものとしては、「⑩テレビの視聴時間」で３割強、「⑭SNS、インターネットを利用・閲覧する頻度、回数」、「⑮非対面でのコミュニケーション（電話、ビデオ電話、メール等）」で約２割となっています。



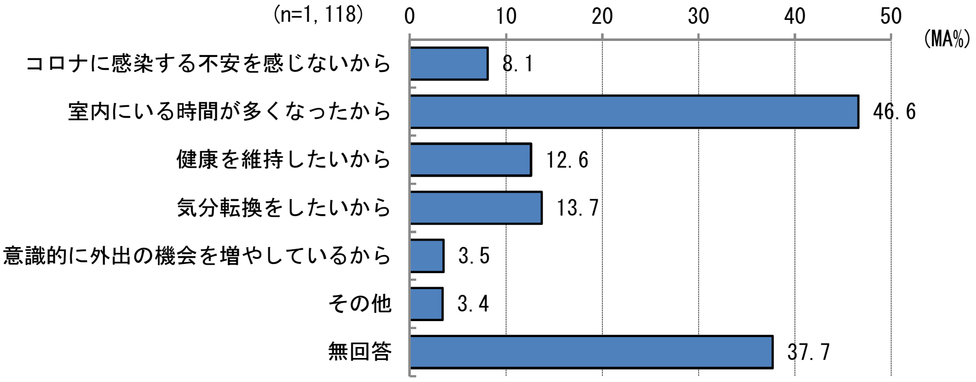
問３（２）-1 「減少した」を選択した理由は何ですか （〇はいくつでも）

「減少した」を選択した理由については、「コロナに感染する可能性があるから」が67.8%と最も多く、次いで「周りも自粛していたから」が 47.7%、「行動する気にならなかったから」が 34.4%となっています。



問３（２）-2 「増加した」を選択した理由は何ですか （〇はいくつでも）

「増加した」を選択した理由については、「室内にいる時間が多くなったから」が 46.6%と最も多く、次いで「気分転換をしたいから」が 13.7%、「健康を維持したいから」が 12.6%となっています。



問３（３） コロナ禍の後に取り組みたいことは何ですか（自由記述）

854 件（のべ 1,169 件）の回答をいただきました。主な内容は以下のとおりです。

内　容	件数
旅行（国内旅行、海外旅行、温泉、バス旅行などの小旅行　など）	395件
外食（レストランで食事、家族で外食、友人とランチ　など）	183件
家族や親戚、友達など、会えなかった人に会う	86件
家族や友人との会食、飲み会、懇親会、同窓会などの会合	74件
散歩、街歩き、ドライブなどの外出	60件
テニスやゴルフなどのスポーツ、体操・ウォーキングなどの運動、ジムやスポーツクラブで体力づくり	38件
映画、観劇、コンサート、展覧会、スポーツ観戦、イベントへの参加　など	36件
人との会話、おしゃべり	27件
趣味の活動（本を読む、絵を描く、カラオケ　など）	23件
繁華街やデパートでのショッピング	21件
サークル活動、習い事、セミナー・口座の聴講、カルチャーセンターなど	23件
マスクなしで生活したい	17件
帰省、帰郷、墓参り	15件
自由に行動したい	12件
仕事、ボランティア活動	7件
デイサービスやリハビリに行きたい	3件
その他（のんびりマイペースに、コロナに気を付けて生活、体力の衰え等で出かけられない　など）	41件
今まで通りの普通の生活	27件
特にない、意識していない	82件

４　食べることについて

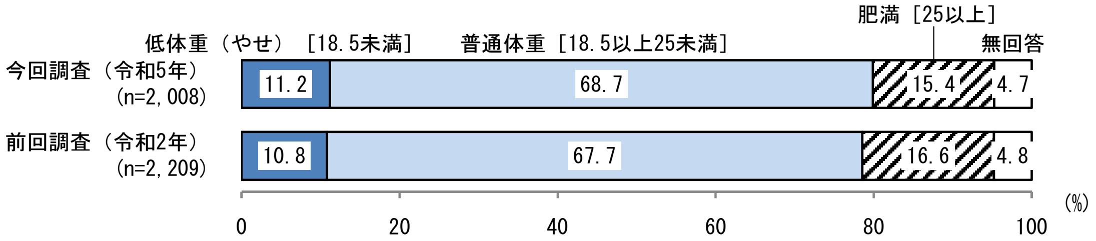
〔1〕BMI

問４（１）　身長・体重

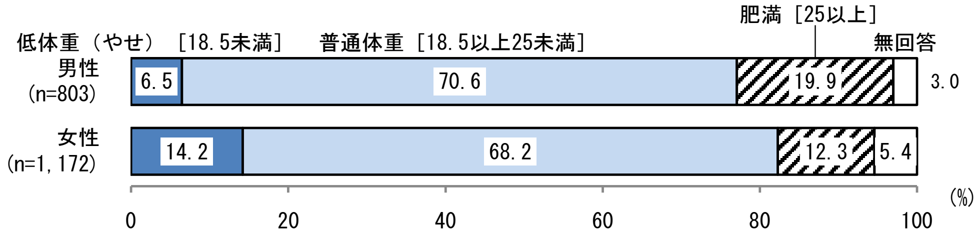
身長・体重から算出したＢＭＩ値をみると、「普通体重［18.5 以上 25 未満］」が 68.7%と最も多く、次いで、「肥満［25 以上］」が 15.4%、「低体重（やせ）［18.5 未満］」が 11.2%となっています。

性別にみると、男性は「肥満［25 以上］」が 19.9%と女性に比べて多く、女性は「低体重（やせ）［18.5 未満］」が 14.2%と男性に比べて多くなっています。

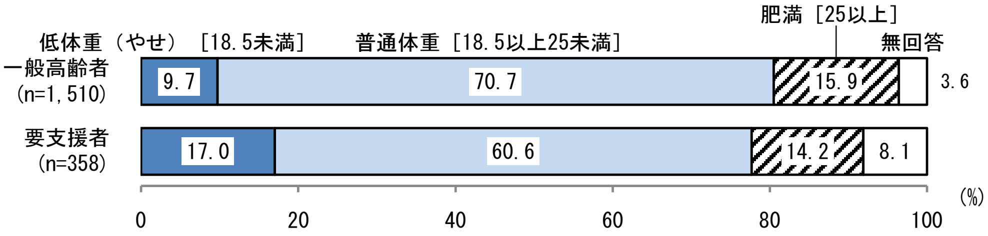
認定状況別にみると、要支援認定者では「低体重（やせ）［18.5 未満］」が 17.0%と、一般高齢者に比べて多くなっています。



【性別　BMI】



【認定状況別　BMI】

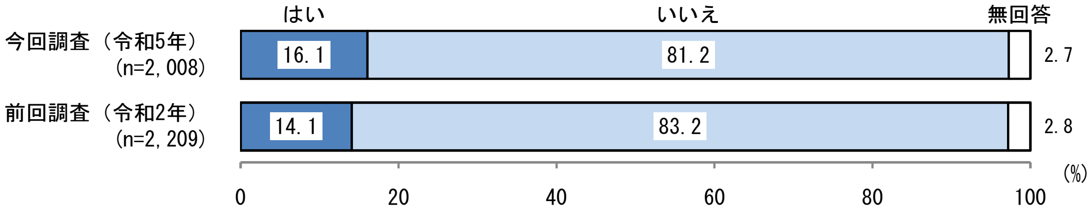


〔２〕体重減少の有無

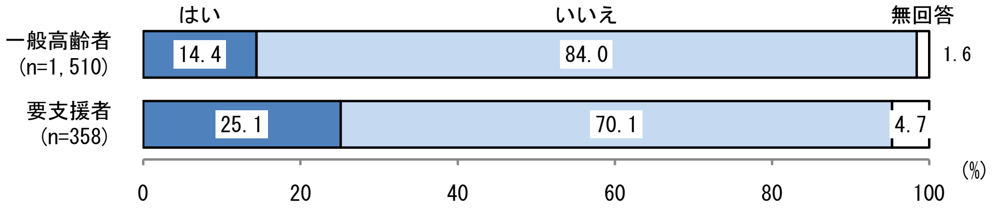
問４（２）　６か月間で２～３kg以上の体重減少がありましたか

６か月間で 2～3kg 以上の体重減少があったかについては、「はい」が 16.1%、「いいえ」が 81.2%となっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」が 25.1%と、一般高齢者に比べて多くなっています。



【認定状況別　体重の増減】

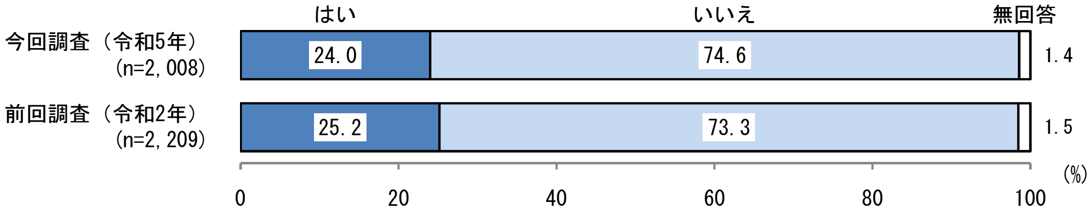


〔３〕口腔機能の状況

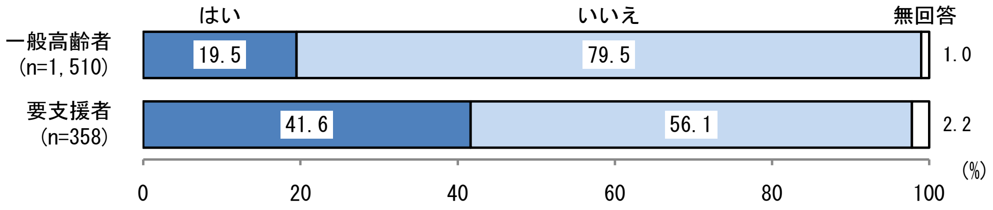
問４（３）　半年前に比べて固いものがべにくくなりましたか

半年前に比べて固いものが食べにくくなったかについては、「はい」が 24.0%、「いいえ」が 74.6%となっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」が 41.6%と、一般高齢者に比べて多くなっています。



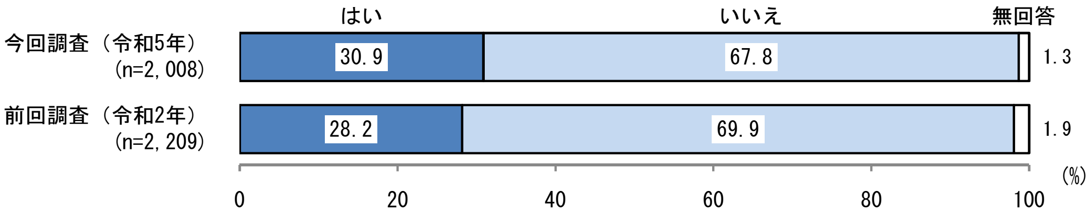
【認定状況別　固いものが食べにくくなったか】



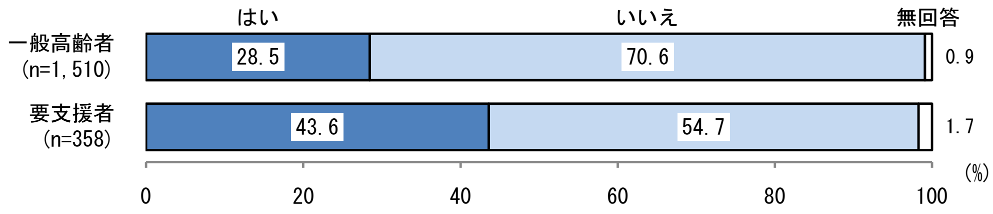
問４（４）　お茶や汁物等でむせることがありますか

お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「はい」が 30.9%、「いいえ」が 67.8%となっています。前回調査に比べて、「はい」が 2.7 ポイント増加しています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」が 43.6%と一般高齢者に比べて多くなっています。



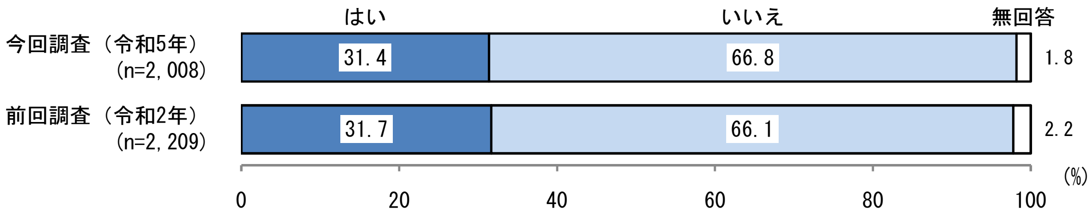
【認定状況別　お茶や汁物等でむせることがあるか】



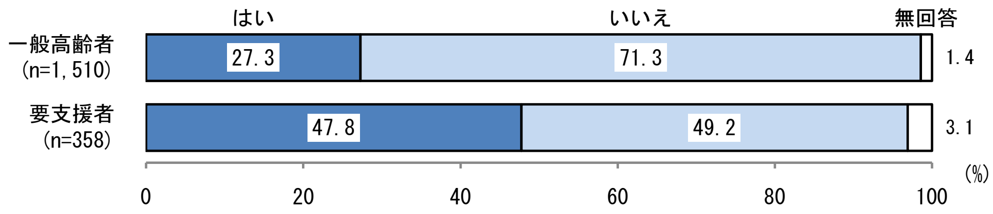
問４（５）　口の渇きが気になりますか

口の渇きが気になるかについては、「はい」が 31.4%、「いいえ」が 66.8%となっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」が 47.8%と、一般高齢者に比べて多くなっています。



【認定状況別　口の渇きが気になるか】



〔４〕歯の数と入れ歯の利用状況

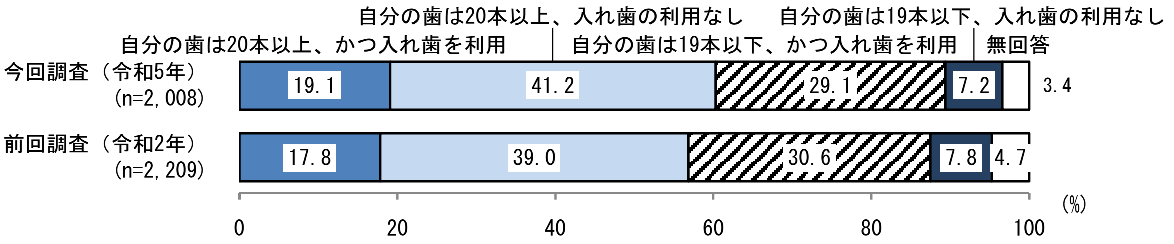
問３（６）　歯の数と入れ歯の利用状況をお教えください　（１つに○）

※成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です

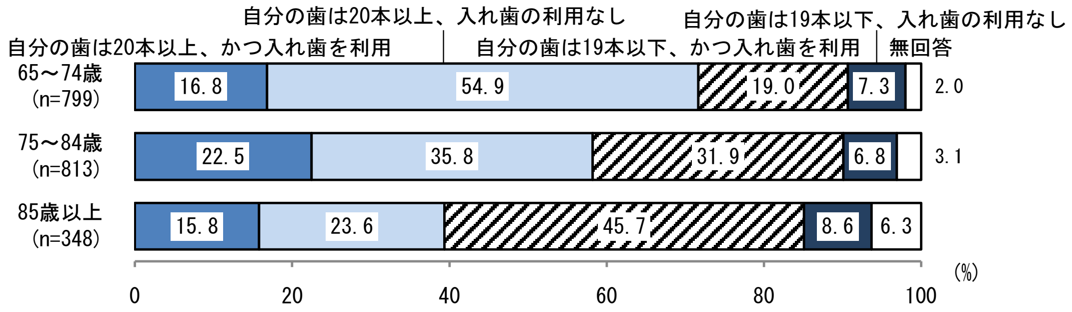
歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 41.2%と最も多く、次いで、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 29.1%、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」が 19.1%、「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用なし」が 7.2%となっています。『自分の歯は 20 本以上』は合計 60.3%で、前回調査に比べて 3.5 ポイント増加しています。

年齢別にみると、『自分の歯は 20 本以上』は 65～74 歳で 71.7%、75～84 歳で 58.3%、85 歳以上では 39.4%となっています。

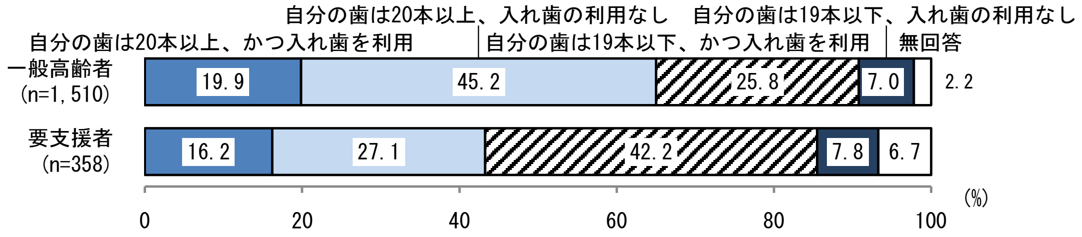
認定状況別にみると、要支援認定者では「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 42.4%と、一般高齢者に比べて多くなっています。



【年齢別　歯の数と入れ歯の利用状況】



【認定状況別　歯の数と入れ歯の利用状況】



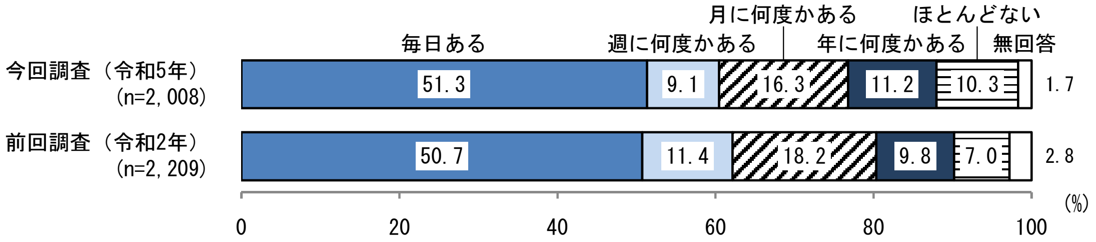
〔５〕共食の状況

問４（７）　どなたかと食事をともにする機会はありますか　（１つに○）

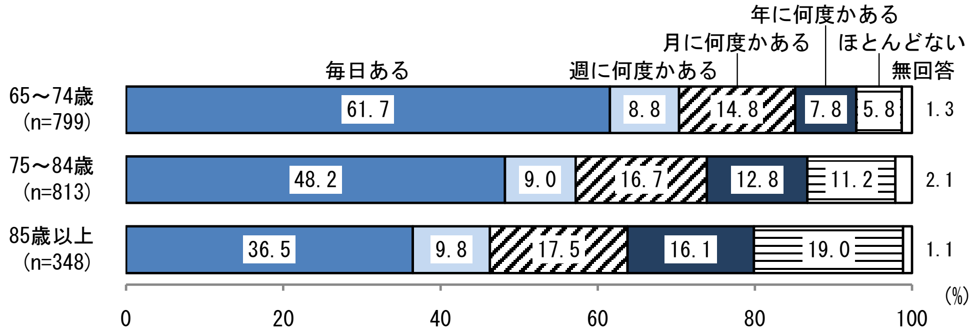
共食の状況については、「毎日ある」が 51.3%と最も多く、次いで、「月に何度かある」が 16.3%、「年に何度かある」が 11.2%、「週に何度かある」が 9.1%、「ほとんどない」が 10.3%となっています。週に１回以上誰かと食事をともにしている人は 60.4%で、前回調査に比べて 1.7 ポイント減少しています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「ほとんどない」の割合が増え、共食の機会が少なくなっていることがうかがえます。

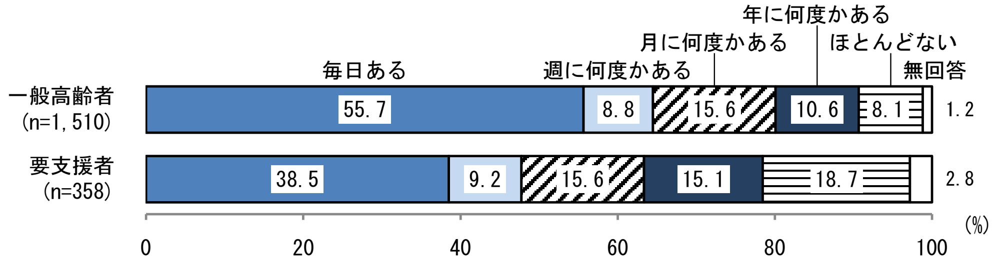
認定状況別にみると、要支援認定者では「毎日ある」は 38.5%と、一般高齢者に比べて少なくなっています。



【年齢別　共食の状況】



【認定状況別　共食の状況】

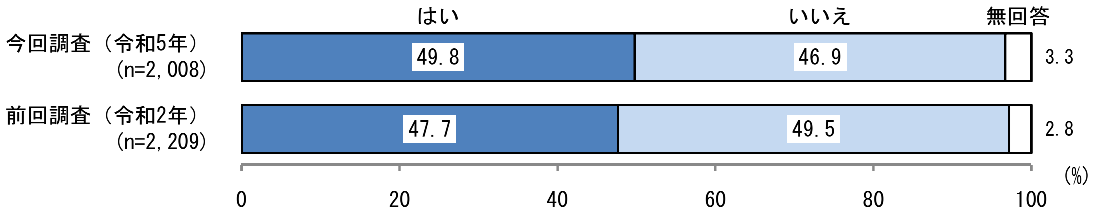


5　毎日の生活について

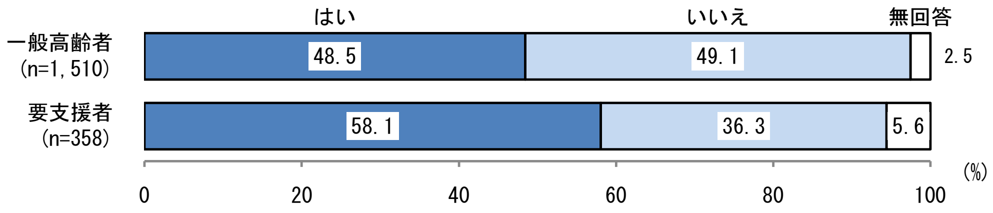
〔1〕認知機能の状況

問５（１）　物忘れが多いと感じますか

物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が 49.8％、「いいえ」が 46.9％となっています。
認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」が 58.1％と、一般高齢者に比べて多くなっています。

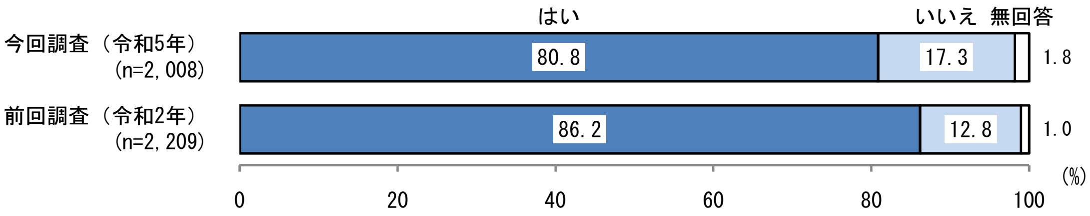


【認定状況別　物忘れが多いと感じるか】

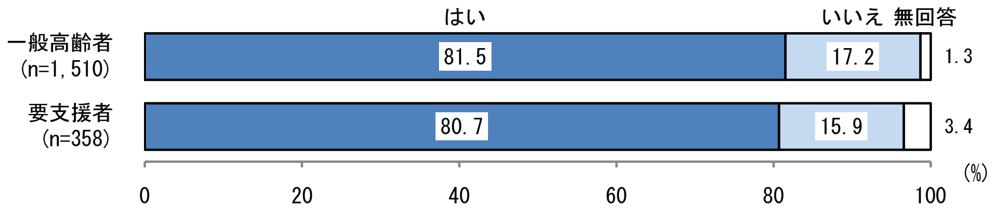


問５（２）　自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

自分で電話番号を調べて電話をかけることをしているかについては、「はい」が 80.8％、「いいえ」が 17.3％となっています。前回調査に比べて、「はい」が 5.4 ポイント減少しています。



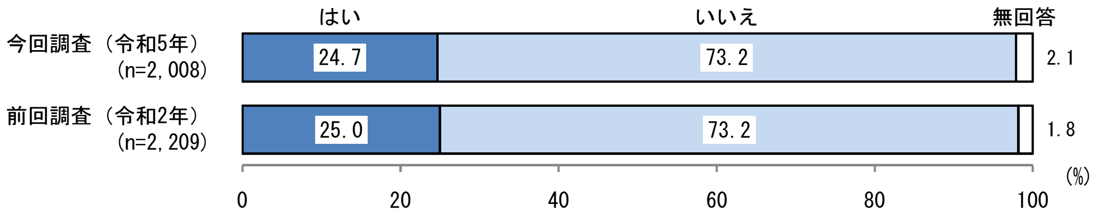
【認定状況別　自分で電話番号を調べて電話をかけているか】



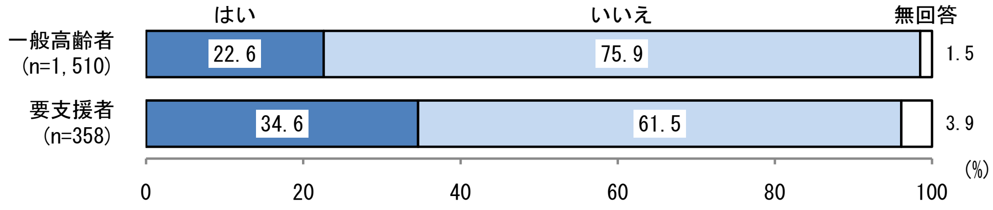
問５（３）　今日が何月何日かわからない時がありますか

今日が何月何日かわからない時があるかについては、「はい」が 24.7%、「いいえ」が 73.2%となっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」が 34.6%と、一般高齢者に比べて多くなっています。



【認定状況別　今日が何月何日かわからない時があるか】

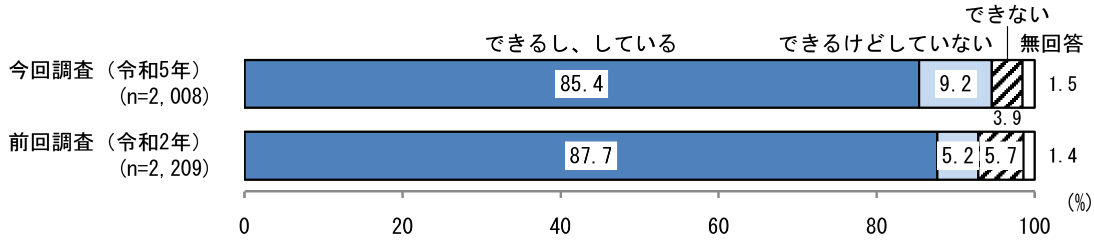


〔2〕手段的日常生活動作の状況

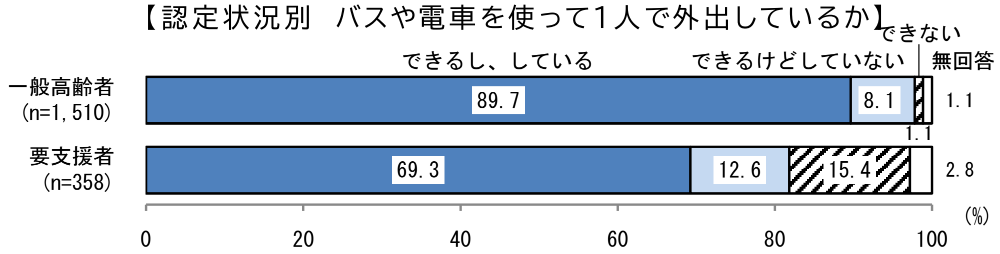
問5（4） バスや電車を使って1人で外出していますか（タクシーや自家用車でも可）

バスや電車を使って１人で外出しているかについては、「できるし、している」が 85.4%と多くなっています。前回調査に比べて、「できるけどしていない」が 4.0 ポイント増加しています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「できるし、している」が 69.3%と、一般高齢者に比べて少なくなっています。



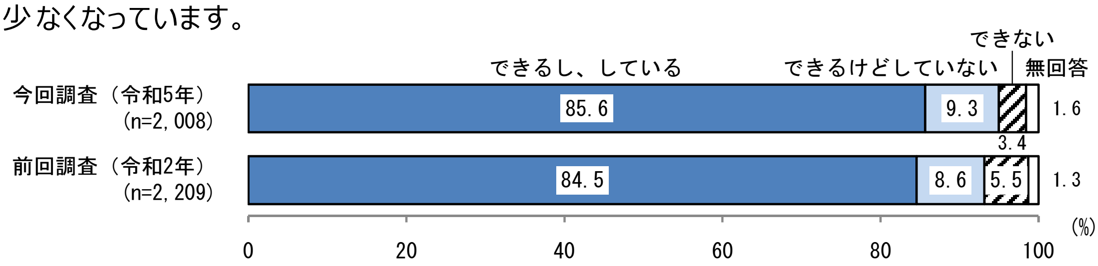
【認定状況別　バスや電車を使って1人で外出しているか】



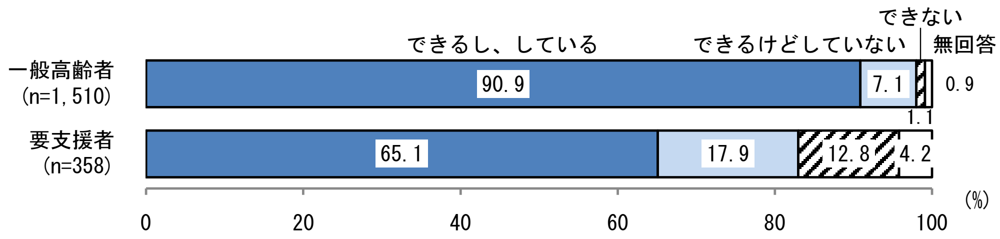
問5（5） 自分で食品・日用品の買物をしていますか

自分で食品・日用品の買物をしているかについては、「できるし、している」が 85.6%と多くなっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「できるし、している」が 65.1%と、一般高齢者に比べて少なくなっています。

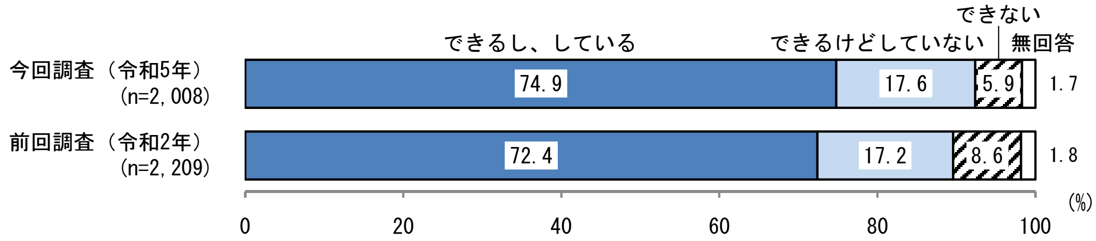


【認定状況別　自分で食品・日用品の買物をしているか】

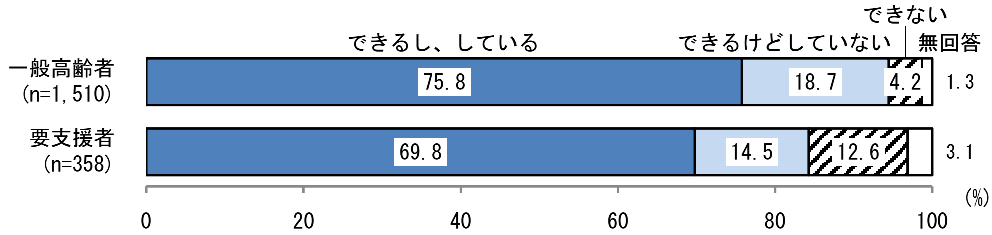


問５(６)　自分で食事の用意をしていますか

自分で食事の用意をしているかについては、「できるし、している」が 74.9%と多くなっています。前回調査に比べて、「できるし、している」が 2.5 ポイント増加しています。
認定状況別にみると、要支援認定者では「できない」が12.6%と、一般高齢者に比べて多くなっています。

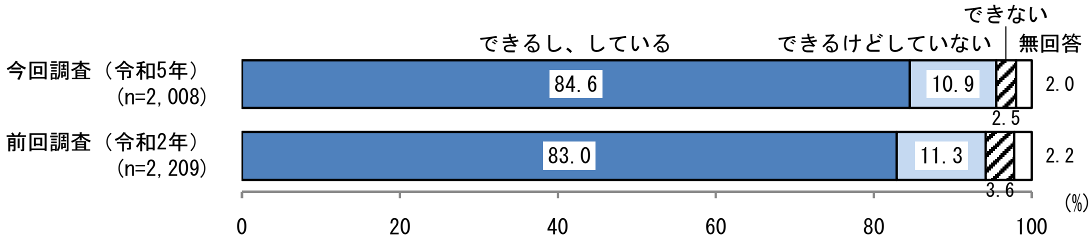


【認定状況別　自分で食事の用意をしているか】

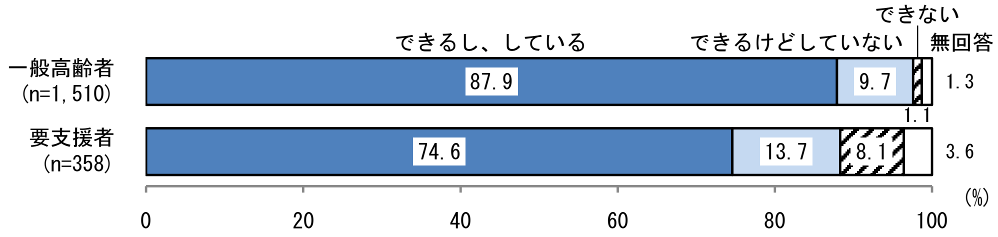


問５(７)　自分で請求書の支払いをしていますか

自分で請求書の支払いをしているかについては、「できるし、している」が 84.6%と多くなっています。
認定状況別にみると、要支援認定者では「できない」が 8.1%と、一般高齢者に比べて多くなっています。



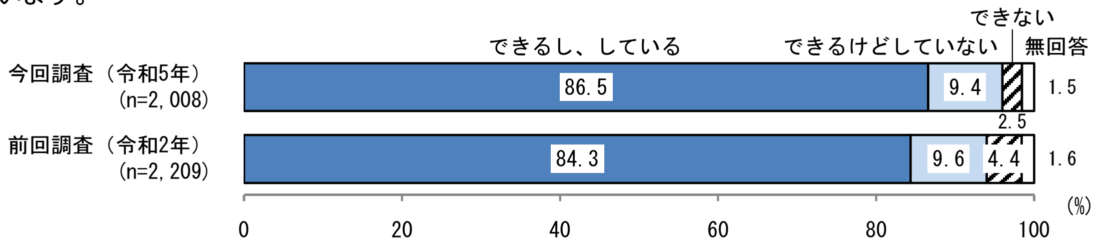
【認定状況別　自分で請求書の支払いをしているか】



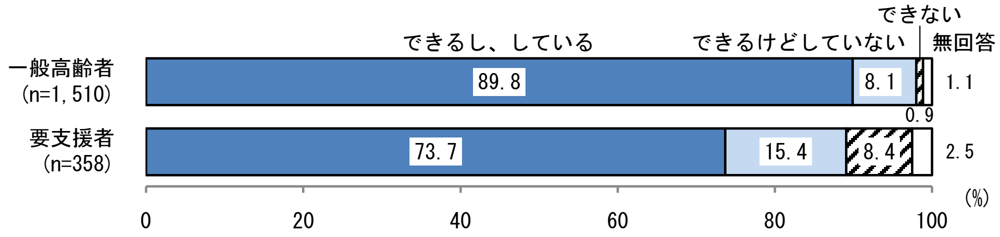
問5（8）　自分で預貯金の出し入れをしていますか

自分で預貯金の出し入れをしているかについては、「できるし、している」が 86.5%と多くなっています。前回調査に比べて、「できるし、している」が 2.2 ポイント増加しています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「できない」が 8.4%と、一般高齢者に比べて多くなっています。



【認定状況別　自分で預貯金の出し入れをしているか】

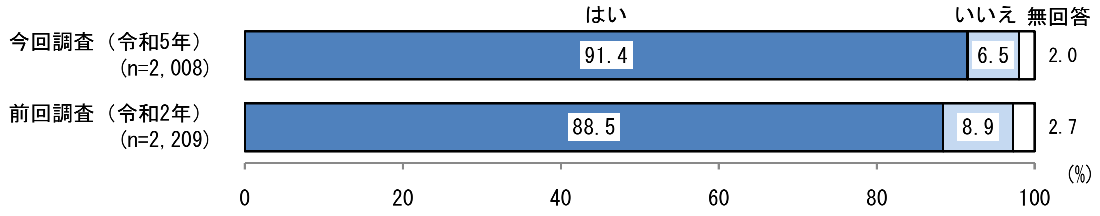


〔3〕知的能動性の状況

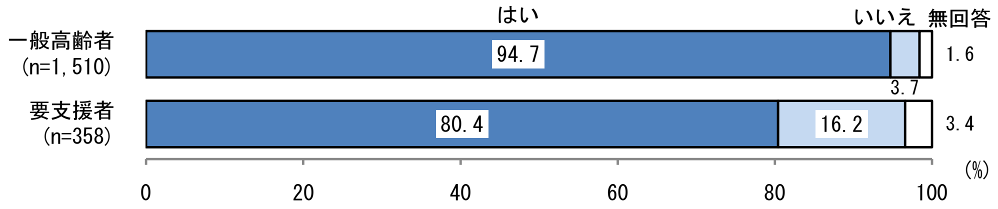
問5（9）　年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか

年金などの書類が書けるかについては、「はい」が 91.4%、「いいえ」が 6.5%となっています。前回調査に比べて、「はい」が 2.9 ポイント増加しています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「いいえ」が 16.2%と、一般高齢者に比べて多くなっています。



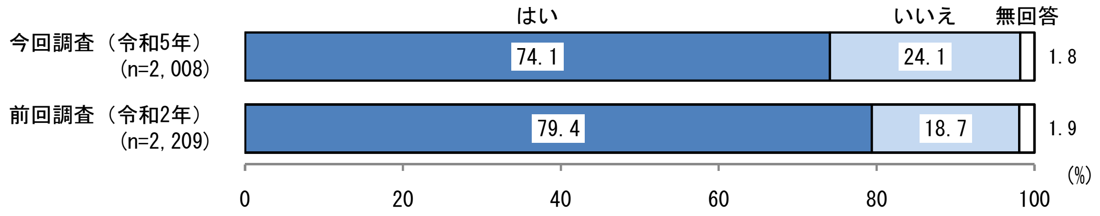
【認定状況別　年金などの書類が書けるか】



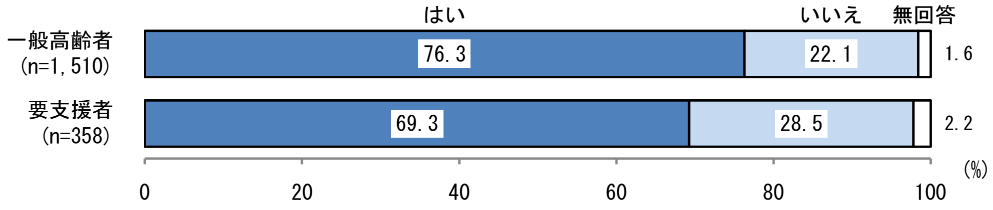
問5（10）　新聞を読んでいますか

新聞を読んでいるかについては、「はい」が 74.1%、「いいえ」が 24.1%となっています。前回調査に比べて、「いいえ」が 5.4 ポイント増加しています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「いいえ」が 28.5%と、一般高齢者に比べて多くなっています。



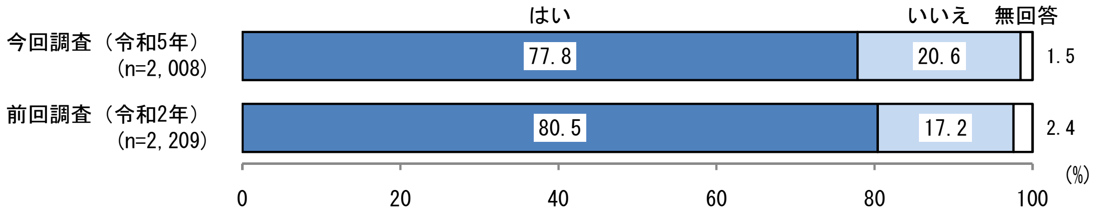
【認定状況別　新聞を読んでいるか】



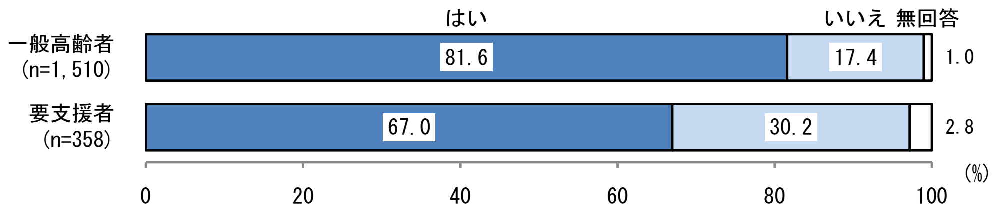
問５(11)　本や雑誌を読んでいますか

本や雑誌を読んでいるかについては、「はい」が 77.8%、「いいえ」が 20.6%となっています。前回調査に比べて、「いいえ」が 3.4 ポイント増加しています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「いいえ」が 30.2%と、一般高齢者に比べて多くなっています。



【認定状況別　本や雑誌を読んでいるか】

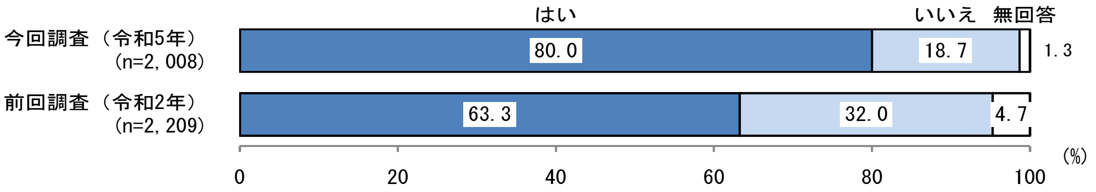


〔４〕スマートフォンまたはタブレットの所持・利用

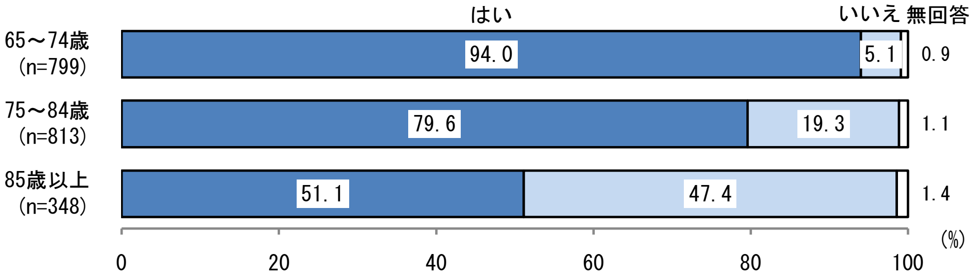
問５（12）　スマートフォンまたはタブレットをお持ちですか

スマートフォンまたはタブレットを持っているかについては、「はい」が 80.0%、「いいえ」が 18.7%となっています。前回調査に比べて、「はい」が 16.7 ポイント増加しています。

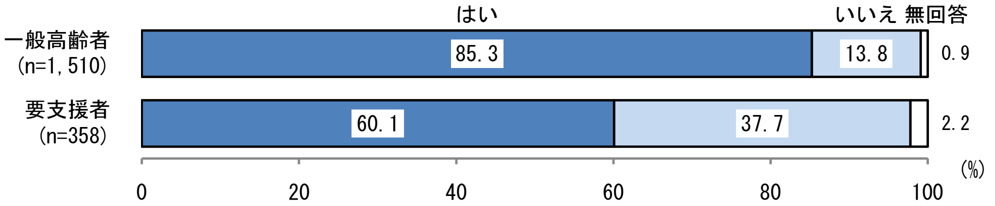
年齢別にみると、「前期高齢者」（65～74 歳）の所持率は 94.0%、85 歳以上でも半数の人が所持していると回答しています。



【年齢別　スマートフォンまたはタブレットを持っているか】



【認定状況別　スマートフォンまたはタブレットを持っているか】

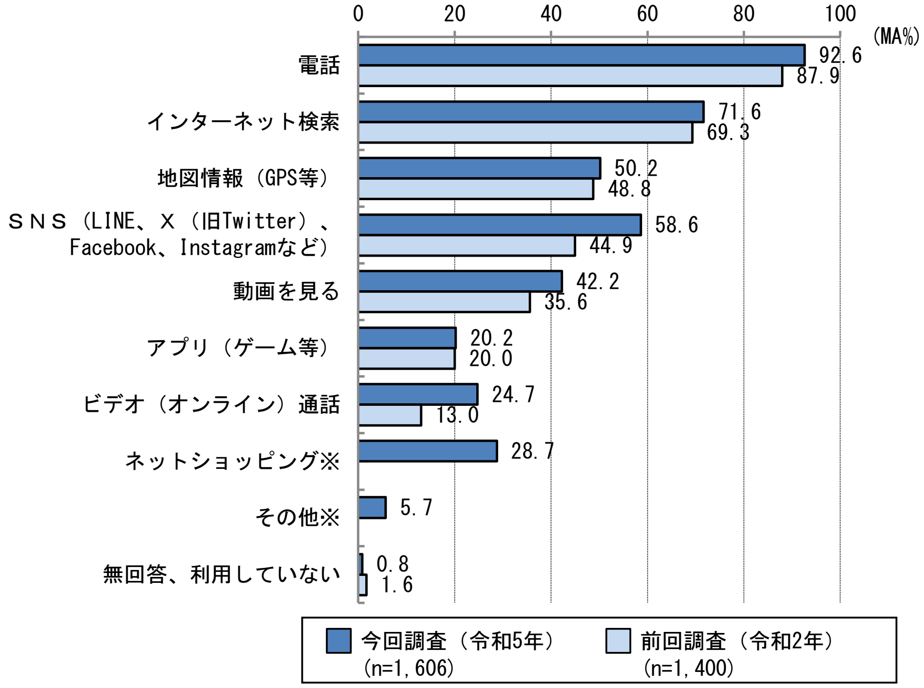


【問５（12）で「1.はい」とお答えの方のみ】

問５（12）-１　お持ちの人はどの機能を利用していますか　（○はいくつでも）

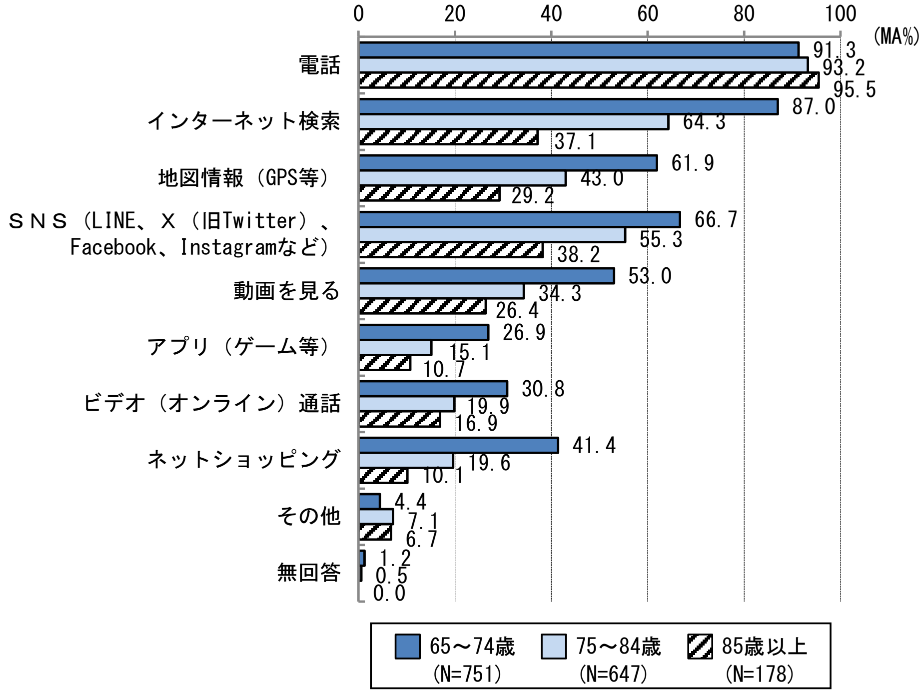
スマートフォンまたはタブレットのどの機能を利用しているかについては、「電話」が 92.6％と最も多く、次いで「インターネット検索」が 71.6％、「SNS（LINE、X（旧 Twitter）、Facebook、Instagram など）が 58.6％となっています。前回調査に比べて、すべての項目で利用が増えていますが、とくに、「SNS」は 13.7 ポイント増加しています。

年齢別にみると、65～74 歳では「ネットショッピング」が 41.4％と、他の年齢に比べて多くなっています。

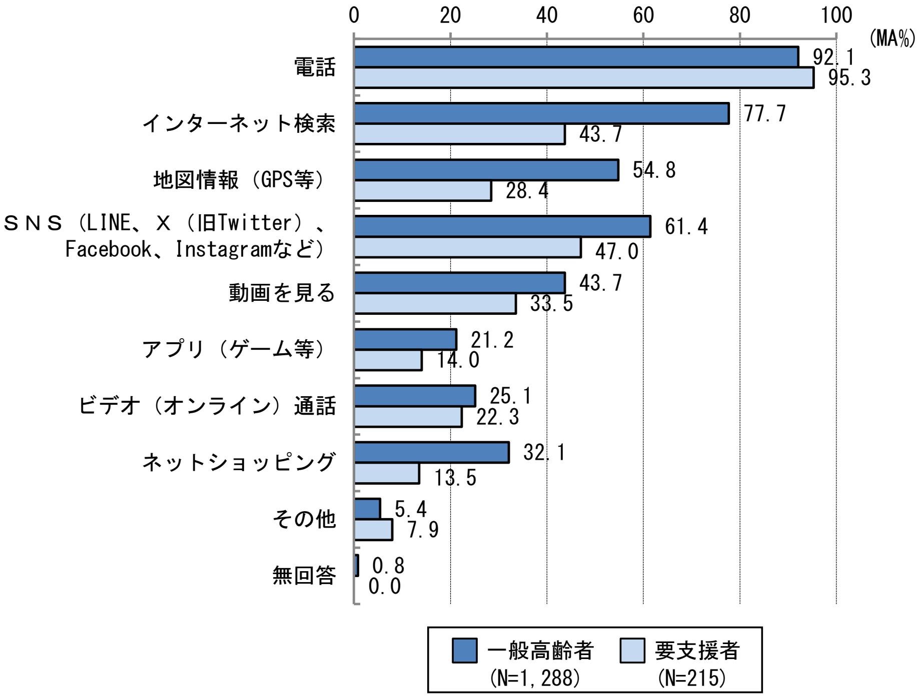


※前回調査では選択肢なし

【年齢別　どの機能を利用しているか】



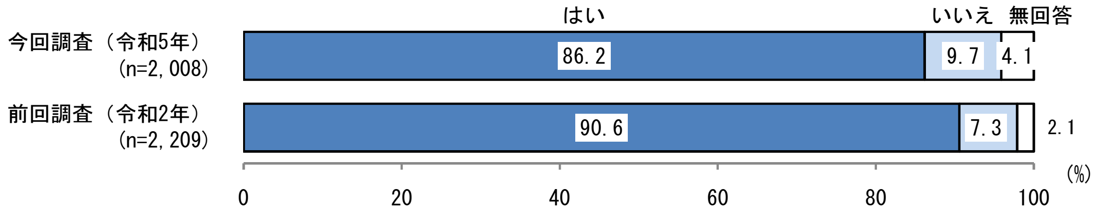
【認定状況別　どの機能を利用しているか】



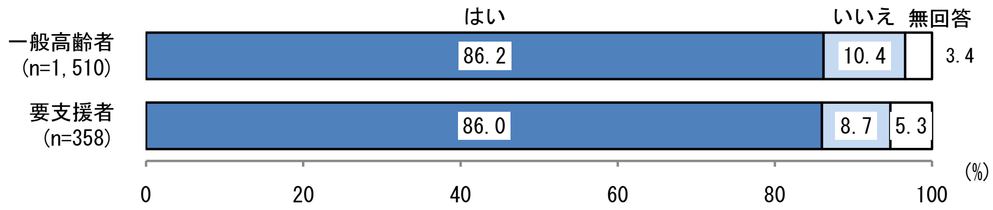
〔５〕健康への関心

問５(13)　健康についての記事や番組に関心がありますか

健康についての記事や番組に関心があるかについては、「はい」が 86.2%、「いいえ」が 9.7%となっています。前回調査に比べて、「はい」は 4.4 ポイント減少しています。



【認定状況別　健康についての記事や番組に関心があるか】

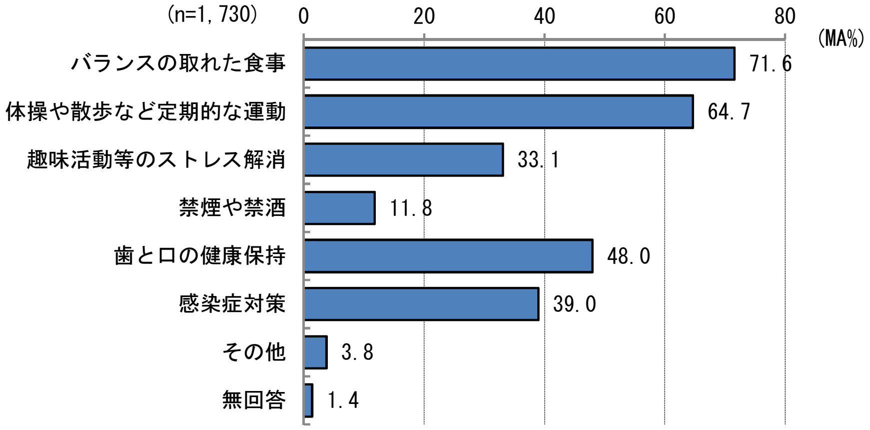


【問５(13)で「1.はい」とお答えの方のみ】
問５(13)-1　記事や番組を参考にして、自宅で何に取り組んでいますか
（○はいくつでも）

記事や番組を参考にして何に取り組んでいるかについては、「バランスの取れた食事」が 71.6%と最も多く、次いで、「体操や散歩など定期的な運動」が 64.7%、「歯と口の健康保持」が 48.0%となっています。

性別にみると、「バランスの取れた食事」では女性が 77.1%と男性に比べて 14.2 ポイント多くなっており、「禁煙や禁酒」では男性が 17.9%と女性に比べて 10.2 ポイント多くなっています。

認定状況別でみると、一般高齢者では「趣味活動等のストレス解消」が 35.4%、要支援認定者では 22.7%と一般高齢者に比べく少なくなっています。



【性別・年齢別・認定状況別・居住地域別　自宅での取り組みについて】

(MA%)

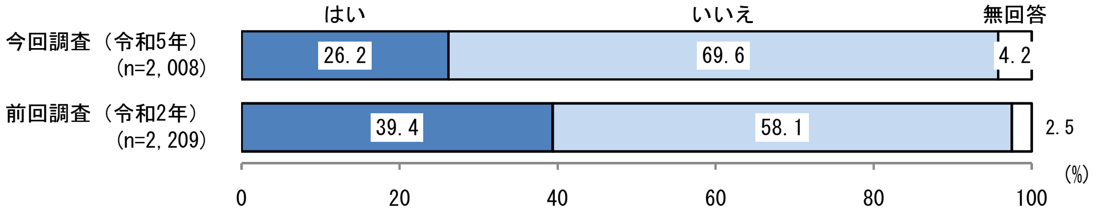
		n	バランスの取れた食事	体操や散歩など定期的な運動	趣味活動等のストレス解消	禁煙や禁酒	歯と口の健康保持	感染症対策	その他	無回答
全体		1,730	1,239	1,119	573	205	830	675	66	24
		100.0	71.6	64.7	33.1	11.8	48.0	39.0	3.8	1.4
性別	男性	660	415	436	231	118	294	234	25	13
		100.0	62.9	66.1	35.0	17.9	44.5	35.5	3.8	2.0
	女性	1,042	803	662	335	80	520	423	41	11
		100.0	77.1	63.5	32.1	7.7	49.9	40.6	3.9	1.1
年齢別	65～74歳	693	513	471	248	79	330	266	20	8
		100.0	74.0	68.0	35.8	11.4	47.6	38.4	2.9	1.2
	75～84歳	699	494	455	235	87	335	286	33	9
		100.0	70.7	65.1	33.6	12.4	47.9	40.9	4.7	1.3
	85歳以上	297	201	170	78	31	142	102	13	7
		100.0	67.7	57.2	26.3	10.4	47.8	34.3	4.4	2.4
認定状況別	一般高齢者	1,302	952	869	461	162	643	519	46	16
		100.0	73.1	66.7	35.4	12.4	49.4	39.9	3.5	1.2
	要支援者	308	206	181	70	27	138	115	11	4
		100.0	66.9	58.8	22.7	8.8	44.8	37.3	3.6	1.3
地域別	東山手生活圏域	378	284	237	146	54	190	153	8	7
		100.0	75.1	62.7	38.6	14.3	50.3	40.5	2.1	1.9
	西山手生活圏域	323	236	212	105	30	144	135	12	0
		100.0	73.1	65.6	32.5	9.3	44.6	41.8	3.7	0.0
	精道生活圏域	576	403	373	188	59	274	213	28	8
		100.0	70.0	64.8	32.6	10.2	47.6	37.0	4.9	1.4
	潮見生活圏域	386	263	255	114	49	181	138	18	8
		100.0	68.1	66.1	29.5	12.7	46.9	35.8	4.7	2.1

〔6〕他者との関わりの状況

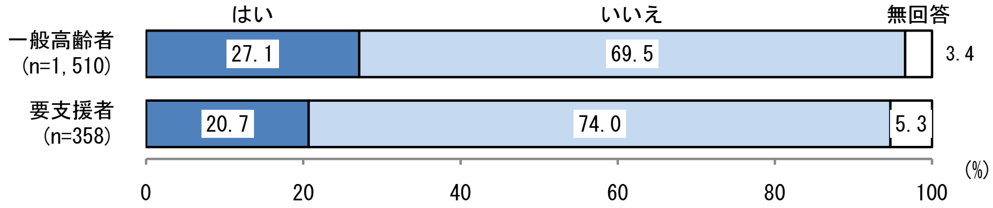
問5（14）　友人の家を訪ねていますか

友人の家を訪ねているかについては、「はい」が 26.2%、「いいえ」が 69.6%となっています。前回調査に比べて、「はい」が 13.2 ポイント減少しています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」が 20.7%と、一般高齢者に比べて少なくなっています。



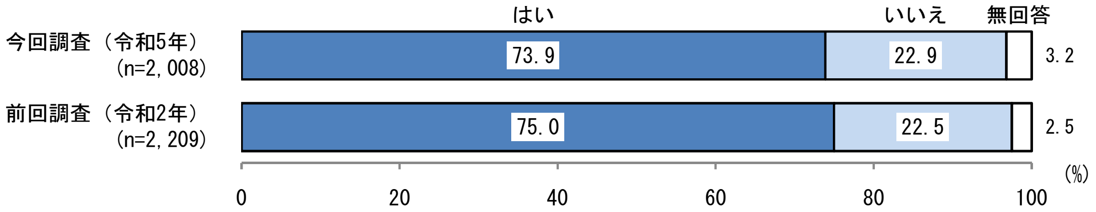
【認定状況別　友人の家を訪ねているか】



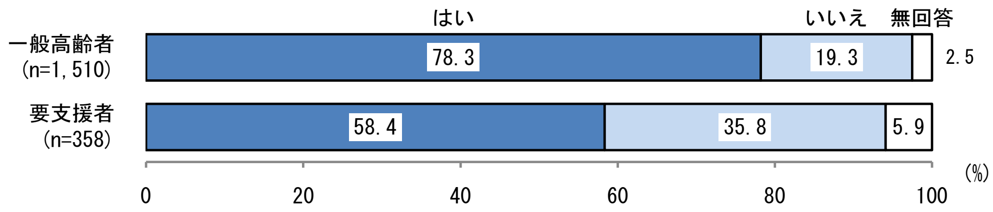
問5（15）　家族や友人の相談にのっていますか

家族や友人の相談にのっているかについては、「はい」が 73.9%、「いいえ」が 22.9%となっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」が 58.4%と、一般高齢者に比べて少なくなっています。



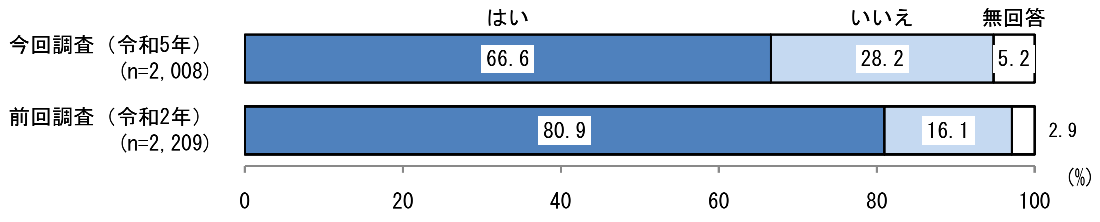
【認定状況別　家族や友人の相談にのっているか】



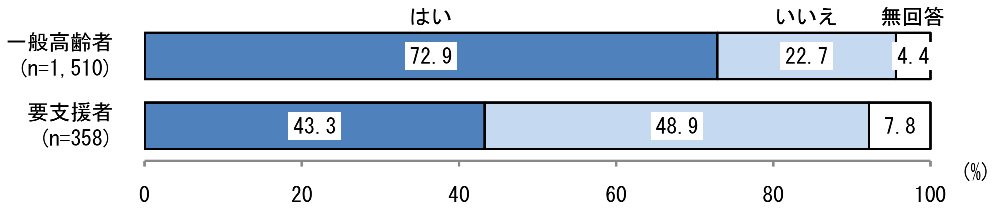
問5（16）　病人を見舞うことができますか

病人を見舞うことができるかについては、「はい」が 66.6%、「いいえ」が 28.2%となっています。前回調査に比べて、「はい」は 14.3 ポイント減少しています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「いいえ」が 48.9%と、「はい」の 43.3%を上回っています。

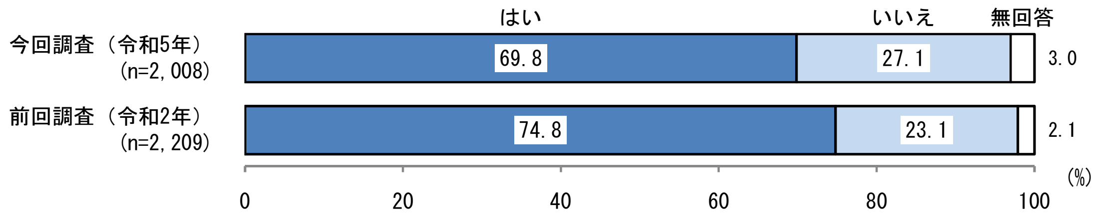


【認定状況別　病人を見舞うことができるか】

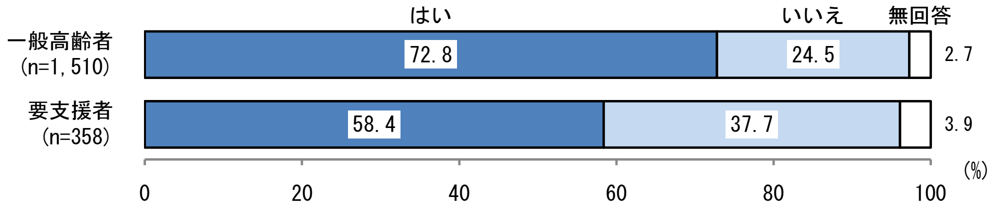


問5（17）　若い人に自分から話しかけることがありますか

若い人に自分から話しかけることがあるかについては、「はい」が 69.8%、「いいえ」が 27.1%となっています。前回調査に比べて、「はい」が 5.0 ポイント減少しています。



【認定状況別　若い人に自分から話しかけることがあるか】

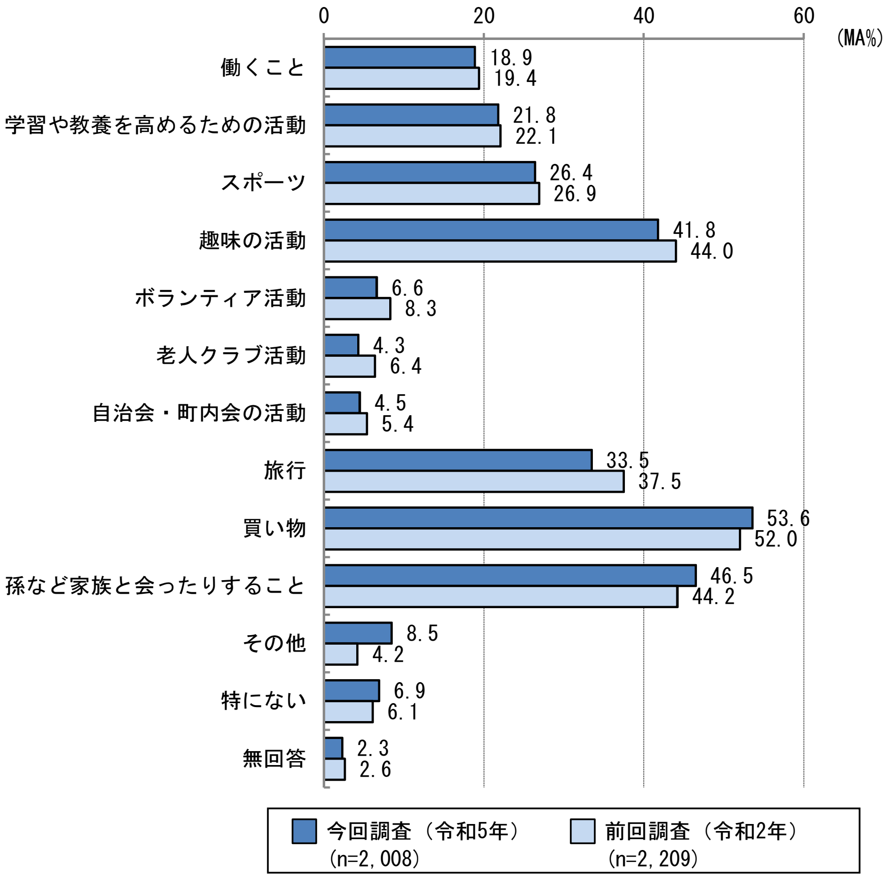


問5（18） ご本人の日常生活の中での楽しみは何ですか （○はいくつでも）

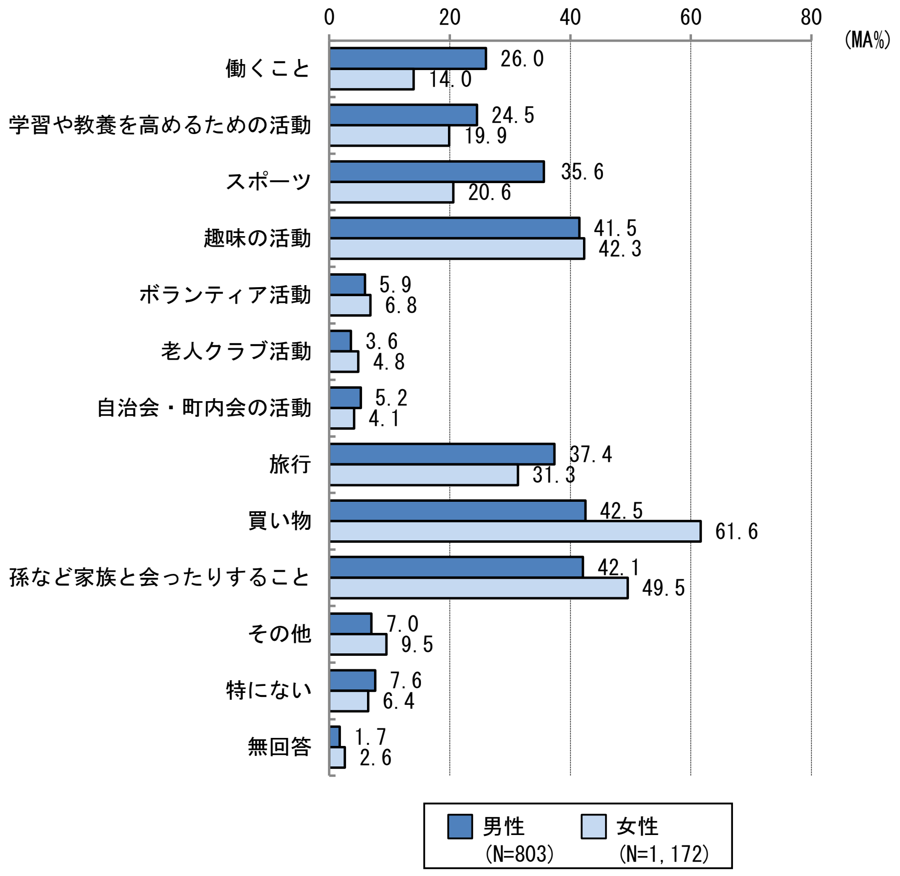
日常生活の中での楽しみについては、「買い物」が 53.6%と最も多く、次いで「孫など家族と会ったりすること」が 46.5%、「趣味の活動」が 41.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「買い物」が最も多くなっていますが、女性が男性に比べて 19.1 ポイント多くなっています。一方、「スポーツ」、「働くこと」、「学習や教養を高めるための活動」、「旅行」などでは男性のほうが女性に比べて多くなっています。

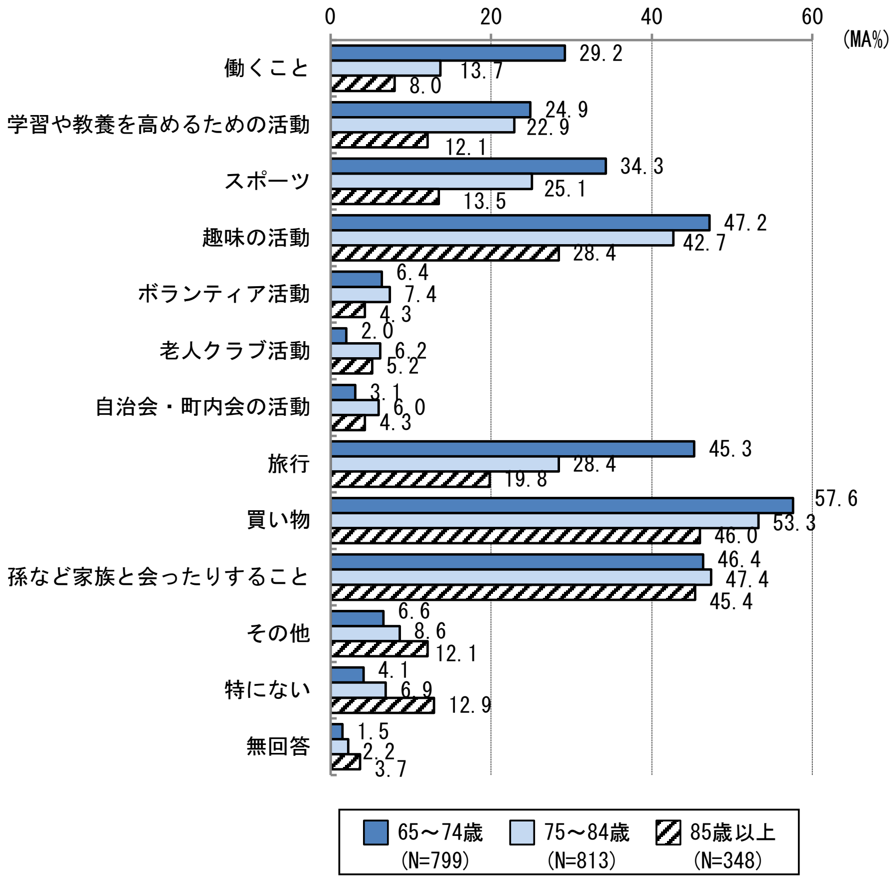
年齢別にみると、75～84 歳では「ボランティア活動」、「老人クラブ活動」、「自治会・町内会の活動」が他の年齢層よりもやや多く、この年齢層がこれらの活動の中心となっているようです。



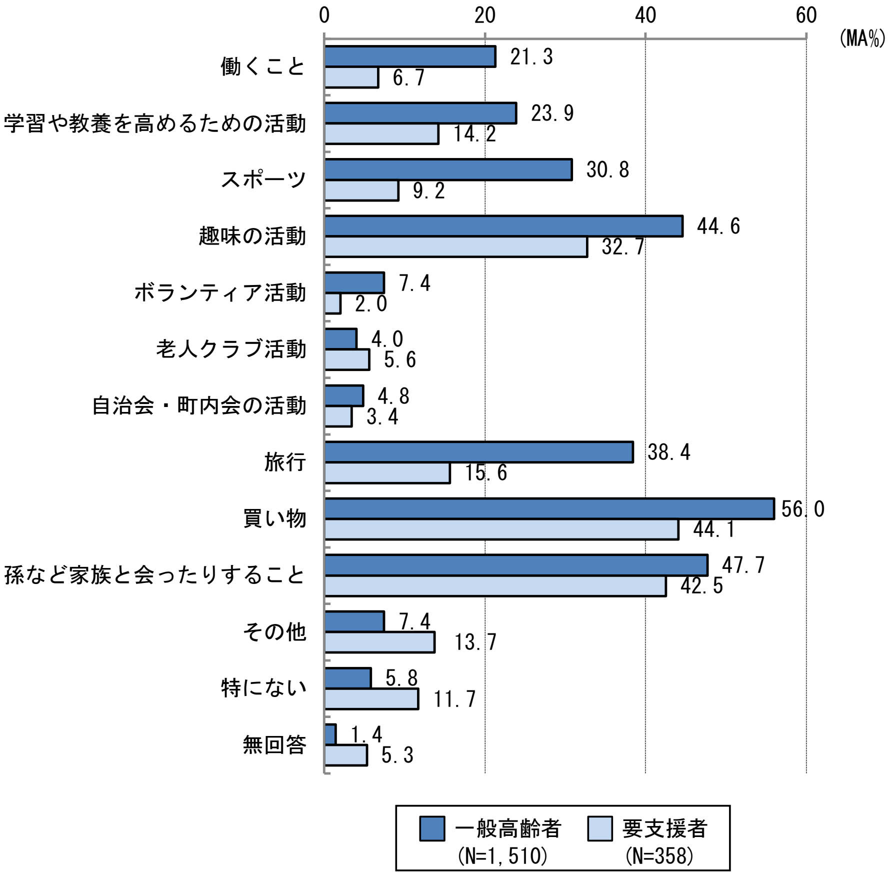
【性別　日常生活の中での楽しみ】



【年齢別　日常生活の中での楽しみ】



【認定状況別　日常生活の中での楽しみ】



〔7〕就労状況

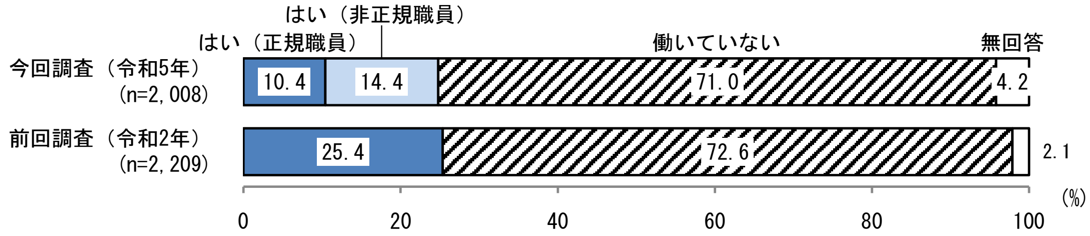
問5（19）　ご本人は、現在、収入のある仕事をしていますか　（1つに○）

就労状況については、「働いていない」が 71.0%と最も多くなっています。就労している（「はい」）の割合は、正規職員、非正規職員を合わせて 24.8%と、前回調査（25.4%）に比べて大きな差はみられません。

性別にみると、男性では就労している（「はい」）の割合が37.1%と、女性に比べて20.4ポイント多くなっています。

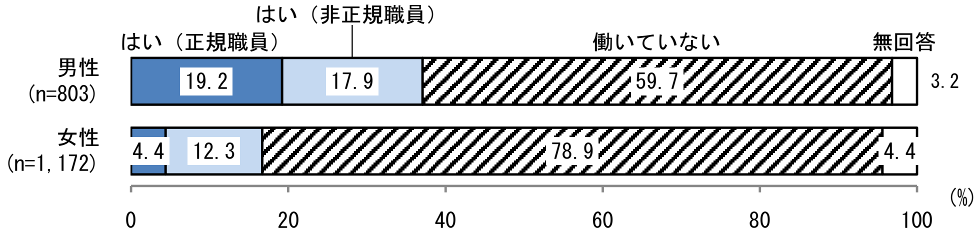
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて就労している（「はい」）の割合は減少し、65～74歳の「前期高齢者」では42.0%が就労している（「はい」）と回答しています。

認定状況別にみると、要支援認定者では就労している（「はい」）の割合は 5.9%と、一般高齢者に比べて23.7ポイント少なくなっています。

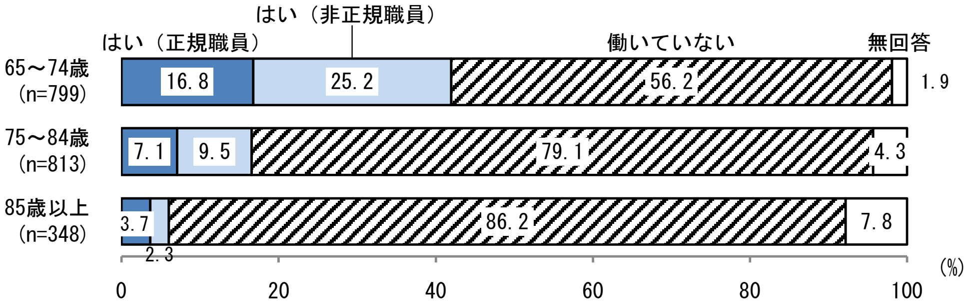


※前回調査では、正規、非正規の区別なし

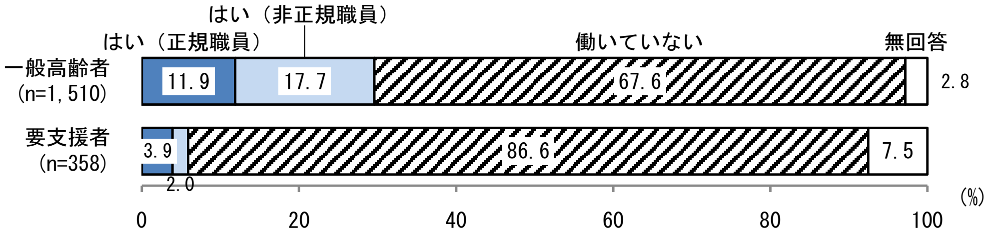
【性別　就労状況】



【年齢別　就労状況】



【認定状況別　就労状況】



〔8〕今後の就労意向

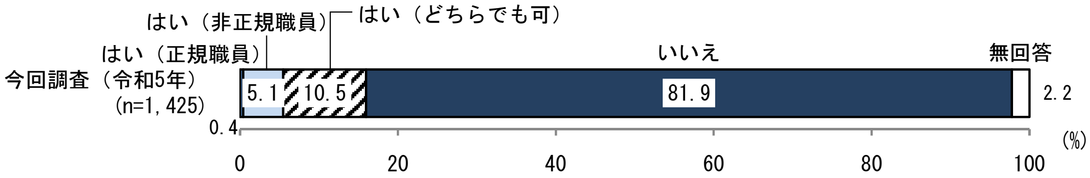
【問5(19)で「3.働いていない」とお答えの方のみ】
問5(19)-1　今後、働いてみたいという意向はありますか

今後の就労への意向については、「はい（どちらでも可）」が 10.5%、「はい（非正規職員）」が 5.1%、「はい（正規職員）」が 0.4%で、就労意向のある人は合計 16.0%となっています。

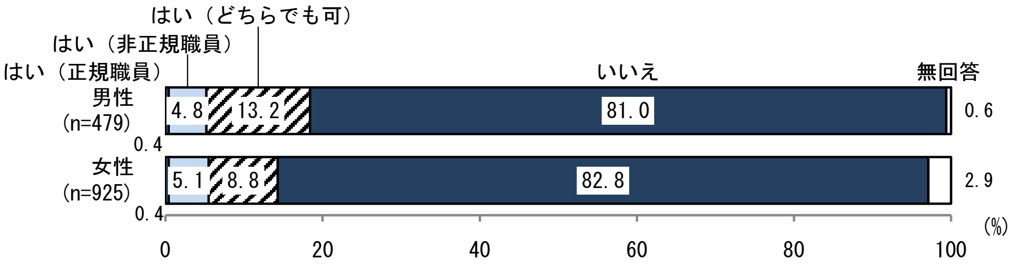
性別にみると、男性では就労意向のある人は 18.4%、女性は 14.3%と、男性のほうが女性に比べて 4.1 ポイント多くなっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて就労意向のある人の割合は減少し、65～74 歳で 26.3%、75～84 歳で 13.9%、85 歳以上では 4.0%となっています。

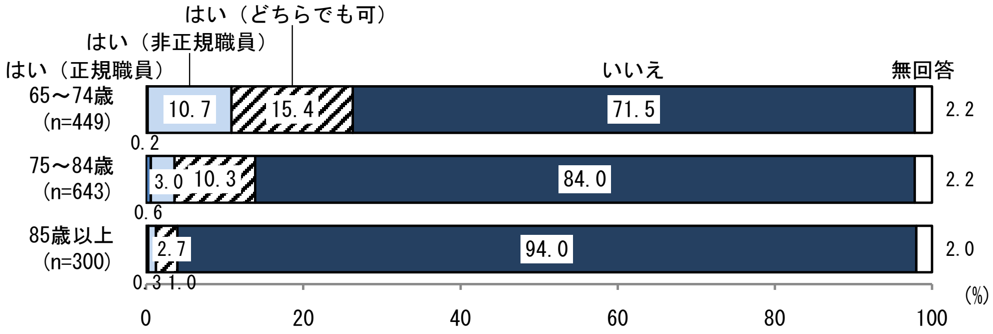
認定状況別にみると、就労意向のある人の割合は一般高齢者で 18.0%、要支援認定者では 10.0%と、一般高齢者のほうが 8.0 ポイント多くなっています。



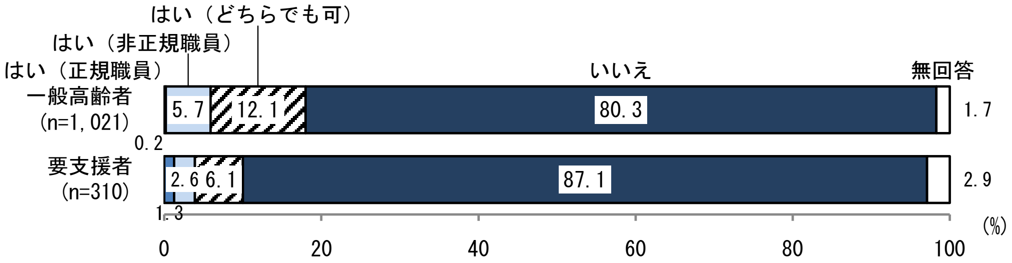
【性別　今後の就労への意向】



【年齢別　今後の就労への意向】



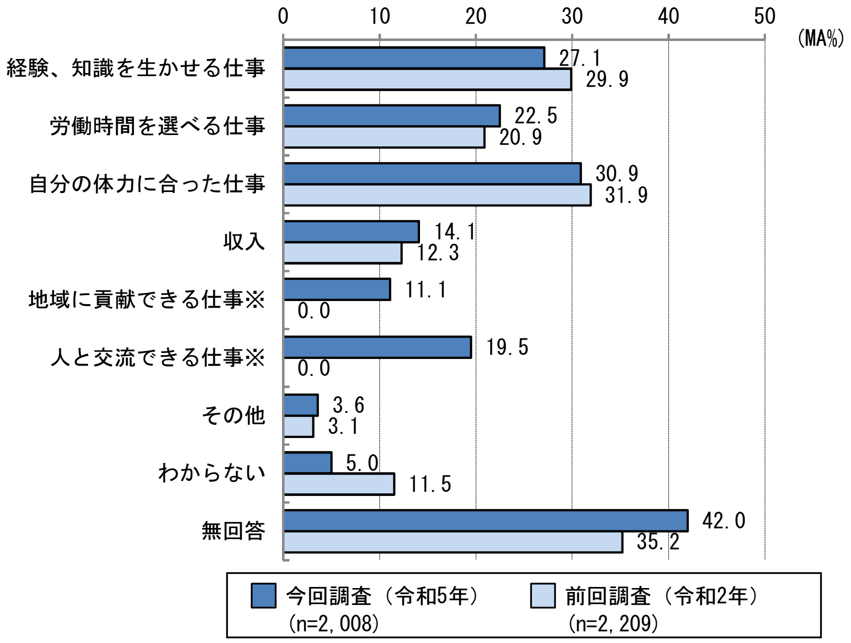
【認定状況別　今後の就労への意向】



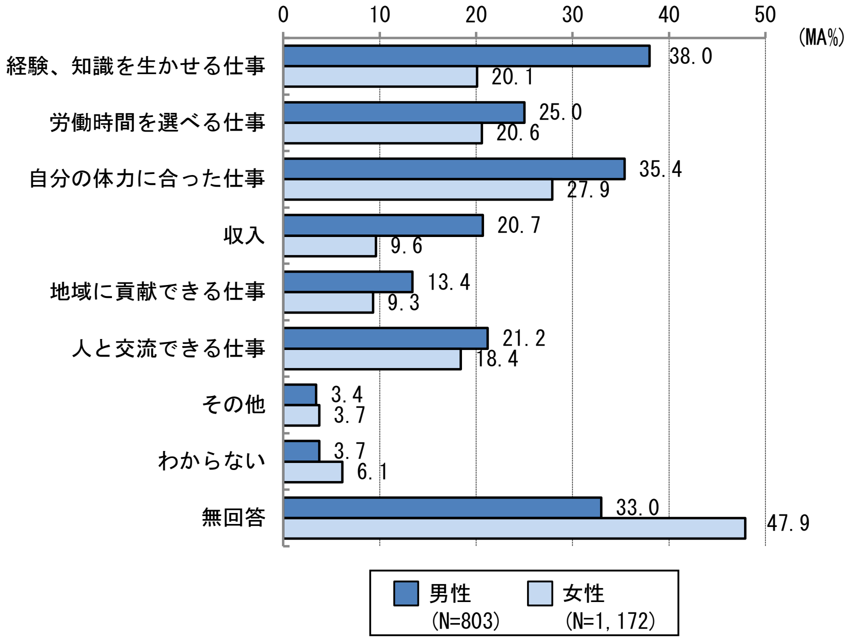
〔9〕働き方で重視する条件

問5（20）　ご本人が、働き方で重視する条件はどれですか　（○はいくつでも）

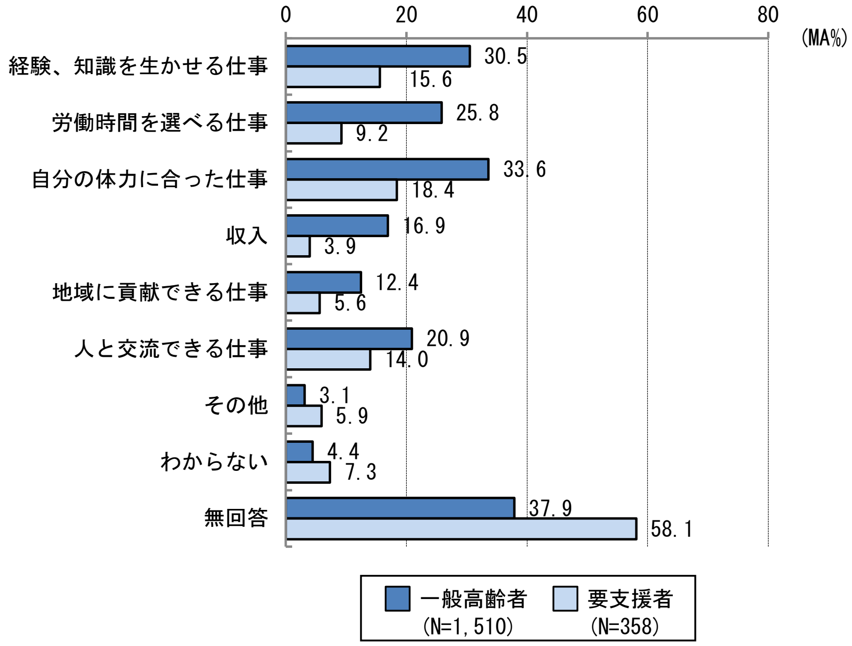
働き方で重視する条件については、「自分の体力にあった仕事」が 30.9%と最も多く、次いで「経験、知識を生かせる仕事」が 27.1%、「労働時間を選べる仕事」が 22.5%となっています。
認定状況別にみると、「人と交流できる仕事」が要支援認定者では 14.0%と 3 番目に多くなっています。
性別にみると、男性では「経験、知識を生かせる仕事」が 38.0%、女性では「自分の体力に合った仕事」が 27.9%で最も多くなっています。



【性別　働き方で重視する条件】



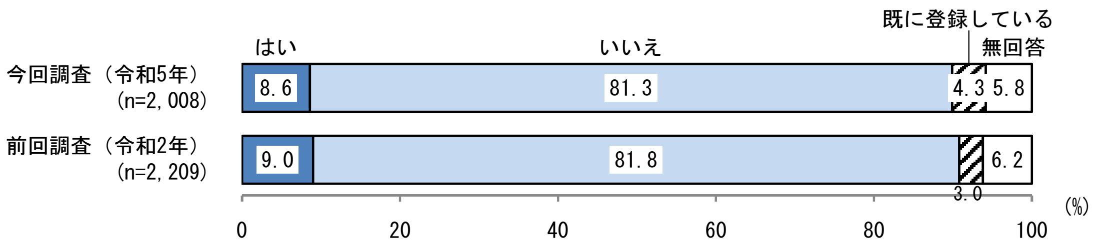
【認定状況別　働き方で重視する条件】



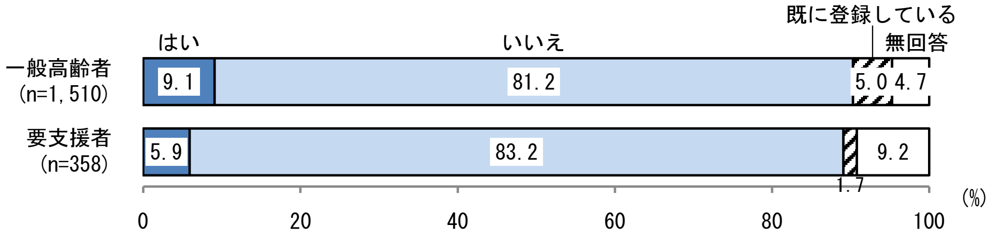
〔10〕シルバー人材センターへの登録意向

問5(21)　ご本人は、シルバー人材センターに登録して、活動する希望はありますか

シルバー人材センターへの登録、活動の希望については、「はい」（希望がある）が 8.6%、「いいえ」（希望しない）が 81.3%で、「既に登録している」が 4.3%となっています。



【認定状況別　シルバー人材センターへの登録、活動希望】



〔11〕高齢者向けのイベントやサービスに関する情報の入手先

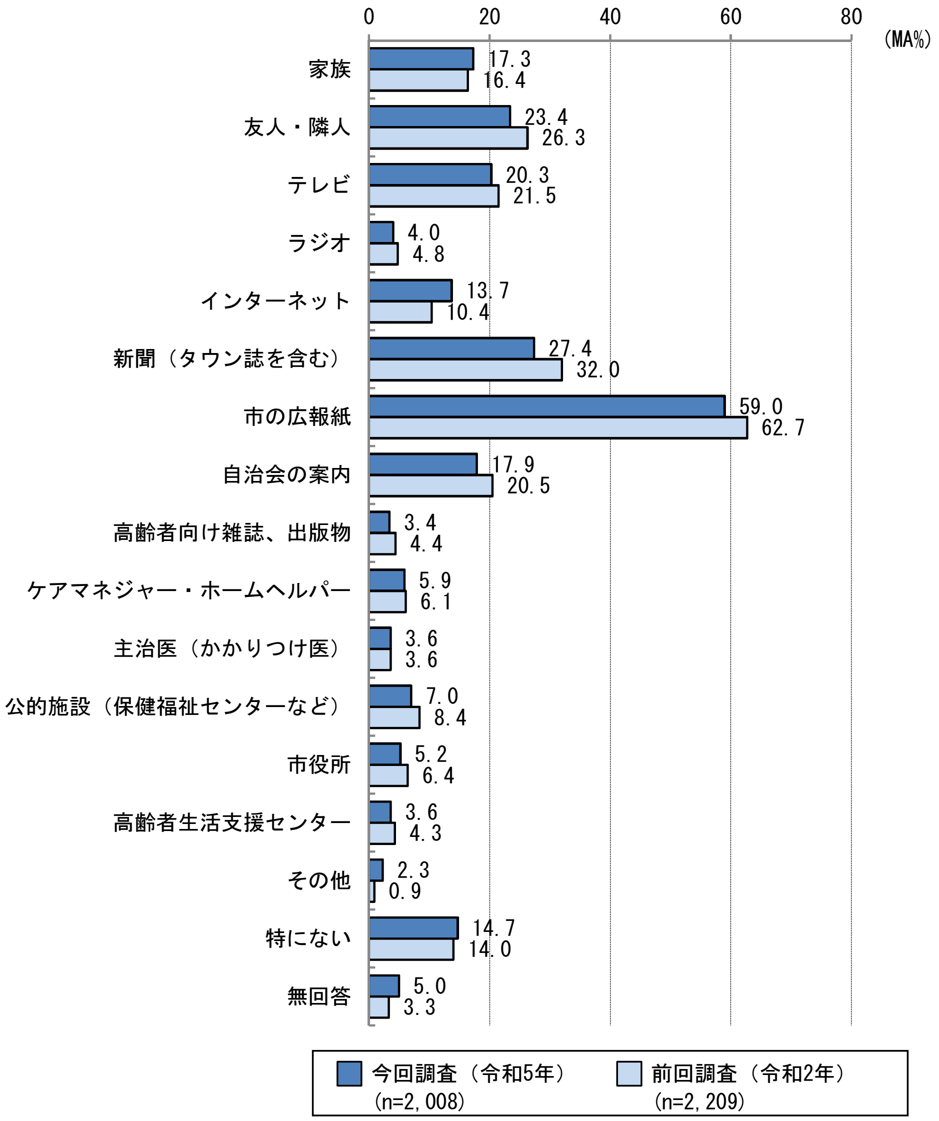
問５(22)　ご本人は、高齢者向けのイベントやサービスに関する情報を、主にどこから得ていますか（○はいくつでも）

高齢者向け情報の入手先については、「市の広報紙」が 59.0％と最も多く、次いで「新聞（タウン誌含む）」が 27.4％、「友人・隣人」が 23.4％となっています。前回調査に比べて、「インターネット」が 3.3 ポイント増加し、「市の広報紙」は 3.7 ポイント減少しています。

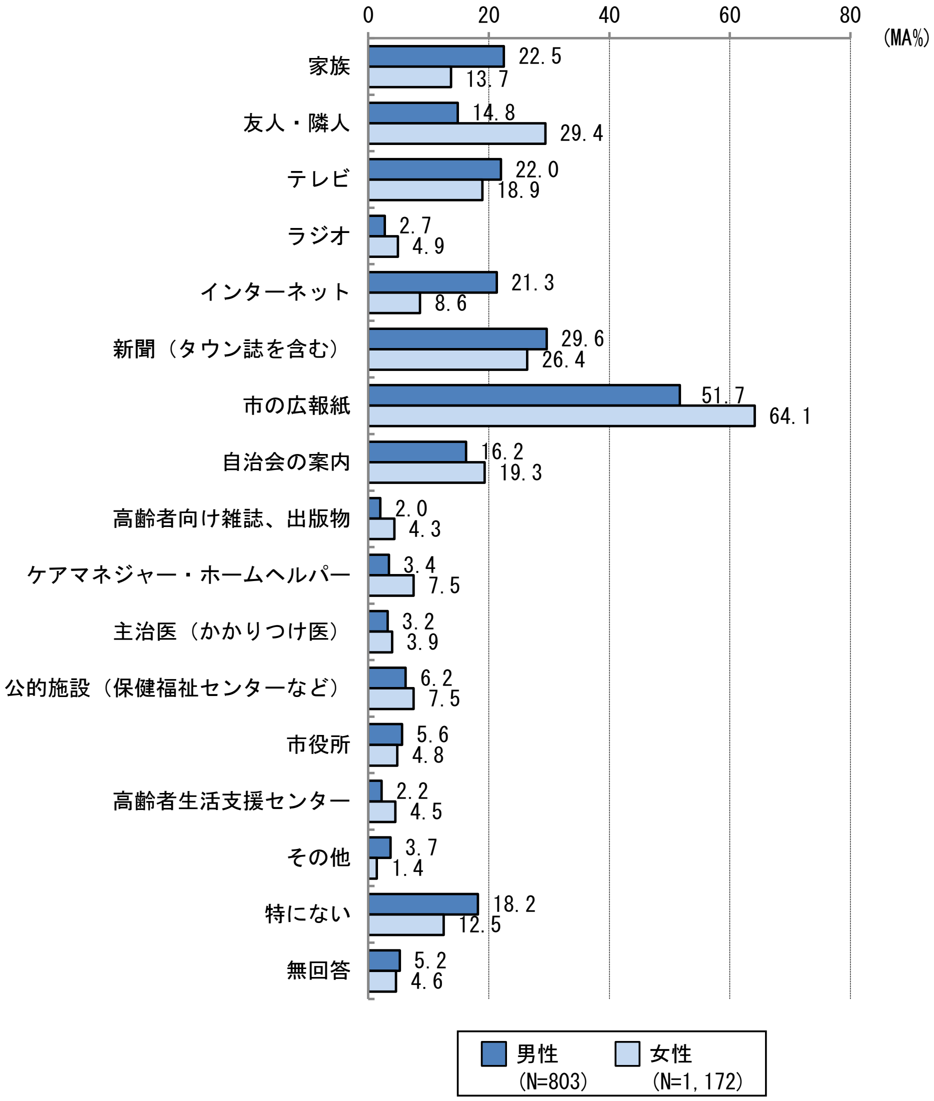
認定状況別にみると、一般高齢者は要支援認定者に比べて「インターネット」が 8.3 ポイント多く、要支援認定者は一般高齢者に比べて「ケアマネジャー、ホームヘルパー」が 27.5 ポイント、「高齢者生活支援センター」が 6.9 ポイント多くなっています。

性別にみると、男性は女性に比べて「家族」が 8.8 ポイント、「インターネット」が 12.7 ポイント多く、女性は男性に比べて「友人・隣人」が 14.6 ポイント多くなっています。

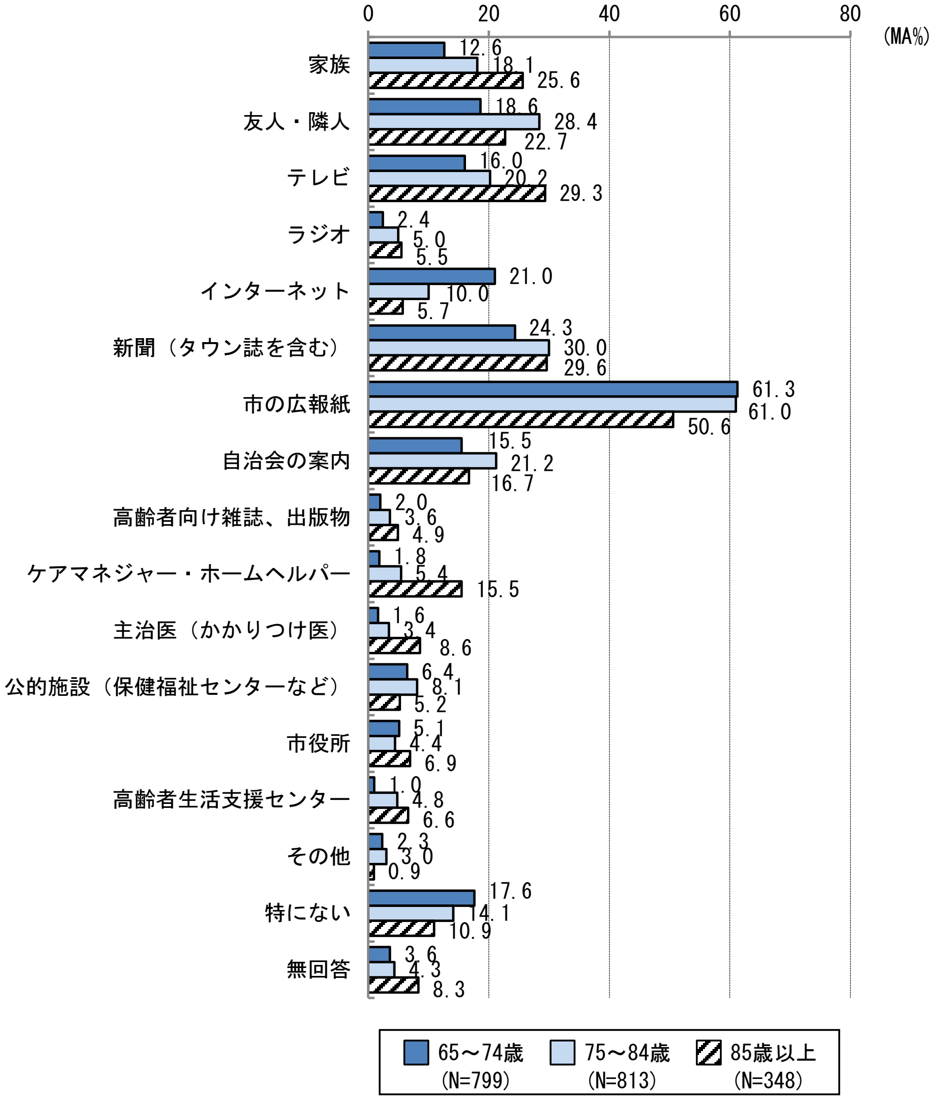
年齢別にみると、65～74 歳では「インターネット」が 21.0％、85 歳以上では「ケアマネジャー、ホームヘルパー」が 15.5％と、他の年齢層に比べて多くなっています。



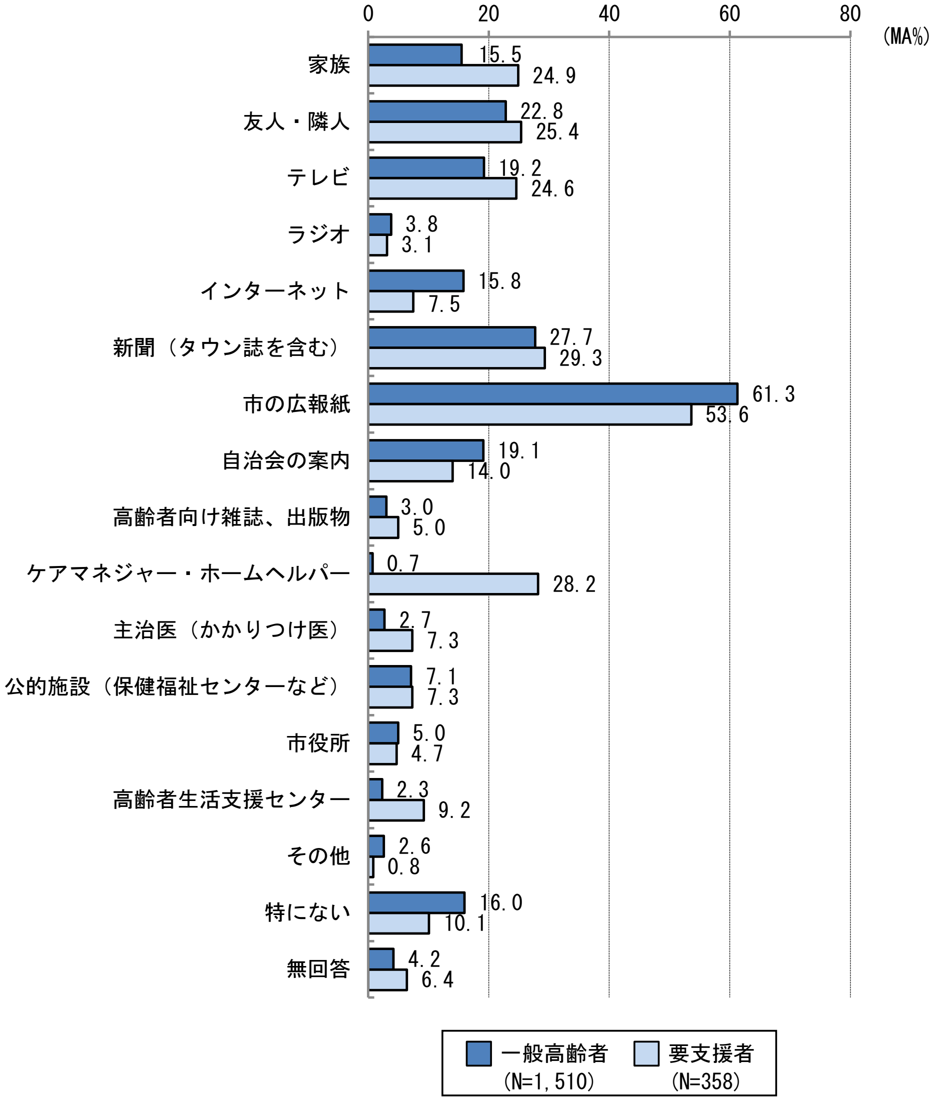
【性別　高齢者向け情報の入手先】



【年齢別　高齢者向け情報の入手先】



【認定状況別　高齢者向け情報の入手先】

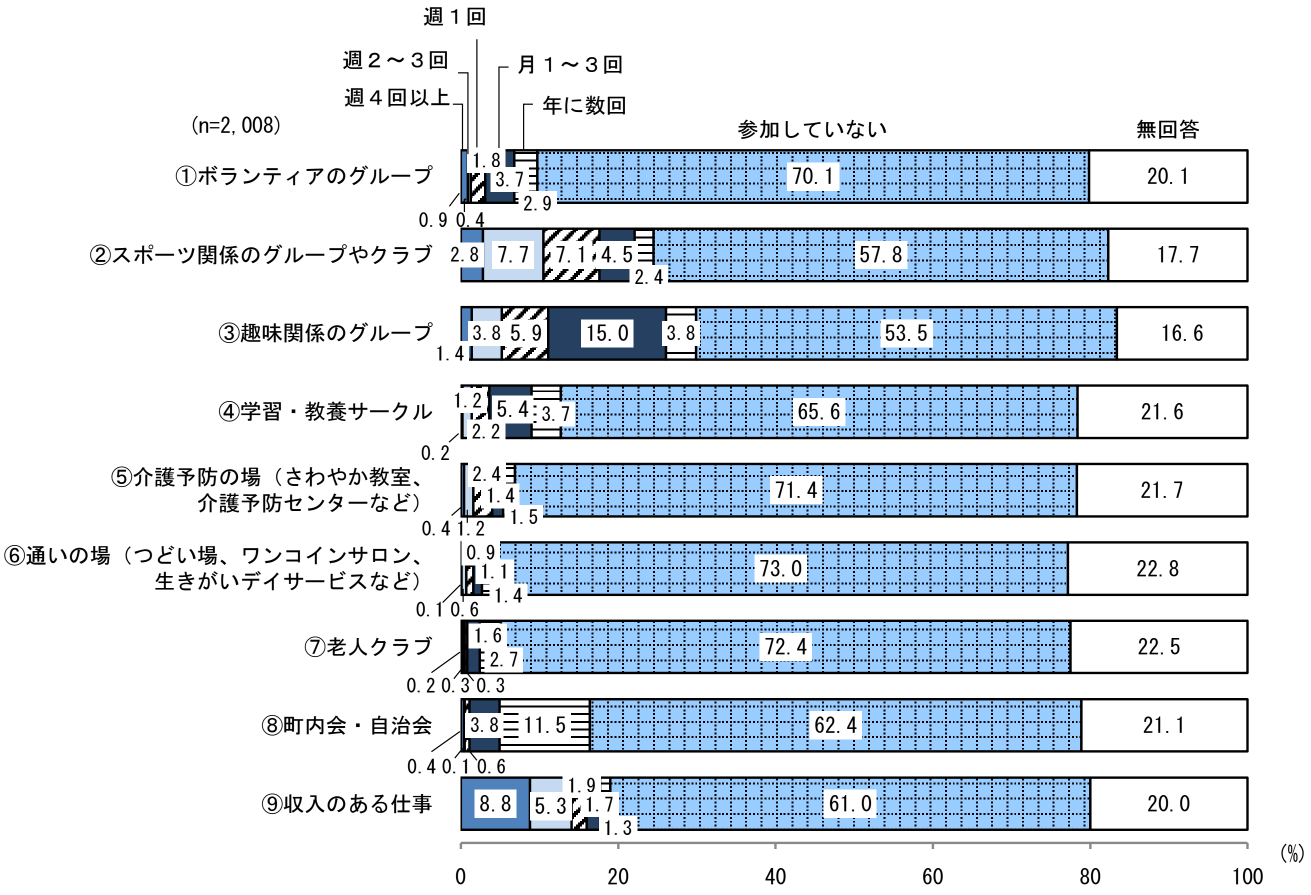


6　地域での活動について

〔1〕地域の会・グループ等への参加状況

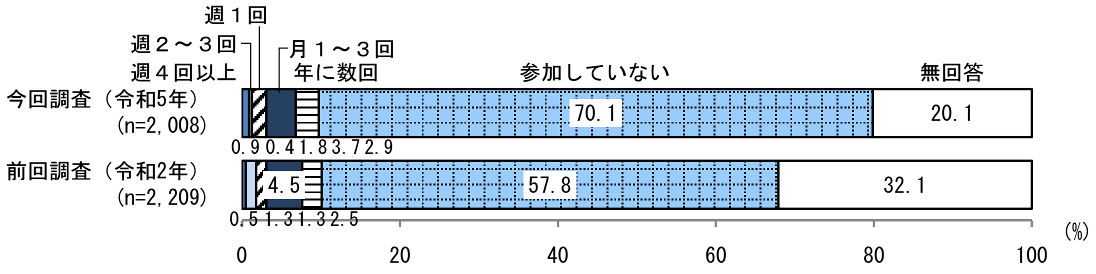
問6（1）　以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※①～⑧それぞれについて、選択肢1～6の中から選んで回答してください
（それぞれ1つに○）

地域の会・グループ活動等への参加について、「週４回以上」から「年に数回」までを合わせた『参加している』は、「③趣味関係のグループ」が29.9%と最も多く、次いで、「②スポーツ関係のグループやクラブ」が 24.5%、「⑨収入のある仕事」が 19.0%となっています。



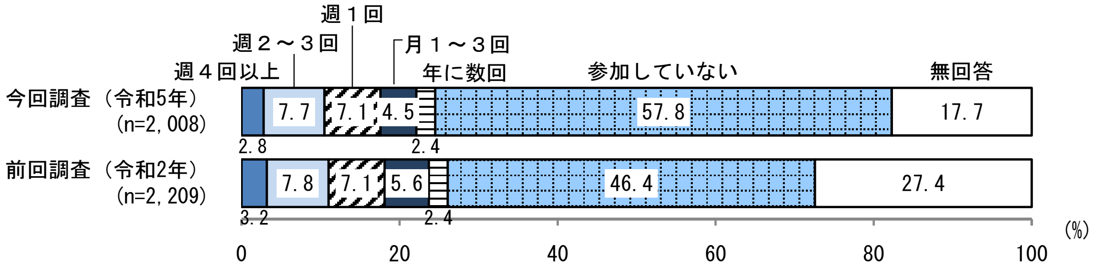
①ボランティアのグループ

ボランティアのグループに『参加している』は合計 9.7%で、前回調査（10.1%）に比べて大きな変化はみられません。参加頻度は「月１～３回」が 3.7%と最も多く、次いで、「年に数回」が 2.9%となっています。



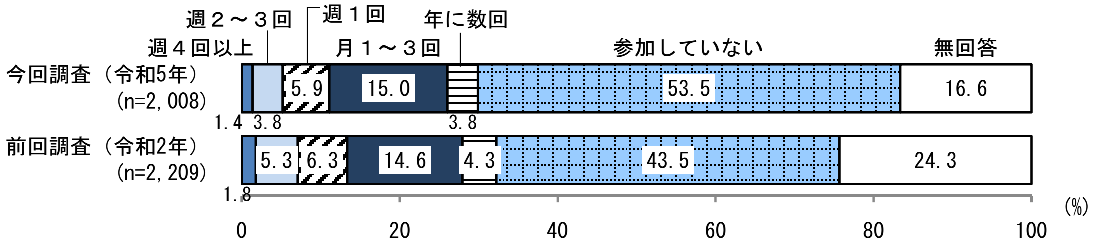
②スポーツ関係のグループやクラブ

スポーツ関係のグループやクラブに『参加している』は合計 24.5%で、前回調査（26.1%）に比べて 1.6 ポイント減少しています。参加頻度は「週２～３回」が 7.7%、「週１回」が 7.1%、「月１～３回」が 4.5%となっています。



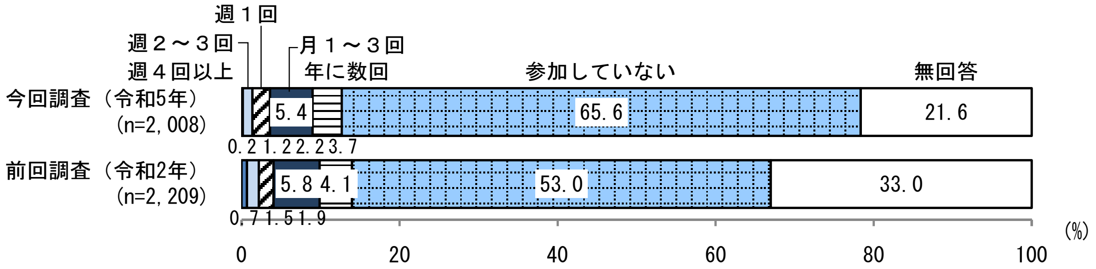
③趣味関係のグループ

趣味関係のグループに『参加している』は合計 29.9%で、前回調査（32.3%）に比べて 2.4 ポイント減少しています。参加頻度は「月１～３回」が 15.0%と最も多く、次いで、「週 1 回」が 5.9%となっています。



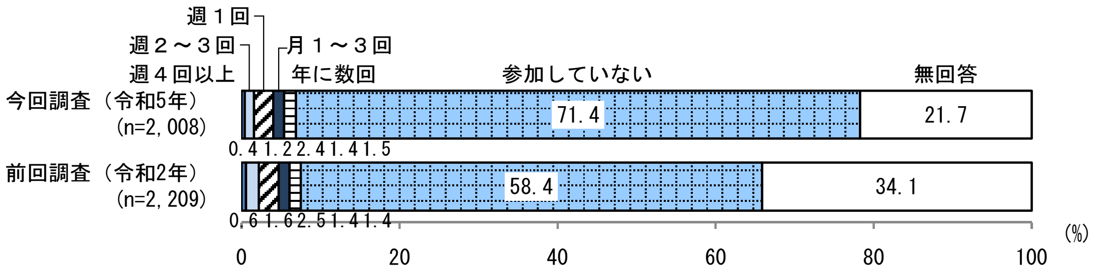
④学習・教養サークル

学習・教養サークルに『参加している』は合計 12.7%で、前回調査（14.0%）に比べて 1.3 ポイント減少しています。参加頻度は「月 1～3 回」が 5.4%、「年に数回」が 3.7%となっています。



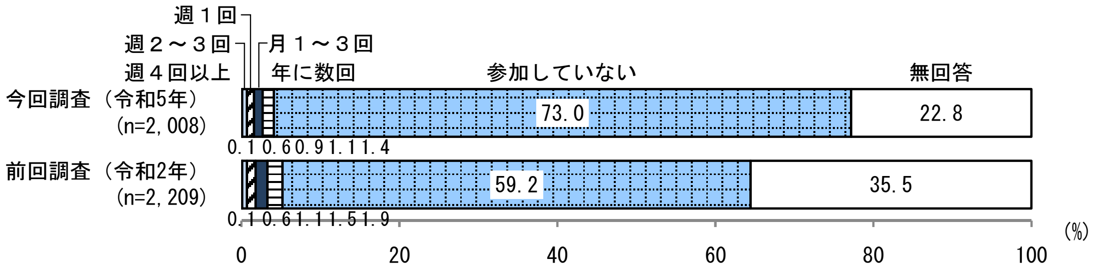
⑤介護予防の場（さわやか教室、介護予防センターなど）

介護予防の場に『参加している』は合計 6.9%となっています。参加頻度は「週１回」が 2.4%、「年に数回」が 1.5%となっています。



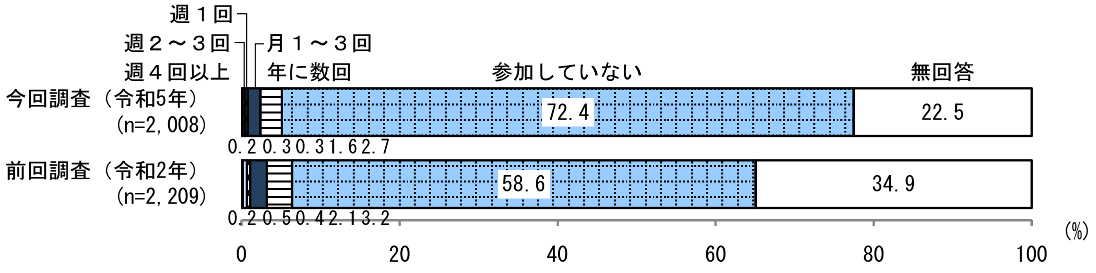
⑥通いの場（つどい場、ワンコインサロン、生きがいデイサービスなど）

通いの場に『参加している』は合計 4.1%となっています。参加頻度は「年に数回」が 1.4%、「月に１～３回」が 1.1%となっています。



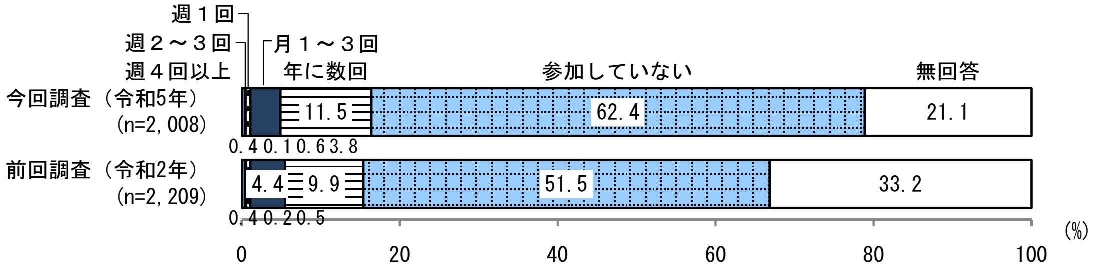
⑦老人クラブ

老人クラブに『参加している』は合計 5.1%で、前回調査（6.4%）に比べて 1.3 ポイント減少しています。参加頻度は「年に数回」が 2.7%と最も多く、次いで、「月１～３回」が 1.6%となっています。



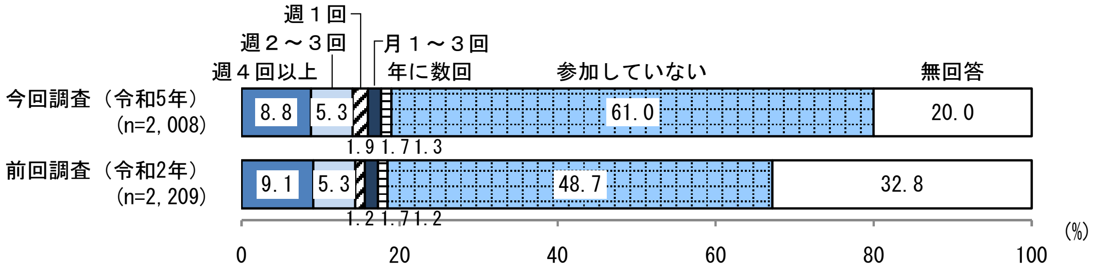
⑧町内会・自治会

町内会・自治会に『参加している』は合計 16.4%で、前回調査（15.4%）に比べて１ポイント増加しています。参加頻度は「年に数回」が 11.5%と最も多く、次いで、「月１～３回」が 3.8%となっています。



⑨収入のある仕事

収入のある仕事を『している』は合計 19.0%で、参加頻度は「週４回以上」が 8.8%と最も多く、次いで、「週２～３回」が 5.3%、「週１回」が 1.9%となっています。



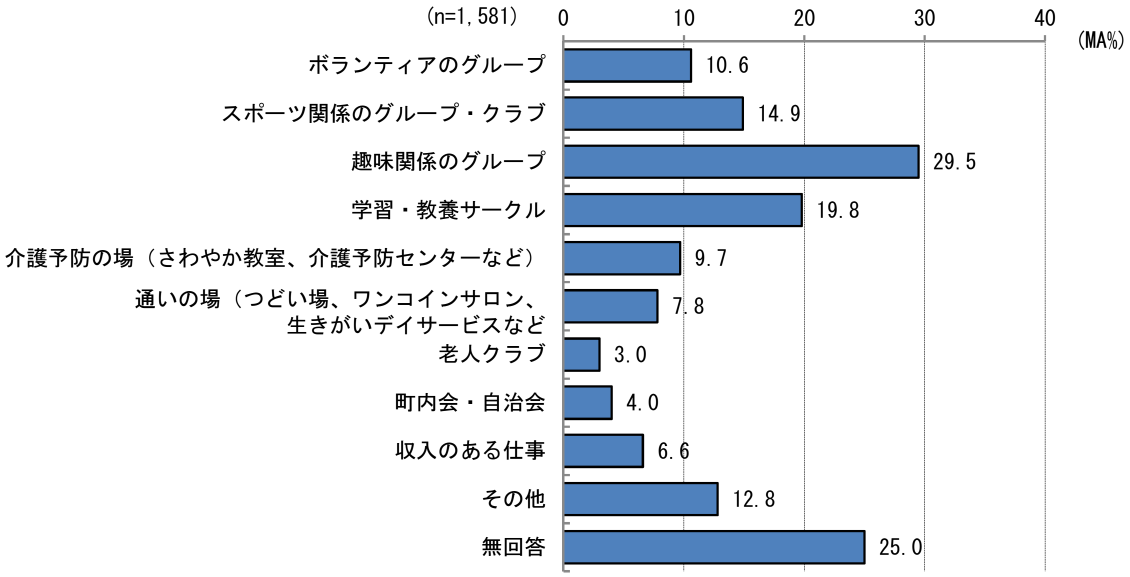
〔2〕今後参加したい地域の活動

問6（1）-1　現在参加していない活動のうち今後参加したい活動は何ですか
（〇はいくつでも）

今後参加したい活動については、「趣味関係のグループ」が 29.5%と最も多く、次いで、「学習・教養サークル」が 19.8%、「スポーツ関係のグループ・クラブ」が 14.9%となっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「介護予防の場（さわやか教室、介護予防センターなど）」が 18.5%、「通いの場（つどいの場、ワンコインサロン、生きがいデイサービスなど）」が 12.1%と、一般高齢者に比べて多くなっています。

居住地域にみると、精道生活圏域、潮見生活圏域では「町内会・自治会」が他の生活圏域に比べてやや多くなっています。



【性別・年齢別・認定状況別・居住地域別　今後参加したい活動】

(MA%)

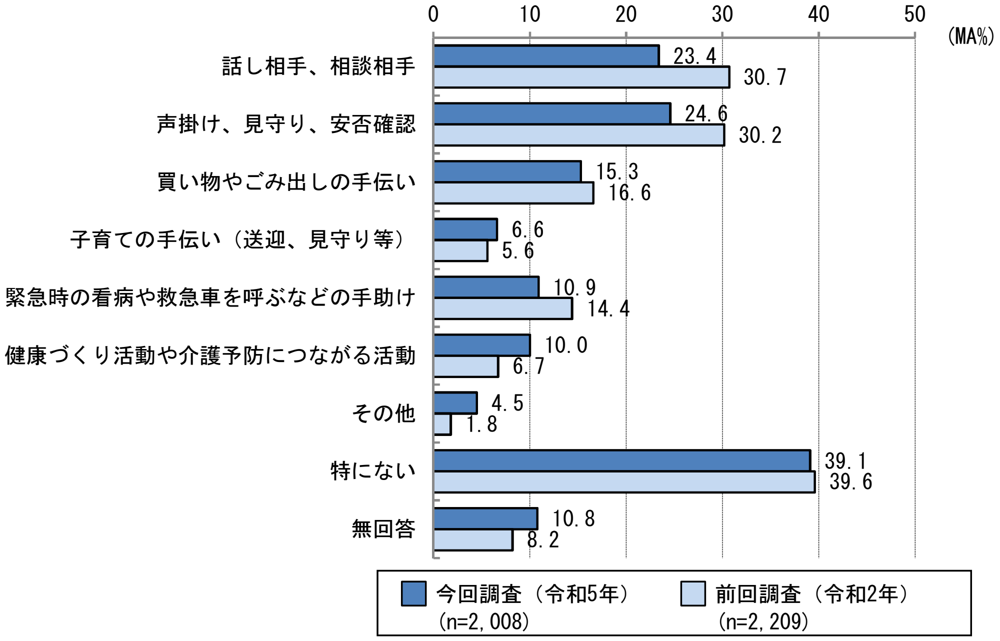
		n	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループ・クラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	介護予防の場（さわやか教室、介護予防センターなど）	通いの場（つどい場、ワンコインサロン、生きがいデイサービスなど）	老人クラブ	町内会・自治会	収入のある仕事	その他	無回答
全体		1,581	168	235	466	313	154	123	47	64	105	202	395
		100.0	10.6	14.9	29.5	19.8	9.7	7.8	3.0	4.0	6.6	12.8	25.0
性別	男性	667	69	116	210	131	39	29	21	26	54	88	168
		100.0	10.3	17.4	31.5	19.6	5.8	4.3	3.1	3.9	8.1	13.2	25.2
	女性	895	97	114	251	176	112	94	25	37	50	113	221
		100.0	10.8	12.7	28.0	19.7	12.5	10.5	2.8	4.1	5.6	12.6	24.7
年齢別	65～74歳	700	102	137	213	154	37	42	9	27	73	78	149
		100.0	14.6	19.6	30.4	22.0	5.3	6.0	1.3	3.9	10.4	11.1	21.3
	75～84歳	633	58	78	195	119	83	57	28	33	26	82	165
		100.0	9.2	12.3	30.8	18.8	13.1	9.0	4.4	5.2	4.1	13.0	26.1
	85歳以上	219	5	16	48	29	30	23	8	3	5	42	72
		100.0	2.3	7.3	21.9	13.2	13.7	10.5	3.7	1.4	2.3	19.2	32.9
認定状況別	一般高齢者	1,246	147	210	392	252	104	87	34	50	96	145	285
		100.0	11.8	16.9	31.5	20.2	8.3	7.0	2.7	4.0	7.7	11.6	22.9
	要支援者	248	14	16	55	44	46	30	9	11	6	48	71
		100.0	5.6	6.5	22.2	17.7	18.5	12.1	3.6	4.4	2.4	19.4	28.6
地域別	東山手生活圏域	348	33	45	103	84	39	22	6	9	23	50	76
		100.0	9.5	12.9	29.6	24.1	11.2	6.3	1.7	2.6	6.6	14.4	21.8
	西山手生活圏域	288	30	47	88	59	26	21	8	6	21	30	85
		100.0	10.4	16.3	30.6	20.5	9.0	7.3	2.8	2.1	7.3	10.4	29.5
	精道生活圏域	531	58	82	150	94	53	46	14	25	34	66	135
		100.0	10.9	15.4	28.2	17.7	10.0	8.7	2.6	4.7	6.4	12.4	25.4
	潮見生活圏域	361	44	51	105	61	29	30	18	22	26	52	82
		100.0	12.2	14.1	29.1	16.9	8.0	8.3	5.0	6.1	7.2	14.4	22.7

〔３〕地域でお手伝いできること

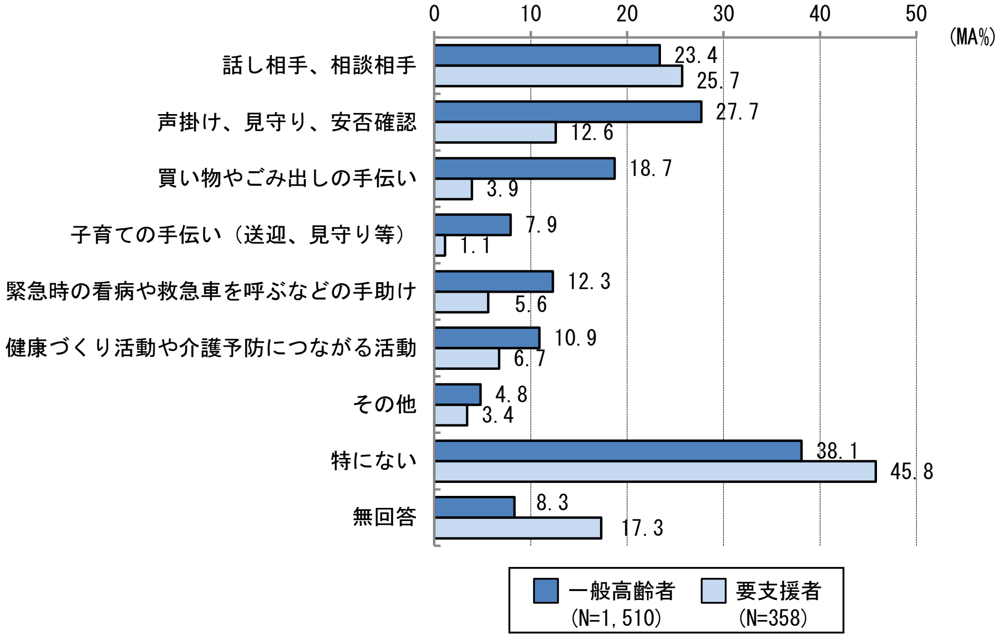
問６（２）　ご本人が、地域でお手伝いできることは何ですか　（○はいくつでも）

地域でお手伝いできることについては、「声掛け、見守り、安否確認」が 24.6%と最も多く、次いで、「話し相手、相談相手」が 23.4%、「買い物やごみ出しの手伝い」が 15.3%となっています。一方で、「特にない」が 39.1%と 4 割近くを占めています。

認定状況別にみると、要支援認定者で「話し相手、相談相手」が 25.7%と、一般高齢者に比べて 2.3 ポイント多くなっています。



【認定状況別　地域でお手伝いできること】

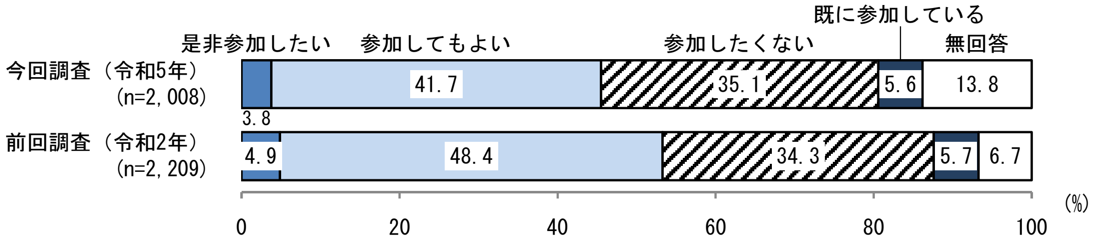


〔4〕地域の会・グループ等への参加意向

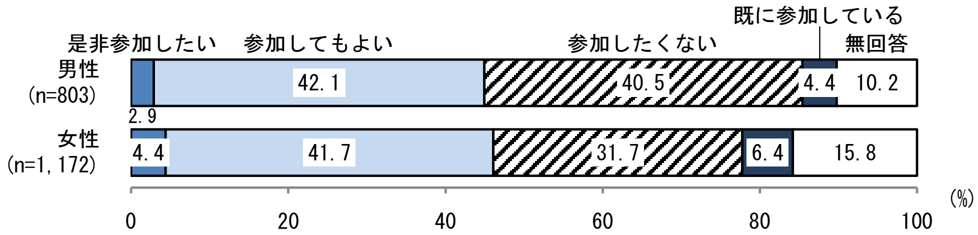
①参加者としての参加

問6（3）　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか　（1つに○）

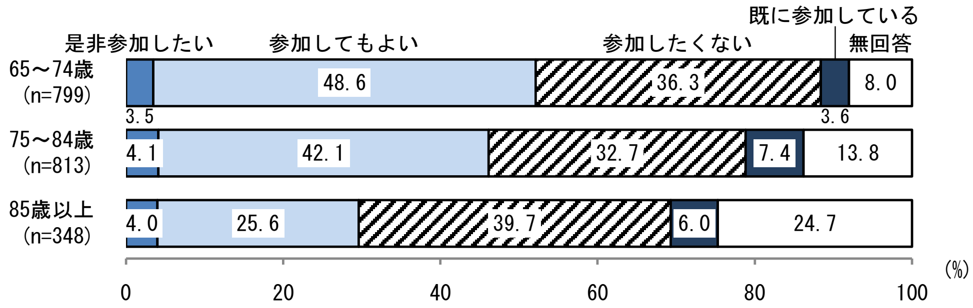
　地域の会・グループ活動等への参加者としての参加意向については、「是非参加したい」が3.8%、「参加してもよい」が 41.7%で、「既に参加している」の 5.6%も合わせて、『参加意向あり』は合計 51.1%となっています。前回調査に比べて、『参加意向あり』は 7.9 ポイント減少しています。
　居住地域別にみると、『参加意向あり』は東山手生活圏域で 53.9%と最も多くなっています。



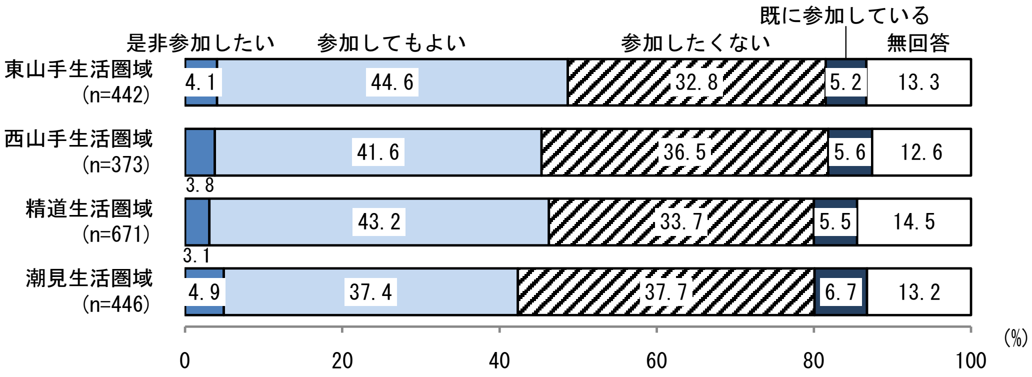
【性別　地域の会・グループ活動等への参加意向『参加者としての参加』】



【年齢別　地域の会・グループ活動等への参加意向『参加者としての参加』】



【居住地域別　地域の会・グループ活動等への参加意向『参加者としての参加』】

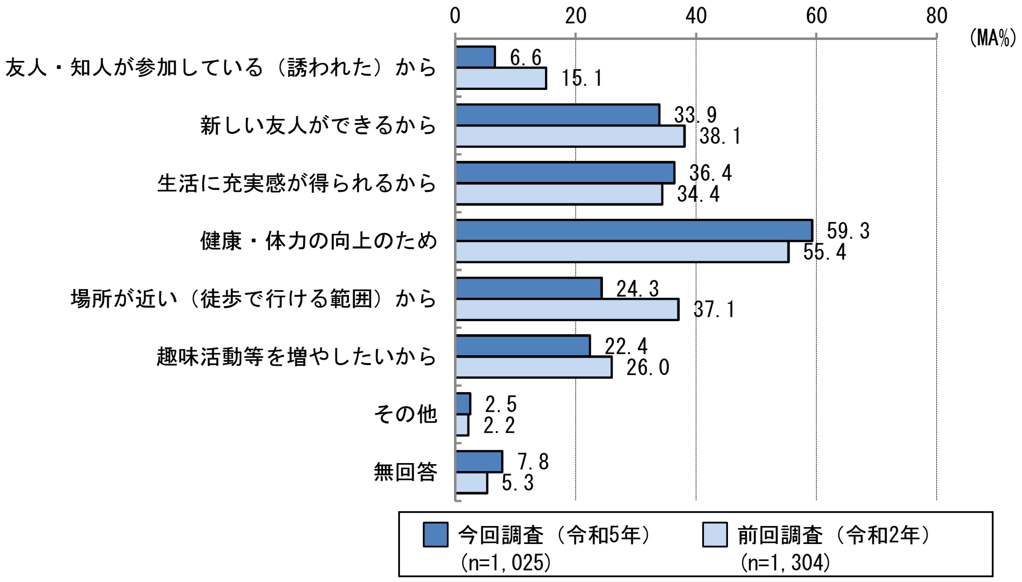


【問６（３）で「１」「２」「４」のいずれかとお答えの方のみ】
問６（３）-１　参加したい（参加している）と考えた理由は何ですか　（○はいくつでも）

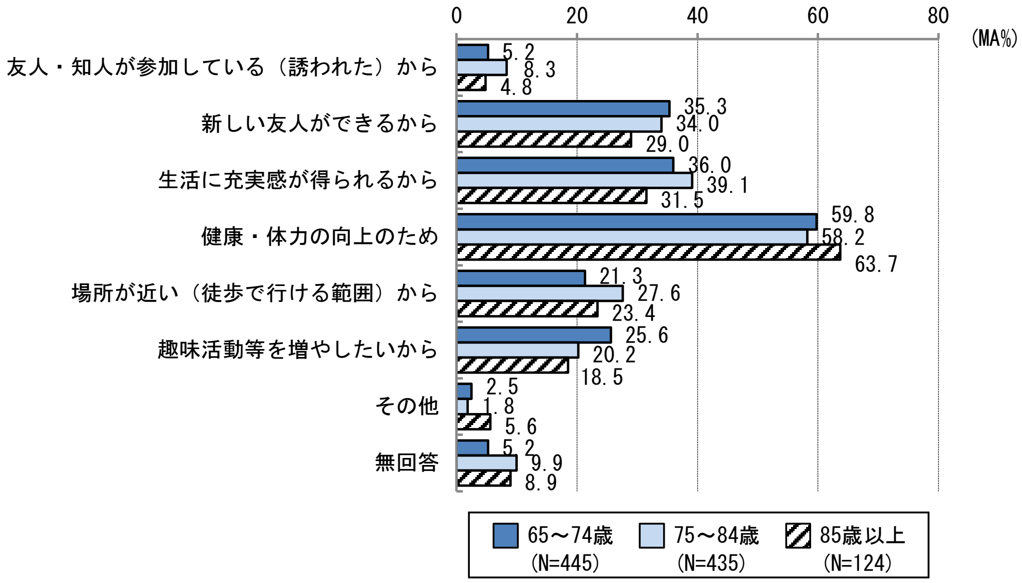
参加したい（参加している）理由については、「健康・体力の向上のため」が59.3%と最も多く、次いで「生活に充実感が得られるから」が36.4%、「新しい友人ができるから」が33.9%となっています。

年齢別にみると、すべての年齢層で「健康・体力の向上のため」が最も多くなっていますが、85歳以上では63.7%ととくに多くなっています。

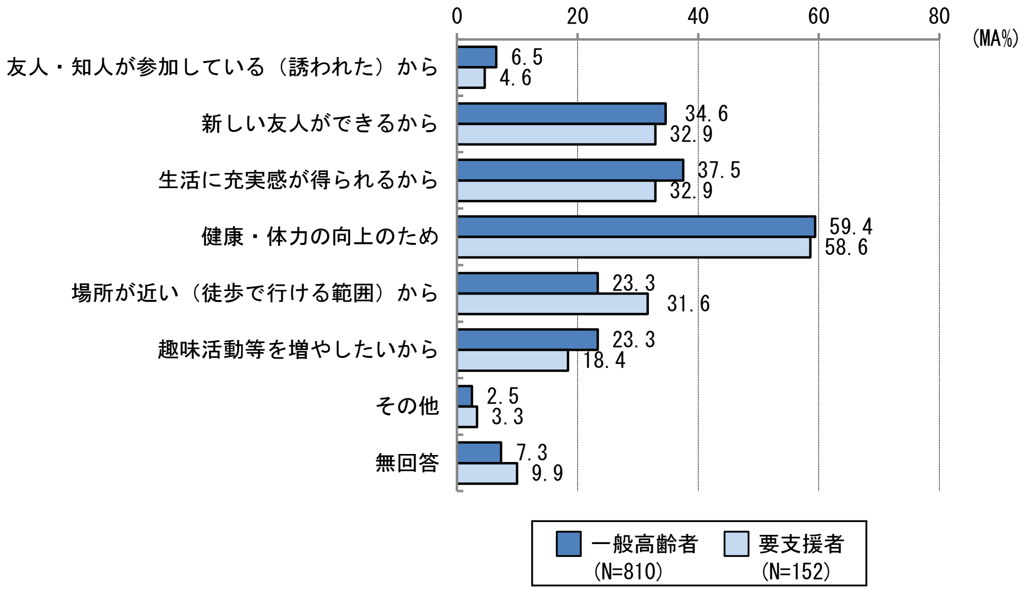
認定状況別にみると、要支援認定者では「場所が近い（徒歩で行ける範囲）から」が31.6%と、一般高齢者に比べて8.3ポイント多くなっています。



【年齢別　参加理由】



【認定状況別　参加理由】


0
20
40
60
80
(MA%)
友人・知人が参加している（誘われた）から
6.5
4.6
新しい友人ができるから
34.6
32.9
生活に充実感が得られるから
37.5
32.9
健康・体力の向上のため
59.4
58.6
場所が近い（徒歩で行ける範囲）から
23.3
31.6
趣味活動等を増やしたいから
23.3
18.4
その他
2.5
3.3
無回答
7.3
9.9
一般高齢者
(N=810)
要支援者
(N=152)

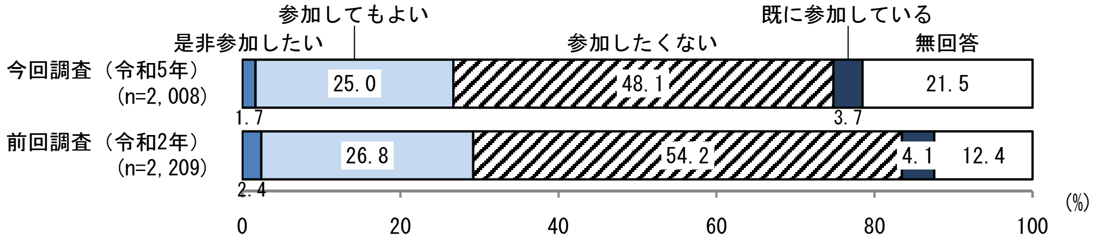
②企画・運営としての参加

問６（４）　地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか　（１つに○）

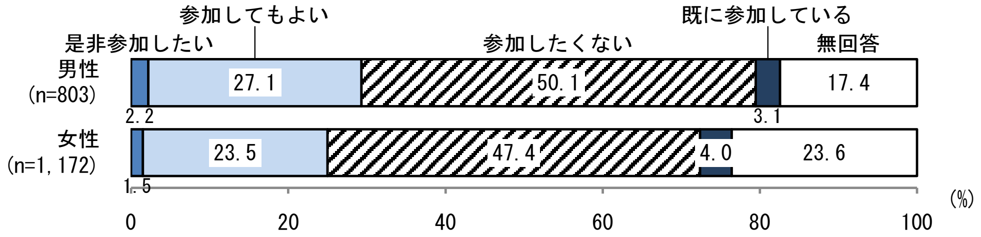
地域の会・グループ活動等への企画・運営（お世話役）としての参加意向は、「是非参加したい」が1.7%、「参加してもよい」が25.0%で、「既に参加している」の3.7%も合わせて、『参加意向あり』は合計30.4%となっていますが、前回調査に比べて2.9ポイント減少しています。

年齢別にみると、75～84歳では「既に参加している」が5.0%と他の年齢に比べて多くなっています。

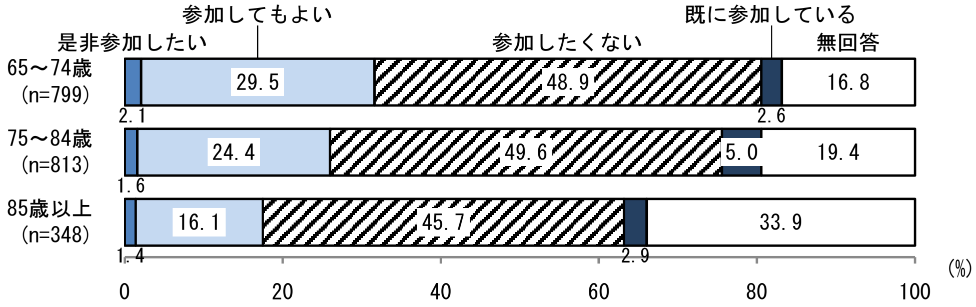
居住地域別にみると、『参加意向あり』は西山手生活圏域で32.5%と最も多くなっています。



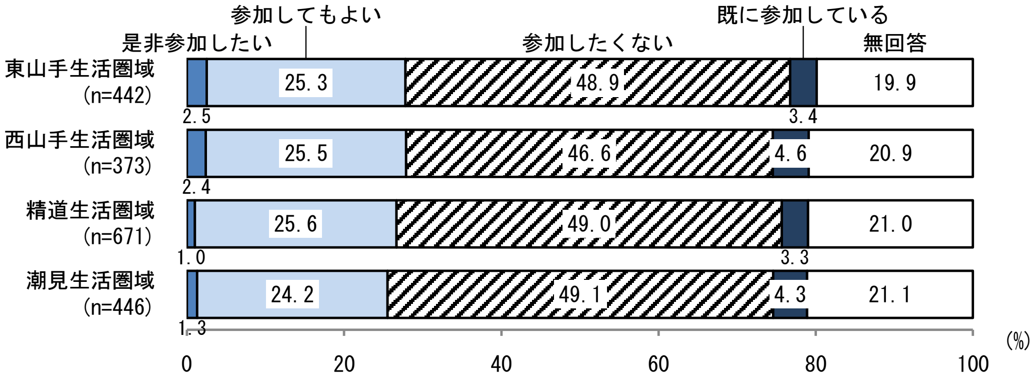
【性別　地域の会・グループ活動等への参加意向『企画・運営としての参加』】



【年齢別　地域の会・グループ活動等への参加意向『企画・運営としての参加』】



【居住地域別　地域の会・グループ活動等への参加意向『企画・運営としての参加』】



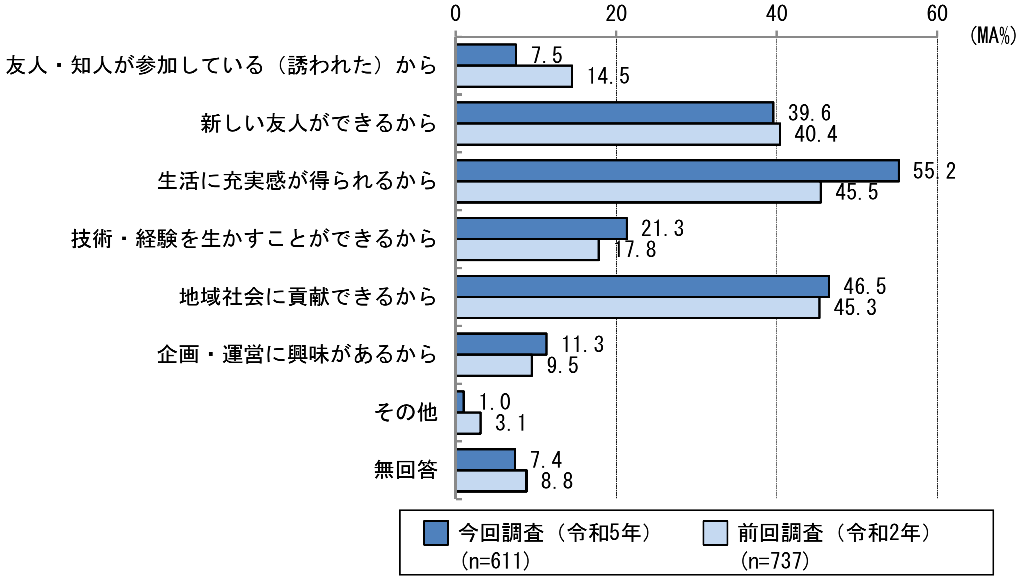
【問６（４）で「１」「２」「４」をのいずれかとお答えの方のみ】

問６（４）-１　参加したい（参加している）と考えた理由は何ですか　（○はいくつでも）

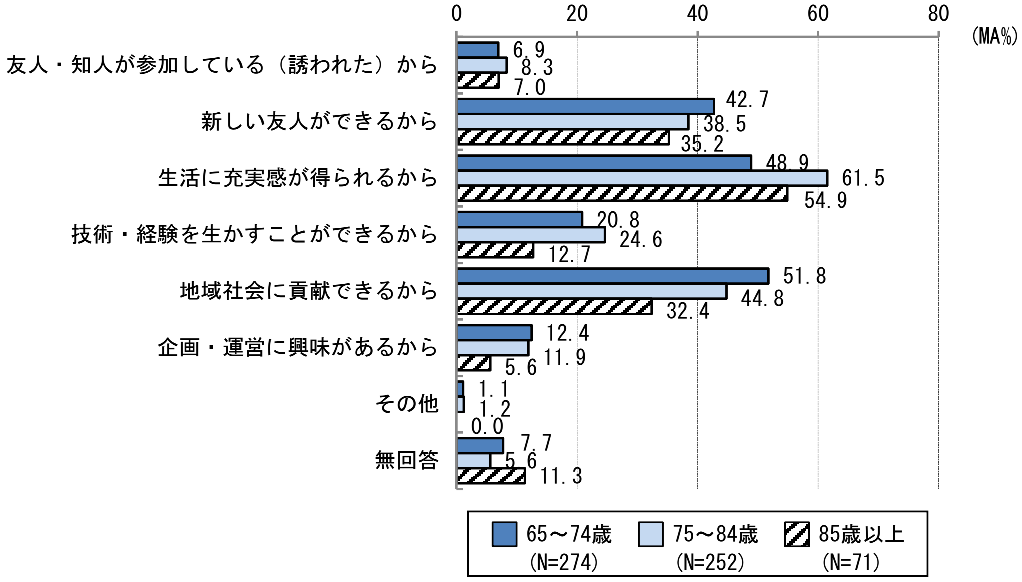
参加したい（参加している）理由については、「生活に充実感が得られるから」が 55.2%と最も多く、次いで、「地域社会に貢献できるから」が 46.5%、「新しい友人ができるから」が 39.6%となっています。

年齢別にみると、75～84 歳では「生活に充実感が得られるから」が 61.5%と、他の年齢層に比べて多くなっています。

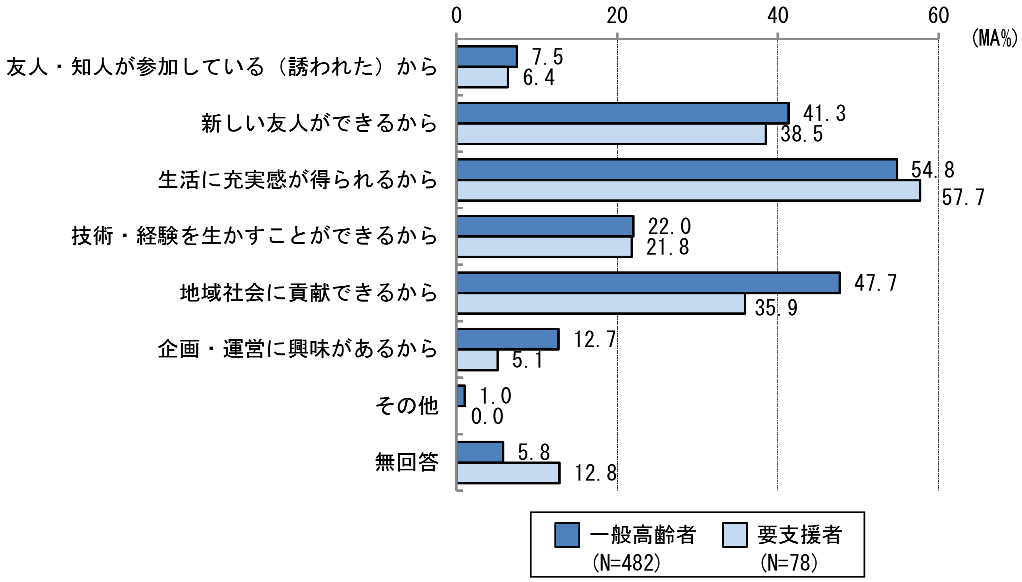
認定状況別にみると、要支援認定者では「生活に充実感が得られるから」が 57.7%と、一般高齢者に比べて 2.9 ポイント多くなっています。



【年齢別　参加理由】



【認定状況別 参加理由】


0
20
40
60
(MA%)
友人・知人が参加している（誘われた）から
7.5
6.4
新しい友人ができるから
41.3
38.5
生活に充実感が得られるから
54.8
57.7
技術・経験を生かすことができるから
22.0
21.8
地域社会に貢献できるから
47.7
35.9
企画・運営に興味があるから
12.7
5.1
その他
1.0
0.0
無回答
5.8
12.8
一般高齢者 (N=482)
要支援者 (N=78)

〔5〕普段から交流や付き合いのある相手

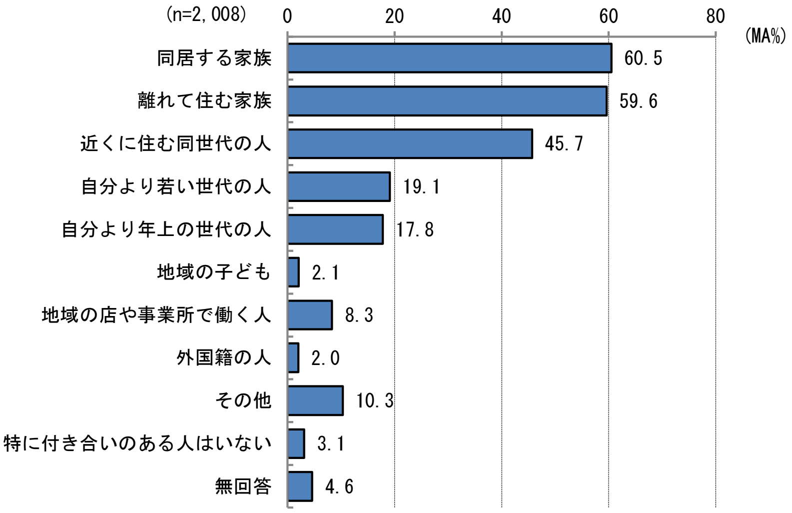
問6（5）　ご本人が、普段から交流や付き合いのある方はどなたですか
（○はいくつでも）

交流や付き合いのある相手については、「同居する家族」が 60.5%と最も多く、次いで、「離れて住む家族」が 59.6%、「近くに住む同世代の人」が 45.7%となっています。

性別にみると、「近くに住む同世代の人」は男性 32.1%、女性 55.0%と、女性の方が 22.9 ポイント多くなっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「離れて住む家族」が 57.0%と、「同居する家族」の 45.5%を上回り最も多くなっています。

居住地域別にみると、西山手生活圏域では「近くに住む同世代の人」が、他の地域に比べて少なくなっています。



【性別・年齢別・認定状況別・居住地域別　普段から交流がある人物】

(MA%)

		n	同居する家族	離れて住む家族	近くに住む同世代の人	自分より若い世代の人	自分より年上の世代の人	地域の子ども	地域の店や事業所で働く人	外国籍の人	その他	特に付き合いのある人はいない	無回答
全体		2,008	1,214	1,196	917	384	358	43	166	41	206	63	93
		100.0	60.5	59.6	45.7	19.1	17.8	2.1	8.3	2.0	10.3	3.1	4.6
性別	男性	803	582	434	258	143	97	20	85	17	86	35	39
		100.0	72.5	54.0	32.1	17.8	12.1	2.5	10.6	2.1	10.7	4.4	4.9
	女性	1,172	622	747	645	237	257	23	76	24	119	24	48
		100.0	53.1	63.7	55.0	20.2	21.9	2.0	6.5	2.0	10.2	2.0	4.1
年齢別	65～74歳	799	560	494	366	175	205	16	94	21	79	22	25
		100.0	70.1	61.8	45.8	21.9	25.7	2.0	11.8	2.6	9.9	2.8	3.1
	75～84歳	813	477	487	397	153	135	26	51	16	93	22	37
		100.0	58.7	59.9	48.8	18.8	16.6	3.2	6.3	2.0	11.4	2.7	4.6
	85歳以上	348	158	191	134	52	12	1	15	3	32	16	25
		100.0	45.4	54.9	38.5	14.9	3.4	0.3	4.3	0.9	9.2	4.6	7.2
認定状況別	一般高齢者	1,510	986	923	703	309	296	36	134	29	156	42	55
		100.0	65.3	61.1	46.6	20.5	19.6	2.4	8.9	1.9	10.3	2.8	3.6
	要支援者	358	163	204	159	55	39	5	24	7	36	13	25
		100.0	45.5	57.0	44.4	15.4	10.9	1.4	6.7	2.0	10.1	3.6	7.0
地域別	東山手生活圏域	442	266	268	207	100	82	9	30	10	54	14	20
		100.0	60.2	60.6	46.8	22.6	18.6	2.0	6.8	2.3	12.2	3.2	4.5
	西山手生活圏域	373	237	220	150	82	69	6	36	9	42	6	15
		100.0	63.5	59.0	40.2	22.0	18.5	1.6	9.7	2.4	11.3	1.6	4.0
	精道生活圏域	671	409	397	312	105	118	9	63	12	63	20	36
		100.0	61.0	59.2	46.5	15.6	17.6	1.3	9.4	1.8	9.4	3.0	5.4
	潮見生活圏域	446	263	265	211	83	77	17	29	9	43	18	16
		100.0	59.0	59.4	47.3	18.6	17.3	3.8	6.5	2.0	9.6	4.0	3.6

〔6〕新たに交流や関わり合いを持ちたい相手

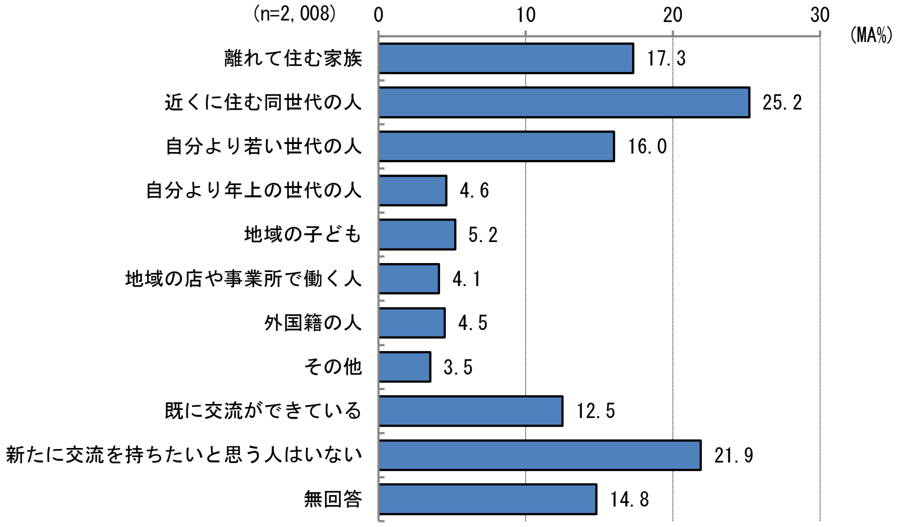
> 問6（5）-1　ご本人が、今後新たに交流や関わり合いを持ちたいと思う方はどなたですか　（○はいくつでも）

今後新たに交流や付き合いを持ちたいと思う相手については、「近くに住む同世代の人」が 25.2%、「離れて住む家族」が 17.3%、「自分より若い世代の人」が 16.0%となっています。一方で、「新たに交流を持ちたいと思う人はいない」が 21.9%と 2 割強を占めています。

性別にみると、男性では「新たに交流を持ちたいと思う人はいない」が 25.9%と最も多く、女性に比べて 6.6 ポイント多くなっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「離れて住む家族」が 22.3%と、一般高齢者に比べて 6.3 ポイント多くなっています。

居住地域別にみると、東山手生活圏域では「既に交流ができるいる」の割合が、他の地域に比べて多くなっています。



【性別・年齢別・認定状況別・居住地域別　今後交流を持ちたい人物】

(MA%)

		n	離れて住む家族	近くに住む同世代の人	自分より若い世代の人	自分より年上の世代の人	地域の子ども	地域の店や事業所で働く人	外国籍の人	その他	既に交流ができている	新たに交流を持ちたいと思う人はいない	無回答
全体		2,008	348	506	322	93	105	82	91	71	250	440	298
		100.0	17.3	25.2	16.0	4.6	5.2	4.1	4.5	3.5	12.5	21.9	14.8
性別	男性	803	129	160	124	20	37	39	42	32	103	208	106
		100.0	16.1	19.9	15.4	2.5	4.6	4.9	5.2	4.0	12.8	25.9	13.2
	女性	1,172	211	338	193	71	66	39	48	39	144	226	184
		100.0	18.0	28.8	16.5	6.1	5.6	3.3	4.1	3.3	12.3	19.3	15.7
年齢別	65～74歳	799	111	191	156	46	52	45	52	31	113	173	90
		100.0	13.9	23.9	19.5	5.8	6.5	5.6	6.5	3.9	14.1	21.7	11.3
	75～84歳	813	152	218	122	33	39	25	30	27	94	183	127
		100.0	18.7	26.8	15.0	4.1	4.8	3.1	3.7	3.3	11.6	22.5	15.6
	85歳以上	348	75	86	39	9	10	8	6	12	38	78	68
		100.0	21.6	24.7	11.2	2.6	2.9	2.3	1.7	3.4	10.9	22.4	19.5
認定状況別	一般高齢者	1,510	241	375	251	63	82	61	79	56	197	337	196
		100.0	16.0	24.8	16.6	4.2	5.4	4.0	5.2	3.7	13.0	22.3	13.0
	要支援者	358	80	93	48	19	15	11	9	12	37	82	65
		100.0	22.3	26.0	13.4	5.3	4.2	3.1	2.5	3.4	10.3	22.9	18.2
地域別	東山手生活圏域	442	60	100	79	15	19	18	24	20	70	92	62
		100.0	13.6	22.6	17.9	3.4	4.3	4.1	5.4	4.5	15.8	20.8	14.0
	西山手生活圏域	373	67	81	63	20	21	19	18	13	41	85	57
		100.0	18.0	21.7	16.9	5.4	5.6	5.1	4.8	3.5	11.0	22.8	15.3
	精道生活圏域	671	115	166	96	25	34	25	32	24	81	157	102
		100.0	17.1	24.7	14.3	3.7	5.1	3.7	4.8	3.6	12.1	23.4	15.2
	潮見生活圏域	446	92	137	72	27	26	15	14	12	50	92	59
		100.0	20.6	30.7	16.1	6.1	5.8	3.4	3.1	2.7	11.2	20.6	13.2

７ たすけあいについて　あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

〔１〕心配事や愚痴を聞いてくれる人、聞いてあげる人

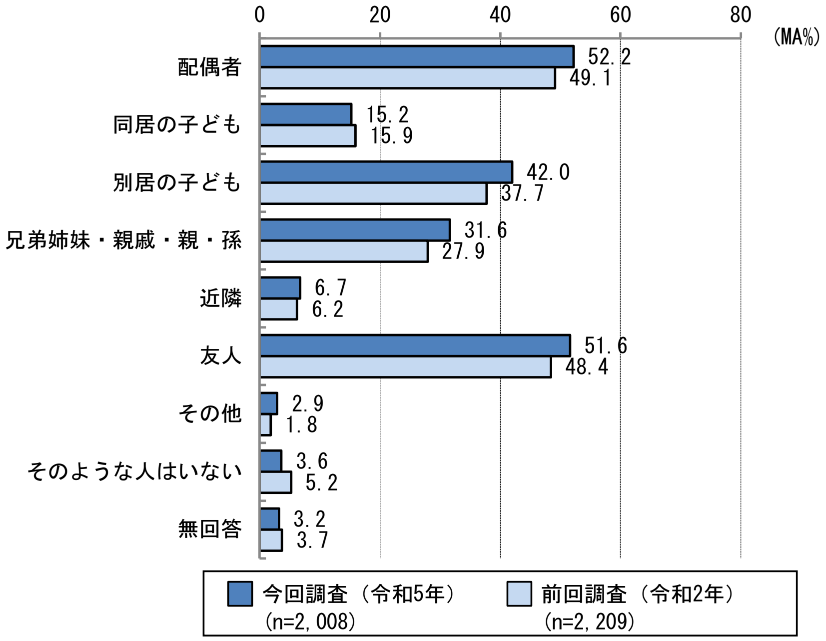
問６（１）　あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人　（○はいくつでも）

問６（２）　反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人　（○はいくつでも）

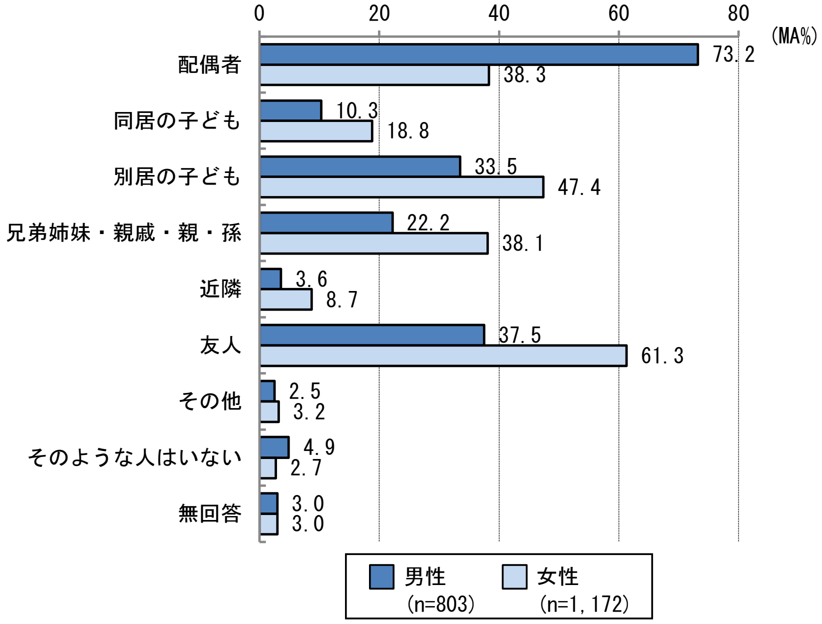
心配事や愚痴を聞いてくれる人は、「配偶者」が 52.2%と最も多く、次いで、「友人」が 51.6%、「別居の子ども」が 42.0%となっています。

性別にみると、男性は「配偶者」が 73.2%と最も多く、女性は「友人」が 61.3%と最も多くなっています。また、「そのような人はいない」は、男性が女性に比べて 2.2 ポイント多くなっています。

【心配事や愚痴を聞いてくれる人】



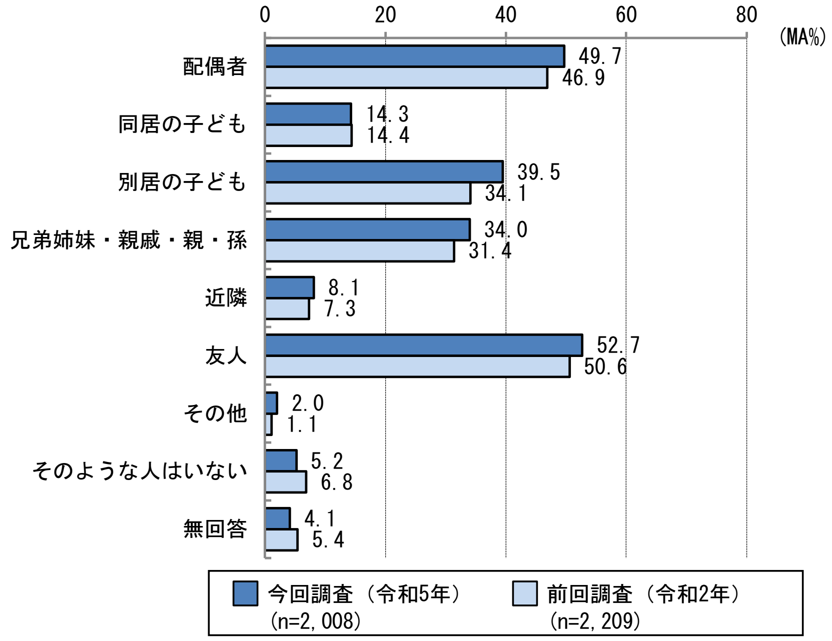
【性別　心配事や愚痴を聞いてくれる人】



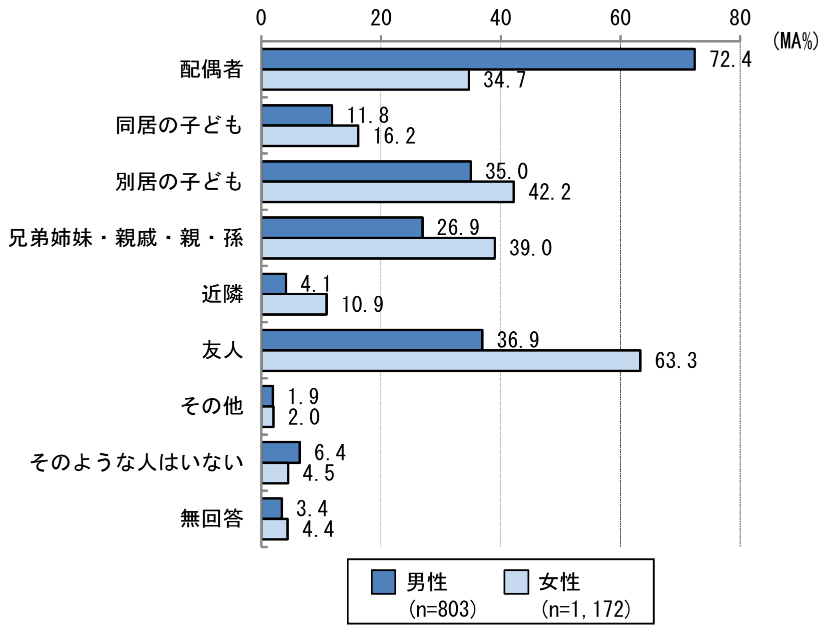
心配事や愚痴を聞いてあげる人は、「友人」が 52.7%と最も多く、次いで、「配偶者」が 49.7%、「別居の子ども」が 39.5%となっています。

性別にみると、心配事や愚痴を聞いてくれる人同様、男性は「配偶者」が 72.4%と最も多く、女性は「友人」が 63.3%と最も多くなっており、「そのような人はいない」は、男性が女性に比べて 1.9 ポイント多くなっています。

【心配事や愚痴を聞いてあげる人】



【性別　心配事や愚痴を聞いてあげる人】



〔2〕看病や世話をしてくれる人、してあげる人

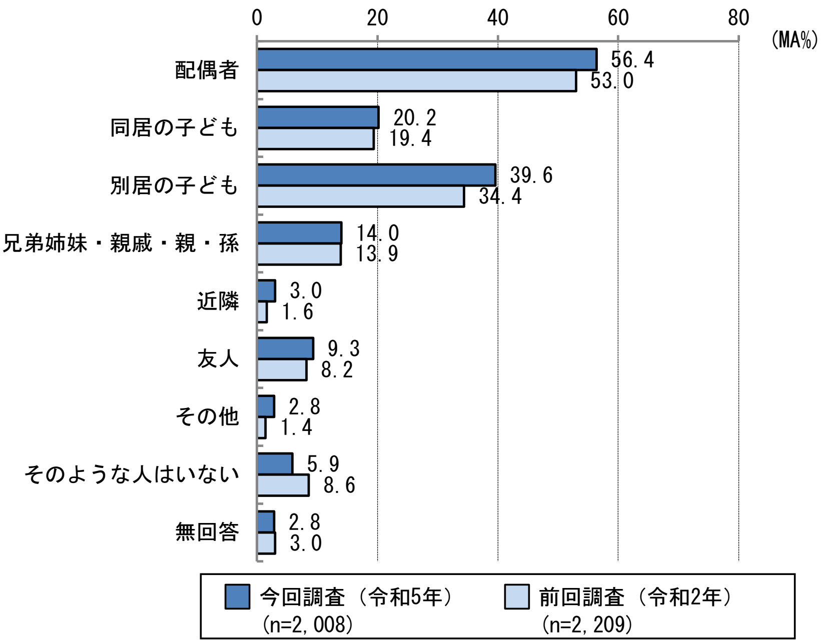
問7（３）　あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（○はいくつでも）

問7（４）　反対に、看病や世話をしてあげる人　（○はいくつでも）

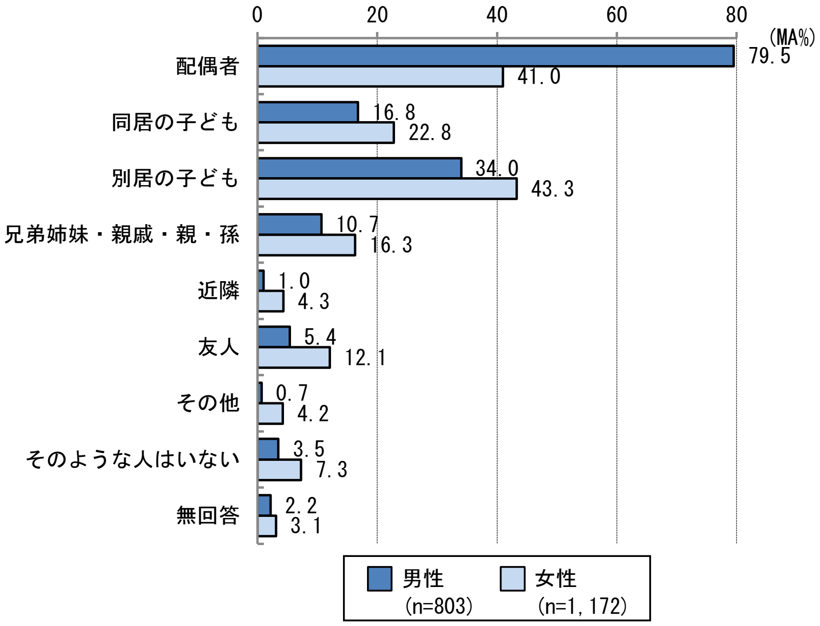
看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」が 56.4%と最も多く、次いで、「別居の子ども」が 39.6%、「同居の子ども」が 20.2%となっています。

性別にみると、男性は「配偶者」が 79.5%と最も多く、女性は「別居の子ども」が 43.3%、「配偶者」が 41.0%となっています。

【看病や世話をしてくれる人】



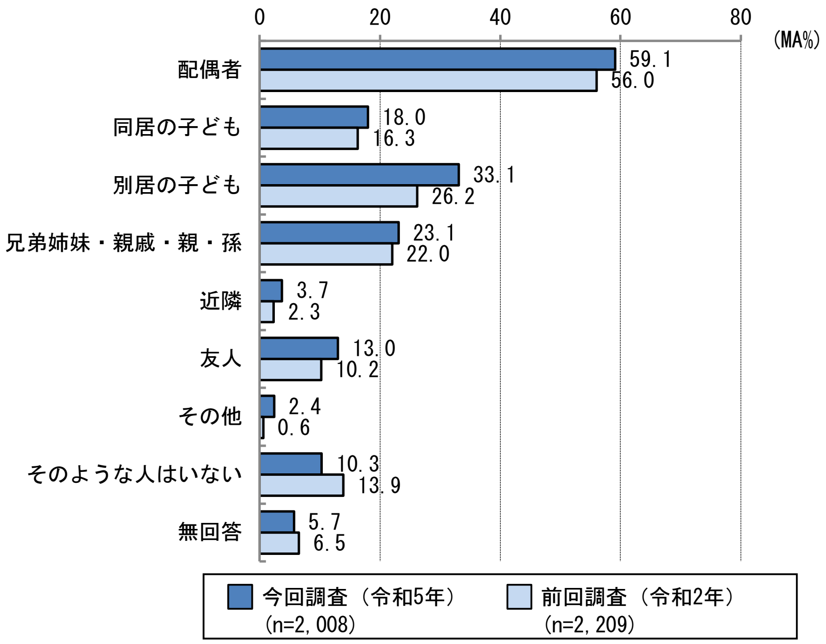
【性別　看病や世話をしてくれる人】



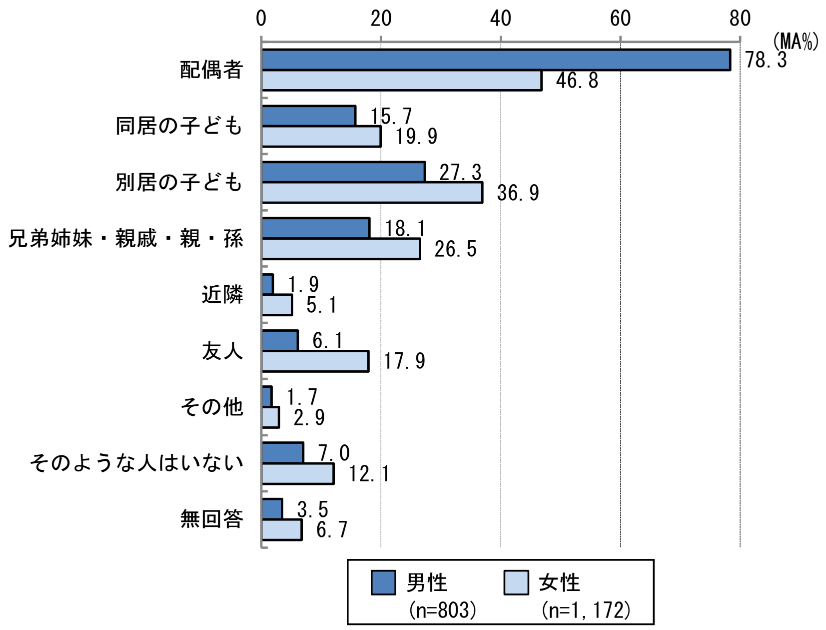
看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」が 59.1%と最も多く、次いで、「別居の子ども」が 33.1%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 23.1%となっています。

性別にみると、看護や世話をしてくれる人同様、男性は「配偶者」が 78.3%と最も多く、女性は「配偶者」が 46.8%、「別居の子ども」が 36.9%となっています。

【看病や世話をしてあげる人】



【性別　看病や世話をしてあげる人】

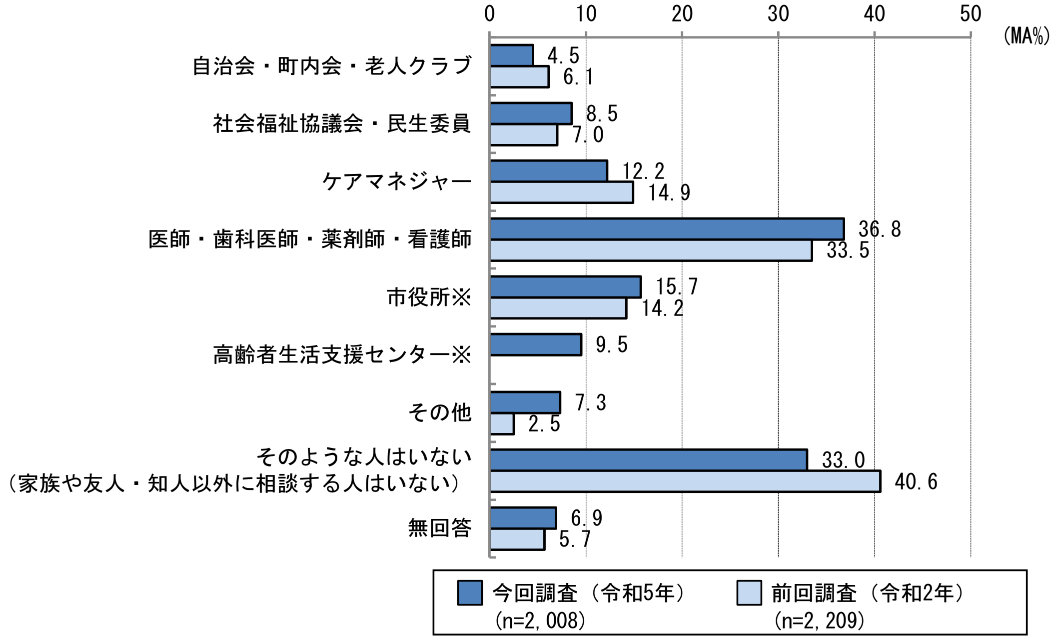


〔３〕相談相手

問7（5） 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください（〇はいくつでも）

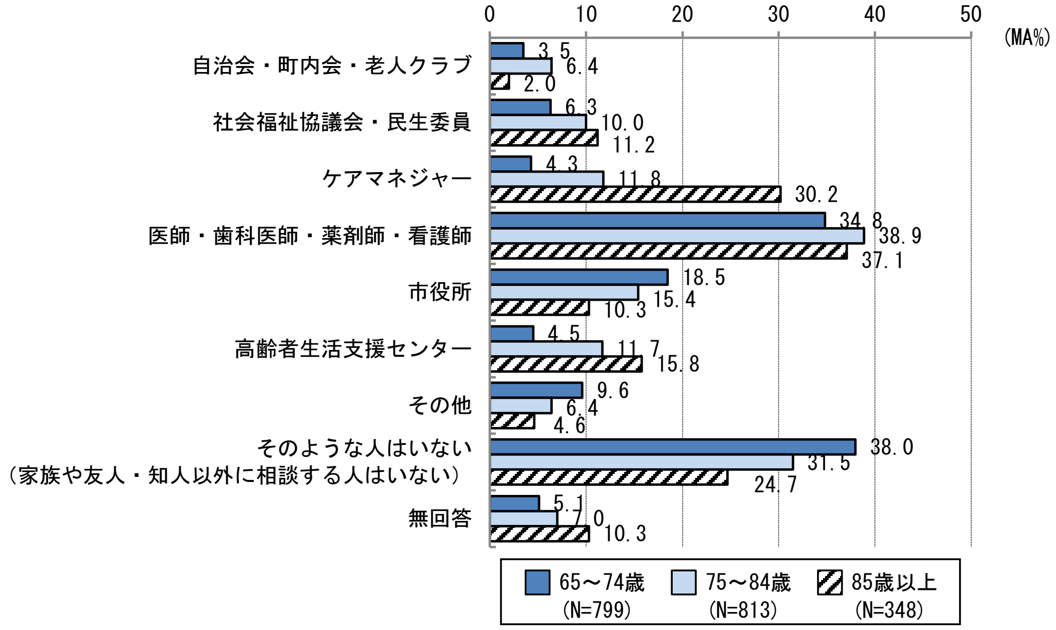
家族や友人・知人以外の相談相手は、「医師・歯科医師・看護師」が 36.8%と最も多く、次いで、「市役所」が 15.7%、「ケアマネジャー」が 12.2%となっています。「そのような人はいない（家族や友人・知人以外に相談する人はいない）」は前回調査に比べて 7.6 ポイント減少していますが、3 割ほどみられます。

年齢別にみると、85 歳以上では「ケアマネジャー」が 30.2%と最も多く、「高齢者生活支援センター」も 15.8%と他の年齢層に比べて多くなっています。

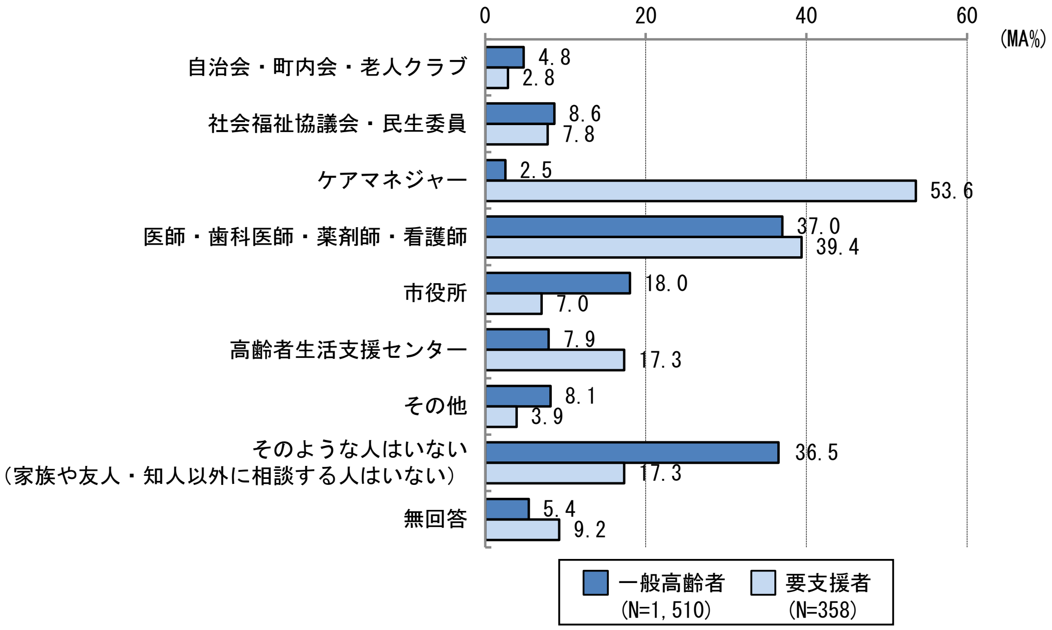


※前回調査では、「高齢者生活相談支援センター・市役所」

【年齢別　家族や友人・知人以外の相談相手】



【認定状況別　家族や友人・知人以外の相談相手】



〔4〕高齢者生活支援センターについて

問７（６）　ご本人のお住いを担当する「高齢者生活支援センター」を知っていますか
（1つに○）

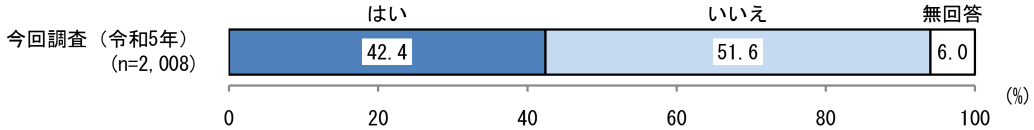
「高齢者生活支援センター」の認知については、「はい」（知っている）が 42.4%、「いいえ」（知らない）が 51.6%となっています。

性別にみると、女性は「はい」（知っている）が 49.1%と、男性に比べて 16.6 ポイント多くなっています。

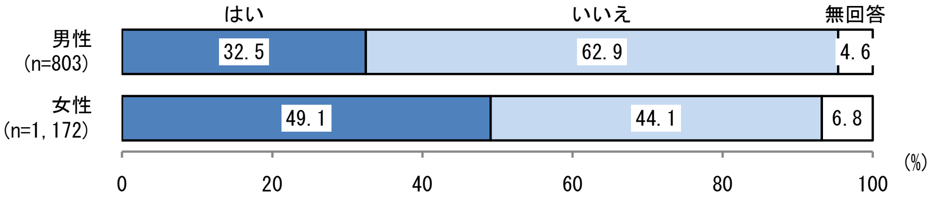
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて認知度も上がり、85 歳以上では「はい」（知っている）が 56.3%と半数強を占めています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」（知っている）が 71.5%となっています。

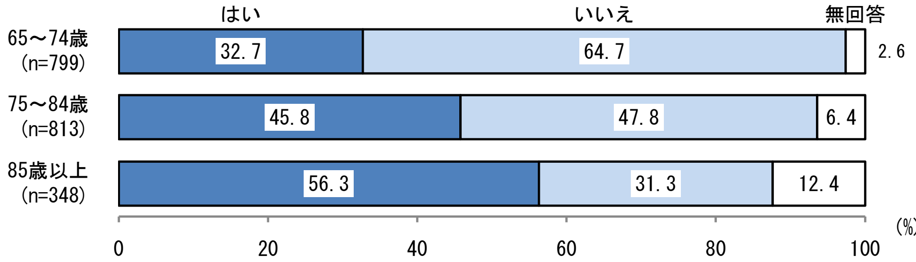
居住地域別にみると、「はい」（知っている）は潮見生活圏域で 45.1%と最も多く、東山手生活圏域では 39.6%とやや少なくなっています。



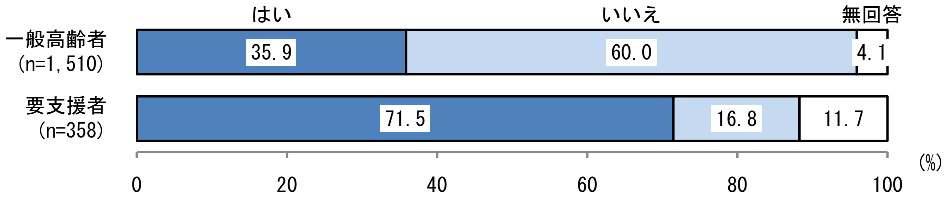
【性別　高齢者生活支援センターの認知度】



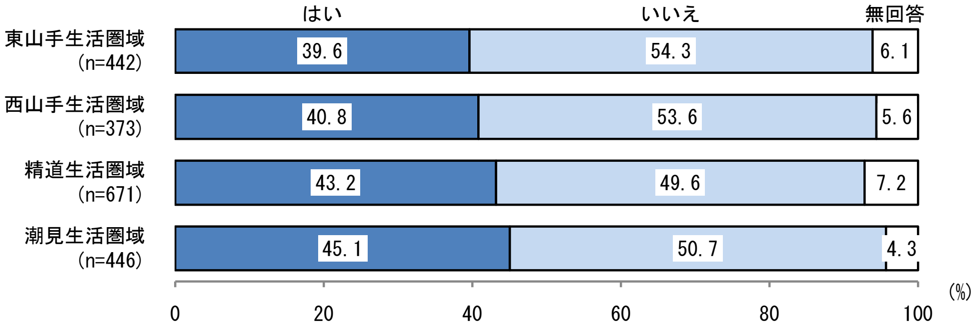
【年齢別　高齢者生活支援センターの認知度】



【認定状況別　高齢者生活支援センターの認知度】



【居住地域別　高齢者生活支援センターの認知度】



【問7（6）で「1.はい」（知っている）とお答えの方のみ】

問7（6）-1　ご本人やご家族は、高齢者生活支援センターを利用したことがありますか（1つに○）

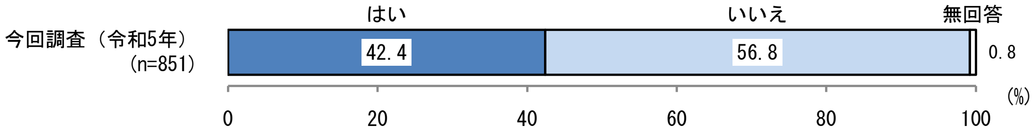
「高齢者生活支援センター」の利用の有無については、「はい」（利用したことがある）が 42.4%、「いいえ」（利用したことがない）が 56.8%となっています。

性別にみると、「はい」（利用したことがある）は男性で 37.2%、女性が 45.4%となっています。

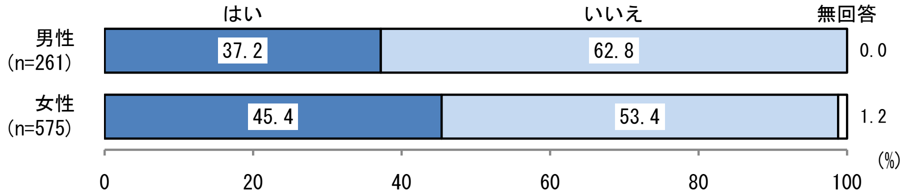
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「はい」（利用したことがある）の割合も多くなり、85 歳以上では 53.6%と半数強の人が利用しています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」（利用したことがある）70.3%となっています。

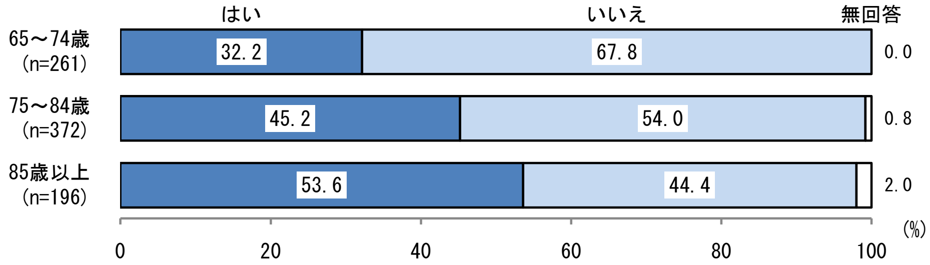
居住地域別にみると、「はい」（利用したことがある）は西山手生活圏域で 50.7%と最も多く、潮見生活圏域では 35.3%と少なくなっています。



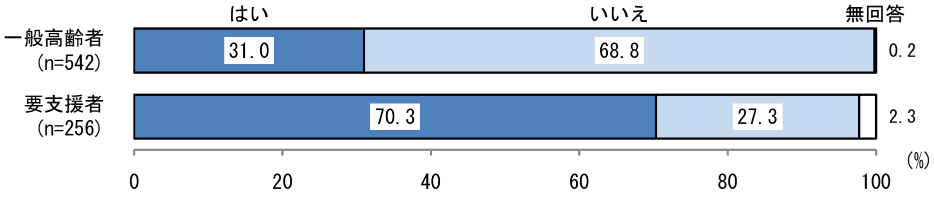
【性別　高齢者生活支援センターの利用の有無】



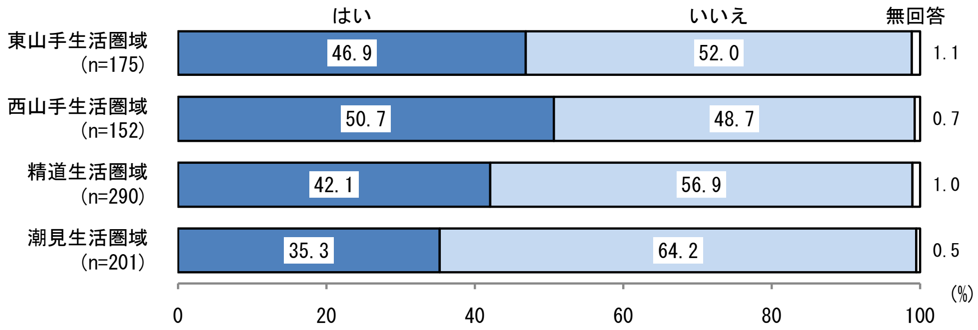
【年齢別　高齢者生活支援センターの利用の有無】



【認定状況別　高齢者生活支援センターの利用の有無】

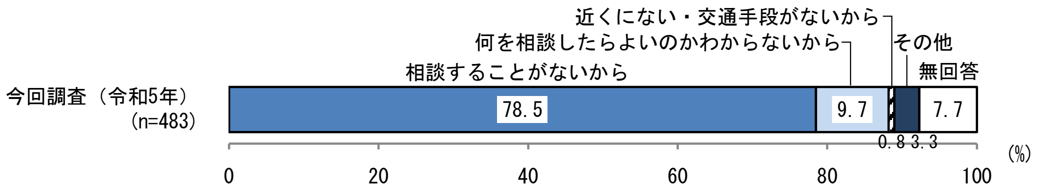


【居住地域別　高齢者生活支援センターの利用の有無】

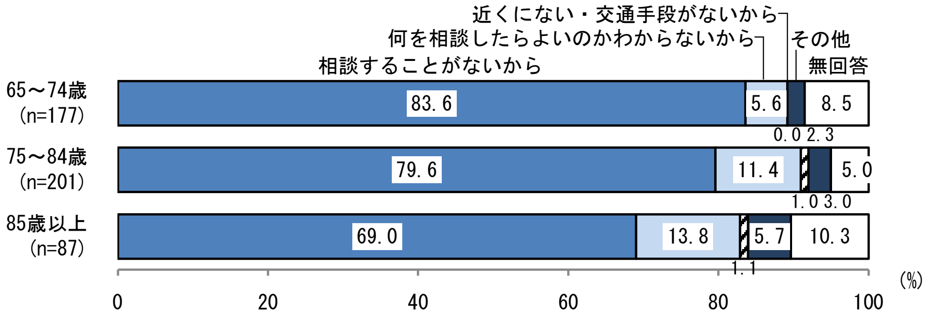


【問７（６）で「２.いいえ」（利用したことがない）とお答えの方のみ】
問７（６）-２　その理由は何ですか

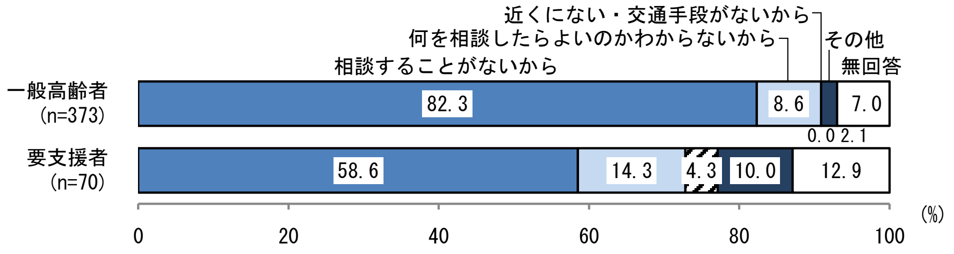
高齢者生活支援センターを利用していない理由は、「相談することがないから」が 78.5%と最も多く、次いで、「何を相談したらよいのかわからないから」が 9.7%となっています。
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「何を相談したらよいのかわからないから」の割合が多くなり、75～84 歳では 11.4%、85 歳以上では 13.8%となっています。
認定状況別にみると、要支援認定者では「何を相談したらよいのかわからないから」が 14.3%と、一般高齢者に比べて多くなっています。
居住地域別にみると、東山手生活圏域では、「何を相談したらよいのかわからないから」が 13.2%と、他の地域に比べて多くなっています。



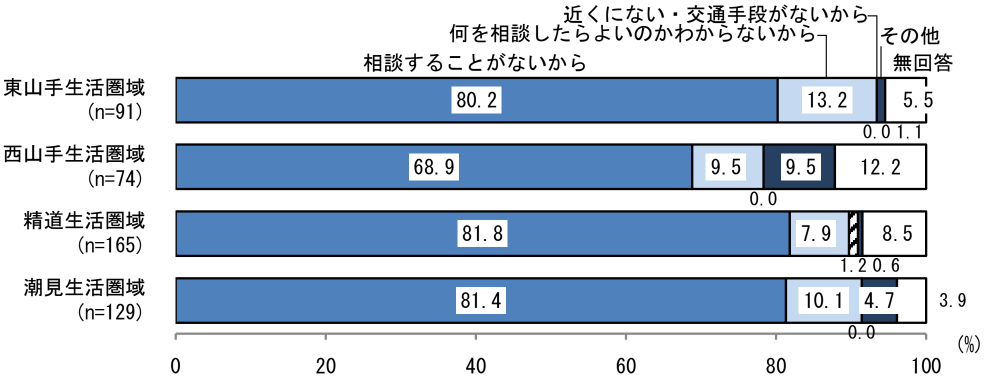
【年齢別　高齢者生活支援センターの未利用の理由】



【認定状況別　高齢者生活支援センターの未利用の理由】



【居住地域別　高齢者生活支援センターの未利用の理由】



〔5〕成年後見制度について

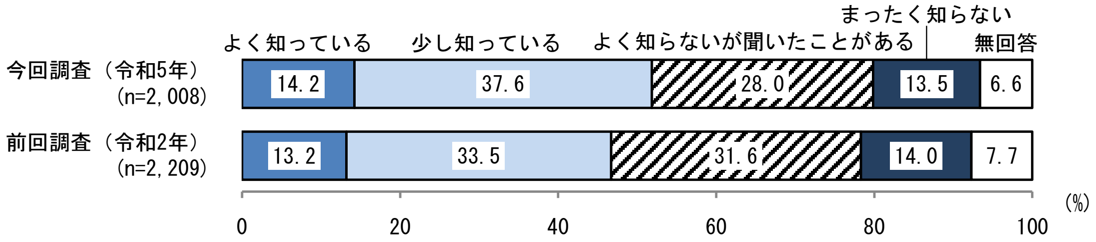
問7(7)　ご本人は､｢成年後見制度｣について知っていますか　(1つに〇)

成年後見制度の認知については､｢よく知っている｣と｢少し知っている｣を合わせた『知っている』が合計　51.8%､｢まったく知らない｣と｢よく知らないが聞いたことがある｣を合わせた『知らない』が41.5%となっています。前回調査に比べて､『知っている』は 5.1 ポイント増加しています。

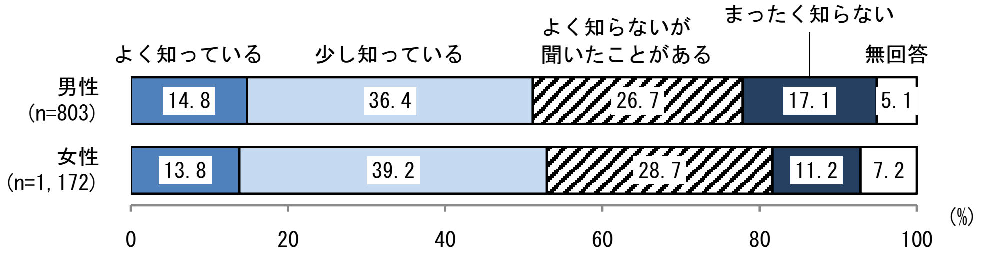
性別にみると､男女とも半数強が『知っている』と回答しています。

年齢別にみると､年齢が上がるにつれて『知っている』の割合は減少する傾向がみられ､75～84歳では 51.9%､85 歳以上では 45.7%となっています。

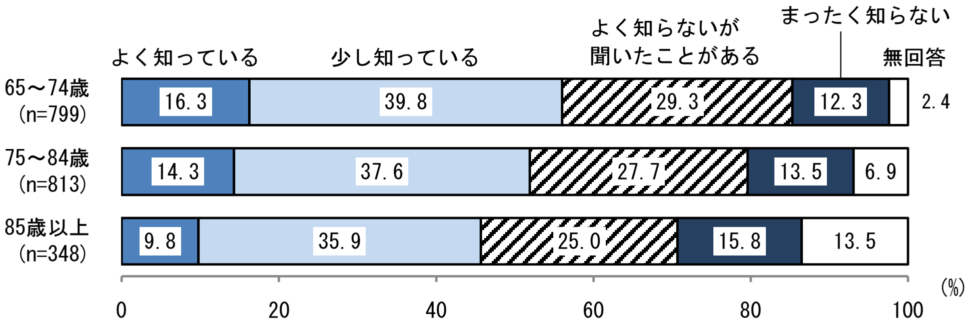
認定状況別にみると､一般高齢者､要支援認定者ともに『知っている』が半数強となっています。



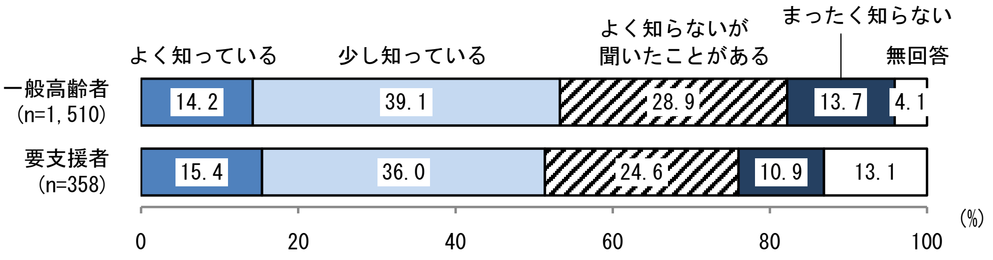
【性別　成年後見制度の認知度】



【年齢別　成年後見制度の認知度】



【認定状況別　成年後見制度の認知度】



【問７(７)で「1.よく知っている」または「2.少し知っている」とお答えの方のみ】

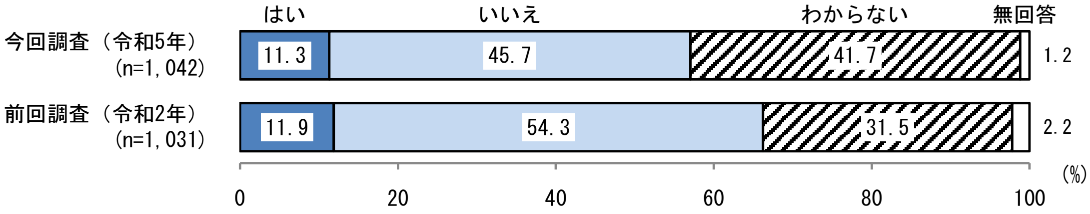
問７(７)-1　今後、成年後見制度を利用したいですか　（1つに〇）

成年後見制度の今後の利用意向については、「はい」（利用したい）が 11.3%、「いいえ」（利用したくない）が45.7%、「わからない」が41.7%となっています。前回調査に比べて、「わからない」が 10.2 ポイント多くなっています。

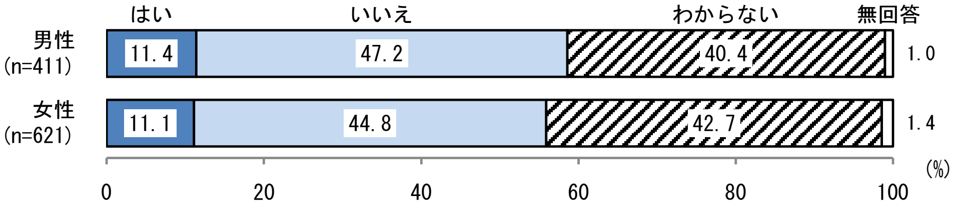
性別にみると、男女とも「はい」（利用したい）は１割強となっています。

年齢別にると、「はい」（利用したい）は 85 歳以上で 16.4%と、他の年齢層に比べて多くなっています。

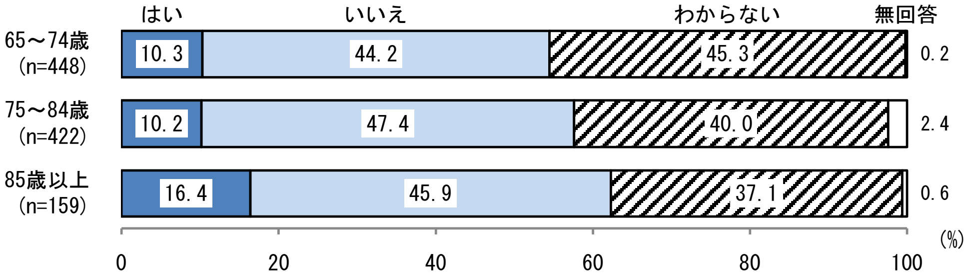
認定状況別にみると、「はい」（利用したい）は要支援認定者で 17.9%と、一般高齢者に比べ、8.7 ポイント多くなっています。



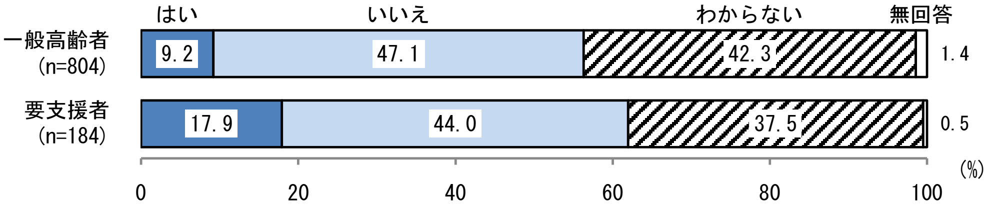
【性別　成年後見制度の利用意向】



【年齢別　成年後見制度の利用意向】



【認定状況別　成年後見制度の利用希望】



8　健康について

〔1〕主観的健康感

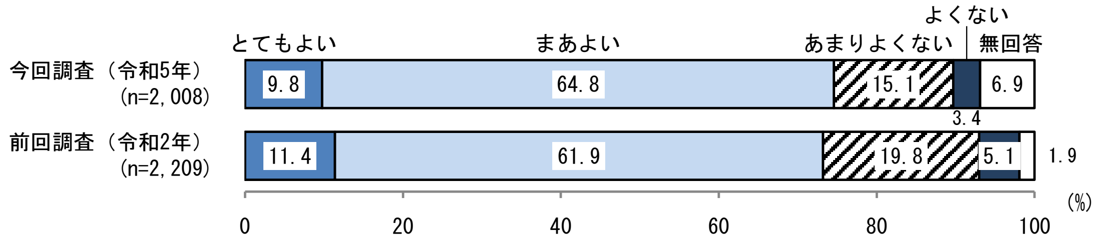
問8（1）　現在の健康状態はいかがですか　（1つに○）

現在の健康状態については、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』が合計 74.6%、「よくない」と「あまりよくない」を合わせた『よくない』が合計 18.5%となっています。前回調査に比べて、『よい』が 1.3 ポイント増加しています。

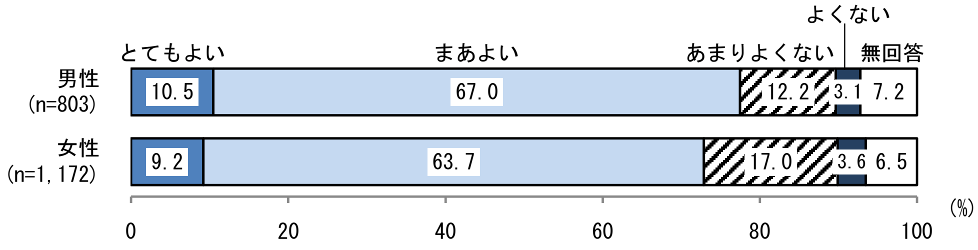
性別にみると、『よい』は男性で 77.5%と、女性に比べて 4.6 ポイント多くなっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて『よい』の割合は少なくなっていきますが、85 歳以上でも 6 割近くの人が『よい』と回答しています。

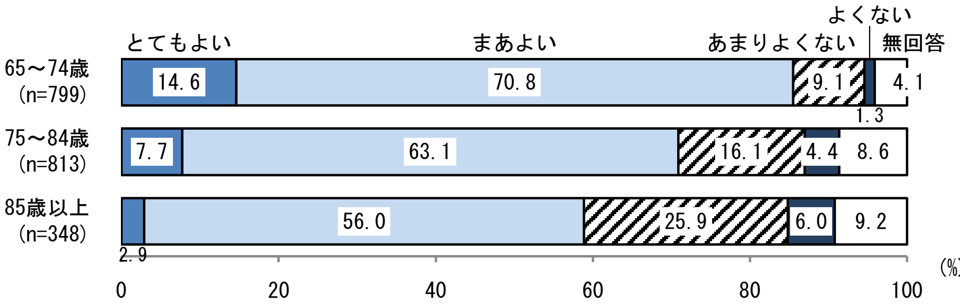
認定状況別にみると、『よい』は要支援認定者では 48.0%と、一般高齢者に比べて 33.2 ポイント少なくなっています。



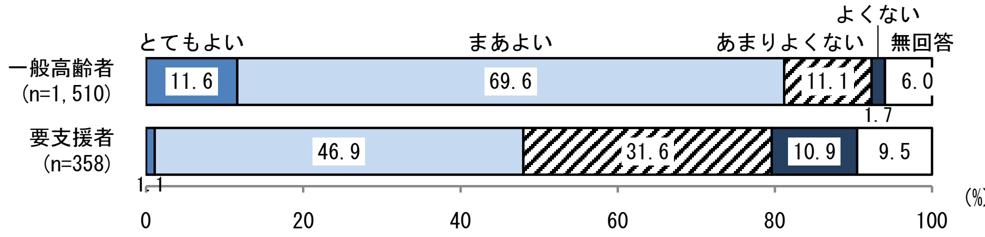
【性別　主観的健康感】



【年齢別　主観的健康感】



【認定状況別　主観的健康感】



〔２〕主観的幸福感

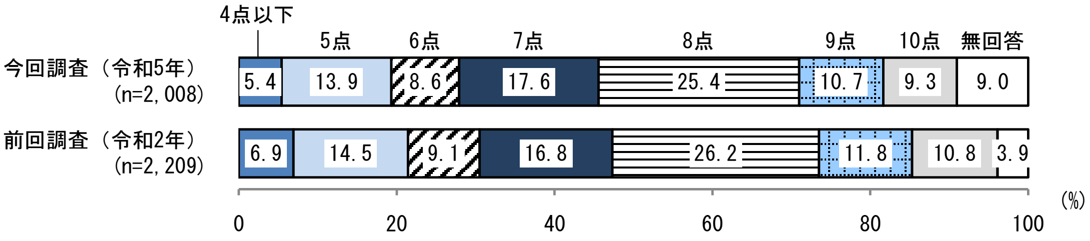
> 問８（２）　現在、どの程度幸せですか　（１つに〇）
> 　　　　　（「とても不幸」を０点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

現在の幸福度を 10 点満点で評価してもらったところ、「8 点」が 25.4%と最も多く、次いで、「7 点」が 17.6%、「5 点」が 13.9%で、平均 7.18 点となっています。

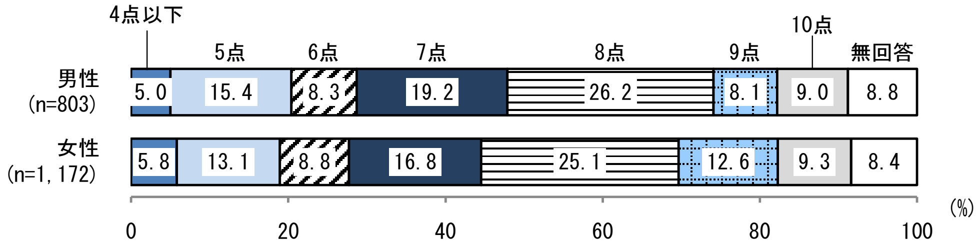
性別にみると、男性は平均 7.11 点、女性は 7.23 点と、女性のほうが幸福度は高くなっています。

年齢別にみると、65～74 歳は平均 7.23 点、75～84 歳は 7.16 点、85 歳以上は 7.12 点と、年齢が上がるにつれて幸福度が下がっている傾向がみられます。

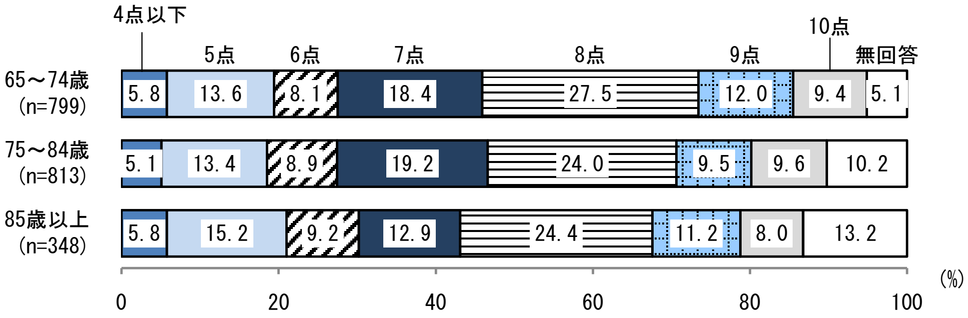
認定状況別にみると、一般高齢者は平均 7.29 点、要支援認定者は平均 6.70 点と、要支援認定者の幸福度が低くなっています。



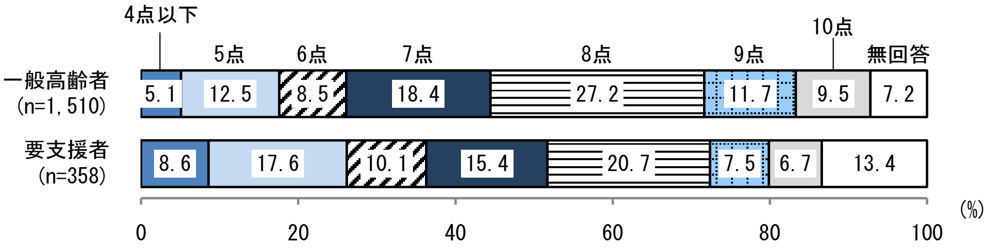
【性別　主観的幸福感】



【年齢別　主観的幸福感】



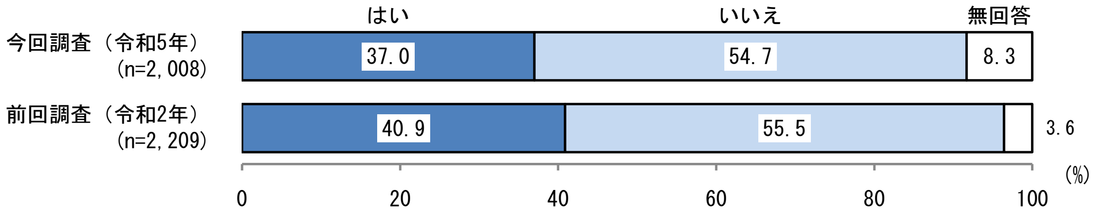
【認定状況別　主観的幸福感】



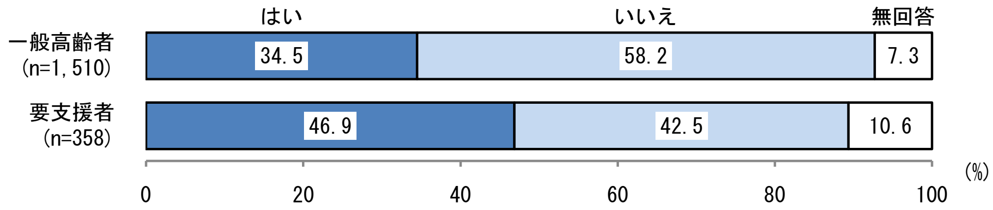
〔3〕ゆううつ感や物事に対する興味の喪失感

問８（３）　この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあったかについては、「はい」が37.0%、「いいえ」が54.7%となっています。前回調査に比べて、「はい」は3.9ポイント減少しています。
認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」が46.9%とと一般高齢者に比べて多くなっています。

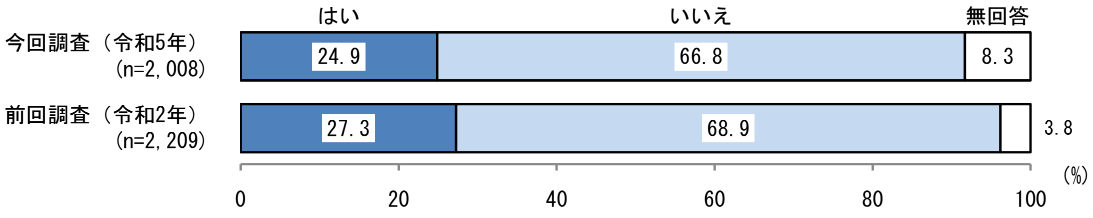


【認定状況別　ゆううつ感】

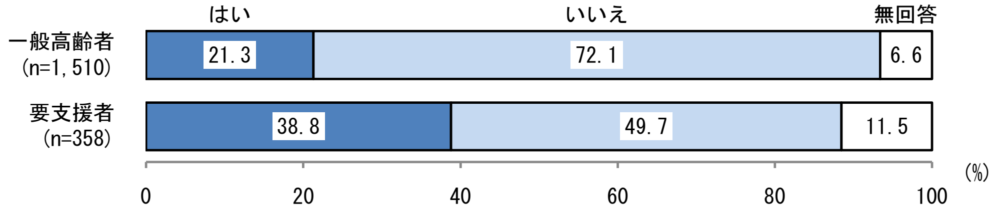


問８（４）　この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあるかについては、「はい」が24.9%、「いいえ」が66.8%となっています。前回調査に比べて、「はい」は2.4ポイント減少しています。
認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」が38.8%と一般高齢者に比べて多くなっています。



【認定状況別　物事に対する興味の喪失感】



〔４〕喫煙習慣

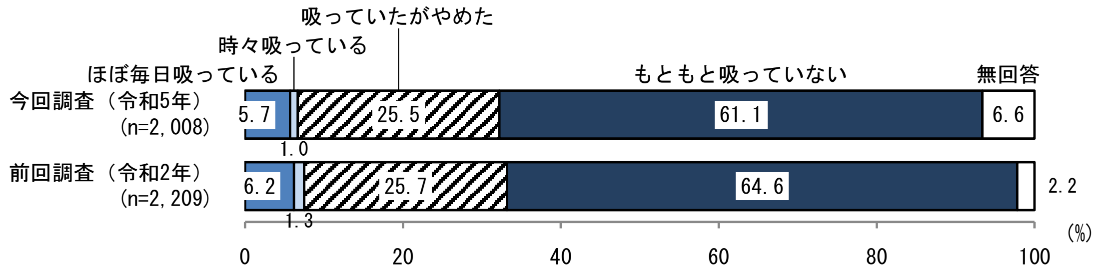
問８（５） タバコは吸っていますか （１つに〇）

喫煙習慣については、「もともと吸っていない」が 61.1%と最も多く、次いで、「吸っていたがやめた」が 25.5%で、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合わせた『吸っている』は合計 6.7%となっています。

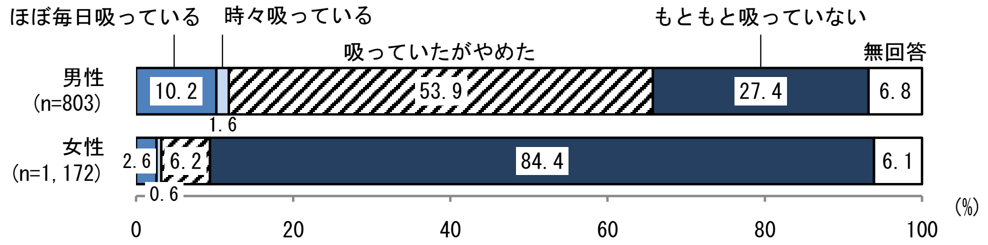
性別にみると、男性では『吸っている』が 11.8%、女性は 3.2%となっています。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて喫煙率は下がり、85 歳以上では『吸っている』は 1.7%となっています。

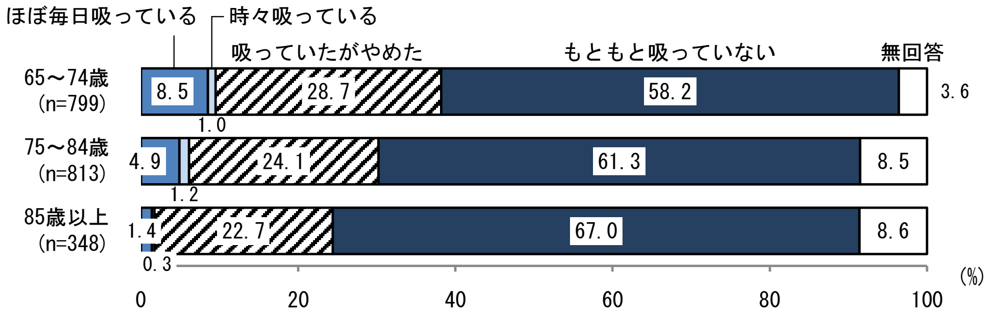
認定状況別にみると、『吸っている』は一般高齢者で 7.7%、要支援認定者では 3.0%となっています。



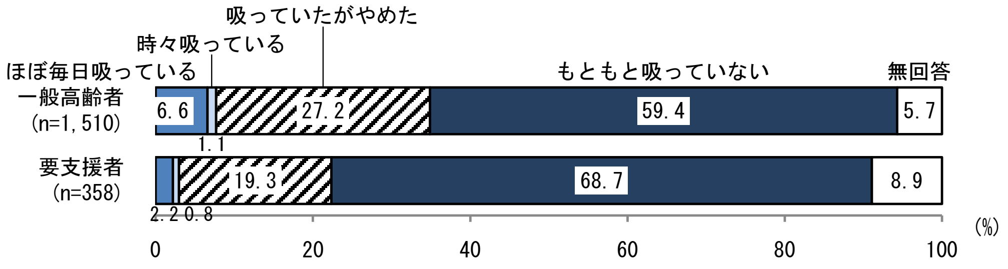
【性別　喫煙習慣の有無】



【年齢別　喫煙習慣の有無】



【認定状況別　喫煙習慣の有無】



〔5〕かかりつけ医等の有無

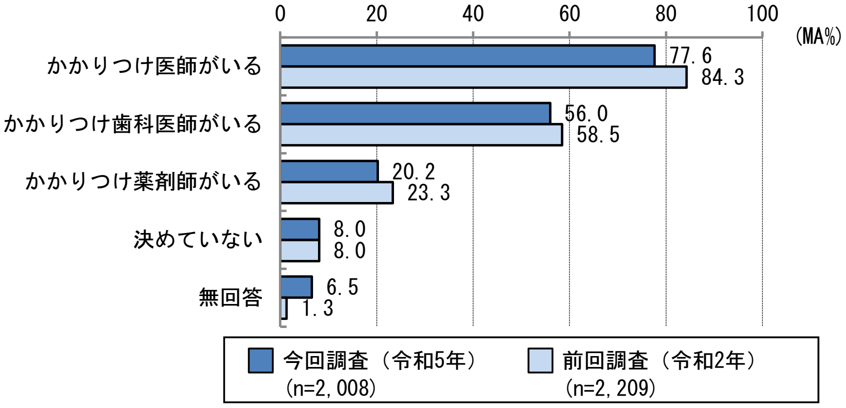
問8（6）　あなたは、かかりつけ医師・歯科医師・薬剤師を決めていますか
（○はいくつでも）

かかりつけ医等の有無については、「かかりつけ医師がいる」が 77.6%と最も多く、次いで、「かかりつけ歯科医師がいる」が 56.0%、「かかりつけ薬剤師がいる」が 20.2%となっています。前回調査に比べて、「かかりつけ医師がいる」は 6.7 ポイント減少しています。

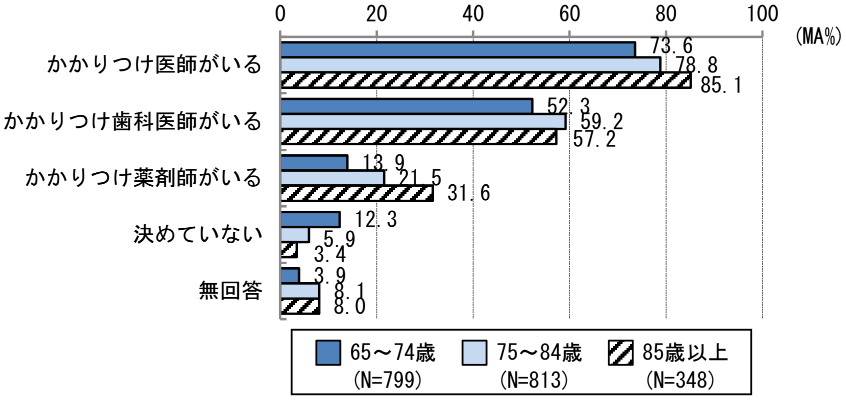
年齢別にみると、「かかりつけ歯科医師がいる」は 75～84 歳で、「かかりつけ医師がいる」と「かかりつけ薬剤師がいる」は 85 歳以上で他の年齢層に比べて多くなっています。

認定状況別にみると、かかりつけ医等のいる割合は要支援認定者で多くなっています。

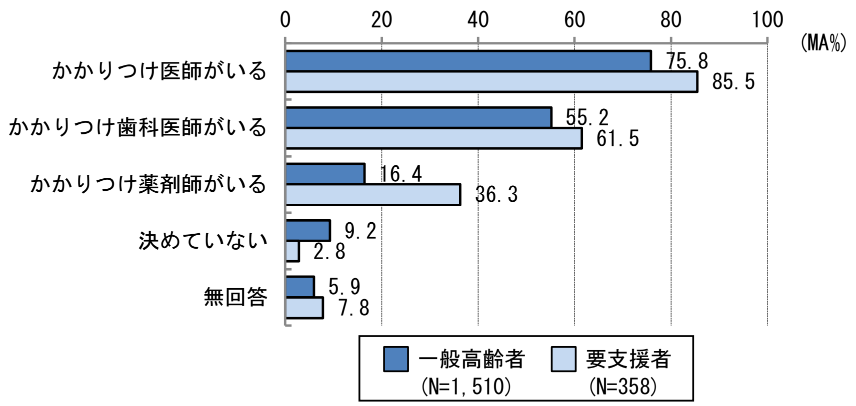
居住地域別にみると、「かかりつけ医師がいる」は精道生活圏域で、「かかりつけ歯科医師がいる」は西山手生活圏域で、他の地域に比べて多くなっています。



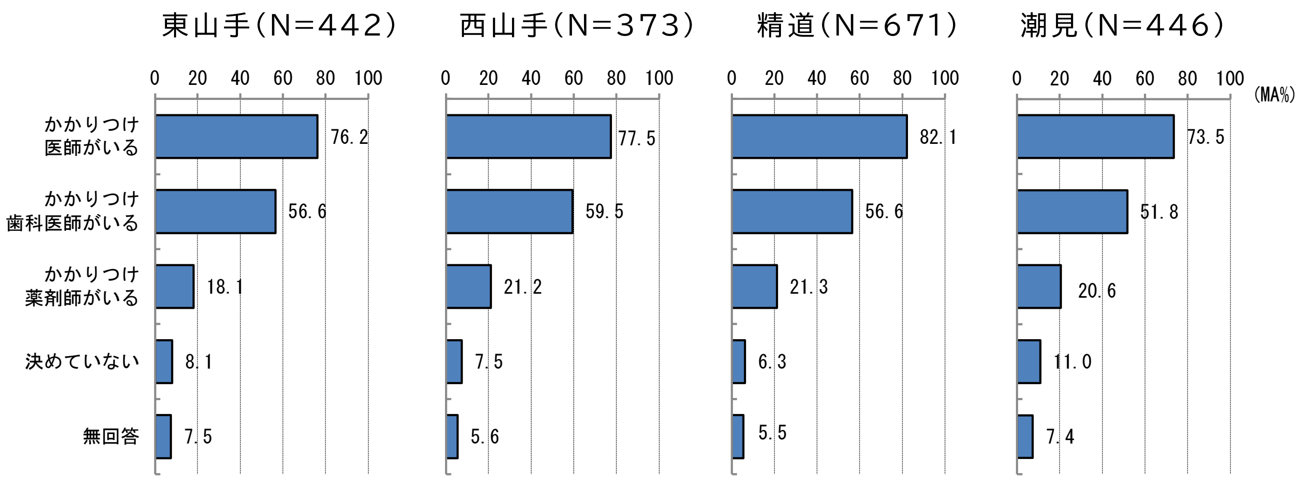
【年齢別　かかりつけ医等の有無】



【認定状況別　かかりつけ医等の有無】



【居住地域別　かかりつけ医等の有無】

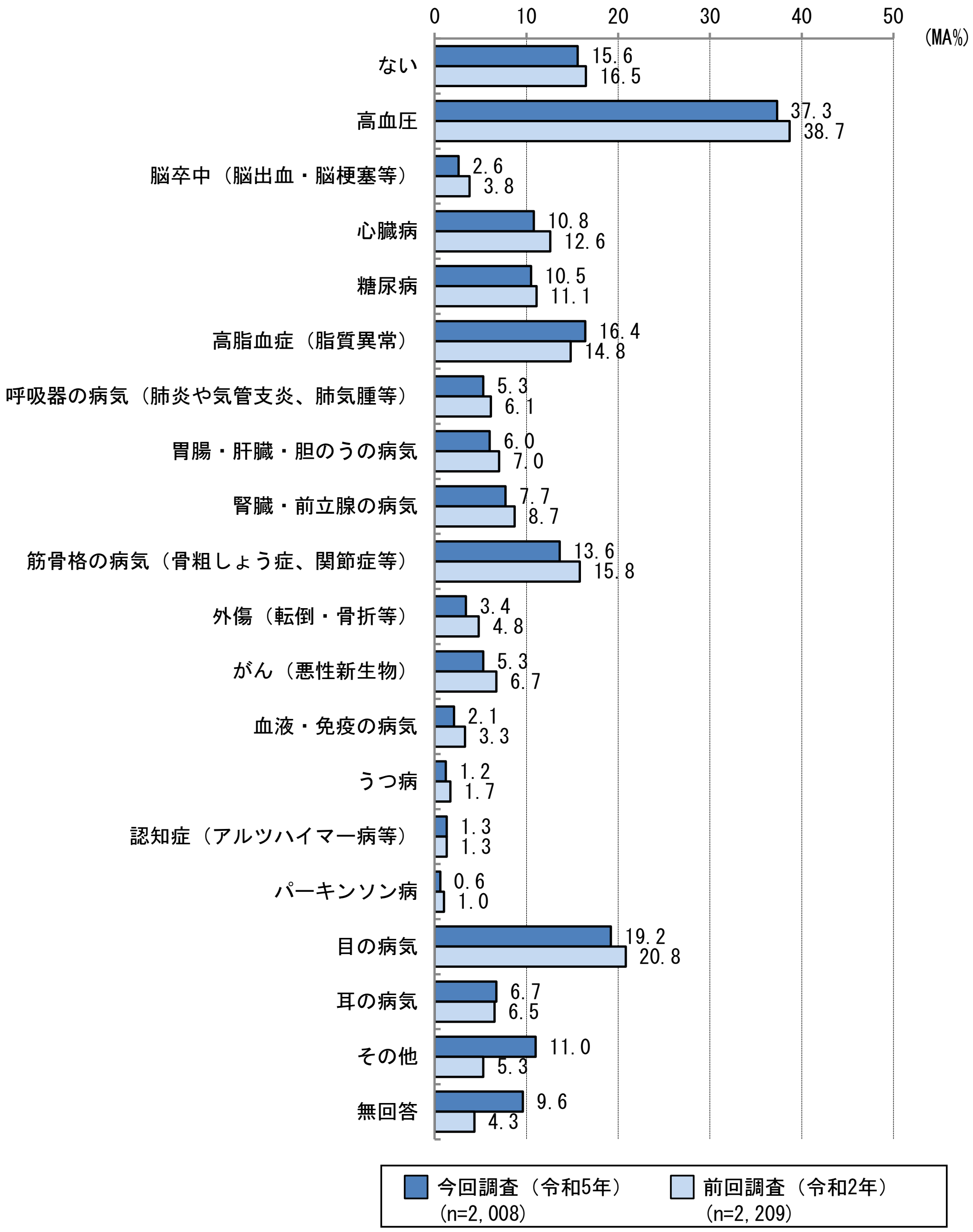


〔6〕治療中、後遺症のある病気

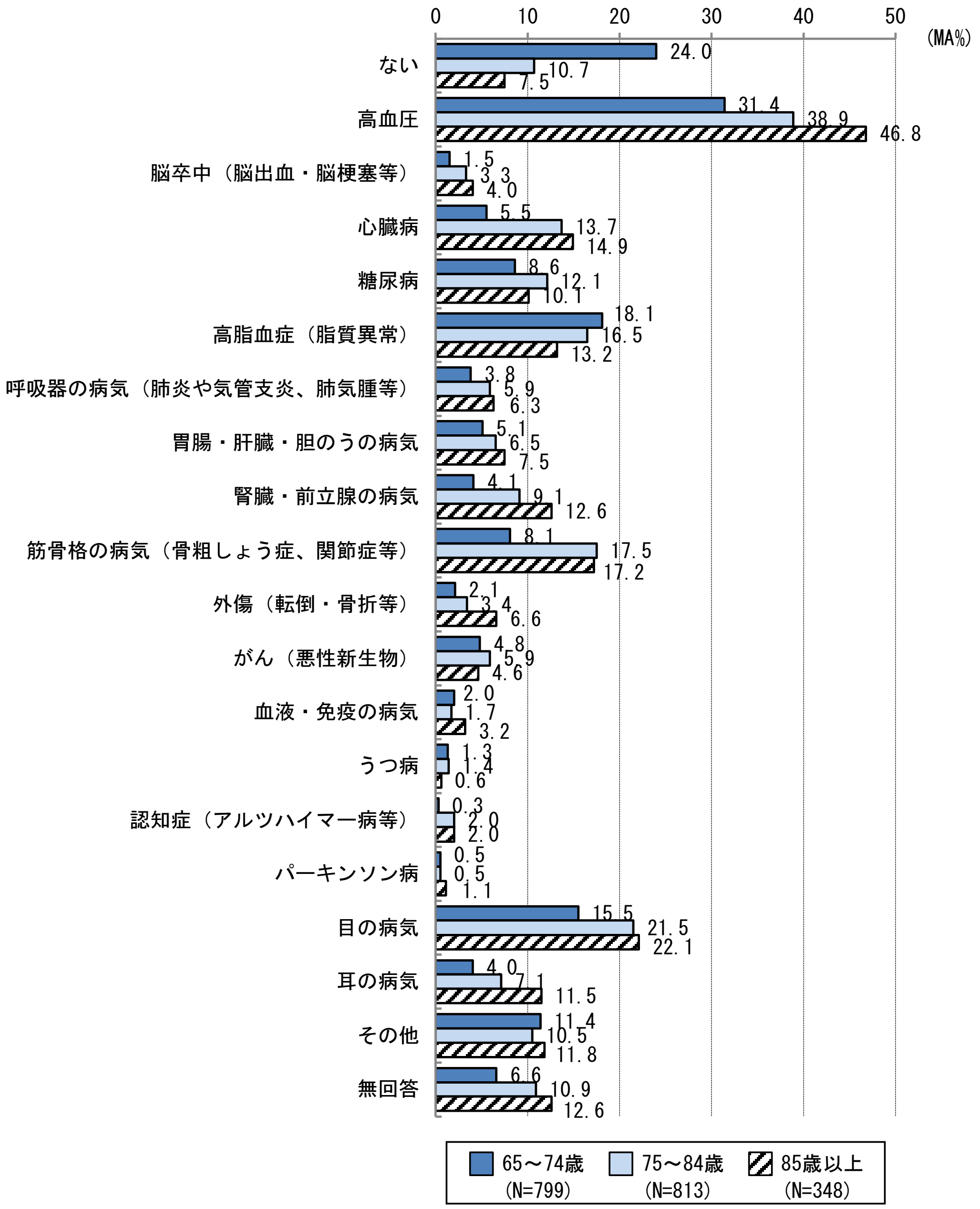
問8（7）　現在治療中、または後遺症のある病気はありますか　（○はいくつでも）

治療中や後遺症のある病気については、「高血圧」が 37.3%と最も多く、次いで、「目の病気」が 19.2%、「高脂血症（脂質異常」が 16.4%となっています。

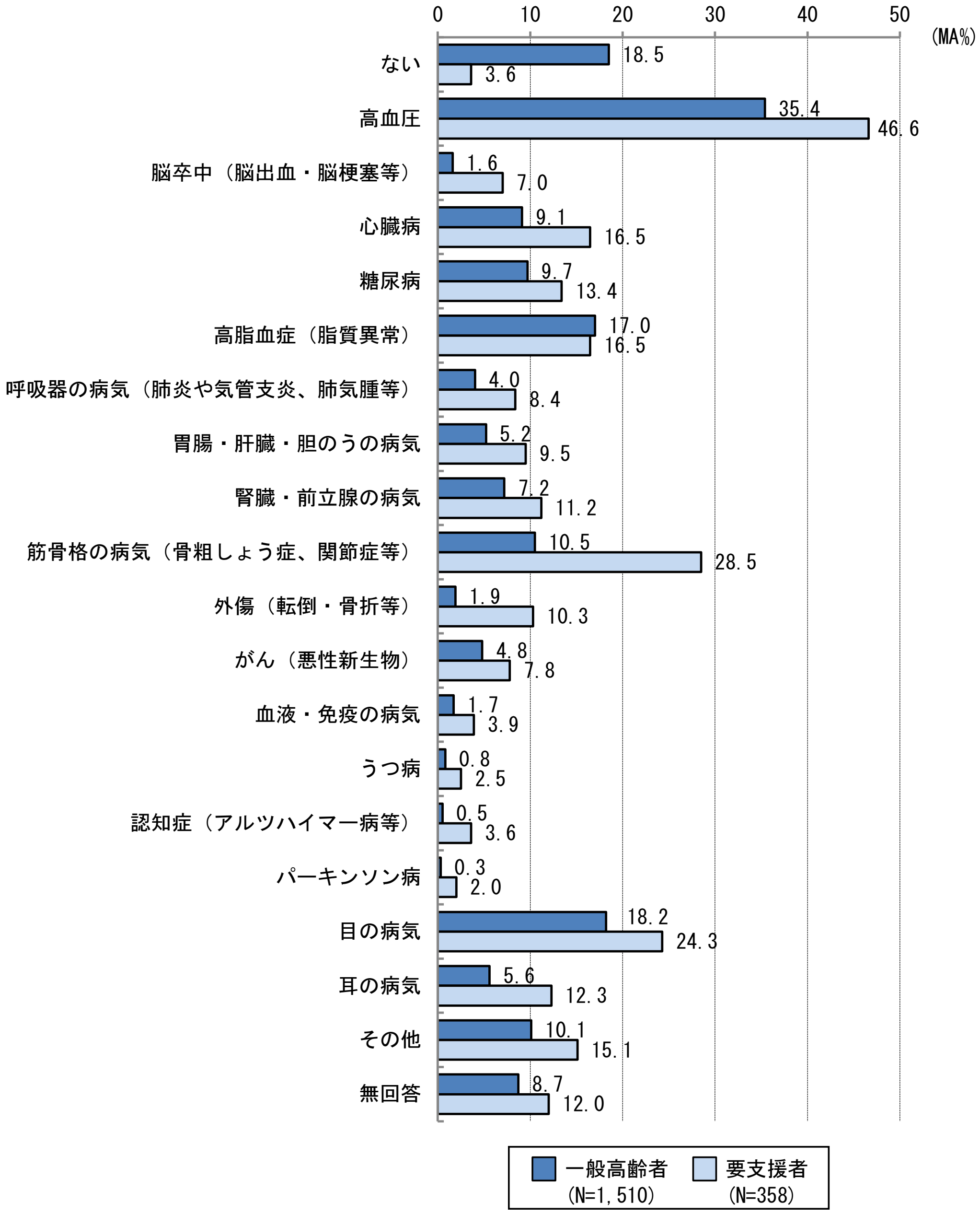
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて病気のある割合が多くなっていますが、「糖尿病」と「がん（悪性新生物）」では 75～84 歳が他の年齢層に比べて多くなっています。



【年齢別　治療中や後症のある病気】



【認定状況別　治療中や後症のある病気】

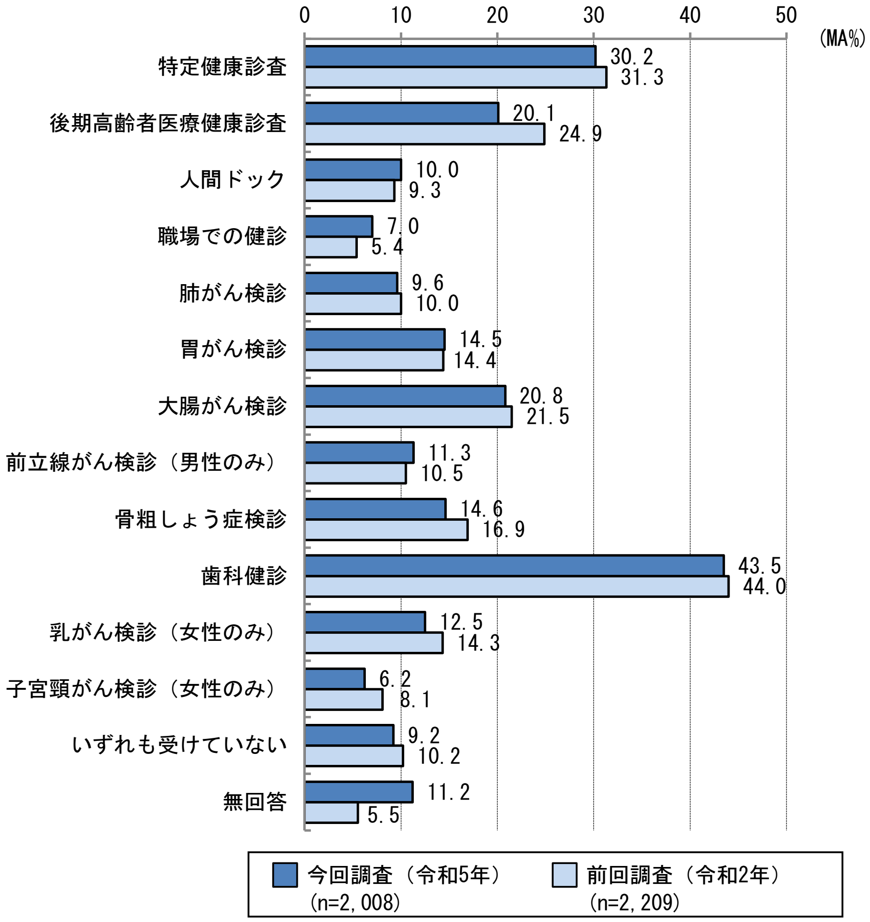


〔7〕定期健診・検診の受診状況

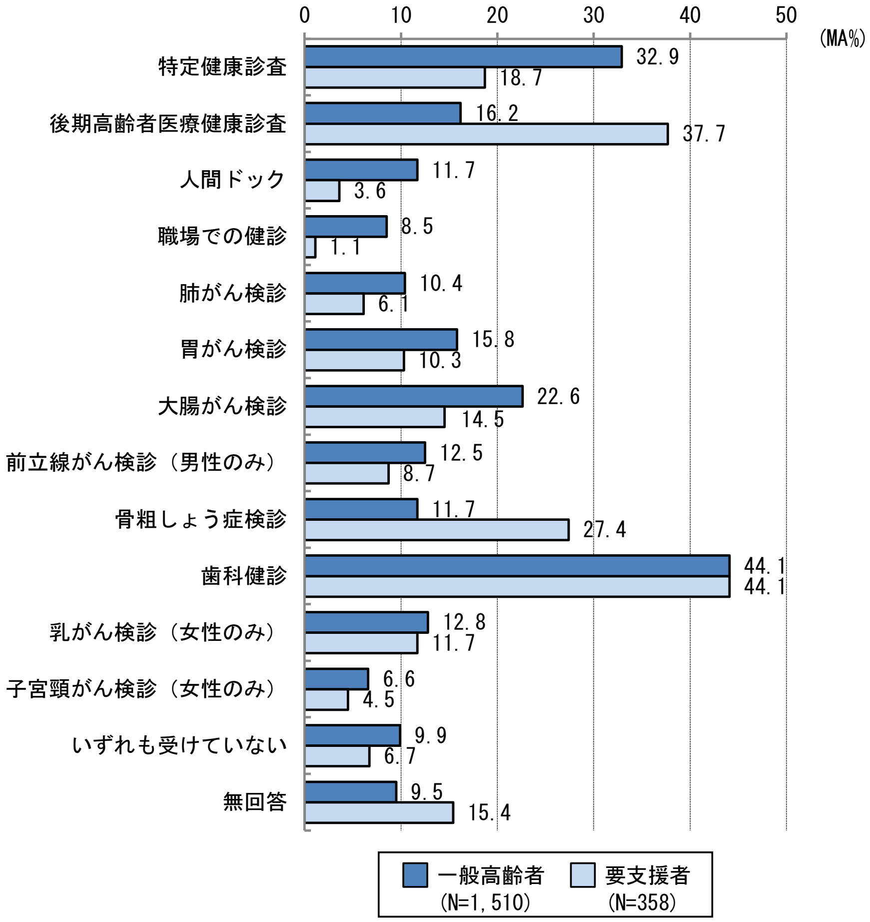
問8（8） ご本人は、この1年または2年の間に、以下の定期健診・検診を受けていますか （○はいくつでも）
※過去に受けたことがあっても、1～2年以上前に受けたものは含みません

この１年または２年の間に受けた定期健診・検診については、「歯科健診」が43.5%と最も多く、次いで、「特定健康診査」が 30.2%となっています。前回調査に比べて、「後期高齢者医療健康診査」が4.8ポイント減少しています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「歯科健診」に次いで「後期高齢者医療健康診査」、「骨粗しょう症検診」が多くなっています。



【認定状況別　定期健診・検診の受診状況】



〔8〕介護予防のために取り組みたいこと

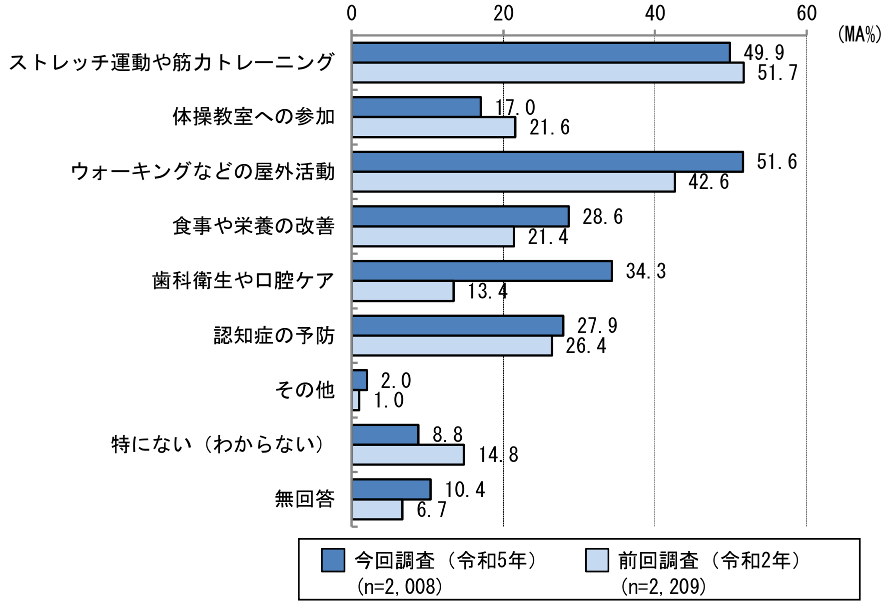
問8（9）　介護予防のために取り組みたいことは何ですか　（○はいくつでも）

介護予防のために取り組みたいことについては、「ウォーキングなどの野外活動」が 51.6%と最も多く、次いで、「ストレッチ運動や筋力トレーニング」が 49.9%となっています。前回調査に比べて、「歯科衛生や口腔ケア」が 20.9 ポイント増加しています。

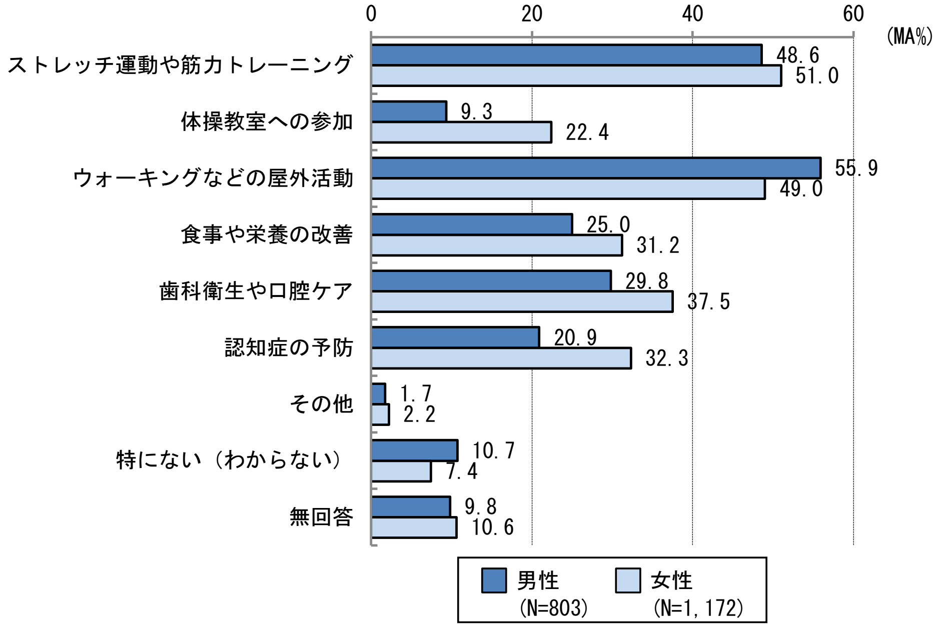
認定状況別にみると、一般高齢者では「体操教室への参加」が 16.4%、要支援認定者では 21.5%と一般高齢者に比べ、5.1 ポイント多くなっています。

性別にみると、男性は「ウォーキングなどの屋外活動」、女性は「ストレッチ運動や筋力トレーニング」が最も多く、「ウォーキングなどの屋外活動」で男性が 6.9 ポイント多くなっているほかは、すべて女性のほうが多く、なかでも、「体操教室への参加」は 13.1 ポイント、「認知症の予防」は 11.4 ポイント多くなっています。

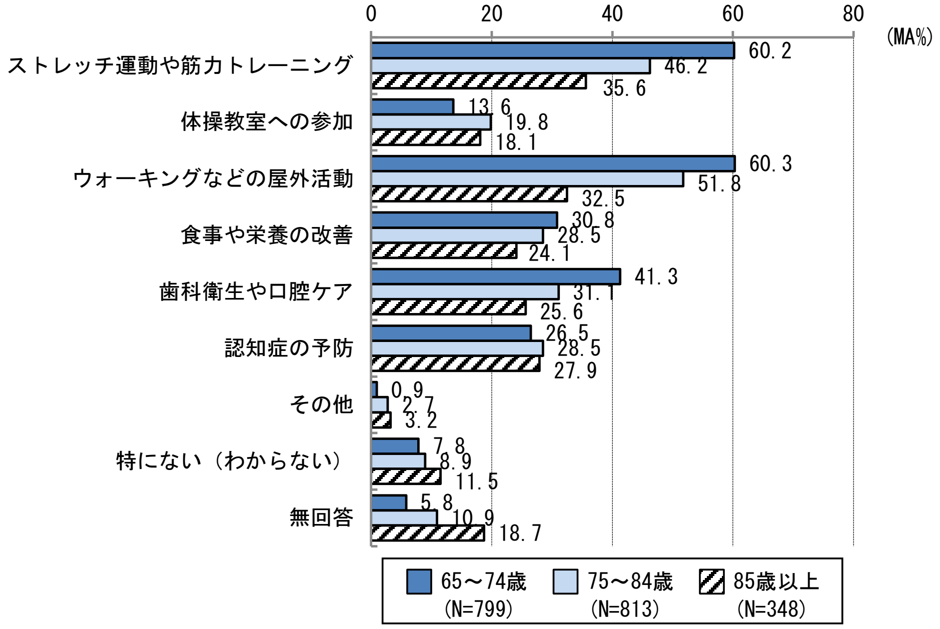
年齢別にみると、65～74 歳、75～84 歳では「ウォーキングなどの野外活動」が最も多く、85 歳以上では「ストレッチ運動や筋力トレーニング」が最も多くなっています。



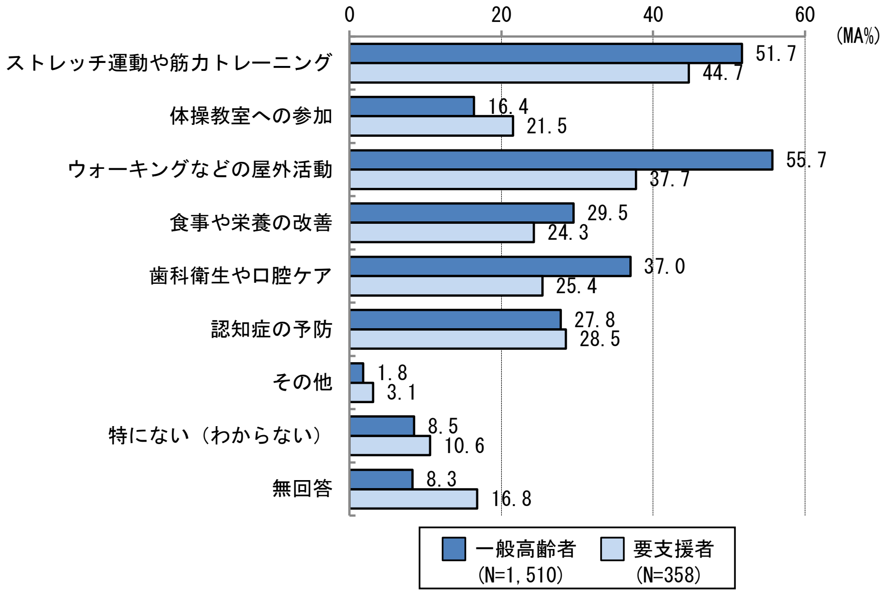
【性別　介護予防に取り組みたいこと】



【年齢別　介護予防に取り組みたいこと】



【認定状況別　介護予防に取り組みたいこと】



9　認知症について

〔1〕認知症状の有無

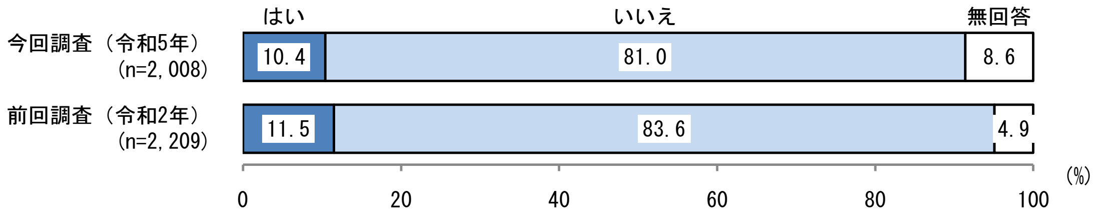
問９(１)　認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか

自身や家族の認知症の症状の有無については、「はい」（ある）が 10.4%、「いいえ」（ない）が 81.0%となっています。

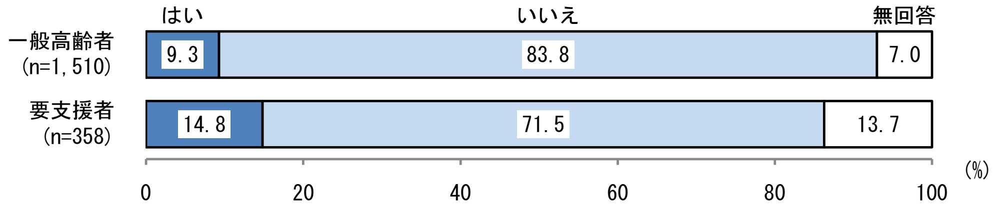
年齢別にみると、

認定状況別にみると、要支援認定者では「はい」（ある）が 14.8%と、一般高齢者に比べて 5.5 ポイント多くなっています。

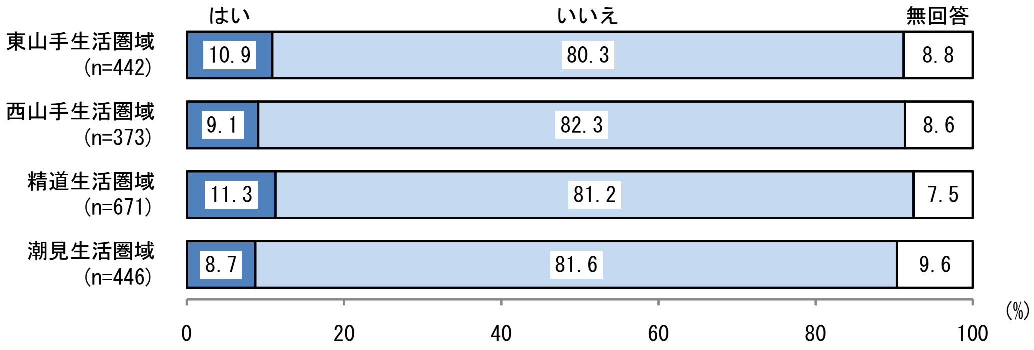
居住地域別にみると、「はい」（ある）と回答した人はすべての地域で 1 割程度となっていますが、精道生活圏域が 11.3%と他の地域に比べてやや多く、潮見生活圏域では 8.7%とやや少なくなっています。



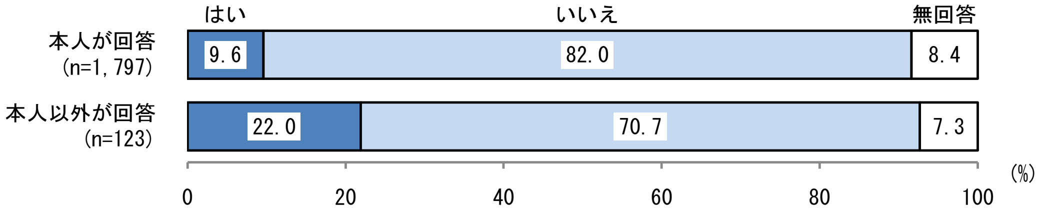
【認定状況別　認知症の症状の有無】



【居住地域別　認知症の症状の有無】



【回答者別　認知症の症状の有無】



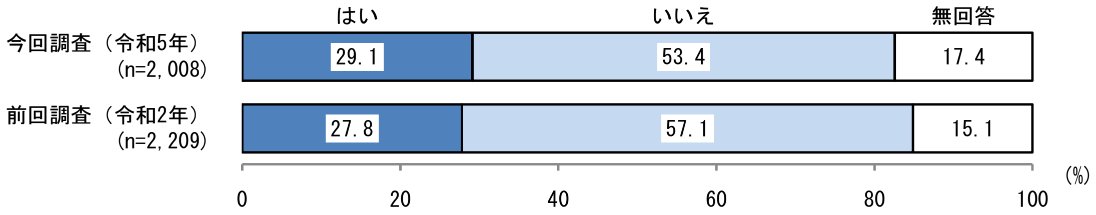
〔２〕将来、認知症になる（患う）可能性の認識の有無

問９（２）　あなた（ご本人）は、認知症になる（患う）と思いますか

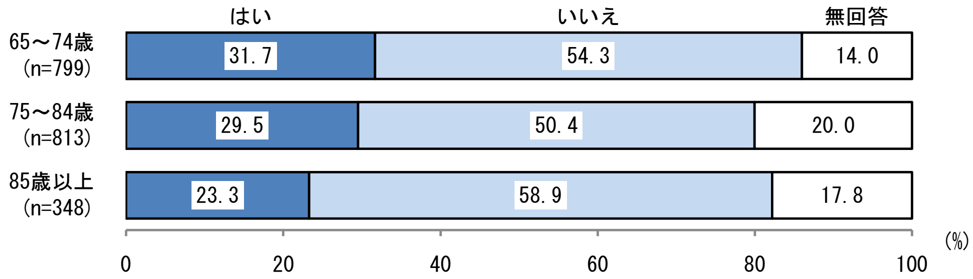
認知症になる（患う）と思うかについては、「はい」が 29.1％、「いいえ」が 53.4％となっています。前回調査に比べて、「はい」が 1.3 ポイント増加しています。

年齢別にみると、自身が認知症を患うと思う人は「前期高齢者」（65~74 歳）で 31.7％と最も多く、年齢が上がるにつれて減少していく傾向がみられます。

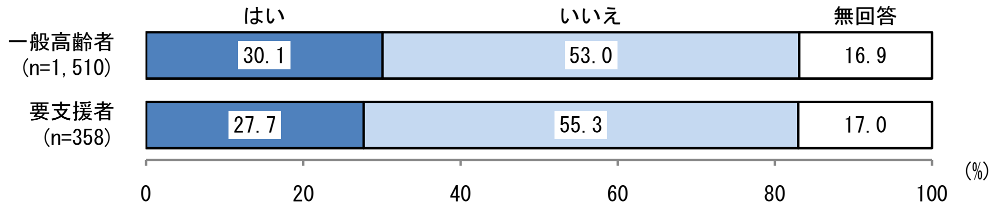
認定状況別にみると、自身が認知症を患うと思う人は一般高齢者で 30.1％、要支援認定者で 27.7％と、一般高齢者のほうがやや多くなっています。



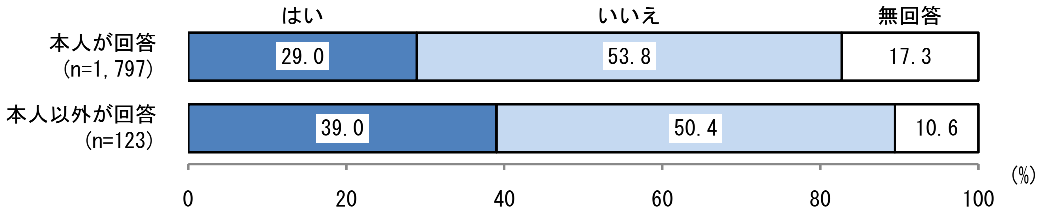
【年齢別　将来、認知症になる（患う）可能性の認識の有無】



【認定状況別　将来、認知症になる（患う）可能性の認識の有無】



【回答者別　将来、認知症になる（患う）可能性の認識の有無】



〔３〕相談窓口の認知

問９（３）　ご本人は、認知症に関する相談窓口を知っていますか

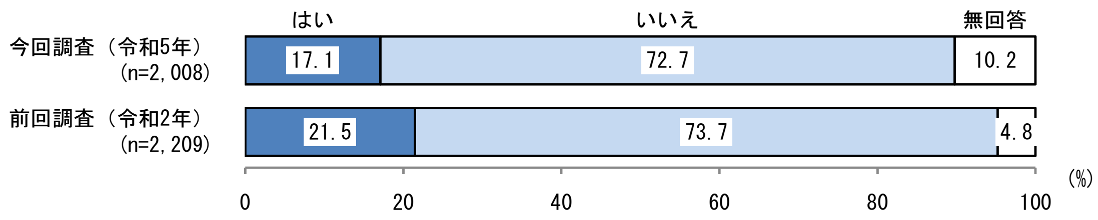
認知症に関する相談窓口の認知については、「はい」（知っている）が 17.1%、「いいえ」（知らない）が 72.7%となっています。前回調査に比べて、「はい」（知っている）が 4.4 ポイント減少しています。

性別にみると、「はい」（知っている）は女性で 19.2%と男性に比べて多くなっています。

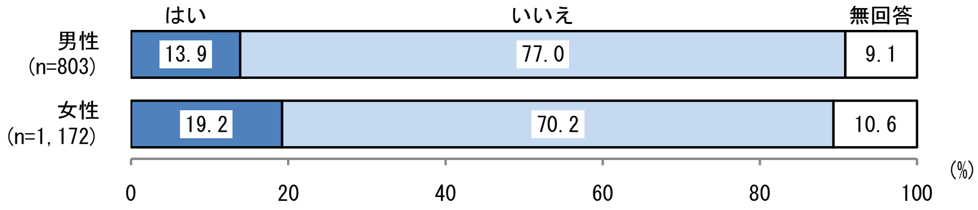
年齢別にみると、「はい」（知っている）は 75～84 歳で 18.8%と他の年齢層に比べて多くなっています。

認定状況別にみると、「はい」（知っている）は要支援認定者で 24.0%と一般高齢者に比べて多くなっています。

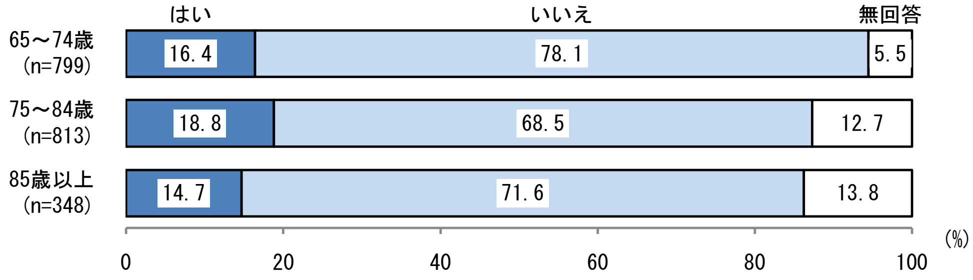
居住地域別にみると、「はい」（知っている）は東山手生活圏域と潮見生活圏域でやや多くなっています。



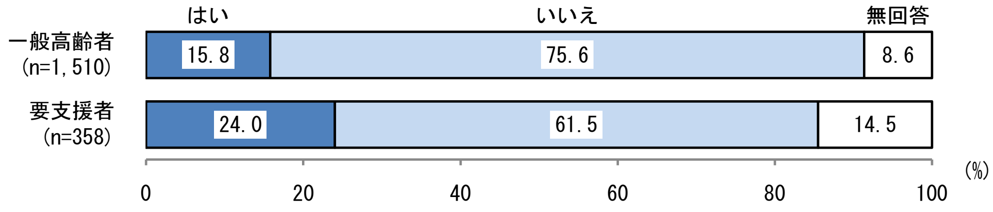
【性別　認知症に関する相談窓口の認知度】



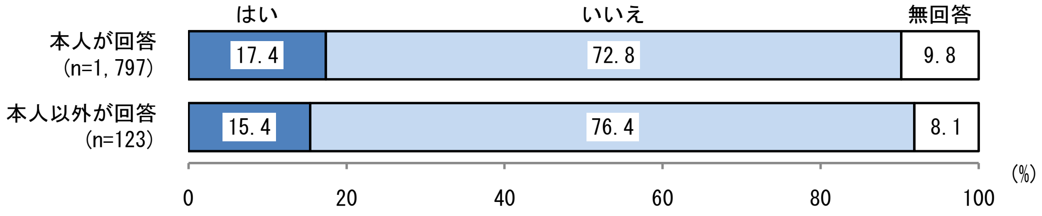
【年齢別　認知症に関する相談窓口の認知度】



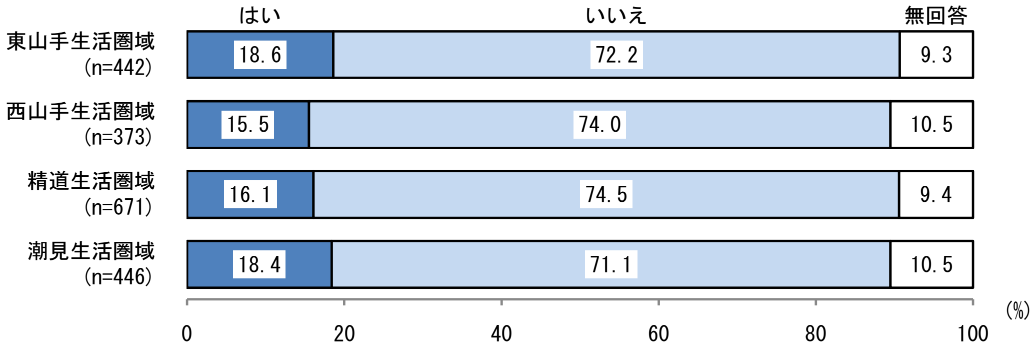
【認定状況別　認知症に関する相談窓口の認知度】



【回答者別　認知症に関する相談窓口の認知度】



【居住地域別　認知症に関する相談窓口の認知度】

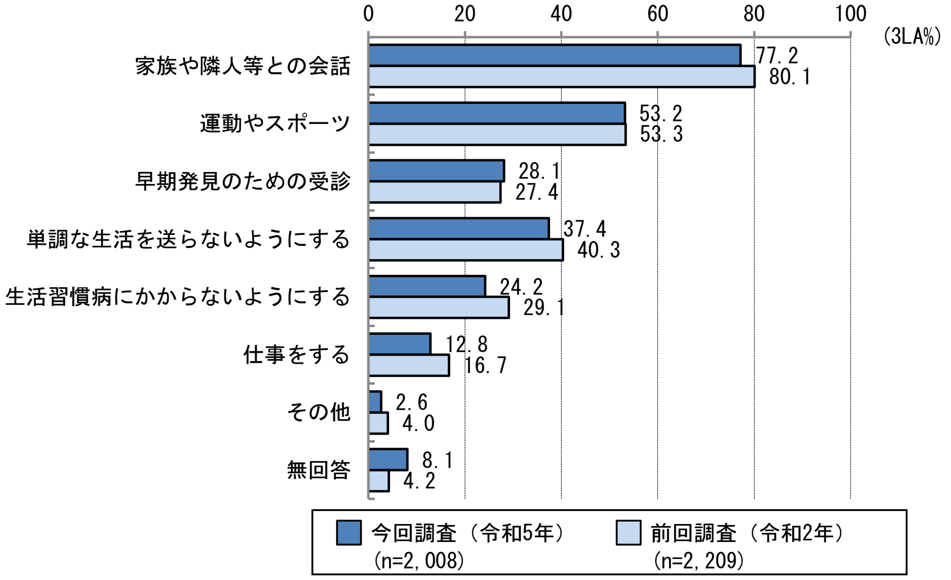


〔4〕認知症予防の方法として重要だと思うこと

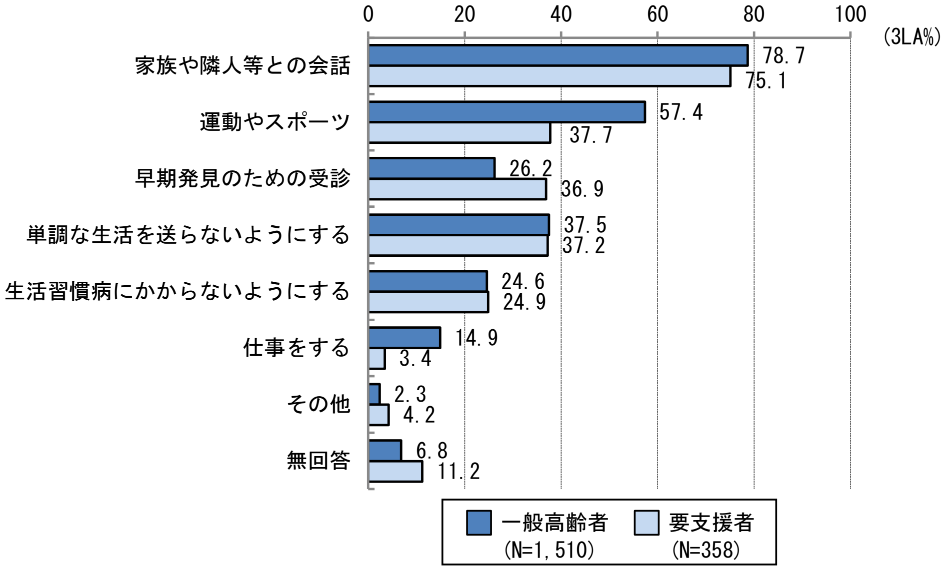
問9（4）　認知症予防の方法として、重要なことは何だと思いますか
（○は主なもの3つまで）

認知症予防の方法として重要だと思うことについては、「家族や隣人等との会話」が 77.2%と最も多く、次いで、「運動やスポーツ」が 53.2.%、「単調な生活を送らないようにする」が 37.4%となっています。

認定状況別にみると、一般高齢者では「運動やスポーツ」が 57.4%と要支援認定者に比べて 19.7 ポイント多く、要支援認定者では「早期発見のための受診」が 36.9%と一般高齢者に比べて 10.7 ポイント多くなっています。



【認定状況別　認知症予防の方法として重要だと思うこと】

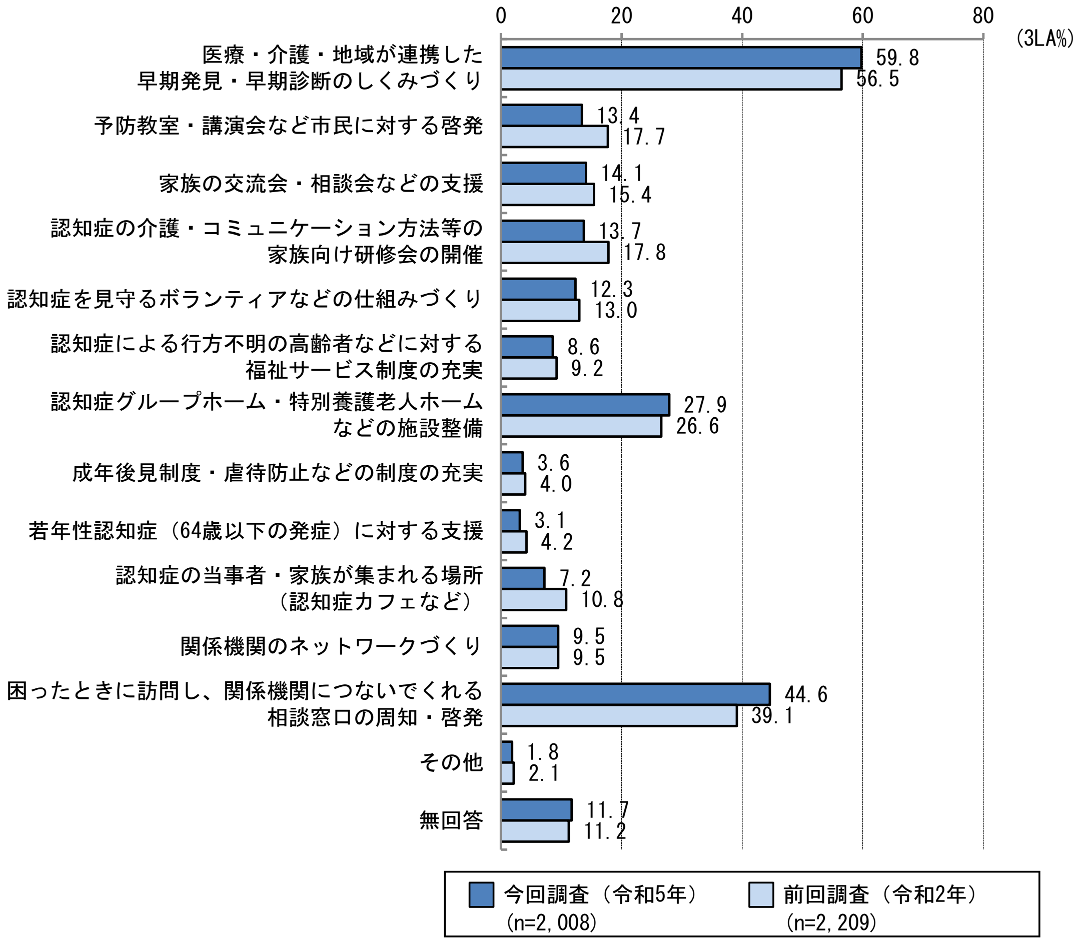


〔５〕認知症の人への支援で必要だと思うこと

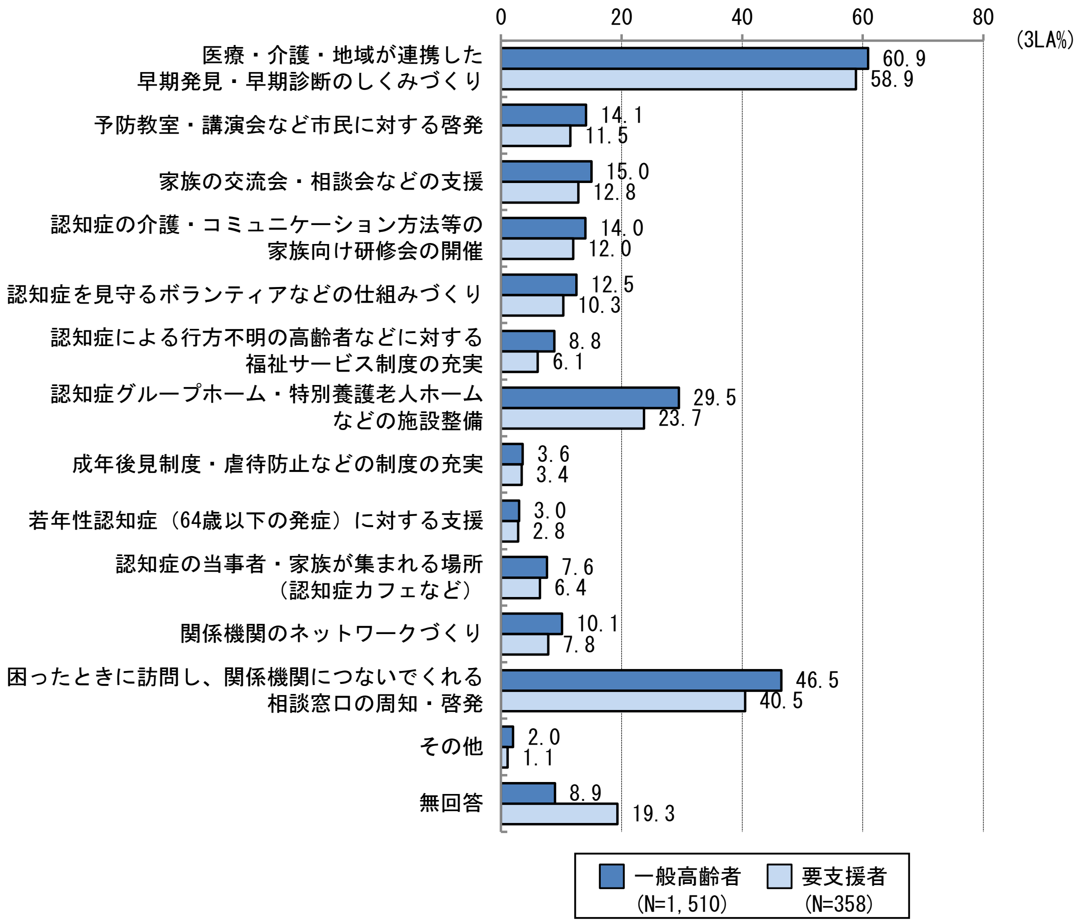
問９(５)　認知症の人への支援には、何が必要だと思いますか（〇は主なもの３つまで）

認知症の人への支援で必要なことは、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が 59.8%と最も多く、次いで、「困ったときに訪問し、関係機関につないでくれる相談窓口の周知・啓発」が 44.6%、「認知症グループホーム・特別養護老人ホームなどの施設整備」が 27.9%となっています。前回調査に比べて、「困ったときに訪問し、関係機関につないでくれる相談窓口の周知・啓発」が 5.5 ポイント増加しています。

認定状況別にみても、すべての区分で上位 3 項目は同じになっています。



【認定状況別　認知症の人への支援で必要だと思うこと】



〔６〕認知症セルフチェックの実施状況

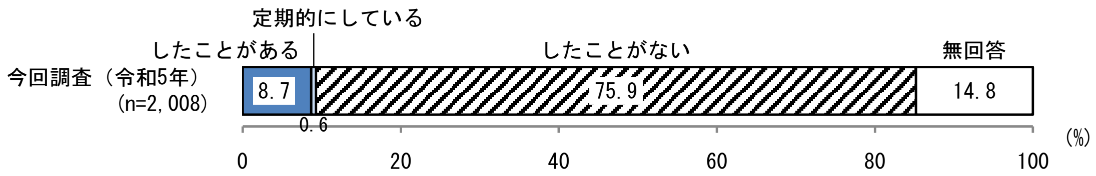
問9（6）　ご本人またはご家族の方が、ご本人のための認知症セルフチェックをしたことがありますか　（1つに○）

認知症セルフチェックを「したことがある」は 8.7％、「定期的にしている」は 0.6％で、「したことがある」と「定期的にしている」を合わせた『したことがある』は合計 9.3％となっています。

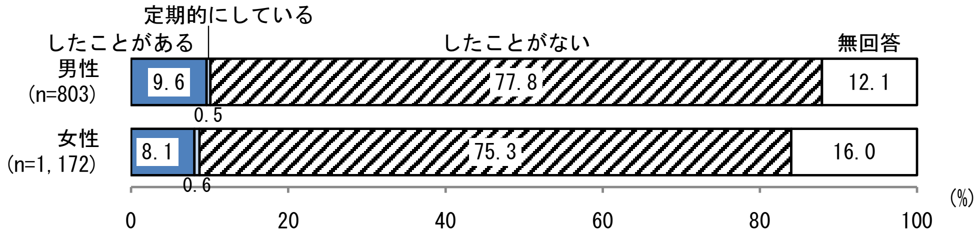
性別にみると、『したことがある』は男性が 10.1％、女性が 8.7％と男性でやや多くなっています。

年齢別にみると、『したことがある』は 75～84 歳で 11.5％と最も多く、次いで、85 歳以上が 9.8％、65～74 歳が 6.9％となっています。

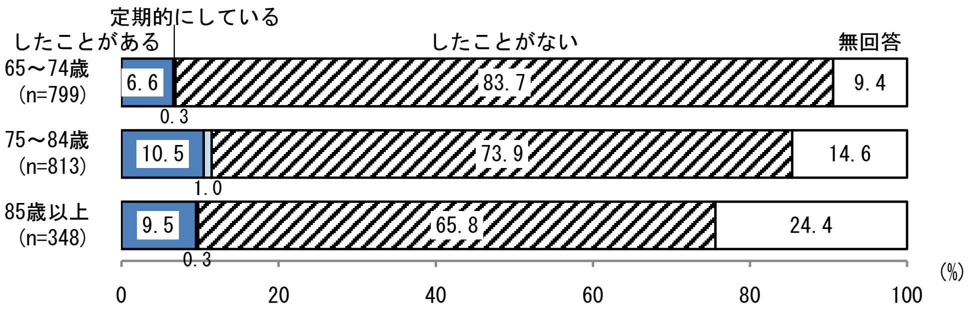
認定状況別みると、『したことがある』は一般高齢者で 8.4％、要支援認定者で 14.0％と、要支援認定者で多くなっています。



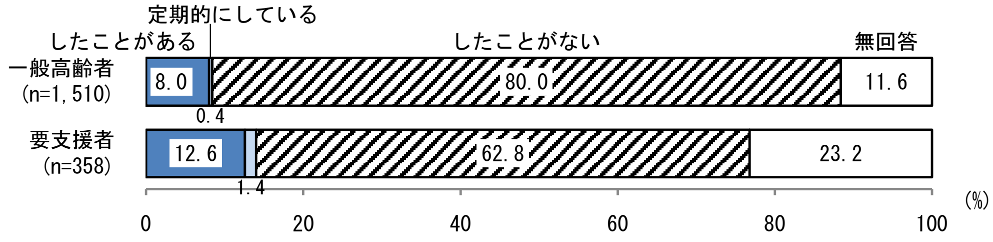
【性別　認知症セルフチェックの実施状況】



【年齢別　認知症セルフチェックの実施状況】



【認定状況別　認知症セルフチェックの実施状況】



〔7〕認知症セルフチェック後の行動

【問9（6）で「1.したことことがある」または「2.定期的にしている」とお答えの方のみ】
問9（6）-1　認知症セルフチェックをした後、ご本人はどのような行動をとりましたか

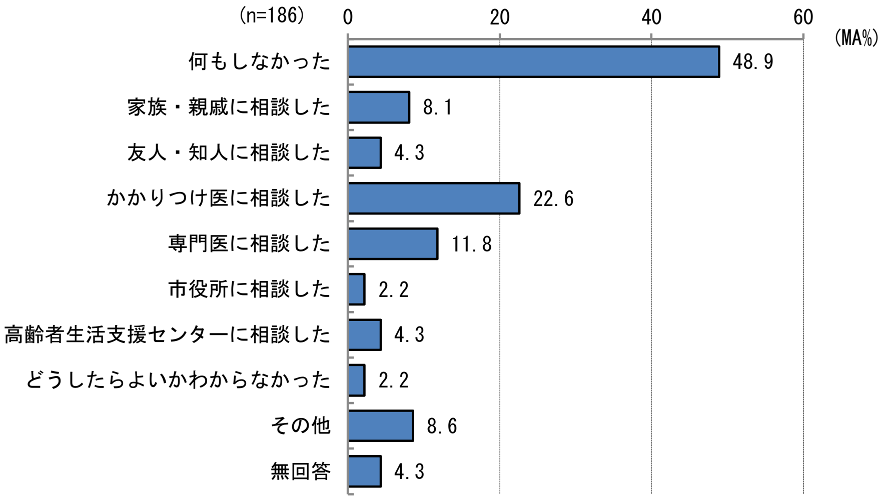
認知症セルフチェック後の行動としては、「何もしなかった」が 48.9%と最も多く、次いで「かかりつけ医に相談した」が 22.6%、「専門医に相談した」が 11.8%となっています。

性別にみると、「何もしなかった」、「家族に相談した」、「友人・知人に相談した」以外の項目はすべて女性のほうが多く、女性のほうが男性に比べて医療機関や相談機関に相談している人が多くなっています。

年齢別にみると、65～74 歳では「何もしなかった」が他の年齢層に比べて多く、75～84 歳では「高齢者生活支援センターに相談した」が 6.5%みられます。

認定状況別にみると、要支援認定者では「かかりつけ医に相談した」が 38.0%最も多くなっています。

居住地域別にみると、潮見生活圏域では「高齢者生活支援センターに相談した」が 10.8%みられます。



【性別・年齢別・認定状況別・居住地域別　認知症セルフチェック後の行動】

(MA%)

		n	何もしなかった	家族・親戚に相談した	友人・知人に相談した	かかりつけ医に相談した	専門医に相談した	市役所に相談した	高齢者生活支援センターに相談した	どうしたらよいかわからなかった	その他	無回答
全体		186	91	15	8	42	22	4	8	4	16	8
		100.0	48.9	8.1	4.3	22.6	11.8	2.2	4.3	2.2	8.6	4.3
性別	男性	81	47	8	5	15	9	0	1	2	2	3
		100.0	58.0	9.9	6.2	18.5	11.1	0.0	1.2	2.5	2.5	3.7
	女性	102	43	7	3	27	13	4	7	2	13	4
		100.0	42.2	6.9	2.9	26.5	12.7	3.9	6.9	2.0	12.7	3.9
年齢別	65～74歳	55	29	4	2	9	9	1	2	2	3	2
		100.0	52.7	7.3	3.6	16.4	16.4	1.8	3.6	3.6	5.5	3.6
	75～84歳	93	46	8	4	24	9	2	6	1	9	2
		100.0	49.5	8.6	4.3	25.8	9.7	2.2	6.5	1.1	9.7	2.2
	85歳以上	34	14	3	2	9	4	1	0	1	3	3
		100.0	41.2	8.8	5.9	26.5	11.8	2.9	0.0	2.9	8.8	8.8
認定状況別	一般高齢者	127	76	7	4	20	13	2	4	4	7	4
		100.0	59.8	5.5	3.1	15.7	10.2	1.6	3.1	3.1	5.5	3.1
	要支援者	50	13	8	4	19	8	2	3	0	6	2
		100.0	26.0	16.0	8.0	38.0	16.0	4.0	6.0	0.0	12.0	4.0
地域別	東山手生活圏域	42	19	1	2	10	6	1	1	1	6	3
		100.0	45.2	2.4	4.8	23.8	14.3	2.4	2.4	2.4	14.3	7.1
	西山手生活圏域	42	22	2	1	11	6	1	2	1	2	1
		100.0	52.4	4.8	2.4	26.2	14.3	2.4	4.8	2.4	4.8	2.4
	精道生活圏域	58	28	7	2	15	5	1	1	1	5	1
		100.0	48.3	12.1	3.4	25.9	8.6	1.7	1.7	1.7	8.6	1.7
	潮見生活圏域	37	19	4	2	5	4	1	4	1	2	2
		100.0	51.4	10.8	5.4	13.5	10.8	2.7	10.8	2.7	5.4	5.4

10　災害時や緊急時の対応などについて

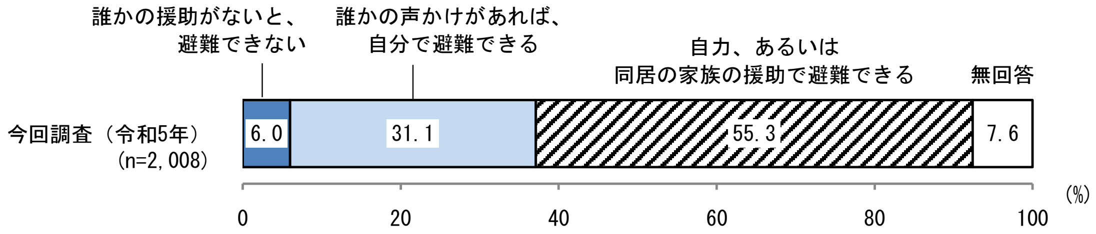
〔1〕緊急時・災害時の避難の可否

問10（1）　ご本人は、災害時（台風や地震など）や火災などの緊急時に、一人で避難することができますか　（1つに○）

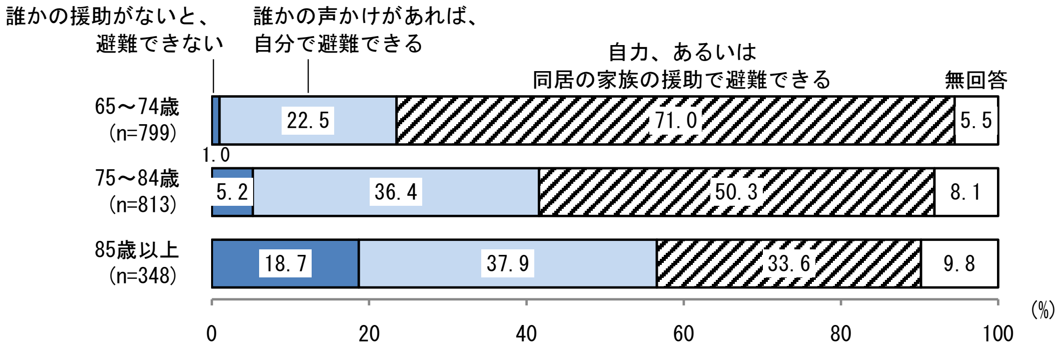
災害時や緊急時に一人で避難することができるかについては、「自力、あるいは同居の家族の援助で避難できる」が 55.3%、「誰かの声かけがあれば、自分で避難できる」が 31.1%で、計８割以上の人が『避難できる』と回答しています。

年齢別にみると、「誰かの援助がないと、避難できない」は年齢が上がるにつれて多くなり、85 歳以上で 18.7%となっています。

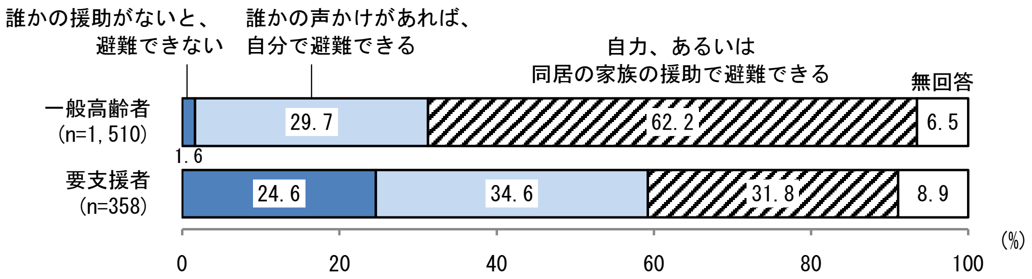
認定状況別にみると、要支援認定者の 24.6%は「誰かの援助がないと、避難できない」と回答しています。



【年齢別　緊急時・災害時の避難の可否】



【認定状況別　緊急時・災害時の避難の可否】



〔２〕緊急時・災害時に備えていること

問10（２）　ご家庭では緊急時や災害時に備えていることはありますか
（〇はいくつでも）

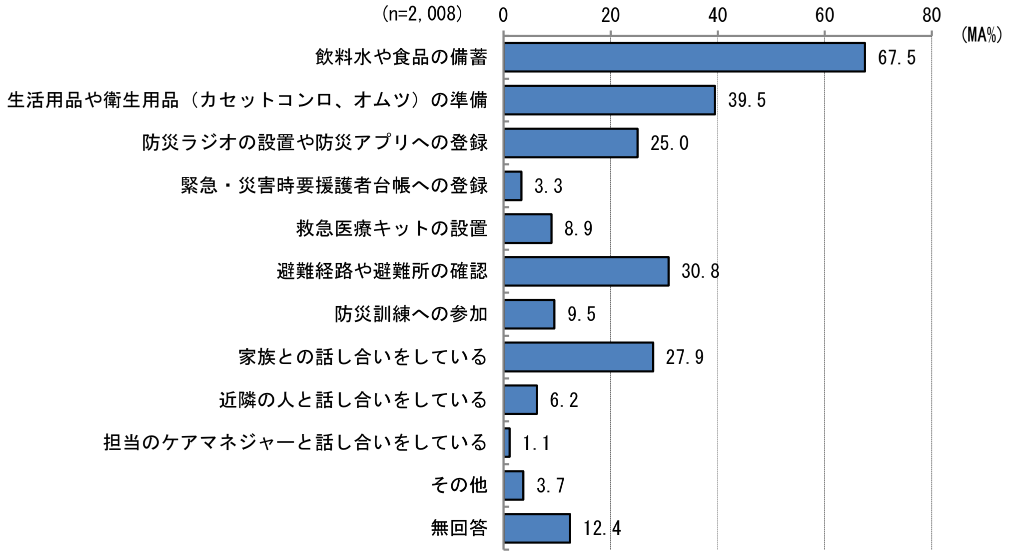
緊急時や災害時に備えていることについては、「飲料水や食品の備蓄」が 67.5%と最も多く、次いで、「生活用品や衛生用品（カセットコンロ、オムツ）の準備」が 39.5%、「避難経路や避難所の確認」が 30.8%となっています。

性別にみると、男性は「家族との話し合いをしている」が 32.9%と、女性に比べて 8.4 ポイント多く、女性は「飲料水や食品の備蓄」で 8.0 ポイント、「生活用品や衛星用品（カセットコンロ、オムツ）の準備」で 6.1 ポイント、男性に比べて多くなっています。

年齢別にみると、すべての年齢層で「飲料水や食品の備蓄」、「生活用品や衛生用品（カセットコンロ、オムツ）の準備」が上位 2 項目となっていますが、その割合は 85 歳以上ではやや少なくなっています。

認定状況別にみると、要支援認定者では「緊急・災害時要援護者台帳への登録」、「担当のケアマネジャーと話をしている」が一般高齢者に比べて多くなっています。

居住地域別にみると、精道生活圏域と潮見生活圏域では、「防災訓練への参加」、「家族との話し合いをしている」が他の 2 地域に比べて多くなっています。



【性別・年齢別・認定状況別・居住地域別　緊急時・災害時に備えていること】

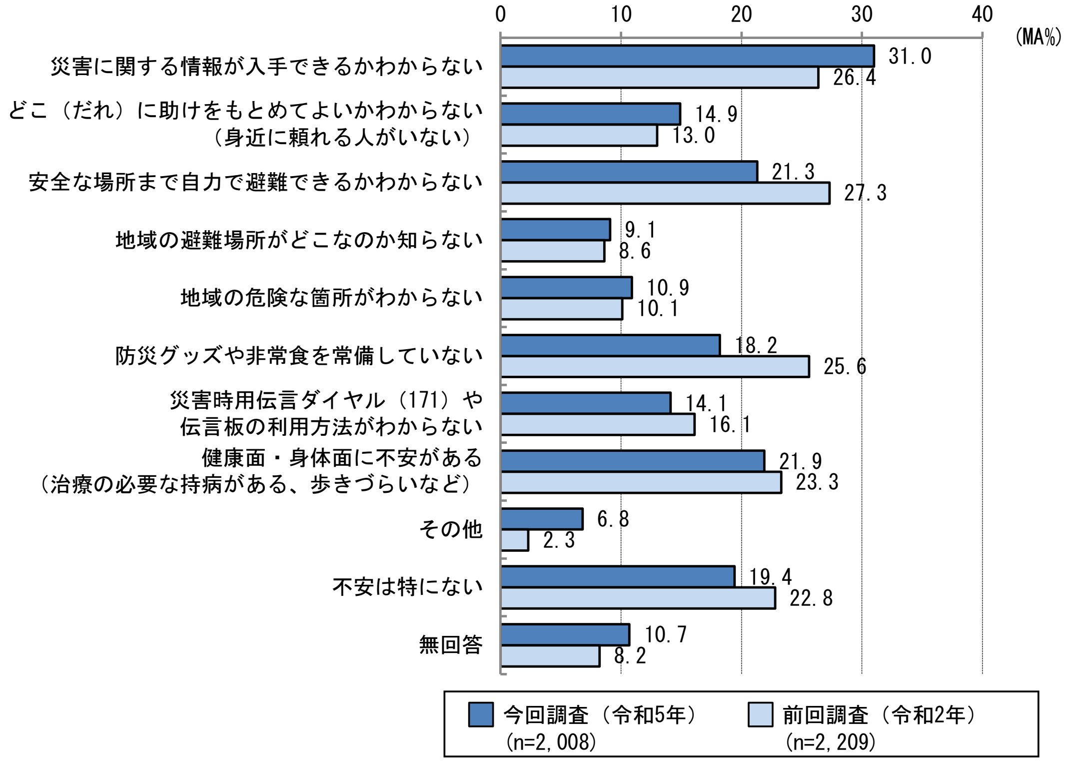
(MA%)

		n	飲料水や食品の備蓄	生活用品や衛生用品（カセットコンロ、オムツ）の準備	防災ラジオの設置や防災アプリへの登録	緊急・災害時要援護者台帳への登録	救急医療キットの設置	避難経路や避難所の確認	防災訓練への参加	家族との話し合いをしている	近隣の人と話し合いをしている	担当のケアマネジャーと話し合いをしている	その他	無回答
全体		2,008	1,355	793	503	66	179	619	191	560	124	23	75	248
		100.0	67.5	39.5	25.0	3.3	8.9	30.8	9.5	27.9	6.2	1.1	3.7	12.4
性別	男性	803	506	289	223	18	86	248	71	264	32	9	34	100
		100.0	63.0	36.0	27.8	2.2	10.7	30.9	8.8	32.9	4.0	1.1	4.2	12.5
	女性	1,172	832	493	275	47	91	360	118	287	88	14	40	139
		100.0	71.0	42.1	23.5	4.0	7.8	30.7	10.1	24.5	7.5	1.2	3.4	11.9
年齢別	65～74歳	799	564	334	230	14	61	256	69	257	27	3	23	71
		100.0	70.6	41.8	28.8	1.8	7.6	32.0	8.6	32.2	3.4	0.4	2.9	8.9
	75～84歳	813	568	328	207	36	84	269	96	209	69	12	31	96
		100.0	69.9	40.3	25.5	4.4	10.3	33.1	11.8	25.7	8.5	1.5	3.8	11.8
	85歳以上	348	193	112	61	15	31	81	23	81	22	7	21	70
		100.0	55.5	32.2	17.5	4.3	8.9	23.3	6.6	23.3	6.3	2.0	6.0	20.1
認定状況別	一般高齢者	1,510	1,063	618	396	36	135	482	152	440	84	6	51	158
		100.0	70.4	40.9	26.2	2.4	8.9	31.9	10.1	29.1	5.6	0.4	3.4	10.5
	要支援者	358	208	124	66	26	34	92	26	81	26	15	18	63
		100.0	58.1	34.6	18.4	7.3	9.5	25.7	7.3	22.6	7.3	4.2	5.0	17.6
地域別	東山手生活圏域	442	308	187	110	11	38	123	29	106	23	6	20	57
		100.0	69.7	42.3	24.9	2.5	8.6	27.8	6.6	24.0	5.2	1.4	4.5	12.9
	西山手生活圏域	373	248	138	84	7	39	116	19	93	18	2	18	43
		100.0	66.5	37.0	22.5	1.9	10.5	31.1	5.1	24.9	4.8	0.5	4.8	11.5
	精道生活圏域	671	444	266	187	35	58	234	86	211	43	5	24	79
		100.0	66.2	39.6	27.9	5.2	8.6	34.9	12.8	31.4	6.4	0.7	3.6	11.8
	潮見生活圏域	446	307	173	109	11	36	128	49	130	36	9	12	52
		100.0	68.8	38.8	24.4	2.5	8.1	28.7	11.0	29.1	8.1	2.0	2.7	11.7

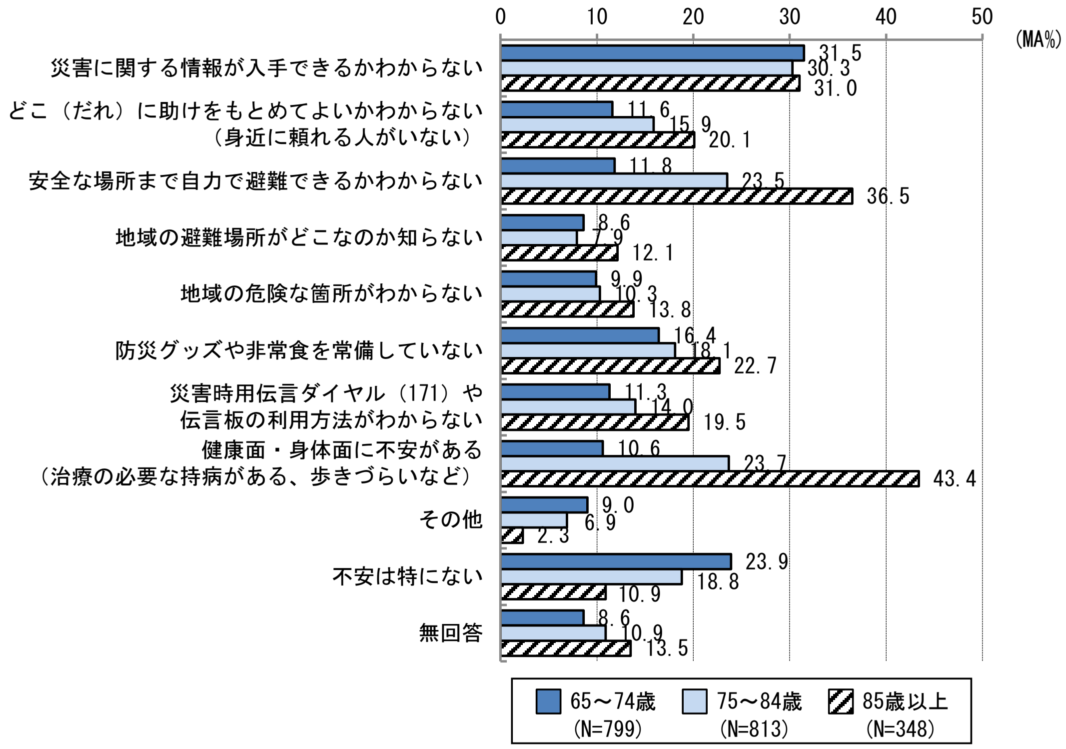
問10（3）ご本人に災害が起こった場合、どのようなことが不安ですか
（○はいくつでも）

災害時の不安については、「災害に関する情報が入手できるかわからない」が 31.0%と最も多く、次いで、「健康面・身体面に不安がある（治療の必要な持病がある、歩きづらいなど）」が 21.9%、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が 21.3%となっています。前回調査に比べて、「災害に関する情報が入手できるかわからない」が 4.6 ポイント増加し、「防災グッズや非常食を常備していない」が 7.4 ポイント、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が 6.0 ポイント減少しています。

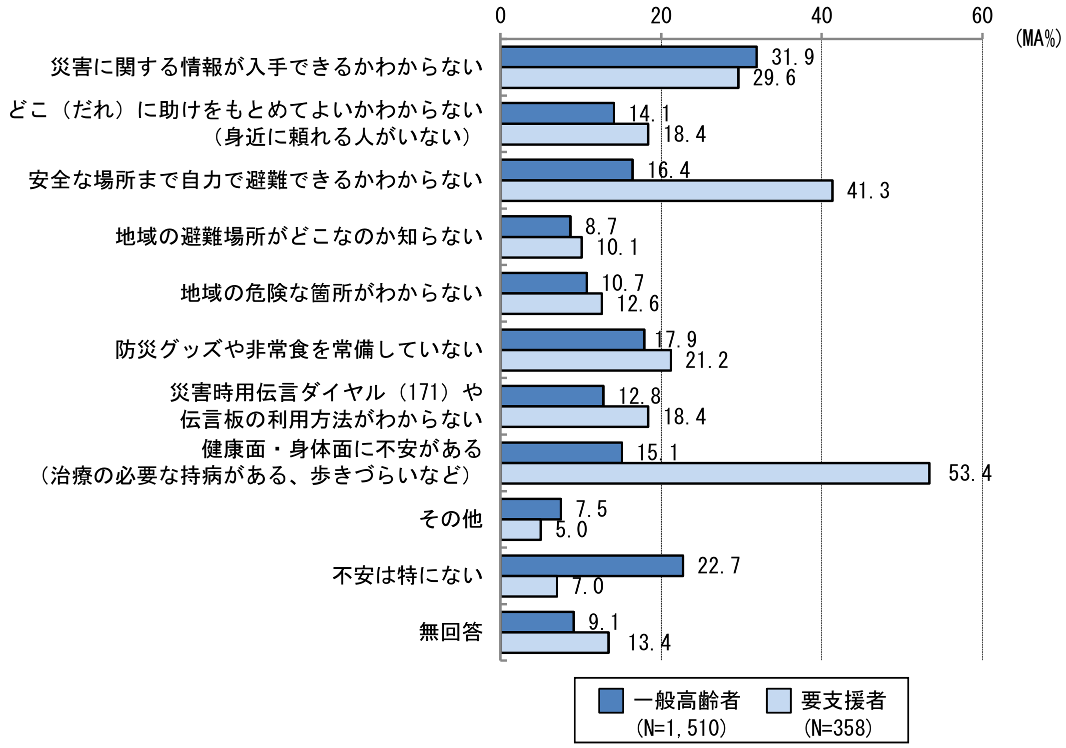
年齢別にみると 85 歳以上、認定状況別にみると要支援認定者で、「健康面・身体面に不安がある（治療の必要な持病がある、歩きづらいなど）」が最も多く、85 歳以上で 43.4%、要支援認定者で 53.4%と、半数前後を占めています。



【年齢別　災害時の不安】



【認定状況別　災害時の不安】

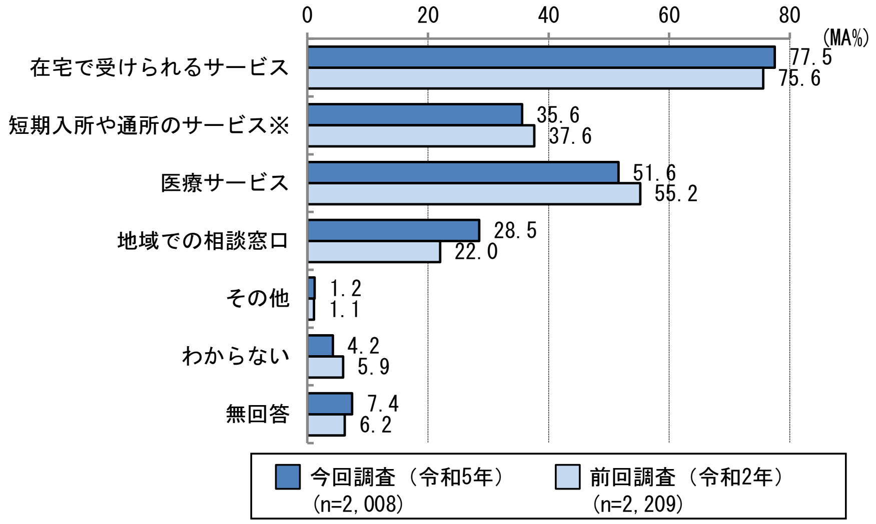


11　今後のサービスの利用について

〔1〕在宅生活を続ける上で必要だと思うサービス

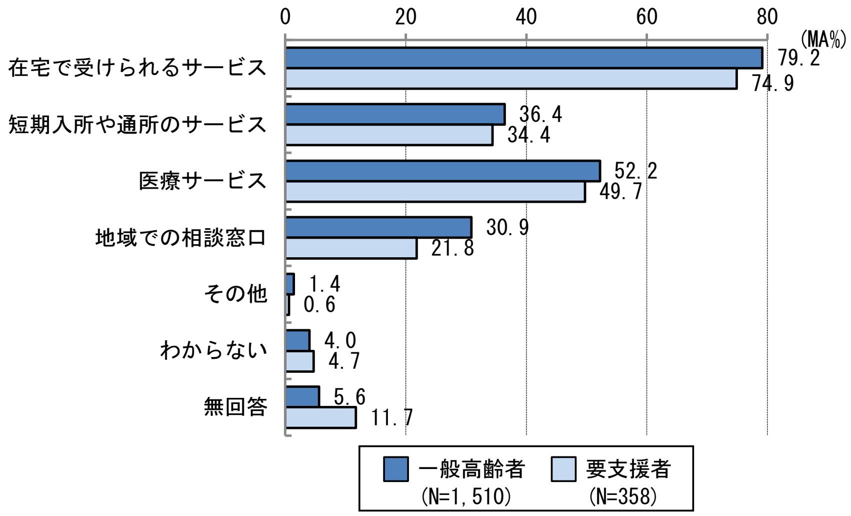
問11（1）　今後、自分の身の回りのことができなくなったときに、どのようなサービスがあれば在宅生活を続けられると思いますか　（○はいくつでも）

　在宅生活を続ける上で必要だと思うサービスは、「在宅で受けられるサービス」が 77.5%と最も多く、次いで、「医療サービス」が 51.6%、「短期入所や通所のサービス」が 35.6%となっています。前回調査に比べて、「地域での相談窓口」が 6.5 ポイント増加しています。
　認定状況別にみると、一般高齢者では「地域での相談窓口」が 30.9%、要支援認定者では 21.8%と一般高齢者に比べ、9.1 ポイント少なくなっています。
　認定状況別、居住地域別のいずれも、すべての区分で「在宅で受けられるサービス」が最も多く、7 割台となっています。

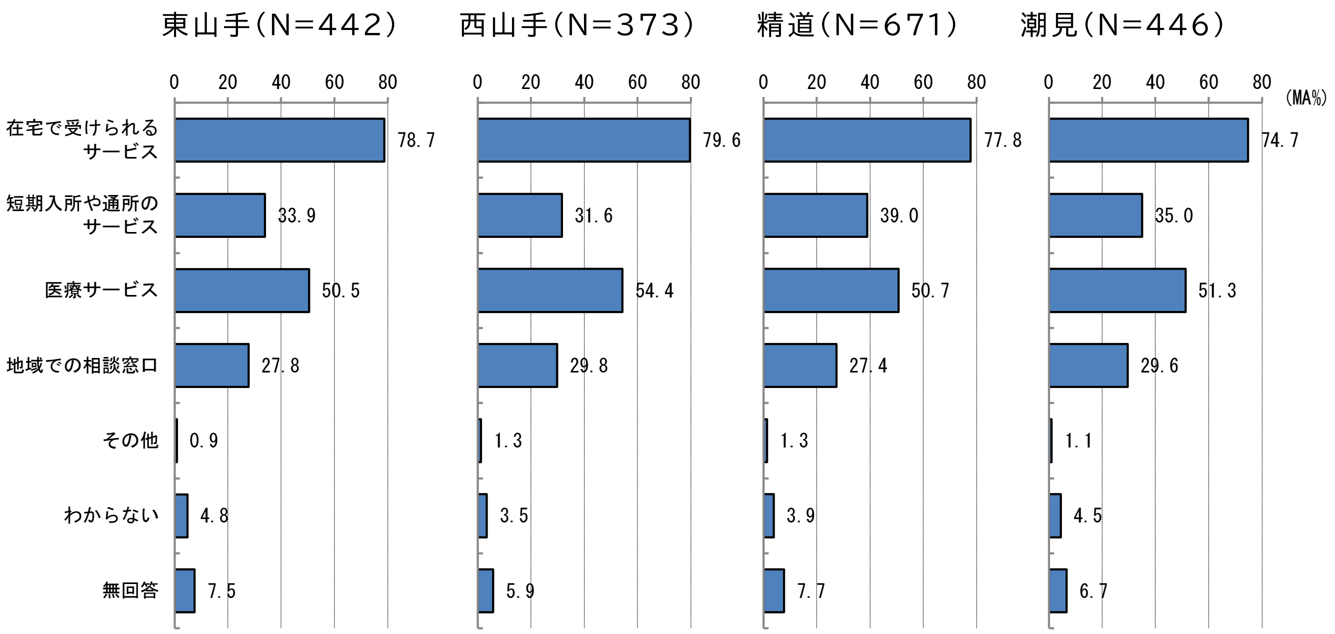


※前回調査では、「入所や通所のサービス」

【認定状況別　在宅生活を続ける上で必要だと思うサービス】



【居住地域別　在宅生活を続ける上で必要だと思うサービス】

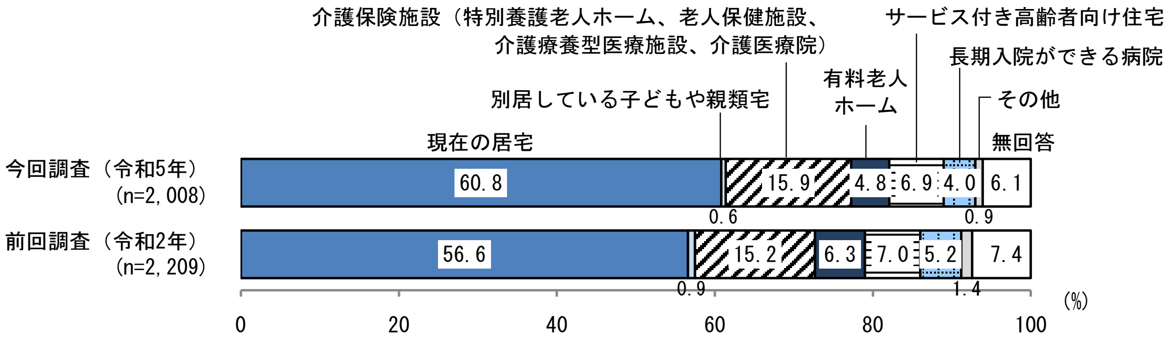


〔２〕介護を受けたい場所

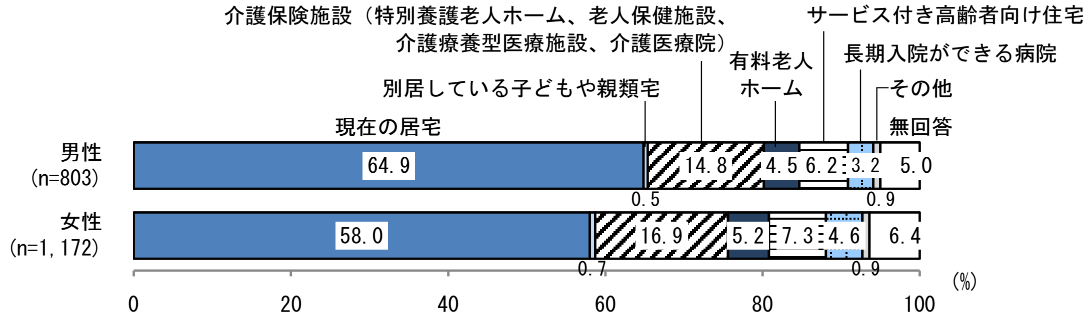
問11（２）　ご本人は、どのような場所で介護を受けたいですか
（最も近いもの1つに○）

介護を受けたい場所は、「現在の居宅」が 60.8％と最も多く、次いで、「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院）」が 15.9％となっています。前回調査に比べて、「現在の居宅」が 4.2 ポイント増加しています。

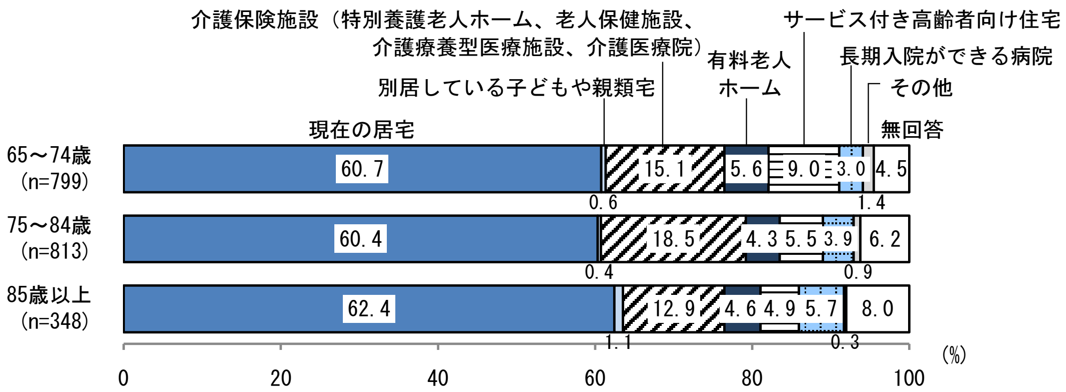
性別にみると、男性は「現在の居宅」が 64.9％と、女性に比べて 6.9 ポイント多くなっています。年齢別にみると、65～74 歳の「前期高齢者」では、「有料老人ホーム」や「サービス付き高齢者向け住宅」、75～84 歳では「介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院）」、85 歳以上では「現在の居宅」の割合が、それぞれ他の年齢層に比べて多くなっています。



【性別　介護を受けたい場所】



【年齢別　介護を受けたい場所】



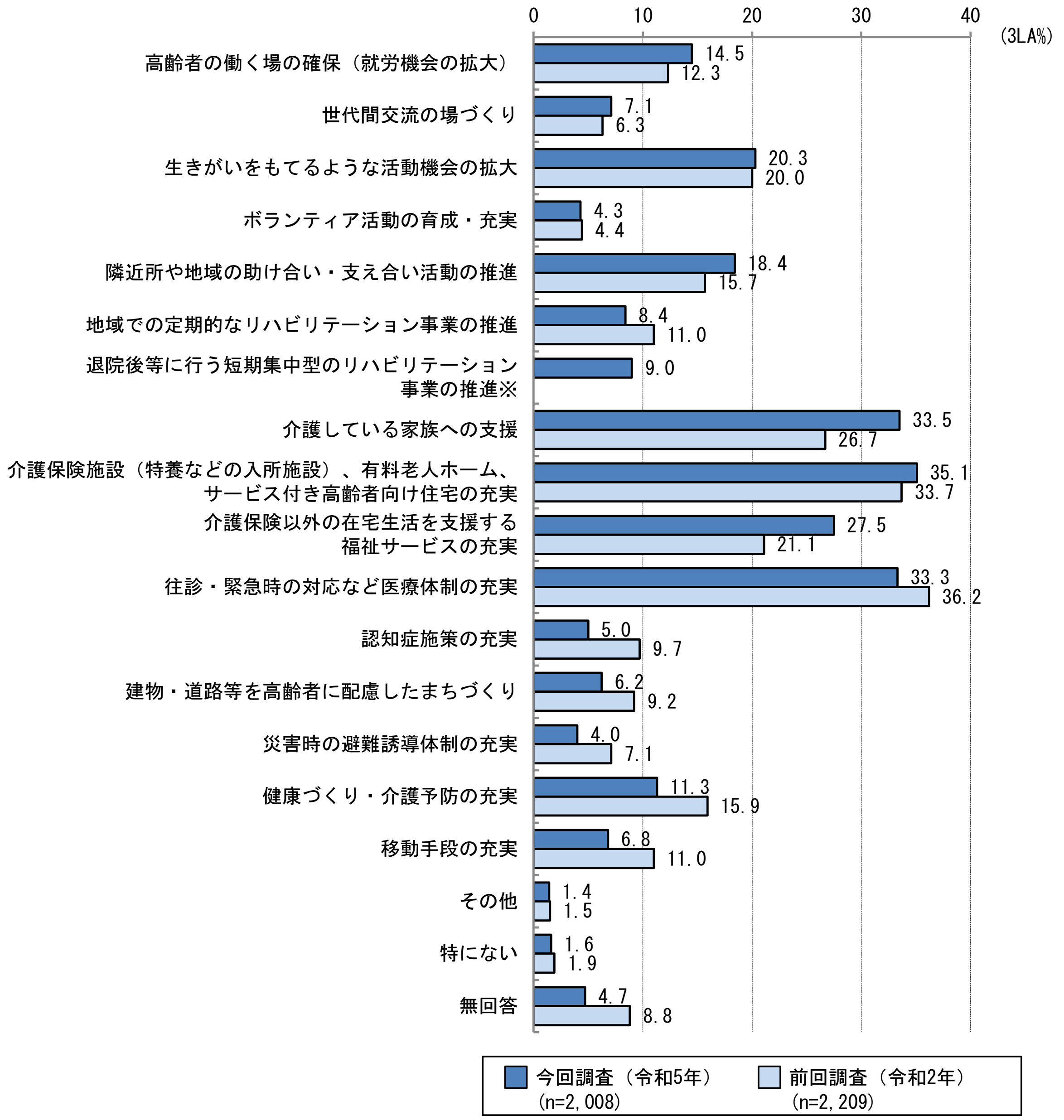
〔3〕高齢者への支援として必要と思うこと

問11（3）　高齢者への支援には、何が必要だと思いますか（○は主なもの3つまで）

高齢者への支援として必要と思うことは、「介護保険施設（特養などの入所施設）、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」が 35.1%と最も多く、次いで、「介護している家族への支援」が 33.5%、「往診・緊急時の対応など医療体制の充実」が 33.3%となっています。前回調査に比べて、「介護している家族への支援」が 6.8 ポイント、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」が 6.4 ポイント増加しています。

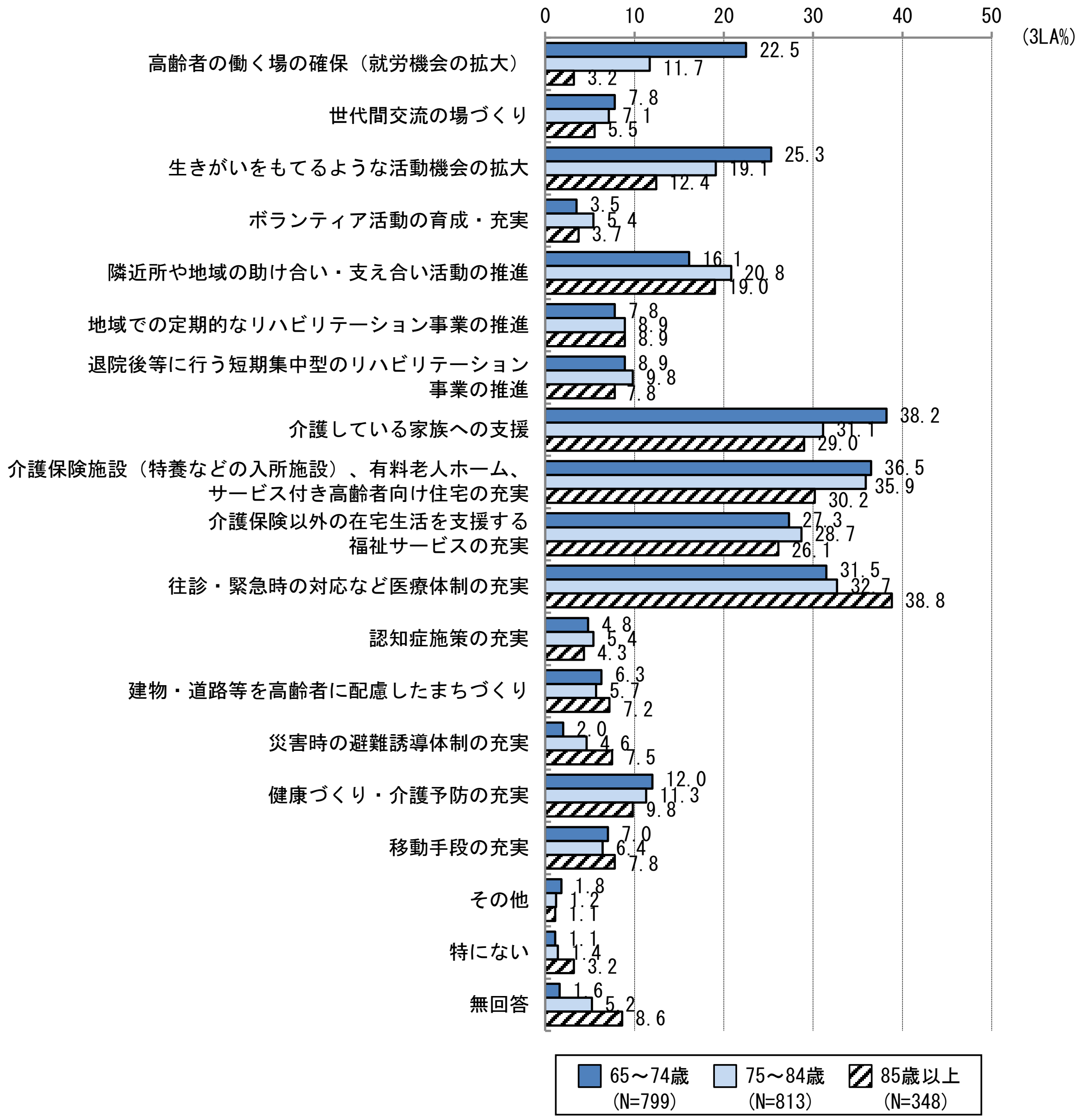
どの属性も上位 3 項目は上の 3 つに集中していますが、それ以外では、年齢別にみると 65～74 歳で、「高齢者の働く場の確保」、「生きがいをもてるような活動機会の拡大」が他の区分に比べて多くなっています。

認定状況別にみると、要支援認定者で「地域での定期的なリハビリテーション事業の推進」が、一般高齢者に比べて多くなっています。

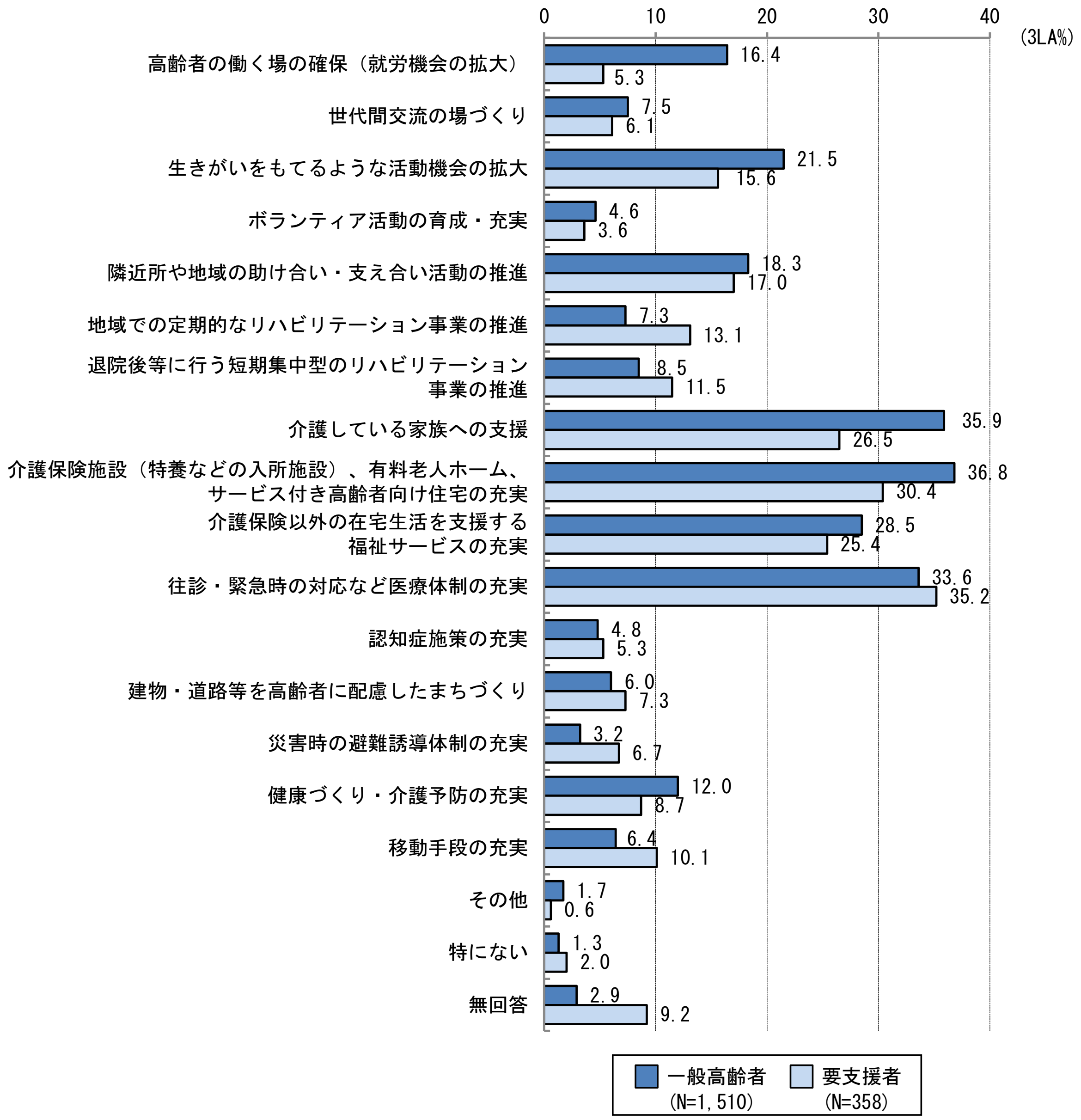


※前回調査では、選択肢なし

【年齢別　高齢者への支援として必要と思うこと】



【認定状況別　高齢者への支援として必要と思うこと】



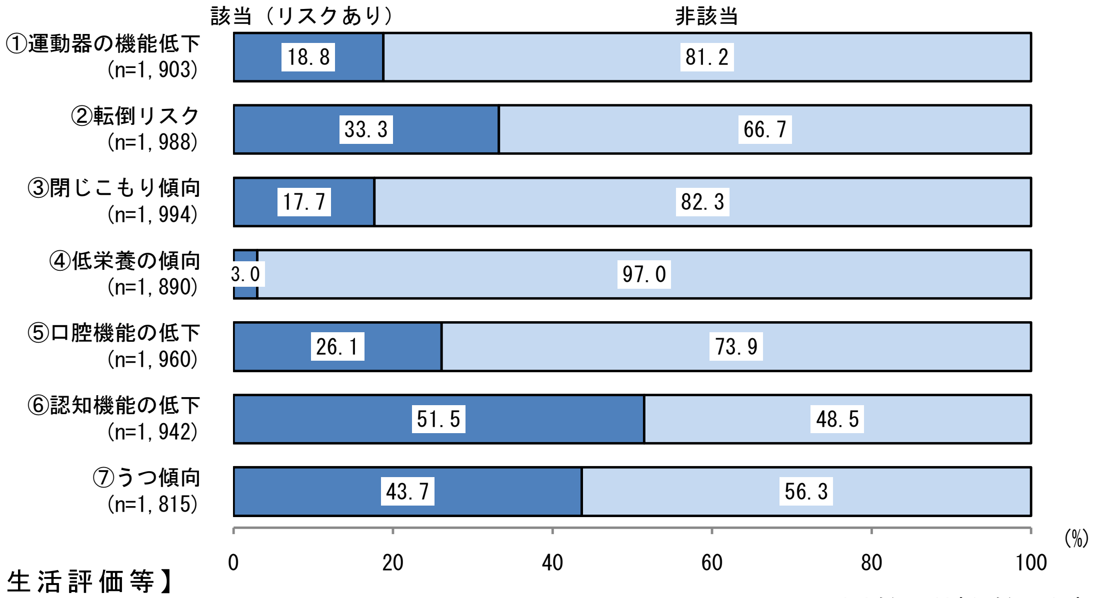
12　生活機能評価等に関する分析

本調査は、地域における高齢者の課題や必要な支援・サービス等をより的確に把握するため、国が示す「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の調査項目を取り入れており、介護予防事業の「基本チェックリスト」や「手段的自立度（ＩＡＤＬ）」などの指標の判定に関する調査項目が設定されています。

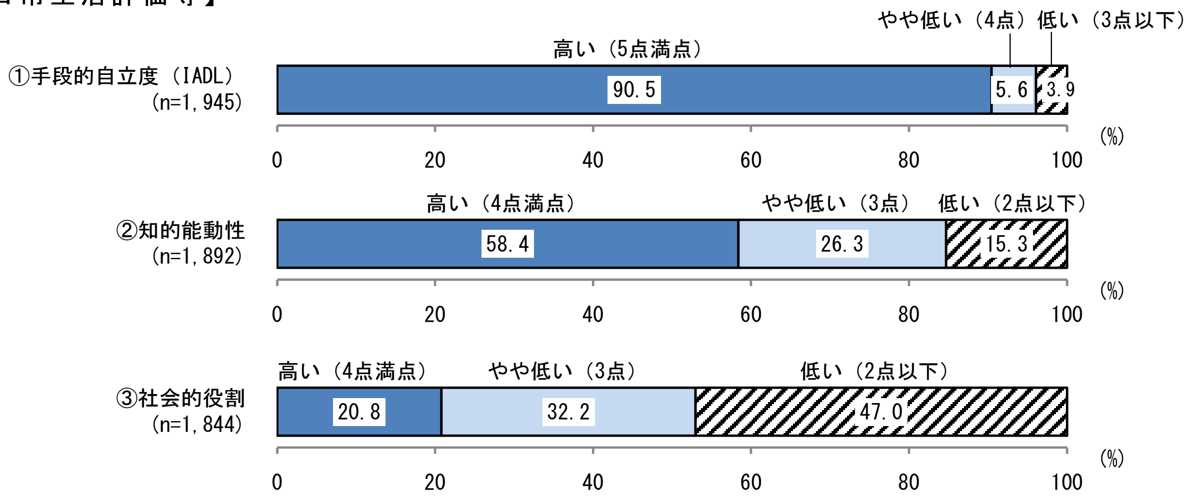
本報告書の『生活機能評価等に関する分析』では、これらの調査項目を使用し、各指標の判定（リスク評価等）を行っています。

一般高齢者、要支援認定者を合わせた全体のリスク評価等については、以下のような結果となっています。機能別のリスク該当者は、『認知機能の低下』が 51.5%と最も多く、次いで、『うつ傾向』が 43.7%となっています。『低栄養の傾向』では該当者は 3.0%と少なくなっています。老研式活動能力指標による評価では、低下者（「やや低い」「低い」の計）に該当する人は、『手段的自立度（ＩＡＤＬ）』で１割弱、『知的能動性』で４割、『社会的役割』で８割弱となっています。

【機能別リスク該当者】



【日常生活評価等】



※無回答により判定・評価困難な場合は、調査数（ｎ数）から除外して集計している。（以下同様）

〔1〕生活機能評価

①運動器の機能低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、５項目のうち３項目以上に該当する人を『運動器の機能低下』のリスク該当者と判定しています。

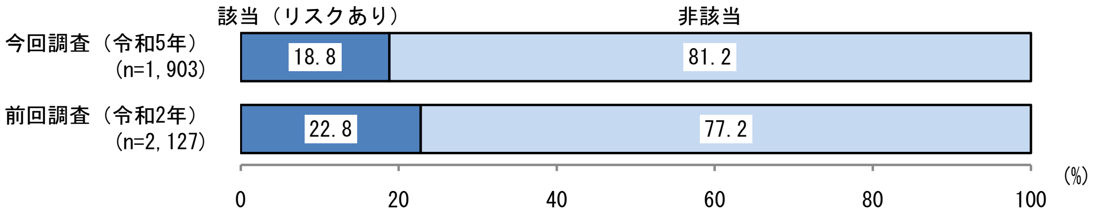
【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
問２	（１）	階段を手すりや壁をつたわらずに昇っていますか	３．できない
	（２）	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	３．できない
	（３）	１５分位続けて歩いていますか	３．できない
	（４）	過去１年間に転んだ経験がありますか	１．何度もある ２．１度ある
	（５）	転倒に対する不安は大きいですか	１．とても不安である ２．やや不安である

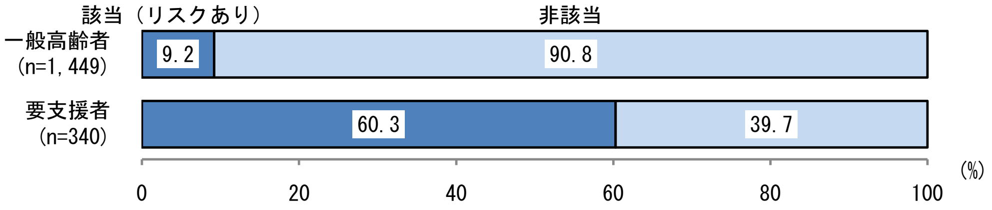
【リスク該当状況】

『運動器の機能低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は18.8%で、前回調査に比べて4.0ポイント減少しています。

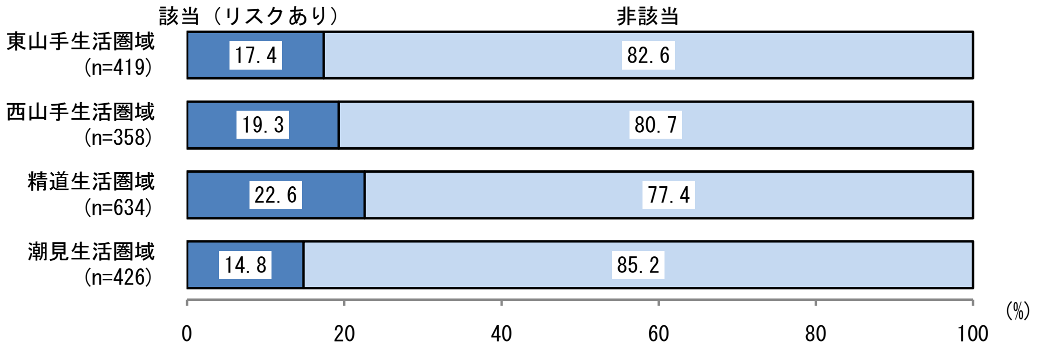
該当者（リスクあり）は要支援認定者で60.3%と多く、居住地域別にみると精道生活圏域で22.6%と、他の地域に比べてやや多くなっています。



【認定状況別　運動器の機能低下】



【居住地域別　運動器の機能低下】



②転倒リスク

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『転倒』のリスク該当者と判定しました。

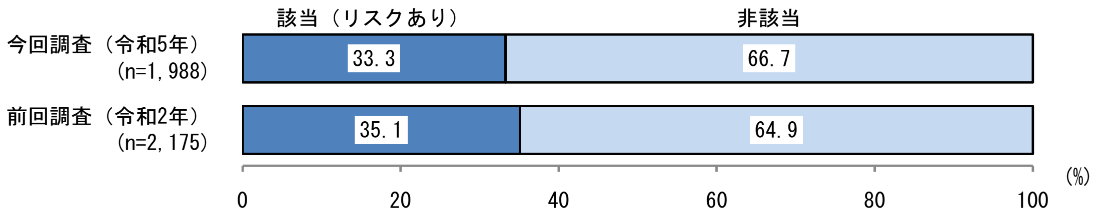
【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
問２	（４）	過去１年間に転んだ経験がありますか	１．何度もある ２．１度ある

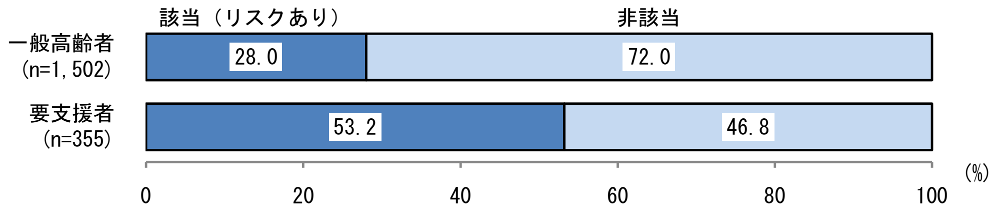
【リスク該当状況】

『転倒リスク』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は 33.3%で、前回調査に比べて 1.8 ポイント減少しています。

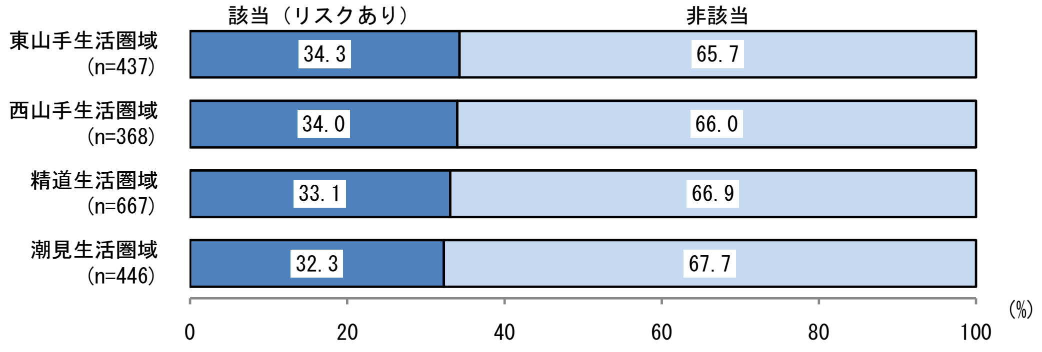
該当者（リスクあり）は要支援認定者で 53.2%と多く、居住地域別には大きな差はみられません。



【認定状況別　転倒リスク】



【居住地域別　転倒リスク】



③閉じこもり傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『閉じこもり傾向』のリスク該当者と判定しました。

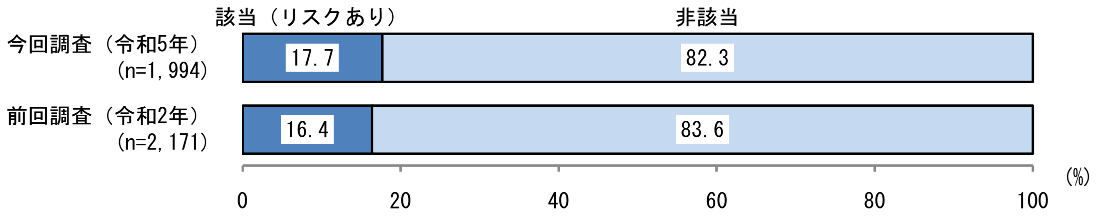
【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
問２	（６）	週に１回以上は外出していますか	１．ほとんど外出しない ２．週１回

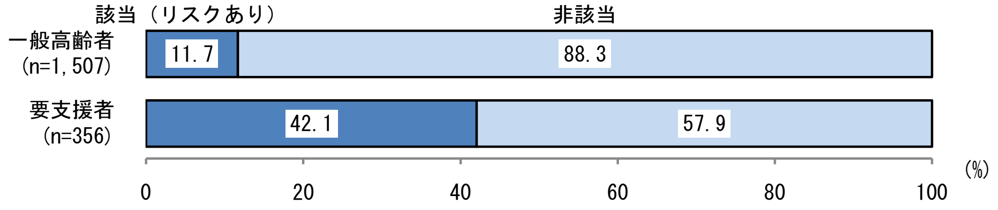
【リスク該当状況】

『閉じこもり傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は 17.7%で、前回調査に比べて 1.3 ポイント増加しています。

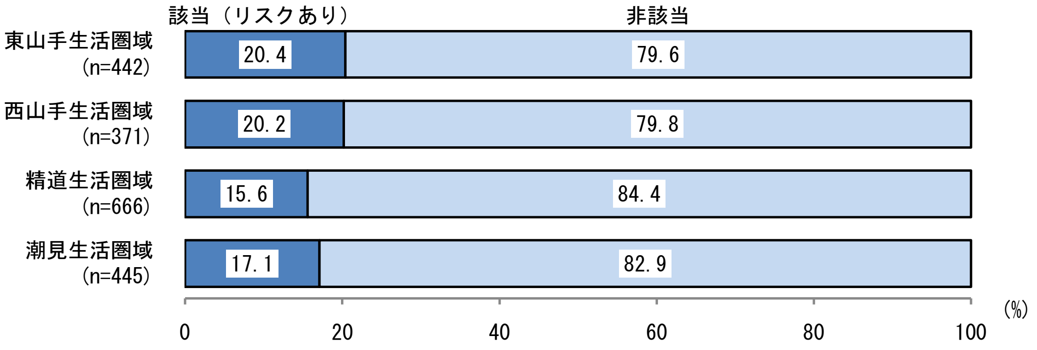
該当者（リスクあり）は要支援認定者で 42.1%と多く、居住地域別には東山手生活圏域、西山手生活圏域でやや多くなっています。



【認定状況別　閉じこもり傾向】



【居住地域別　閉じこもり傾向】



④低栄養の傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、２項目ともに該当する人を『低栄養の傾向』のリスク該当者と判定しました。

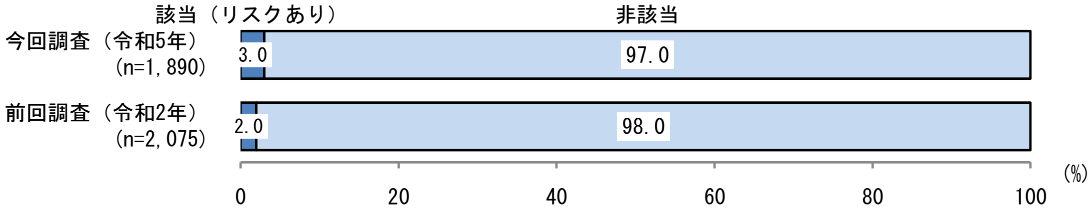
【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
問４	（１）	身長・体重を記入ください	ＢＭＩ18.5 未満
	（２）	６か月間で２～３kg 以上の体重減少がありましたか	１．はい

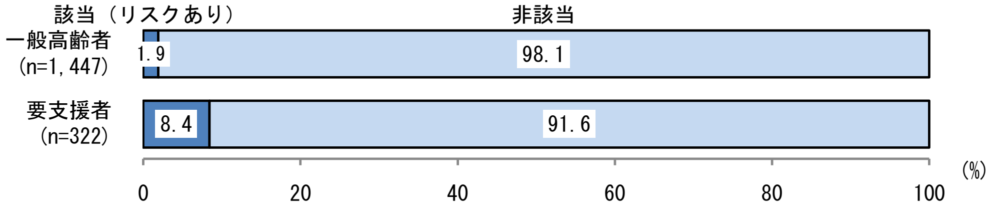
【リスク該当状況】

『低栄養の傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は 3.0％で、前回調査に比べて 1.0 ポイント増加しています。

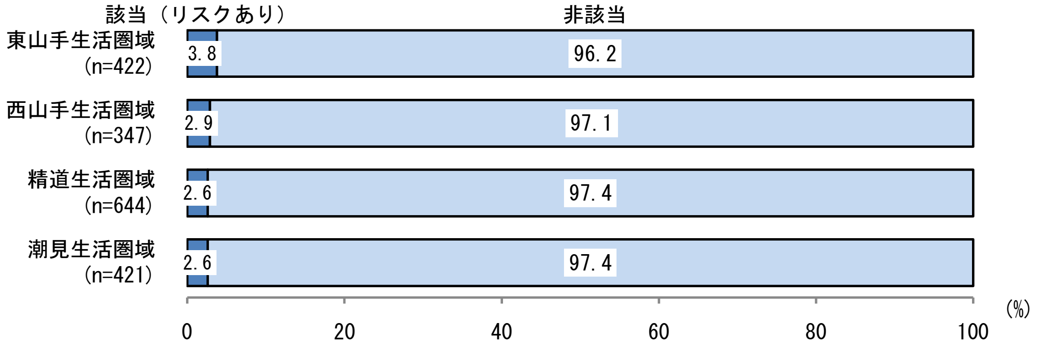
該当者（リスクあり）は要支援認定者で 8.4％と一般高齢者に比べて多く、居住地域別には東山手生活圏域で 3.8％とやや多くなっています。



【認定状況別　低栄養の傾向】



【居住地域別　低栄養の傾向】



⑤口腔機能の低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、３項目のうち２項目以上に該当する人を『口腔機能の低下』のリスク該当者と判定しました。

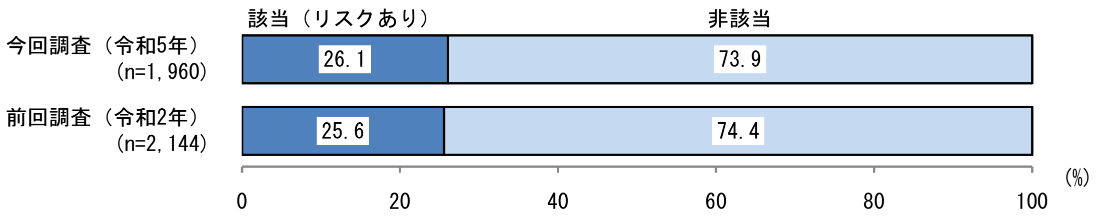
【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
問４	（３）	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	１．はい
	（４）	お茶や汁物等でむせることがありますか	１．はい
	（５）	口の渇きが気になりますか	１．はい

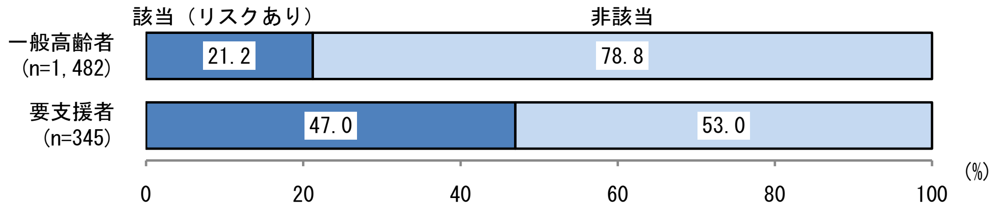
【リスク該当状況】

『口腔機能の低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は 26.1％で、前回調査とほぼ同じ結果となっています。

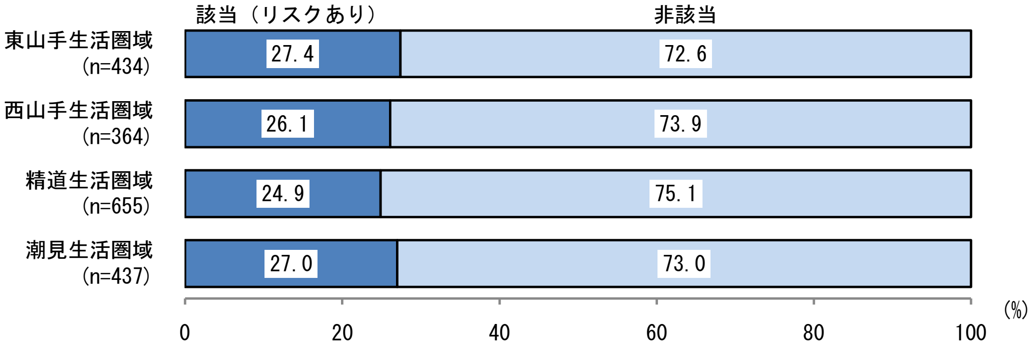
該当者（リスクあり）は要支援認定者で 47.0％と多く、居住地域別には東山手生活圏域で 27.4％、潮見生活圏域で 27.0％とやや多くなっています。



【認定状況別　口腔機能の低下】



【居住地域別　口腔機能の低下】



⑥認知機能の低下

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を『認知機能の低下』のリスク該当者と判定しました。

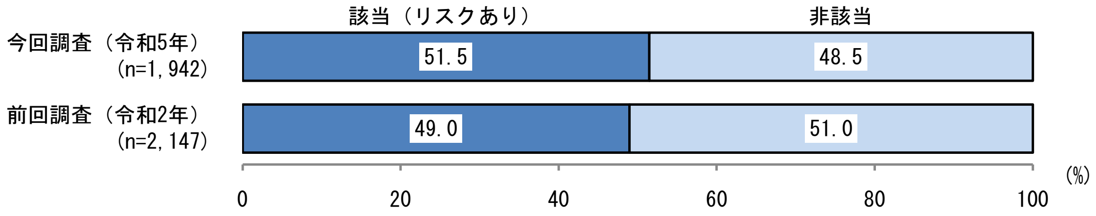
【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
問５	（１）	物忘れが多いと感じますか	１．はい

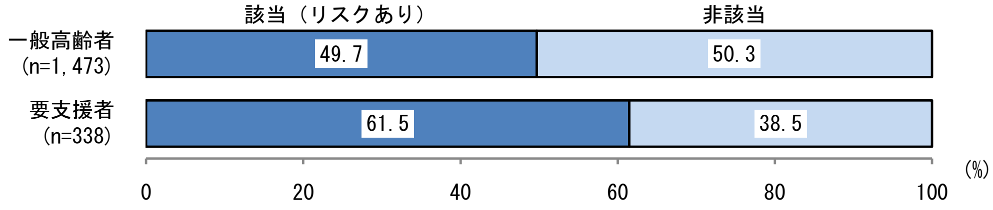
【リスク該当状況】

『認知機能の低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は51.5%で、前回調査に比べて2.5ポイント増加しています。

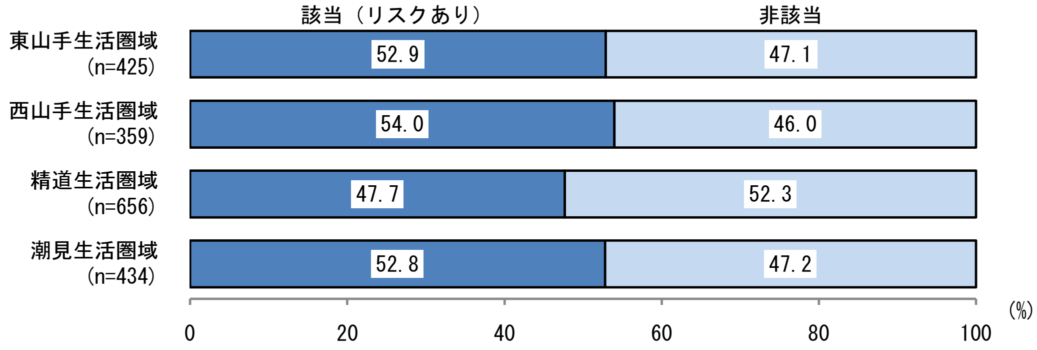
該当者（リスクあり）は要支援認定者で 61.5%と多く、居住地域別には精道生活圏域で47.7%と、他の地域に比べてやや少なくなっています。



【認定状況別　認知機能の低下】



【居住地域別　認知機能の低下】



⑦うつ傾向

国の手引きに基づいて、調査票の以下の設問を抽出し、２項目のいずれかに該当する人を『うつ傾向』のリスク該当者と判定しました。

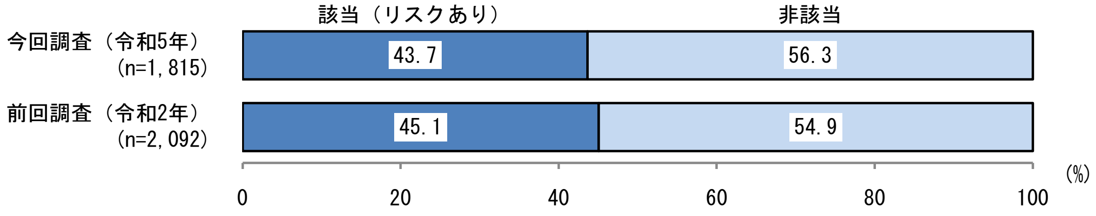
【判定設問】

問番号		設問	該当する選択肢
問８	（３）	この１か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	１．はい
	（４）	この１か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	１．はい

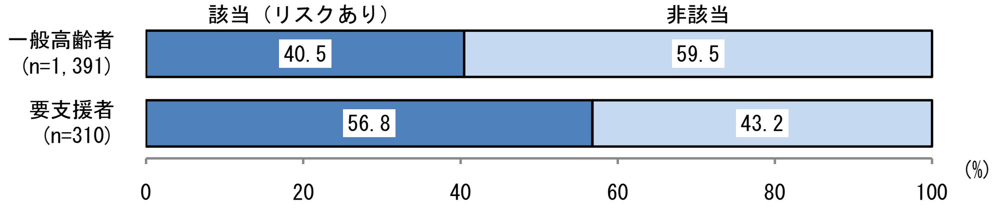
【リスク該当状況】

国の手引きに基づく『うつ傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は 43.7%で、前回調査に比べて 1.4 ポイント減少しています。

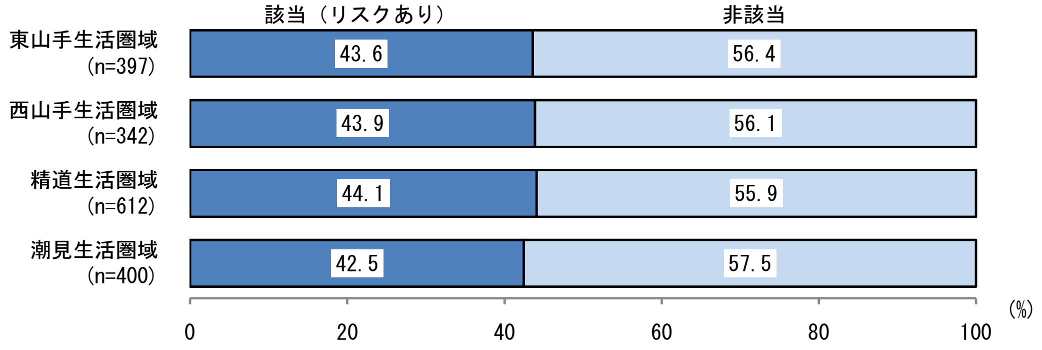
該当者（リスクあり）は要支援認定者で 56.8%と多く、居住地域別には大きな差はみられません。



【認定状況別　うつ傾向】



【居住地域別　うつ傾向】



〔2〕日常生活評価

①手段的自立度（ＩＡＤＬ）

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標に準じた設問に基づき、活動的な日常生活をおくるための能力（手段的自立度：ＩＡＤＬ）が低下している人の状況を把握します。評価は、調査票の以下の設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を“１点”として、５点満点で評価し、５点を「高い」、４点を「やや低い」、３点以下を「低い」（※４点以下を低下者）と評価しました。

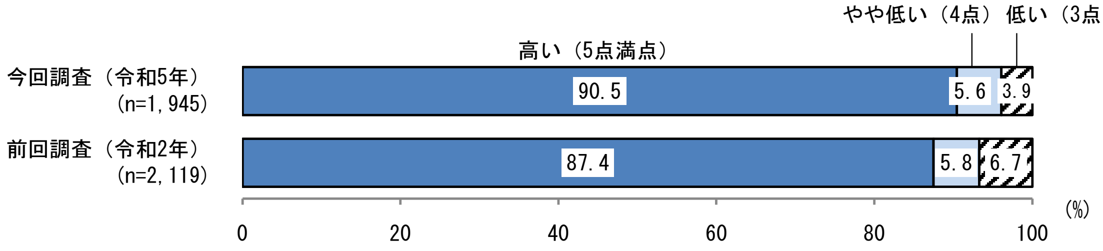
【評価設問】

問番号		設問	該当する選択肢
問５	（４）	バスや電車を使って１人で外出していますか	１．できるし、している（１点） ２．できるけどしていない（１点）
	（５）	自分で食品・日用品の買物をしていますか	１．できるし、している（１点） ２．できるけどしていない（１点）
	（６）	自分で食事の用意をしていますか	１．できるし、している（１点） ２．できるけどしていない（１点）
	（７）	自分で請求書の支払いをしていますか	１．できるし、している（１点） ２．できるけどしていない（１点）
	（８）	自分で預貯金の出し入れをしていますか	１．できるし、している（１点） ２．できるけどしていない（１点）

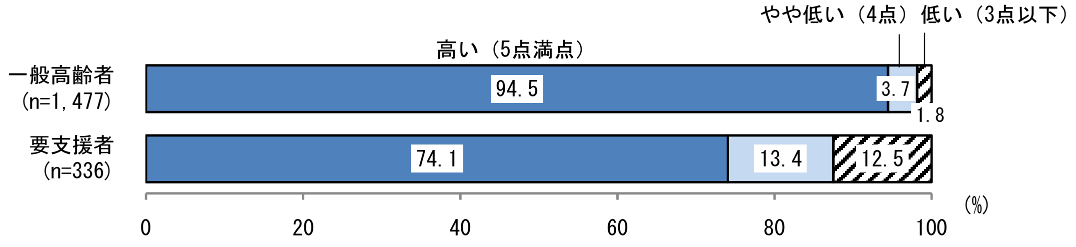
【該当状況】

『手段的自立度（ＩＡＤＬ）』の評価結果をみると、低下者（「やや低い」「低い」の計）は9.5%で、前回調査に比べて3.0ポイント減少しています。

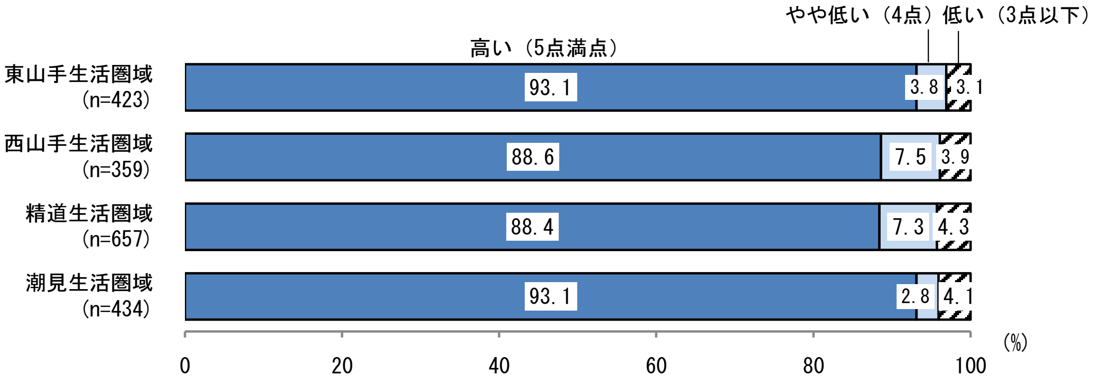
低下者（「やや低い」「低い」の計）は要支援認定者で 25.9%と多く、居住地域別には西山手生活圏域で 11.4%、精道生活圏域で 11.6%とやや多くなっています。



【認定状況別　手段的自立度(IADL)】



【居住地域別　手段的自立度(IADL)】



〔３〕社会参加評価

①知的能動性

老研式活動能力指標には、高齢者の余暇や創作など生活を楽しむ能力に関する設問が『知的能動性』として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握します。評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“１点”として、４点満点で評価し、４点を「高い」、３点を「やや低い」、２点以下を「低い」（※３点以下を低下者）と評価しました。

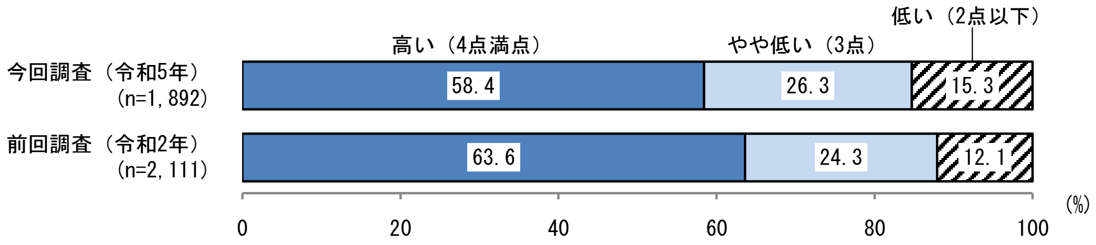
【評価設問】

問番号		設問	該当する選択肢
問５	（９）	年金などの書類が書けますか	１．はい（１点）
	（10）	新聞を読んでいますか	１．はい（１点）
	（11）	本や雑誌を読んでいますか	１．はい（１点）
	（13）	健康についての記事や番組に関心がありますか	１．はい（１点）

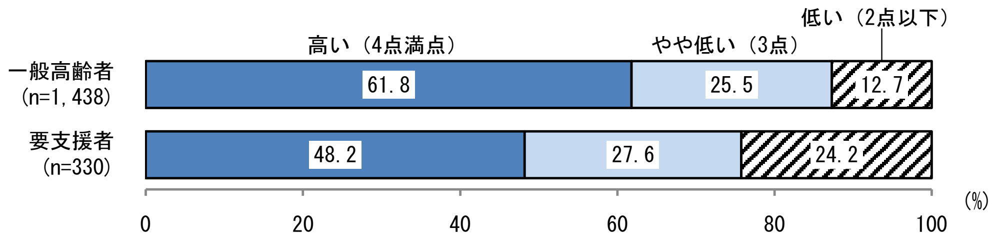
【該当状況】

『知的能動性』の評価結果をみると、低下者（「やや低い」「低い」の計）は 41.6%で、前回調査に比べて 5.2 ポイント増加しています。

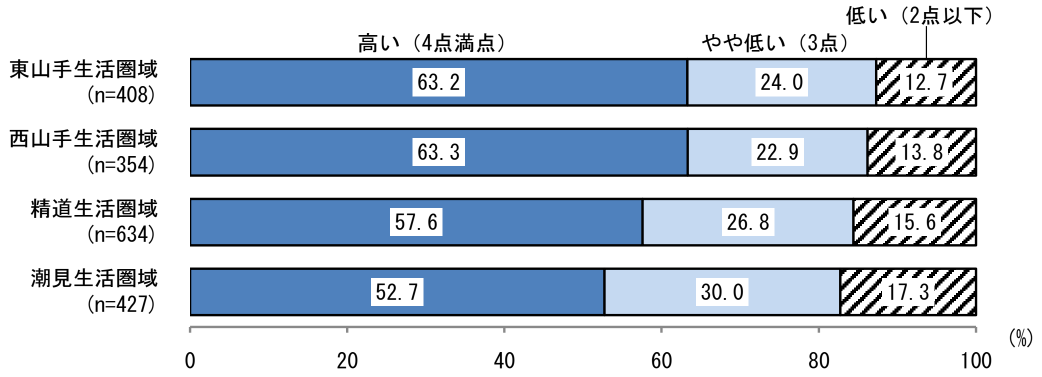
低下者（「やや低い」「低い」の計）は要支援認定者で 51.8%と多く、居住地域別には潮見生活圏域で 47.3%と多くなっています。



【認定状況別　知的能動性】



【居住地域別　知的能動性】



②社会的役割

老研式活動能力には、地域で社会的な役割を果たす能力に関する設問が『社会的役割』として尺度化されており、これが低下している人の状況を把握します。評価は、調査票の以下の設問に「はい」と回答した場合を“１点”として、４点満点で評価し、４点を「高い」、３点を「やや低い」、２点以下を「低い」（※３点以下を低下者）と評価しました。

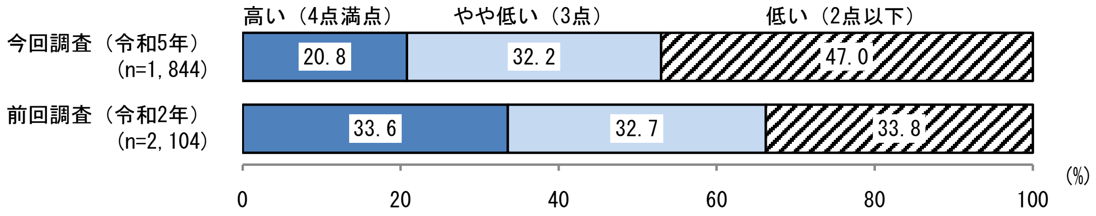
【評価設問】

問番号		設問	該当する選択肢
問５	(14)	友人の家を訪ねていますか	１．はい（１点）
	(15)	家族や友人の相談にのっていますか	１．はい（１点）
	(16)	病人を見舞うことができますか	１．はい（１点）
	(17)	若い人に自分から話しかけることがありますか	１．はい（１点）

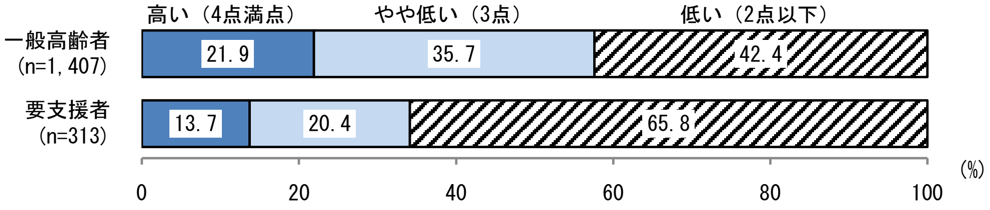
【該当状況】

老研式活動能力指標に基づく『社会的役割』の評価結果をみると、低下者（「やや低い」「低い」の計）は 79.2％で、前回調査に比べて 12.7 ポイント増加しています。

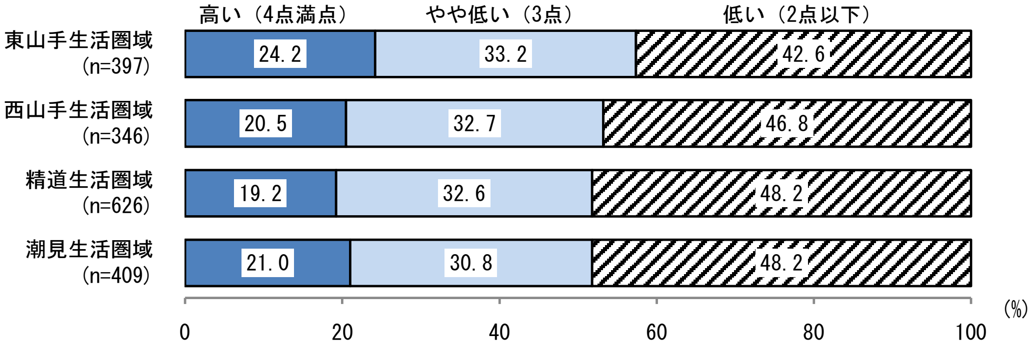
低下者（「やや低い」「低い」の計）は要支援認定者で 86.2％と多く、居住地域別には東山手生活圏域で 75.8％と他の地域に比べてやや少なくなっています。



【認定状況別　社会的役割】



【居住地域別　社会的役割】



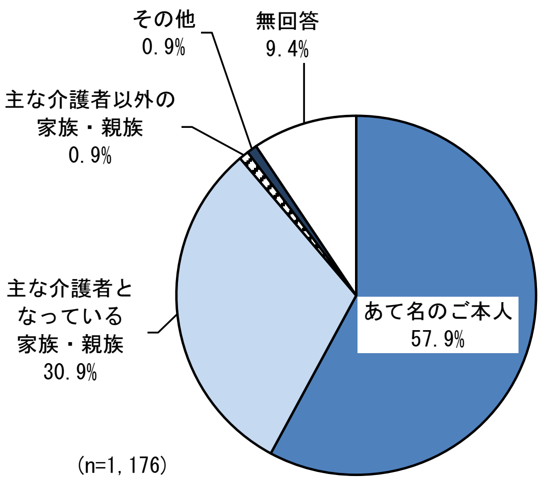
2. 在宅介護実態調査

調査対象者の基本属性

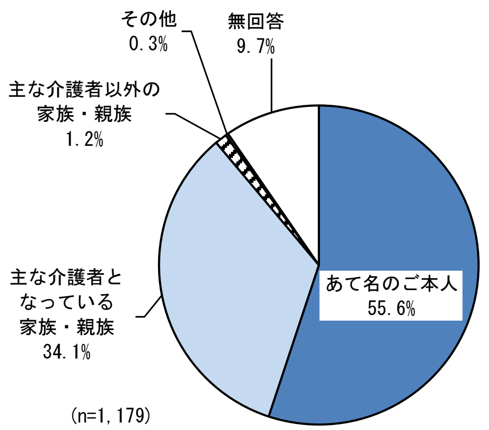
〔1〕調査票の記入者

調査票の記入者については、「あて名のご本人」が 57.9%、「主な介護者となっている家族・親族」が 30.9%、「主な介護者以外の家族・親族」が 0.9%となっています

今回調査



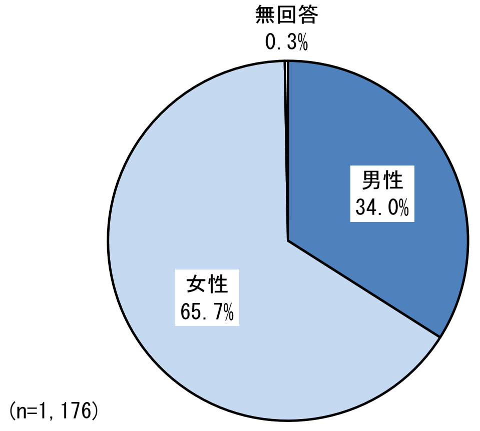
前回調査



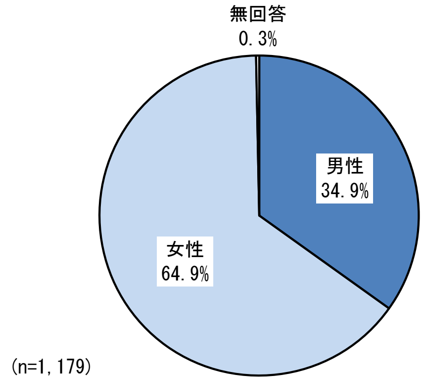
〔2〕調査対象者の性別

性別は、「男性」が 34.0%、「女性」が 65.7%となっています。

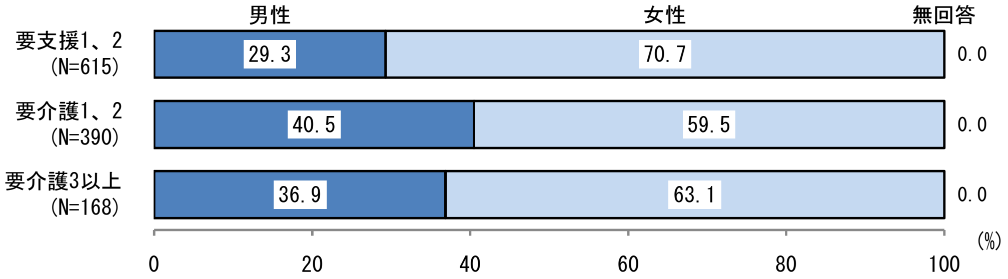
今回調査



前回調査



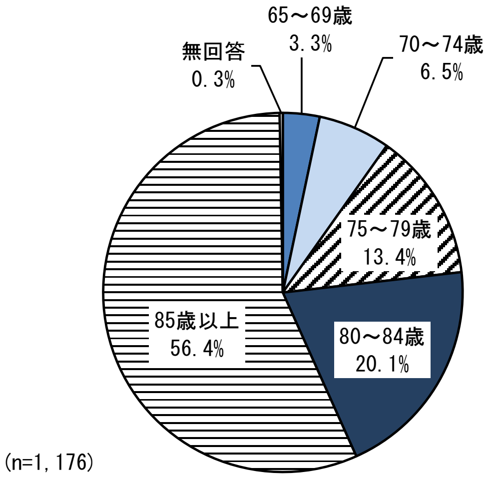
【要介護度別　性別】


男性
女性
無回答
要支援1、2
(N=615)
29.3
70.7
0.0
要介護1、2
(N=390)
40.5
59.5
0.0
要介護3以上
(N=168)
36.9
63.1
0.0
0
20
40
60
80
100
(%)

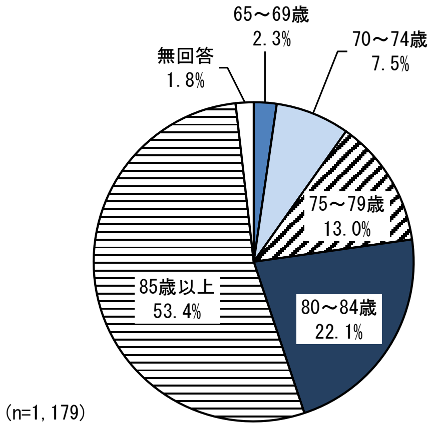
〔3〕調査対象者の年齢

年齢は、「85 歳以上」が 56.4%と最も多く、次いで、「80～84 歳」が 20.1%、「75～79 歳」が 13.4%となっています。65~74 歳の「前期高齢者」が 9.8%、75 歳以上の「後期高齢者」が 89.9%で、前回調査に比べて「後期高齢者」が 1.4 ポイントと微増、とくに、「85 歳以上」が 3.0 ポイント増加しています。

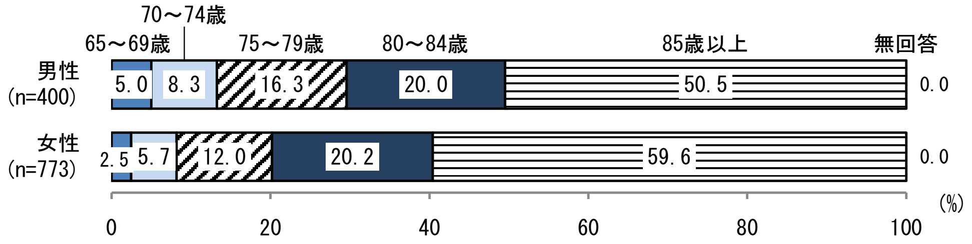
今回調査



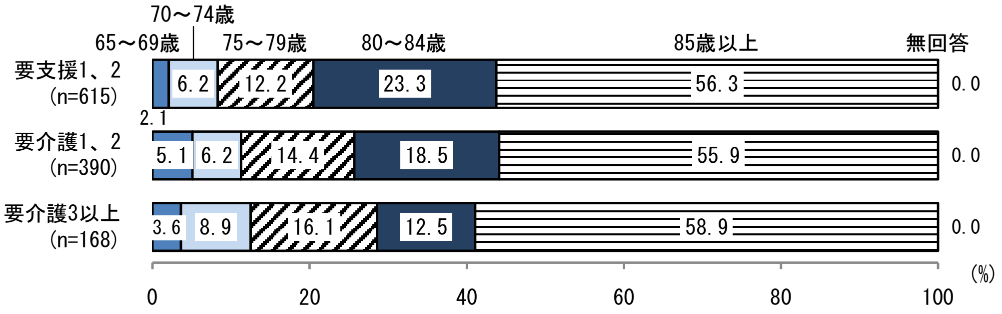
前回調査



【性別　年齢】



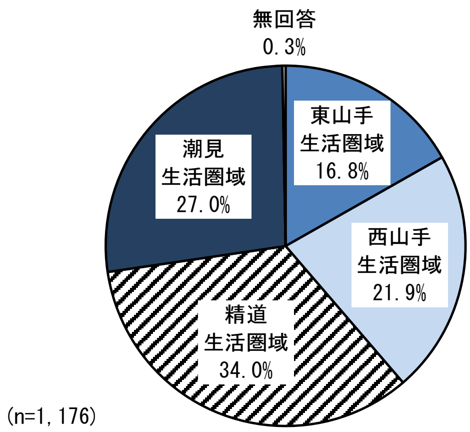
【要介護度別　年齢】



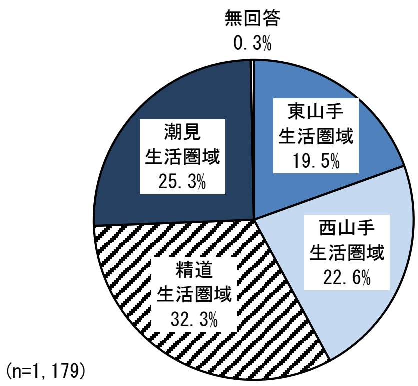
〔4〕調査対象者の居住地域

「精道生活圏域」が 34.0%と最も多く、次いで、「潮見生活圏域」が 27.0%、「西山手生活圏域」が 21.9%、「東山手生活圏域」が 16.8%となっています。

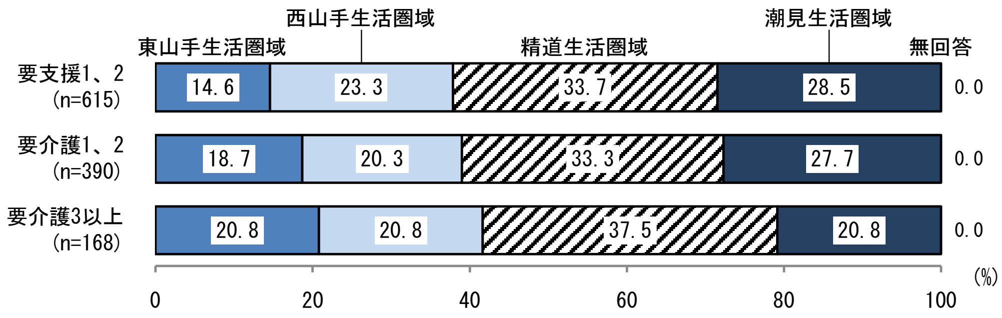
今回調査



前回調査



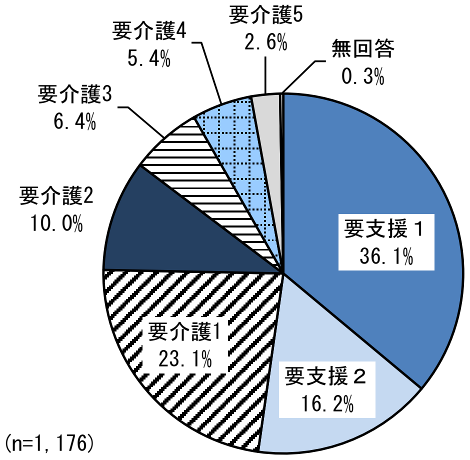
【要介護度別　居住地域】



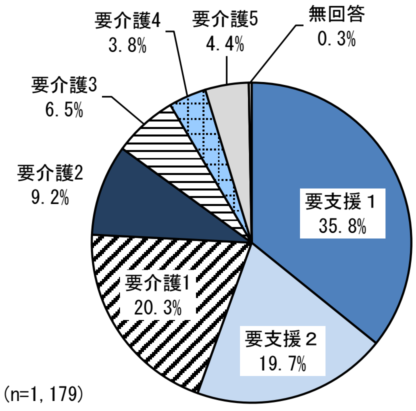
〔5〕調査対象者の要介護度

「要支援 1」が 36.1%と最も多く、次いで、「要介護 1」が 23.1%、「要支援 2」が 16.2%となっています。要介護者は 47.5%で前回調査に比べ、3.3 ポイント増加しています。

今回調査



前回調査



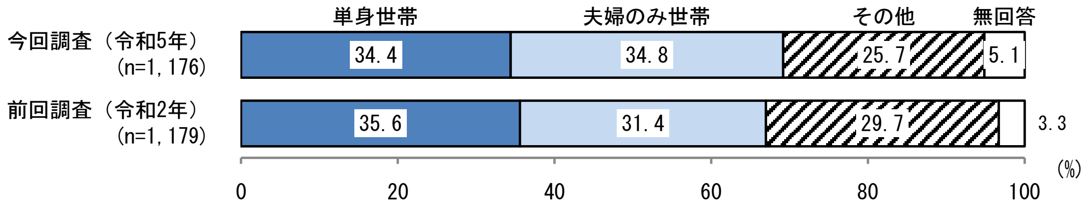
１　調査対象者本人について

〔1〕世帯類型

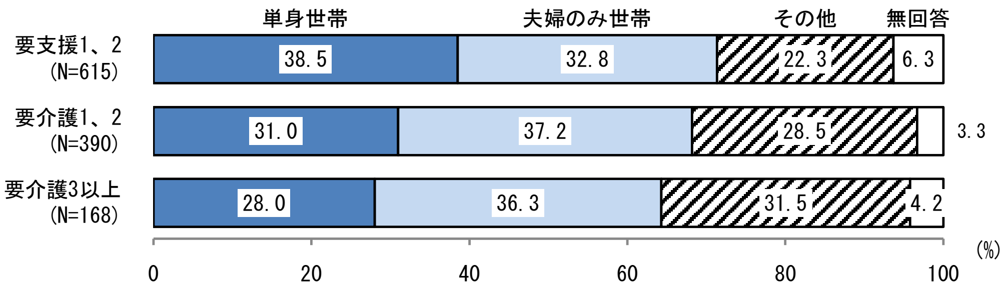
A票　問1　世帯類型について、ご回答ください（1つに○）

単身世帯が34.4%、夫婦のみが世帯が34.8%、その他が25.7%となっています。前回調査に比べ、「夫婦のみ世帯」が3.4ポイント増加しています。

要介護度別にみると、「単身世帯」が要支援１、２で38.5%と多くなっています。



【要介護度別　世帯類型】

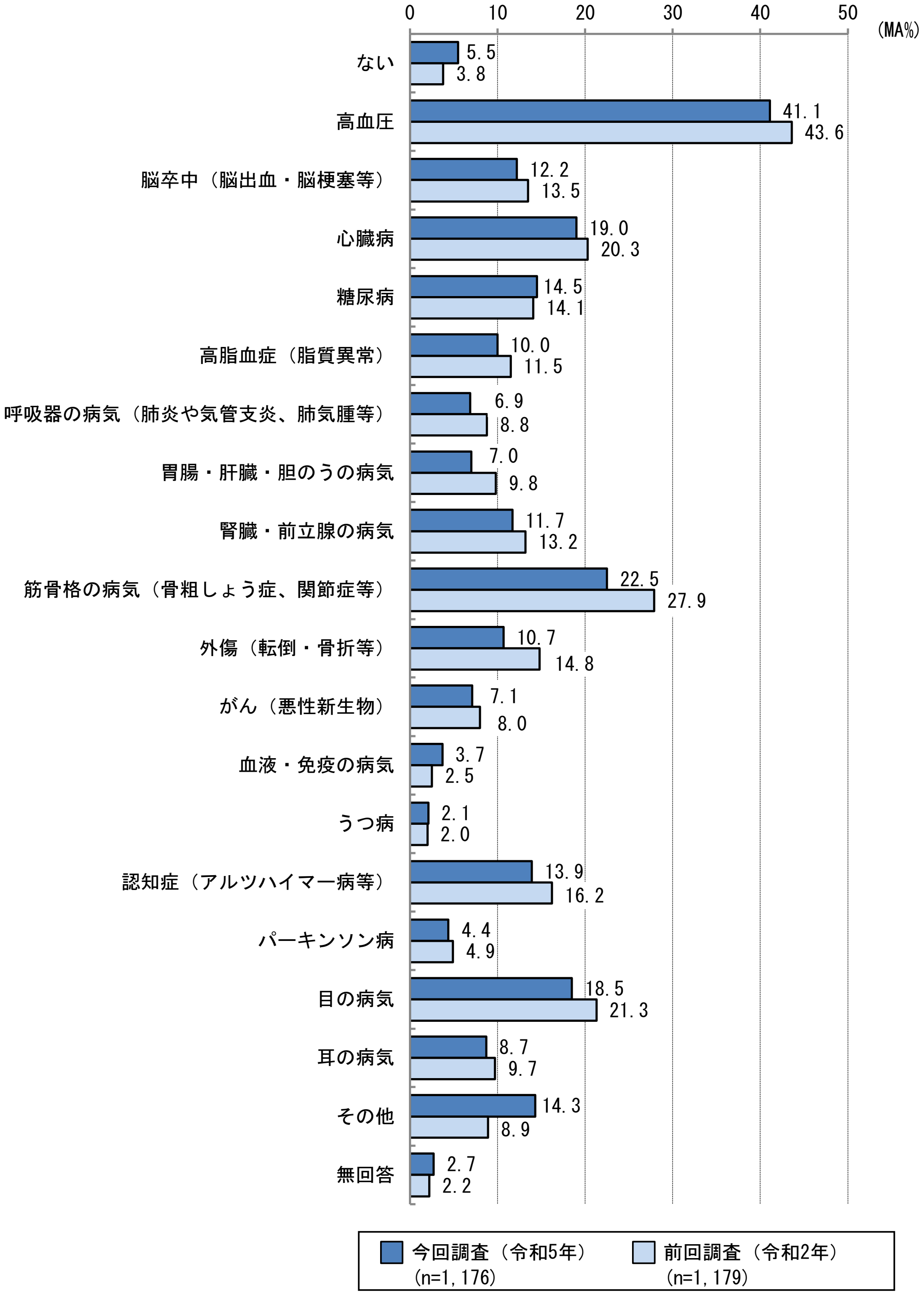


〔2〕治療中・後遺症のある病気

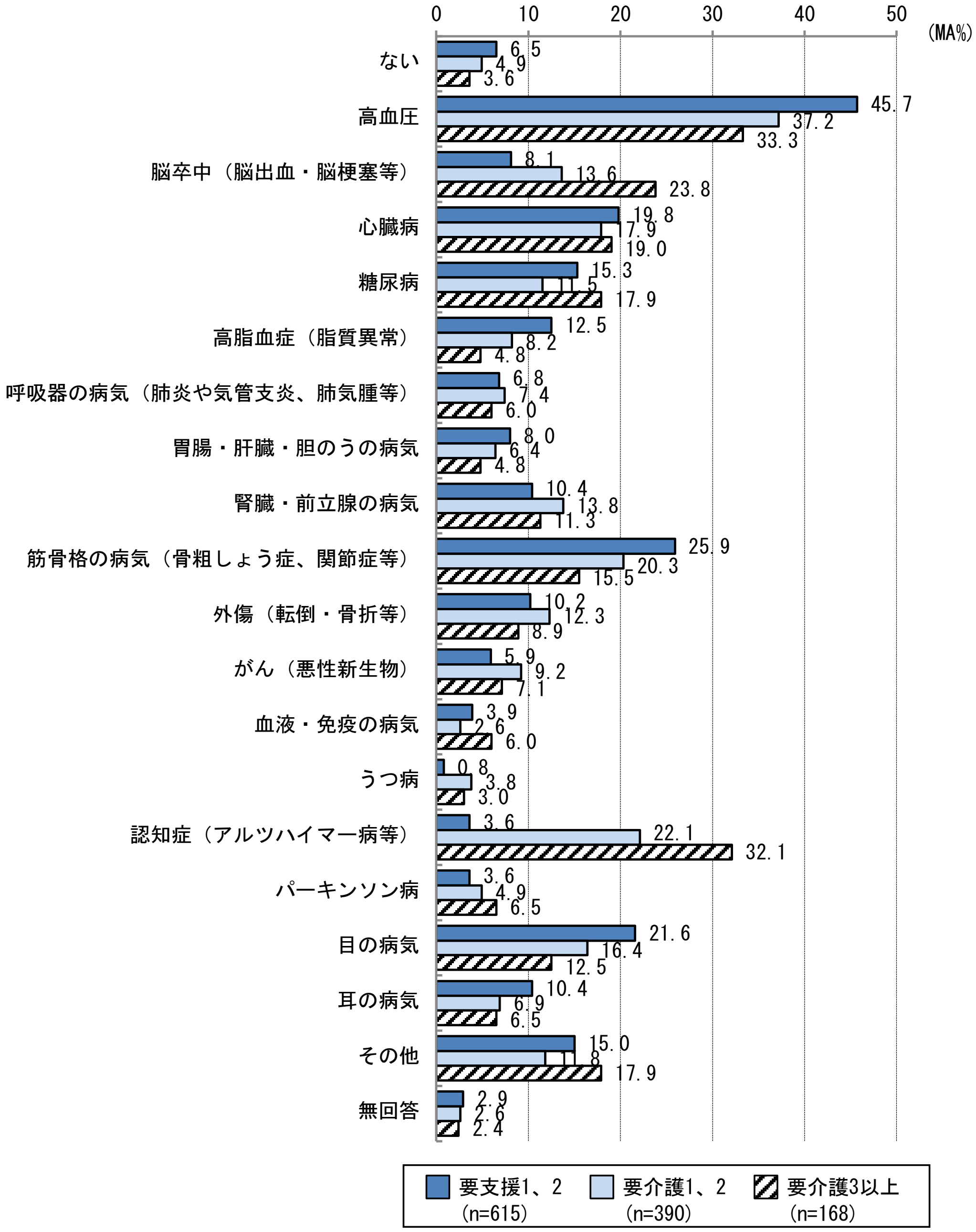
A票　問２　ご本人が現在治療中、または後遺症のある病気はありますか
（○はいくつでも）

治療中や後遺症のある病気については、「高血圧」が 41.1%と最も多く、次いで、「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等」が 22.5%となっています。

要介護度別にみると、要介護３以上で「認知症（アルツハイマー病等）」が 32.1%、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が 23.8%と他の区分より多くなっています。



【要介護度別　治療中・後遺症のある病気】

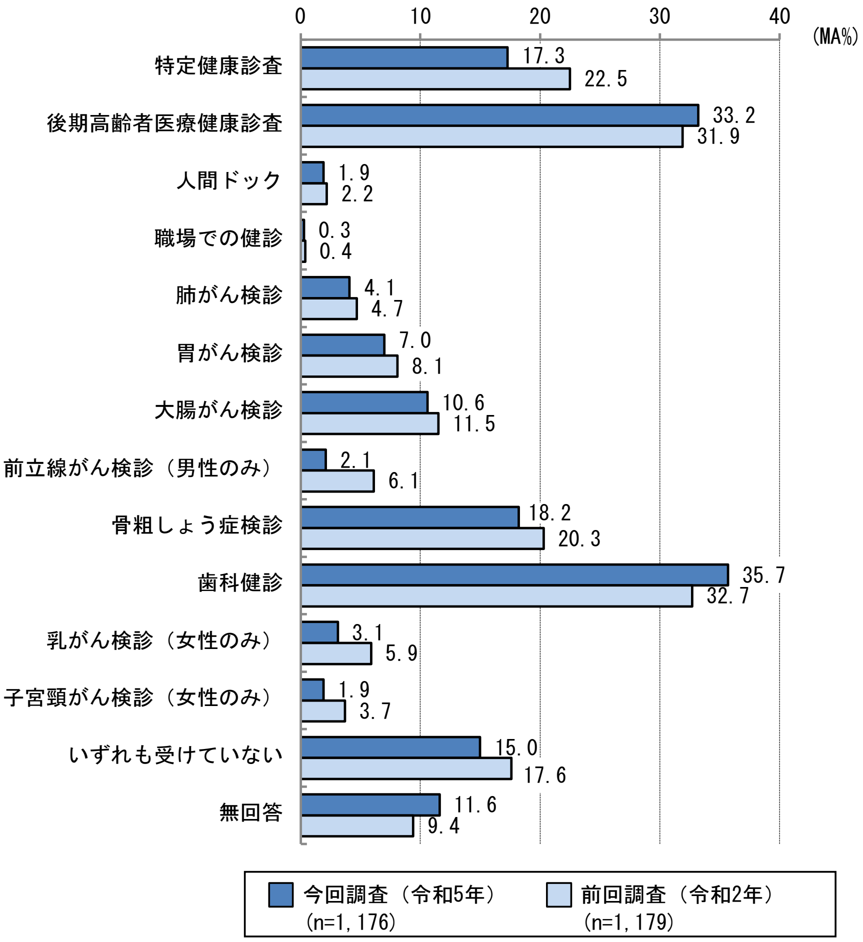


〔3〕定期健診・検診の受診状況

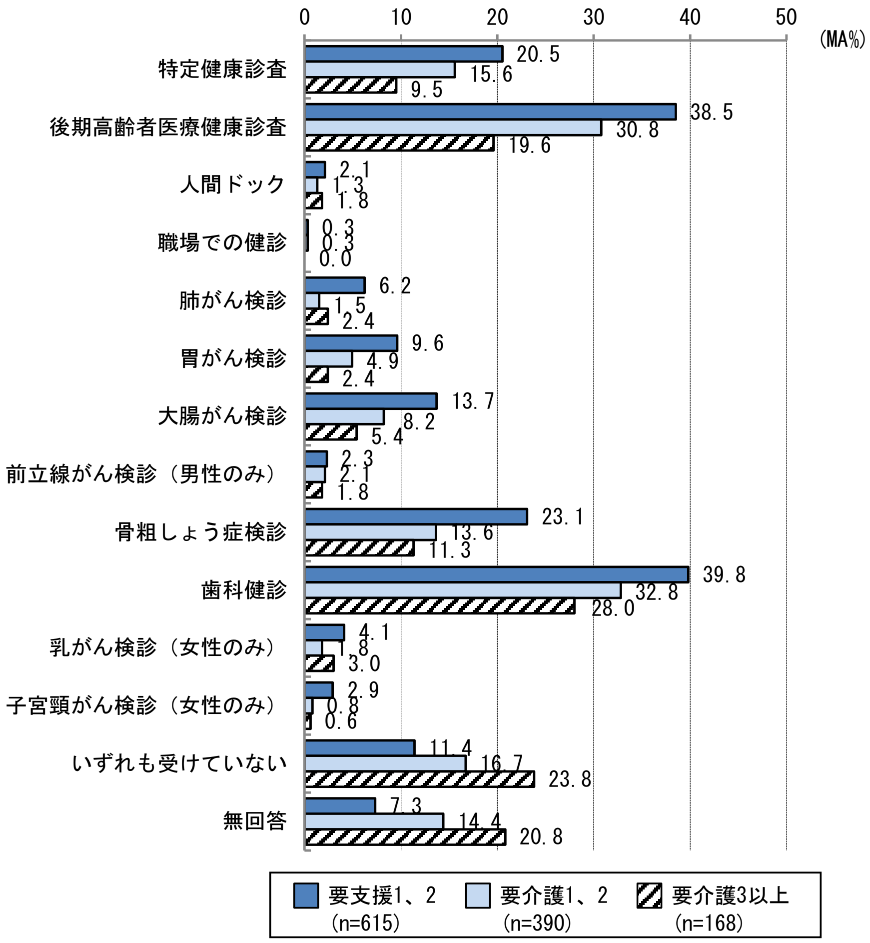
A票　問3　ご本人は、この1年または2年の間に、以下の定期健診・検診を受けていますか　（○はいくつでも） ※過去に受けたことがあっても、1～2年以上前に受けたものは含みません

定期健診・検診の受診状況については、「歯科健診」が 35.7%と最も多く、次いで、「後期高齢者医療健康診査」が 33.2%、「骨粗しょう症検診」が 18.2%となっています。前回調査に比べ、「特定健康診査」が 5.2 ポイント減少し、「歯科健診」が 3.0 ポイント増加しています。

要介護度別にみると、ほぼすべての項目で要支援１、２が多くなっています。



【要介護度別　定期健診・検診の受診状況】

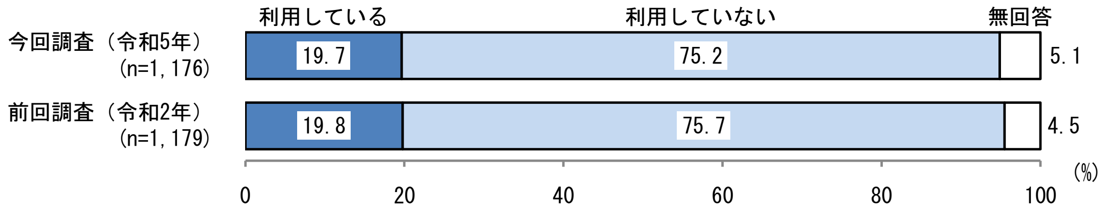


〔4〕訪問診療利用状況

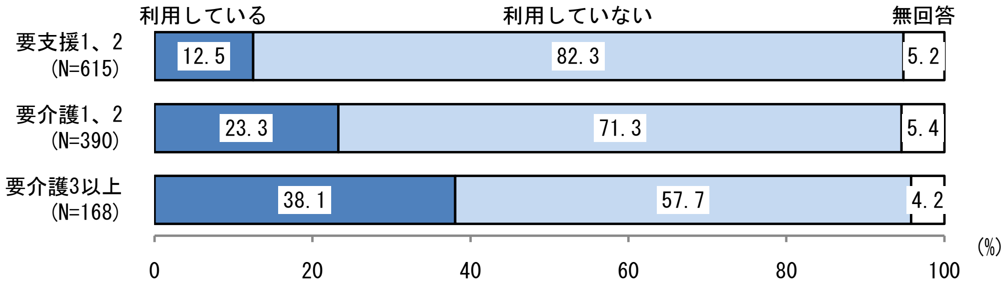
A票　問4　ご本人は、現在、訪問診療を利用していますか（1つに○）
※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません

訪問診療を「利用している」は 19.7%で、前回同様の結果となっています。

要介護度別にみると、訪問診療を「利用している」は要介護３以上で 38.1%と多くなっています。



【要介護度別　訪問診療利用状況】



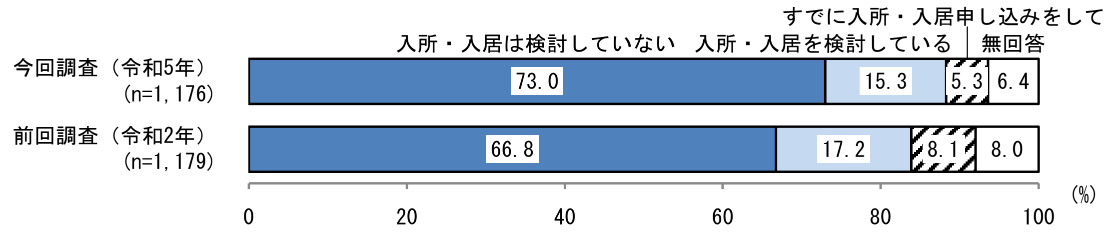
〔5〕施設等入所の検討状況

A票　問5　現時点での施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（1つに○）

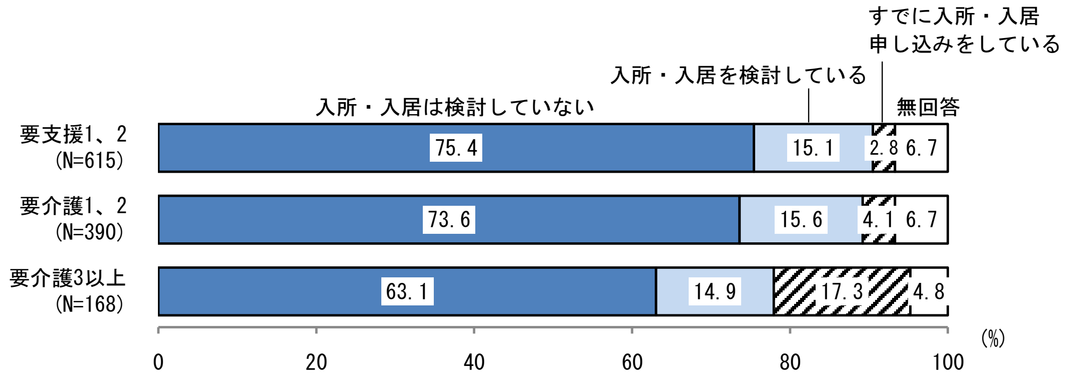
※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します

施設等への「入所・入居を検討している」は 15.3%、「すでに入所・入居申し込みをしている」は 5.3%で、入所・入居の意向がある人は合計 20.6%で、前回調査に比べて 4.7 ポイント減少しています。

要介護度別にみると、入所・入居の意向がある人は要支援 1 、2 、要介護 1 、2 で 2 割弱、要介護 3 以上では 3 割強となっています。



【要介護度別　入所・入居の検討状況】

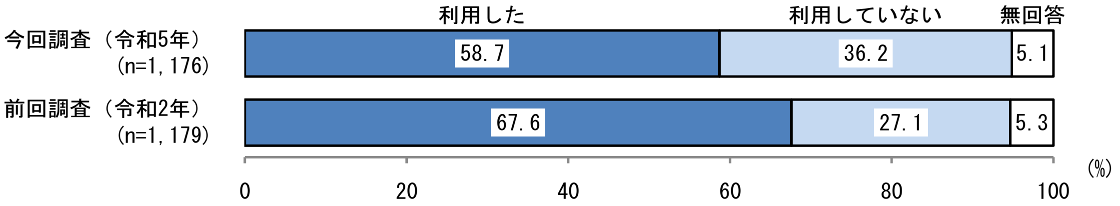


〔6〕介護保険サービスの利用状況

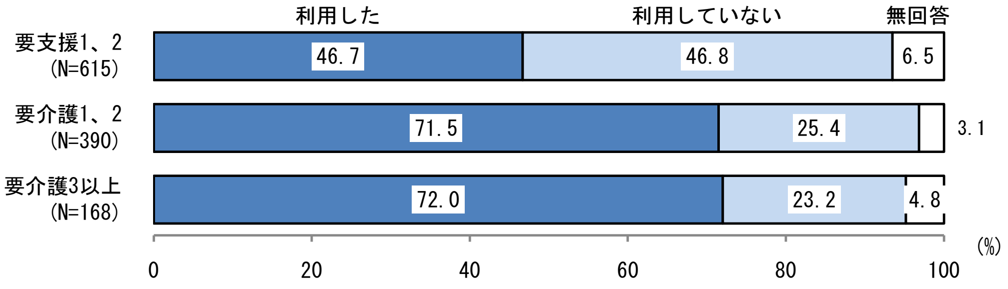
A票　問6　ご本人は、令和5年1月の1か月の間に（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用しましたか　（1つに○）

令和５年１月の１か月間の、介護保険サービスの利用状況については、「利用した」が 58.7%、「利用していない」が 36.2%で、前回調査に比べて「利用した」は 8.9 ポイント減少しています。

要介護度別にみると、「利用した」は要支援１、２で５割弱、要介護認定者で７割強となっています。



【要介護度別　介護保険サービスの利用状況】

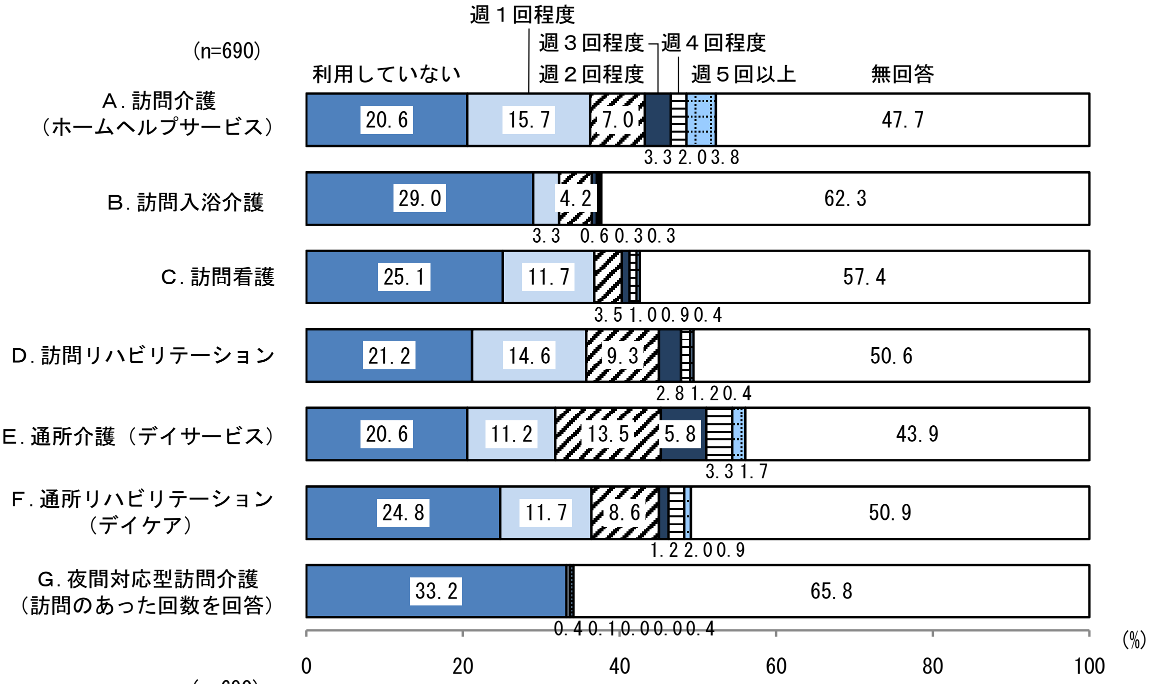


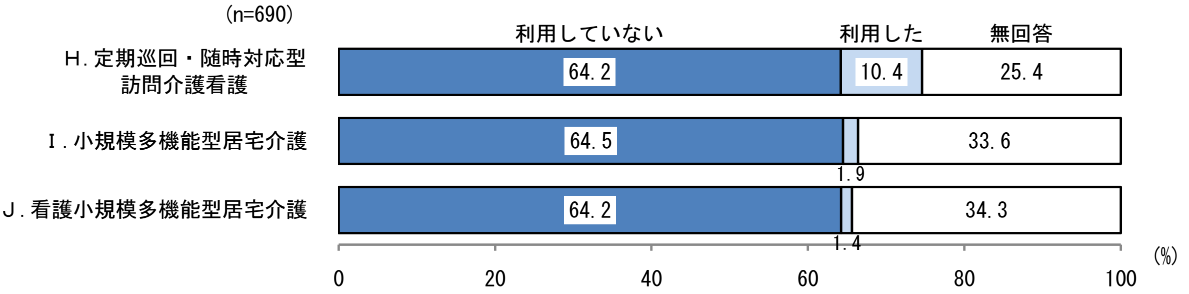
【問6で「1.利用した」と回答した方のみ】

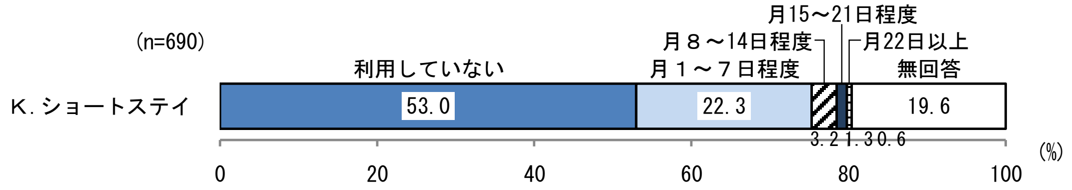
A票 問6-1 以下の介護保険サービスについて、令和5年1月の1ヶ月間の利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は、「利用していない(0回、1.利用していない)を選択してください（それぞれ1つに○）

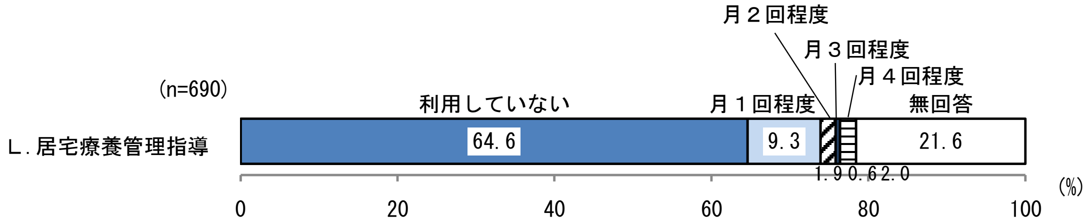
令和５年１月の１か月間の、利用回数について、「Ｅ.通所介護（デイサービス）」で、「週１回程度」から「週５回以上」までを合わせた『利用した』は 35.5%、「週２回程度」の利用が最も多くなっています。次いで、「Ａ.訪問介護（ホームヘルプサービス）」では、『利用した』は 31.8%、「週１回程度」の利用が最も多くなっています。

『利用した』は「Ｈ.定期巡回・随時対応型訪問介護看護」で 10.4%、「Ｋ.ショートステイ」で 27.4%、「Ｌ.居宅療養管理指導」で 13.8%となっており、「Ｉ.小規模多機能型居宅介護」や「Ｊ.看護小規模多機能型居宅介護」では少なくなっています









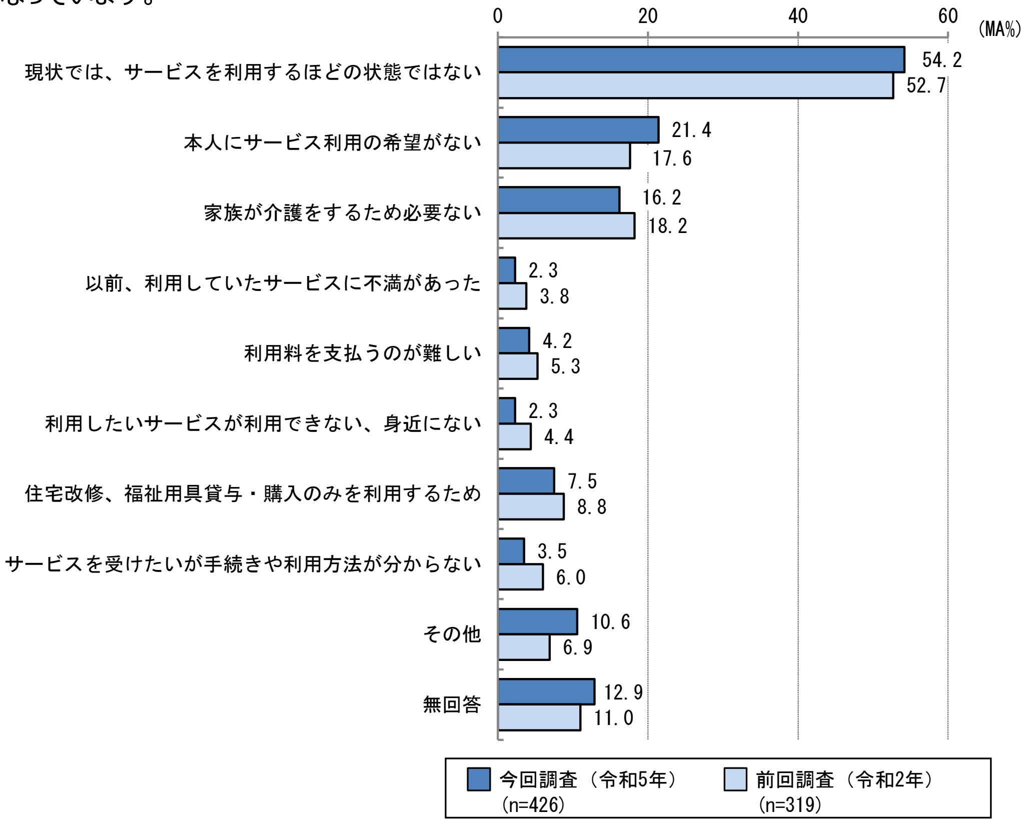
〔７〕介護保険サービス未利用の理由

【問６で「２. 利用していない」とお答えの方のみ】

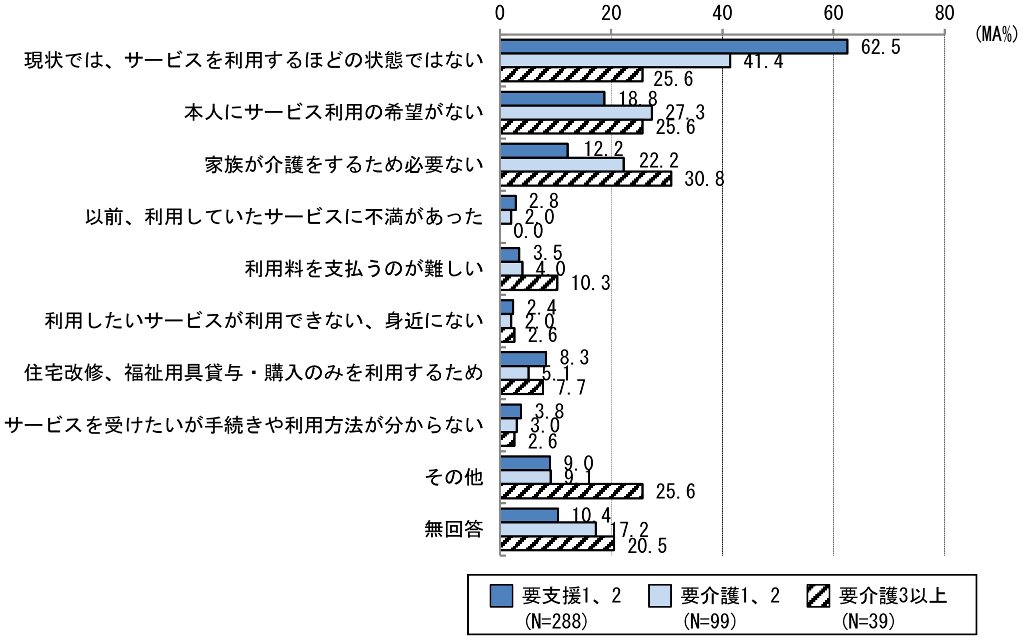
Ａ票　問６-２　介護保険サービスを利用していない理由は何ですか　（○はいくつでも）

介護保険サービス未利用の理由は、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 54.2%と最も多く、次いで、「本人にサービス利用の希望がない」が 21.4%となっています。前回調査に比べて、「本人にサービス利用の希望がない」が 3.8 ポイント増加しています。

要介護度別にみると、「家族が介護をするため必要ない」が要介護 3 以上で 30.8%と他の区分より多くなっています。



【要介護度別　介護保険サービスを利用していない理由】



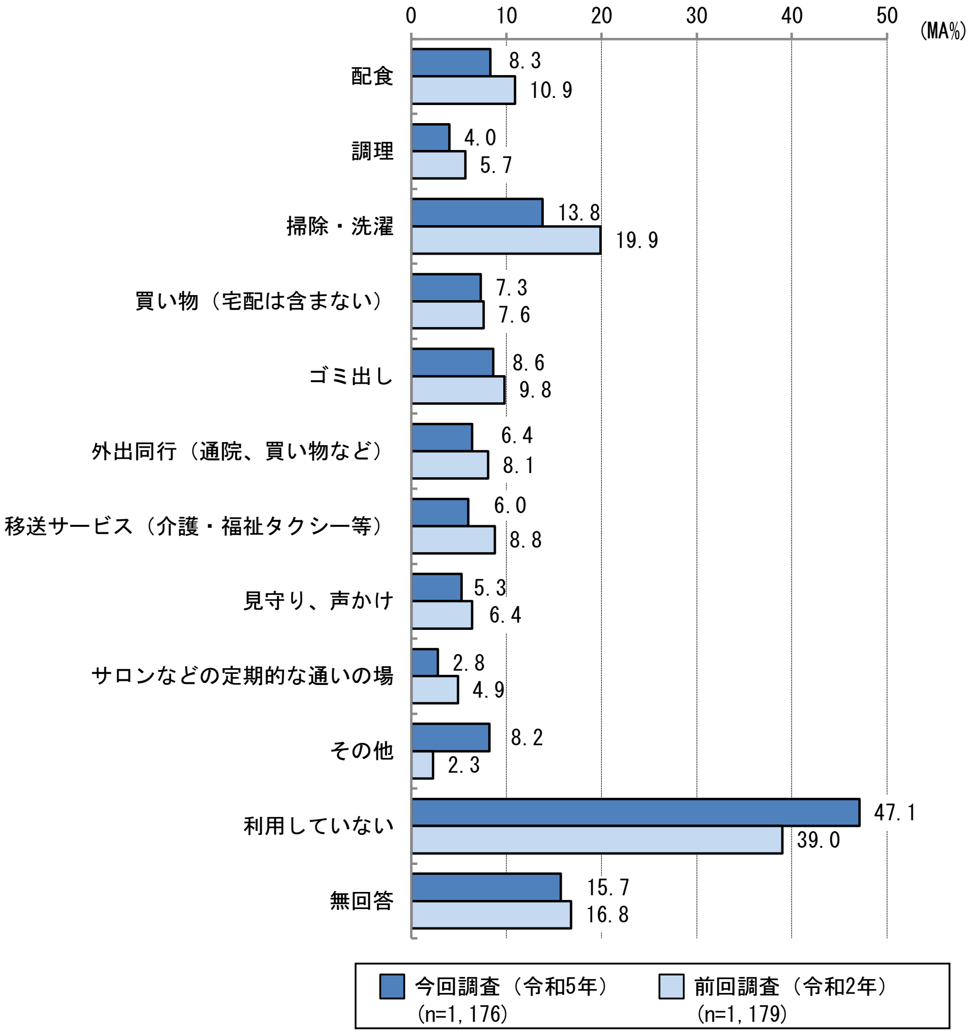
〔８〕介護保険外の支援・サービスについて

A票　問７　現在、ご本人が利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください　（〇はいくつでも）

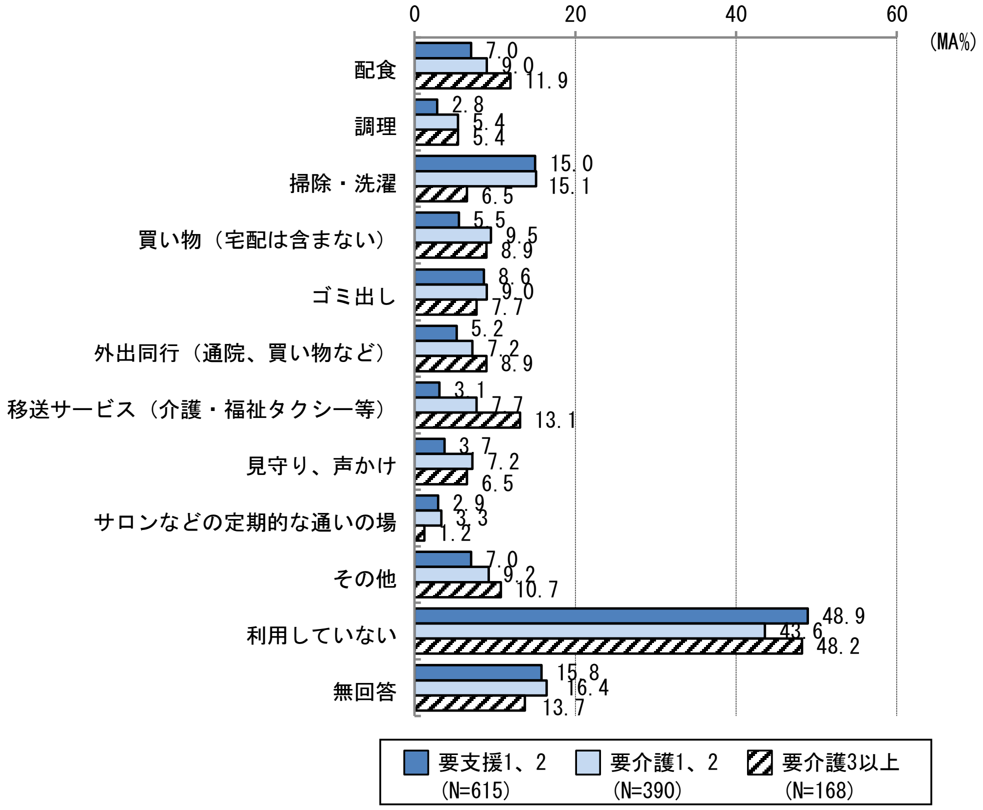
介護保険外の支援・サービスについては、「利用していない」が 47.1%を占めており、前回調査に比べて 8.1 ポイント増加しています。

利用しているサービスでは、「掃除・洗濯」が 13.8%と最も多く、次いで「ゴミ出し」が 8.6%、「配食」が 8.3%となっています。

要介護度別にみると、要支援１、２と要介護 1、2 では「掃除・洗濯」、要介護３以上では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最も多くなっています。



【要介護度別　介護保険以外の支援やサービスの利用状況】

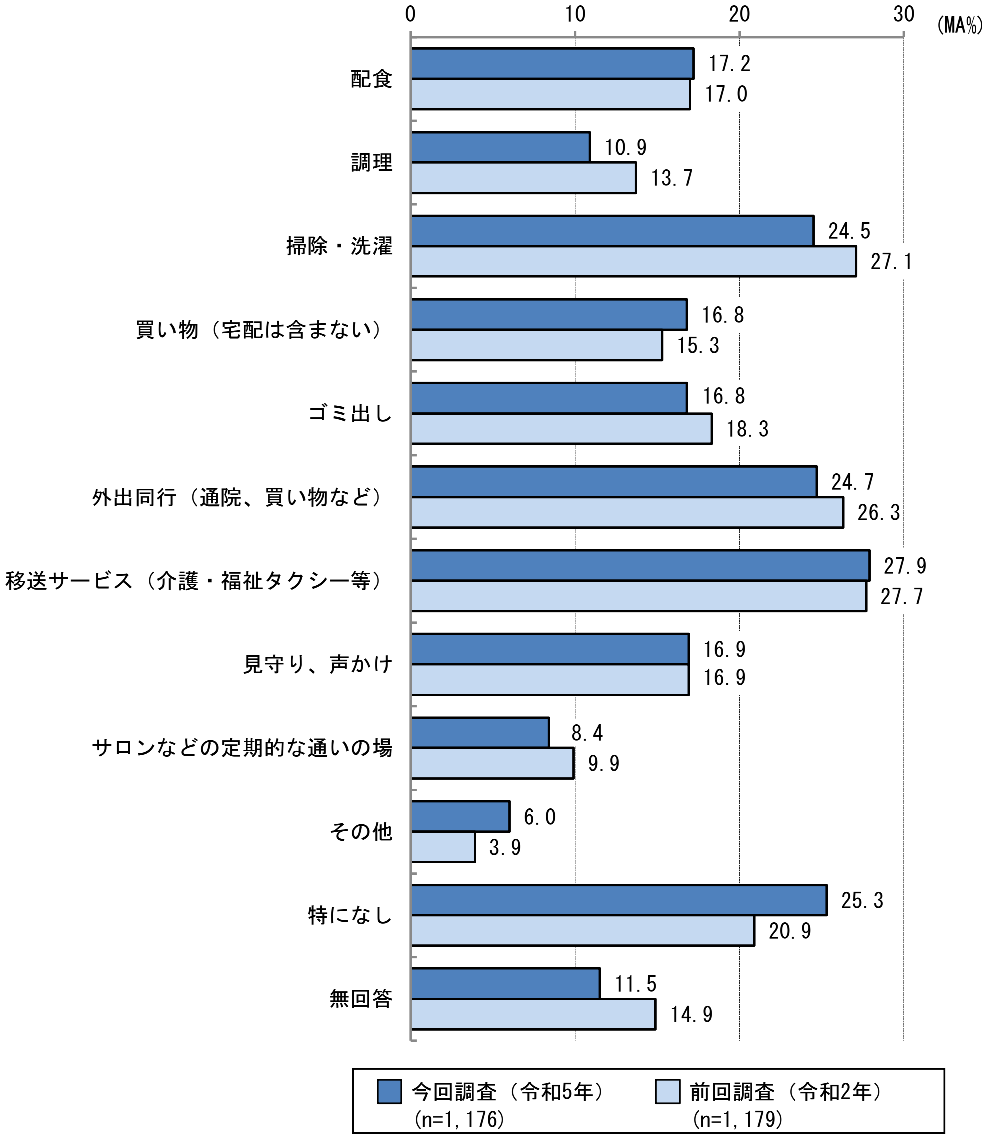


〔9〕在宅生活の継続に必要な支援・サービス

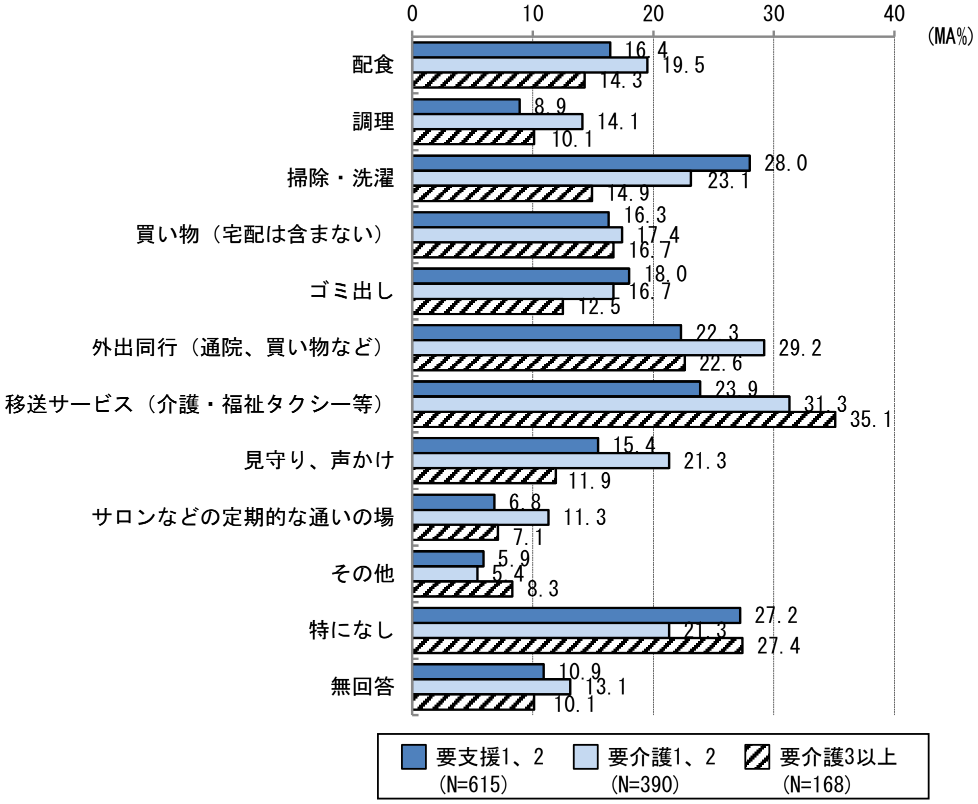
A票　問８　今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください　（○はいくつでも）
※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 27.9％と最も多く、次いで、「外出同行（通院、買い物など）」が 24.7％、「掃除・洗濯」が 24.5％となっています。

要介護度別にみると、要支援１、２では「掃除・洗濯」、要介護認定者では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が最も多くなっています。



【要介護度別　在宅生活の継続に必要な支援・サービス】

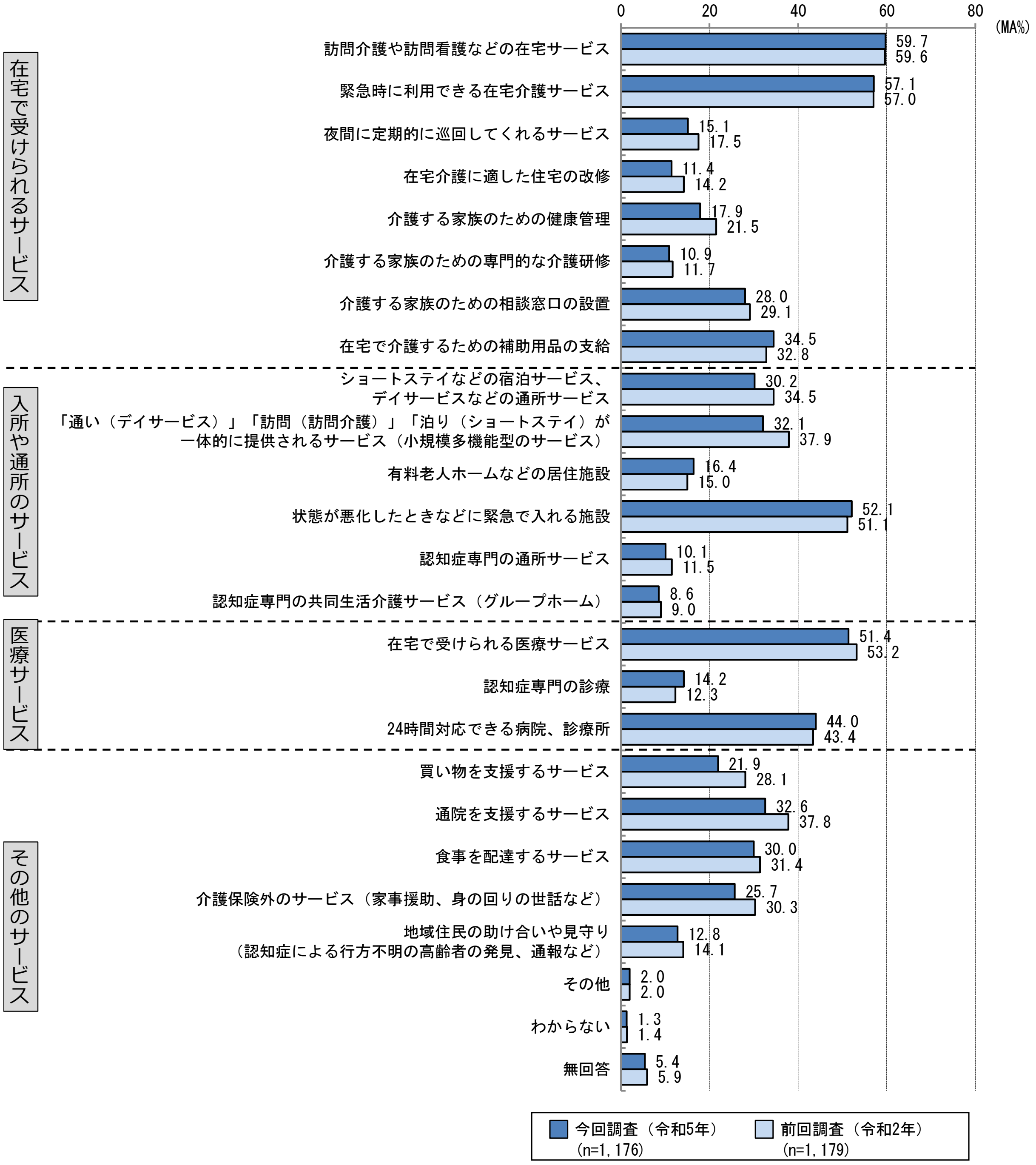


〔10〕身の回りのことができなくなったときに必要な支援・サービス

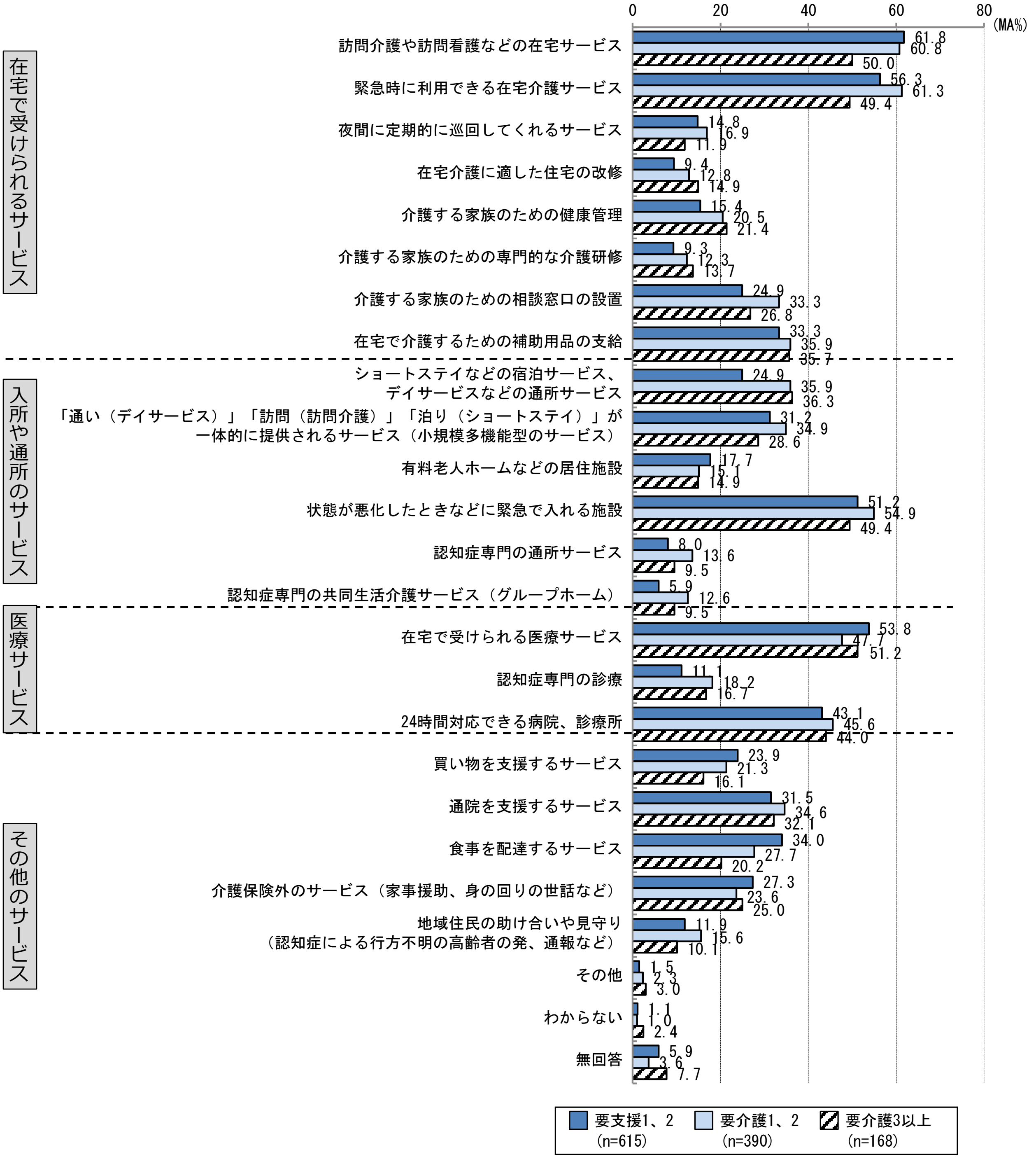
A票　問9　今後、ご本人の身の回りのことができなくなったときに、どのようなサービスがあれば在宅生活を続けられると思いますか（○はいくつでも）

必要な支援・サービスについては、「訪問介護や訪問看護などの在宅サービス」が 59.7%と最も多く、次いで、「緊急時に利用できる在宅介護サービス」が 57.1%、「状態が悪化したときなどに緊急で入れる施設」が 52.1%、「在宅で受けられる医療サービス」が 51.4%となっています。

要介護度別にみると、要支援１、２では「訪問介護や訪問看護などの在宅サービス」が 61.8%と最も多く、要介護１、２では「緊急時に利用できる在宅介護サービス」が 61.3%、要介護３以上では「在宅で受けられる医療サービス」が 51.2%と最も多くなっています。



【要介護度別　在宅生活継続に必要なサービス　】

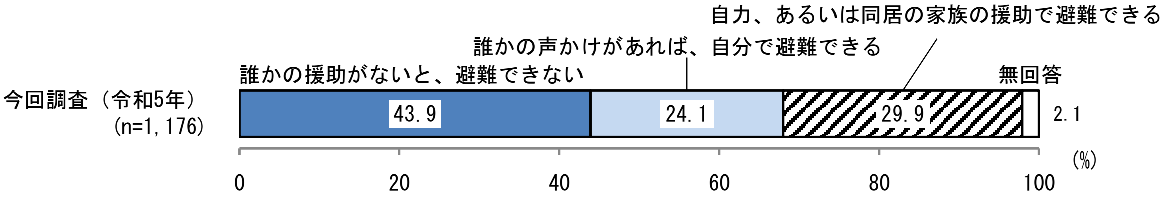


〔11〕緊急時・災害時の避難の可否

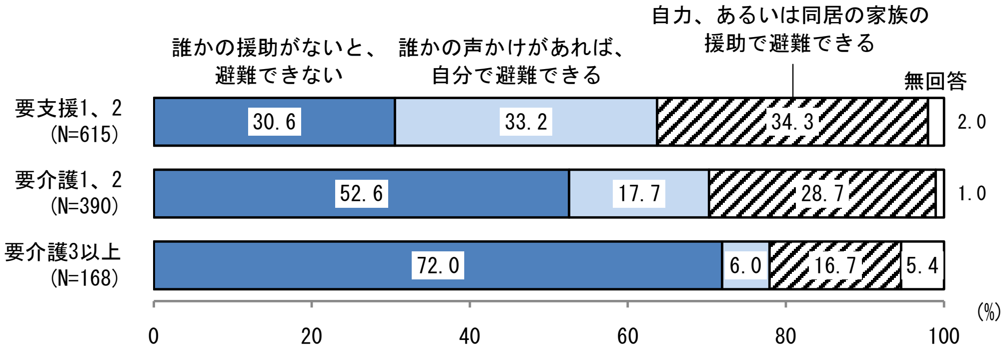
A票 問10 ご本人は、災害時（台風や地震など）や火災などの緊急時に、一人で避難することができますか （1つに〇）

緊急時・災害時の避難の可否について、「誰かの援助がないと、避難できない」が 43.9%と最も多く、次いで、「自力、あるいは同居の家族の援助で避難できる」が 29.9%、「誰かの声かけがあれば、自分で避難できる」が 24.1%となっています。

要介護度別にみると、要介護 3 以上では、「誰かの援助がないと、避難できない」が 72.0%と、他の区分に比べて多くなっています。



【要介護度別 緊急時・災害時の避難の可否】

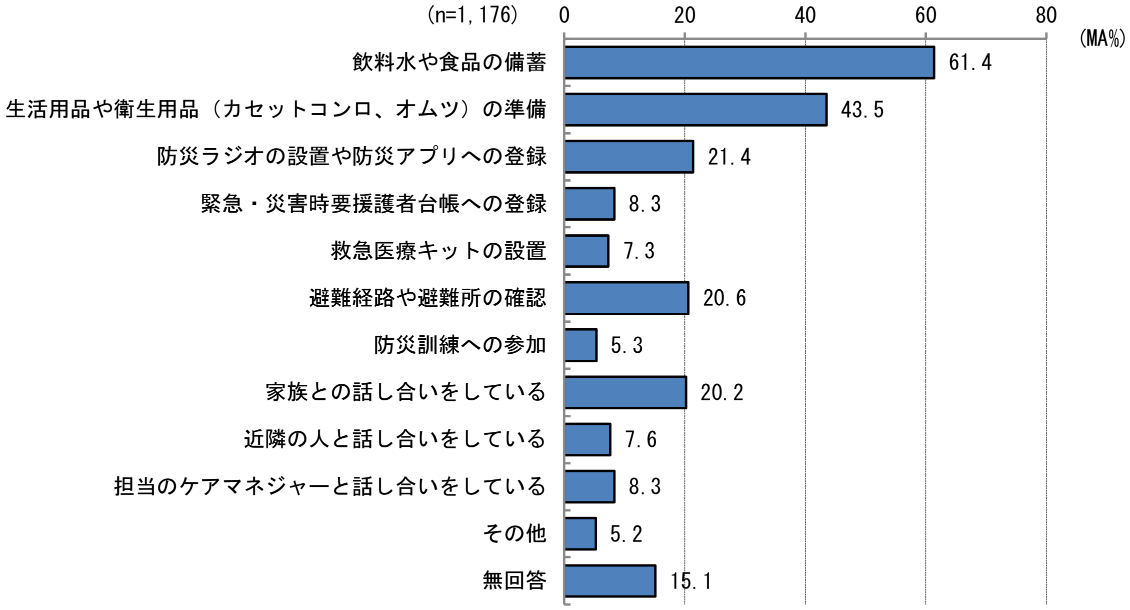


〔12〕緊急時・災害時への備え

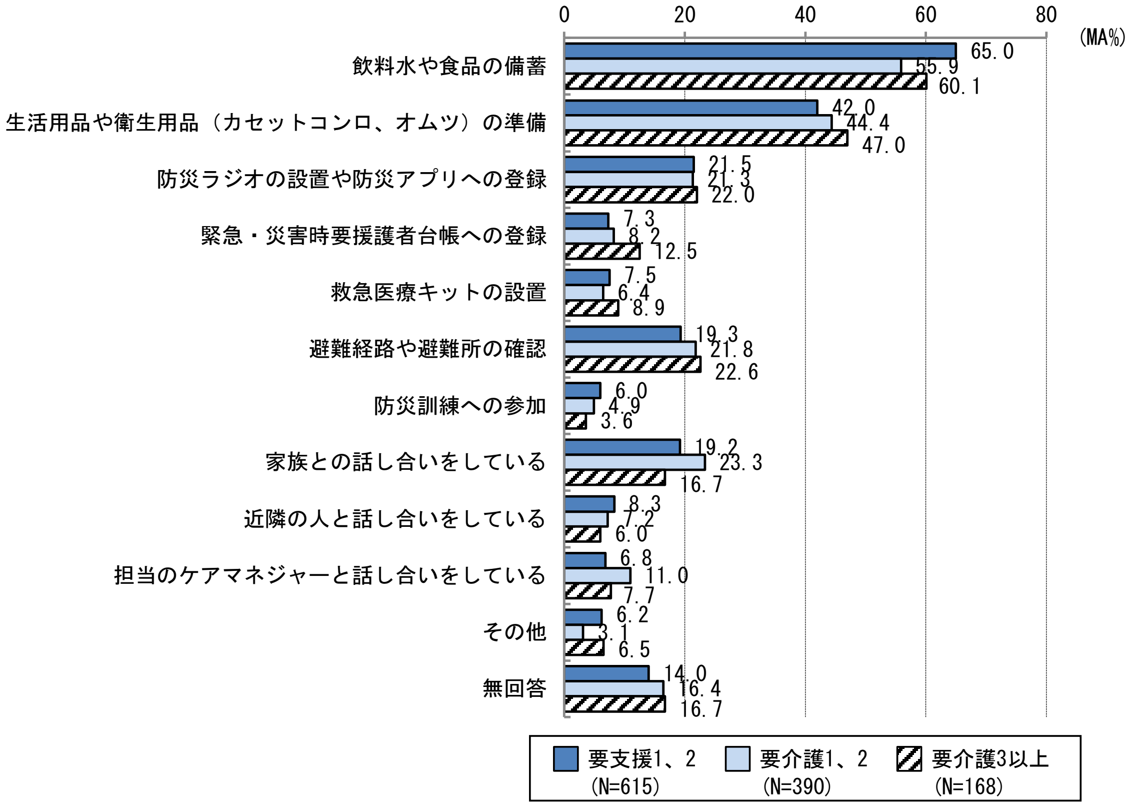
A票　問11　ご家庭では、緊急時や災害時に備えていることはありますか
（○はいくつでも）

緊急時・災害時への備えについては、「飲料水や食品の備蓄」が 61.4%と最も多く、次いで、「生活用品や衛生用品（カセットコンロ、オムツ）の準備」が 43.5%となっています。

要介護度別にみると、要介護 1、2 では「家族との話し合いをしている」が 23.3%と、他の区分に比べて多くなっています。



【要介護度別　緊急時や災害時に備えていること】

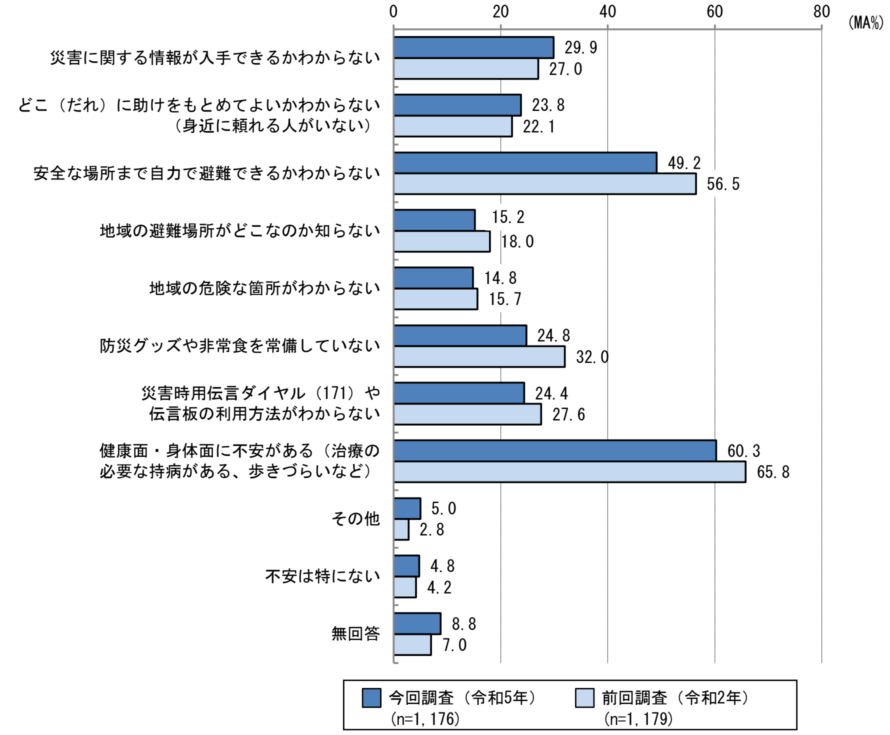


〔13〕緊急時・災害時に不安なこと

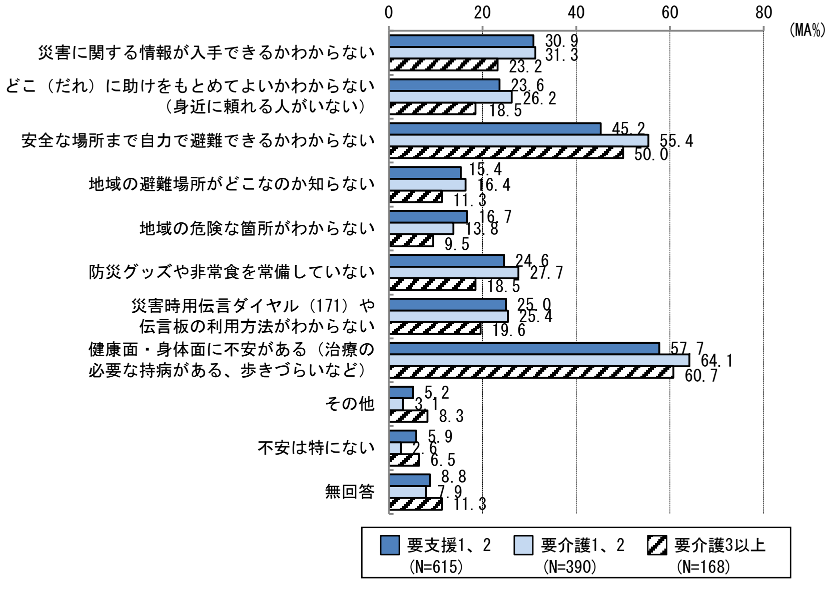
A票 問12 ご本人に災害が起こった場合、どのようなことが不安ですか
（〇はいくつでも）

緊急時・災害時に不安なことについては、「健康面・身体面に不安がある（治療の必要な持病がある、歩きづらいなど）」が 60.3%と最も多く、次いで、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が 49.2%となっています。前回調査に比べて、「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が 7.3 ポイント、「健康面・身体面に不安がある（治療の必要な持病がある、歩きづらいなど）」が 5.5 ポイント減少しています。

要介護度別にみると、ほぼすべての項目で要介護１、２が他の区分より多く、要介護１、２の方で災害に対する不安が強くなっています。



【要介護度別　緊急時・災害時に不安なこと】

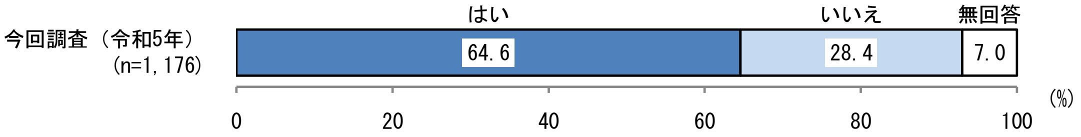


〔14〕高齢者生活支援センターの認知

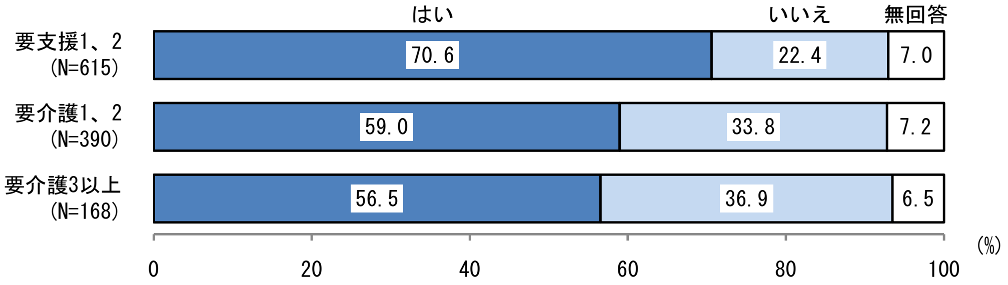
A票　問13　ご本人のお住まいを担当する「高齢者生活支援センター」を知っていますか（1つに○）

高齢者生活支援センターの認知については、「はい」（知っている）が 64.6％、「いいえ」（知らない）が 28.4％となっています。

要介護度別にみると、「はい」（知っている）は要支援１、２で 70.6％と多く、要介護１、２、要介護３以上でも６割弱となっています。



【要介護度別　高齢者生活支援センターの認知】



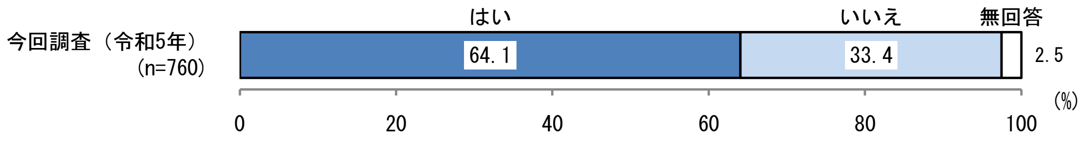
〔15〕高齢者生活支援センターの利用

【問13で「1.はい」とお答えの方のみ】

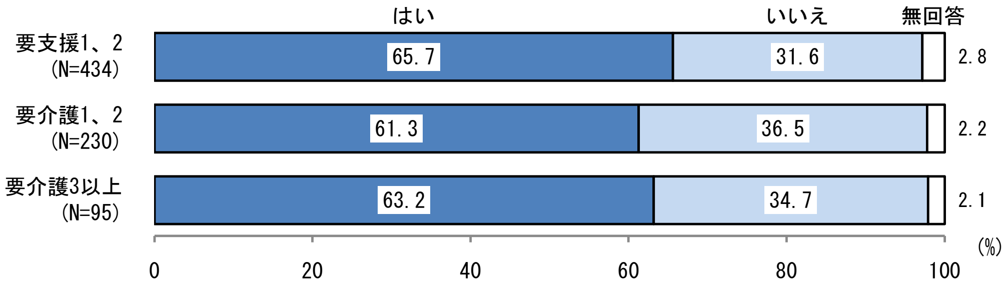
A票　問13-1　ご本人やご家族は高齢者生活支援センターを利用したことがありますか（1つに○）

高齢者生活支援センターの利用については、「はい」（利用したことがある）が 64.1%、「いいえ」（利用したことがない）が 33.4%となっています。

要介護度別にみると、「はい」（利用したことがある）はすべての区分で 6 割台となっています。



【要介護度別　高齢者生活支援センターの利用】

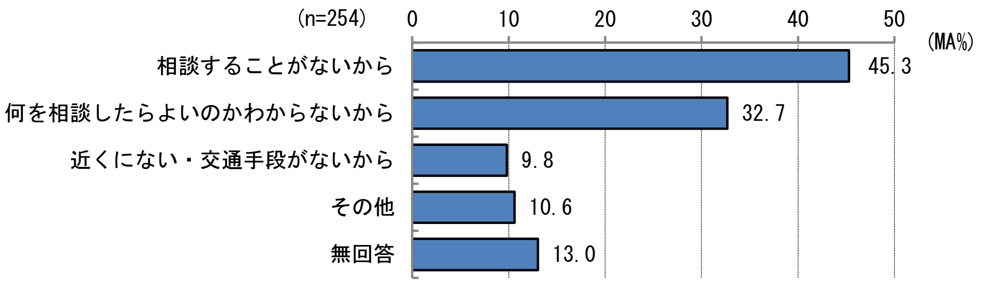


〔16〕高齢者生活支援センター未利用の理由

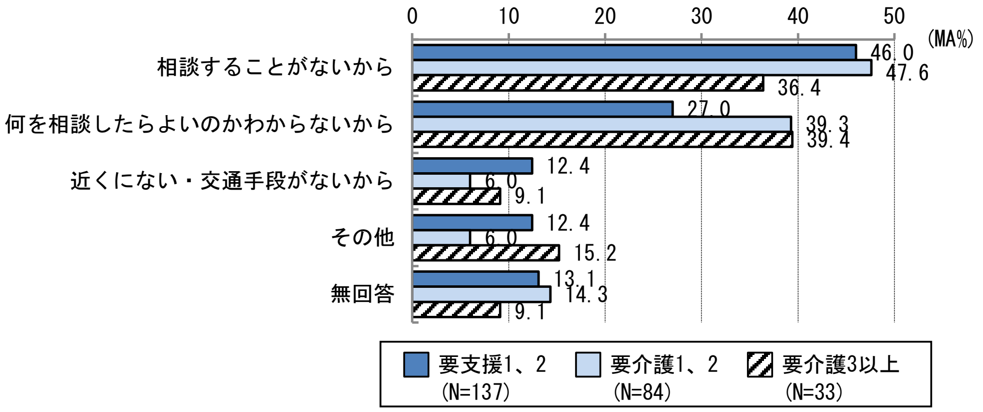
【問13-1で「2.いいえ」とお答えの方のみ】
A票 問13-2 その理由は何ですか （○はいくつでも）

高齢者生活支援センター未利用の理由については、「相談することがないから」が 45.3%と最も多く、次いで、「何を相談したらよいのかわからないから」が 32.7%となっています。

要介護度別にみると、要支援１、２、要介護１、２では「相談することがないから」、要介護３以上では「何を相談したらよいのかわからないから」が最も多くなっています。



【要介護度別　高齢者生活支援センター未利用の理由】

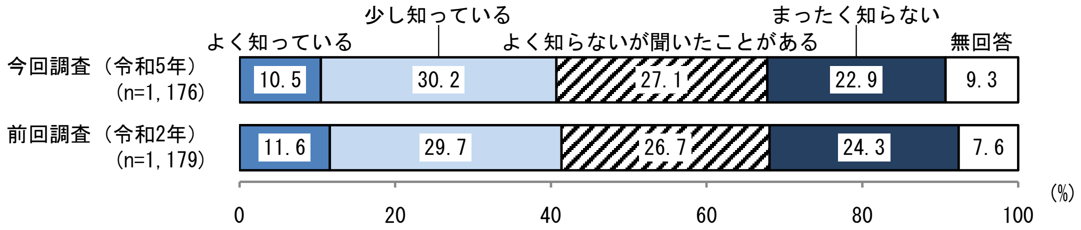


〔17〕成年後見制度の認知

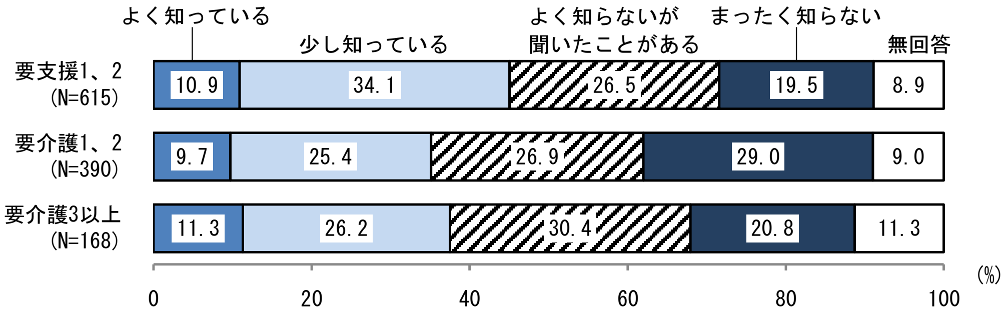
A票 問14 ご本人は『成年後見制度』について知っていますか （1つに○）

成年後見制度の認知については、「少し知っている」が 30.2%と最も多く、次いで「よく知らないが聞いたことがある」が 27.1%、「まったく知らない」が 22.9%、「よく知っている」が 10.5%で、「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている』は 40.7%となっています。

要介護度別にみると、『知っている』は要支援１、２で 45.0%、要介護１、２で 35.1%、要介護３以上で 37.5%となっています。



【要介護度別　成年後見制度の認知】

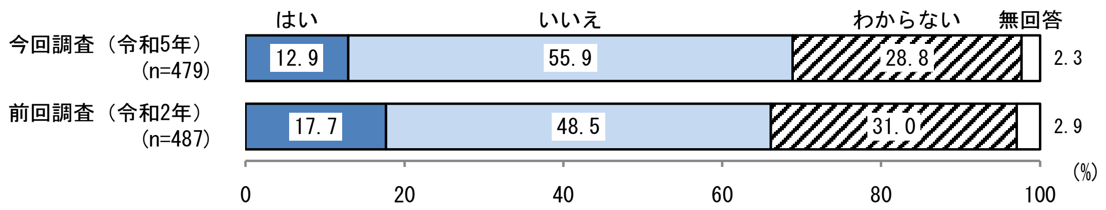


〔18〕成年後見制度の利用意向

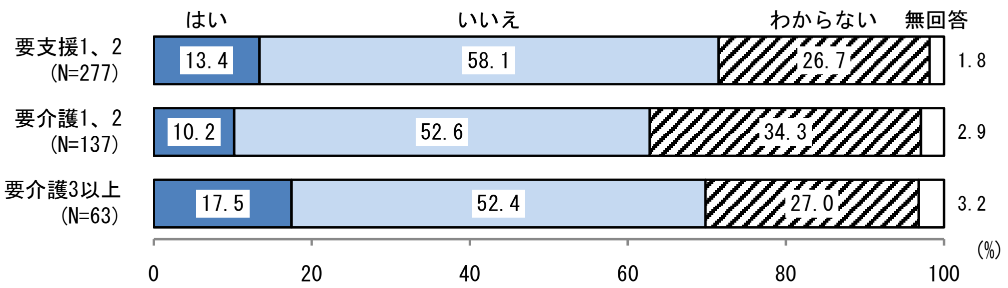
【問14で「1.よく知っている」または「2.少し知っている」とお答えの方】
A票　問14-1　今後、成年後見人制度を利用したいですか　（1つに○）

成年後見制度の利用意向については、「はい」（利用したい）が 12.9%、「いいえ」（利用したくない）が 55.9%となっています。前回調査に比べて、「はい」（利用したい）は 4.8 ポイント減少しています。

要介護度別にみると、要介護 3 以上で「はい」（利用したい）が 17.5%と、他の区分に比べて多くなっています。



【要介護度別　成年後見制度の利用意向】

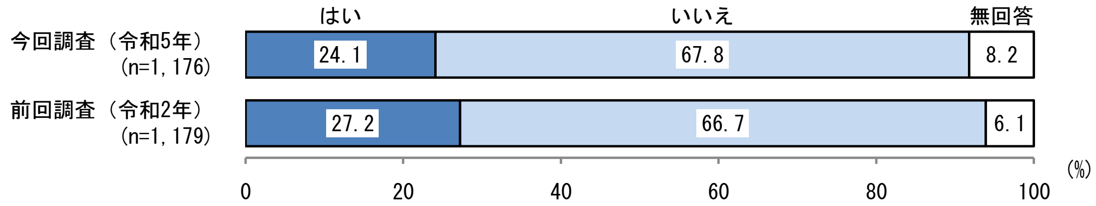


〔19〕認知症状の有無

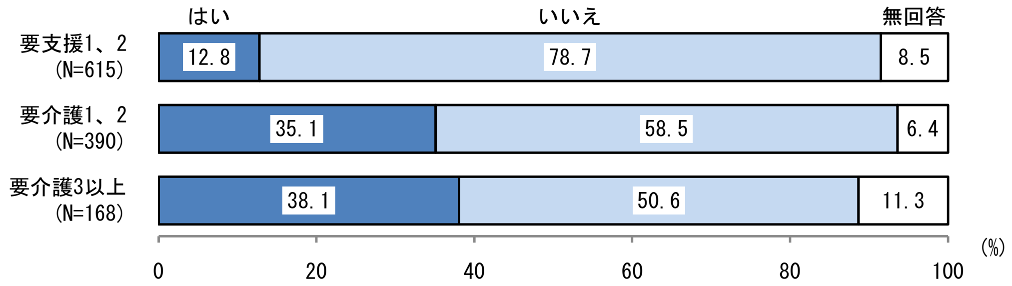
A票　問15　ご本人やご家族の中に認知症の症状がある人がいますか（1つに○）

ご本人やご家族の中に認知症の症状がある人がいるかについては、「はい」（いる）が 24.1%、「いいえ」（いない）が 67.8%となっています。前回調査に比べて、「はい」（いる）は 3.1 ポイント減少しています。

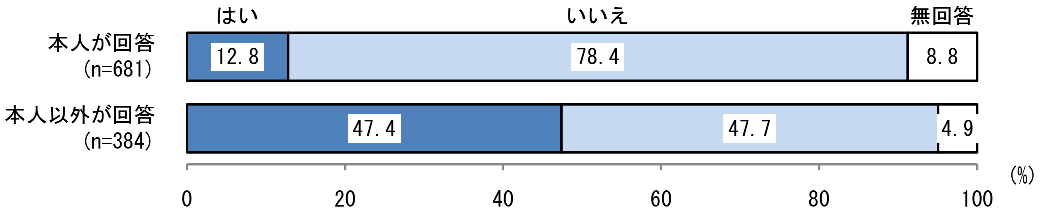
要介護度別にみると、「はい」（いる）は要支援１、２では 12.8%と少なく、要介護認定者では３割台となっています。



【要介護度別　認知症状の有無】



【回答者別　認知症状の有無】

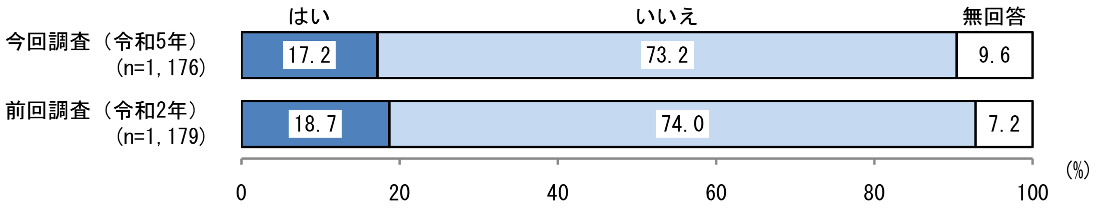


〔20〕認知症の相談窓口の認知

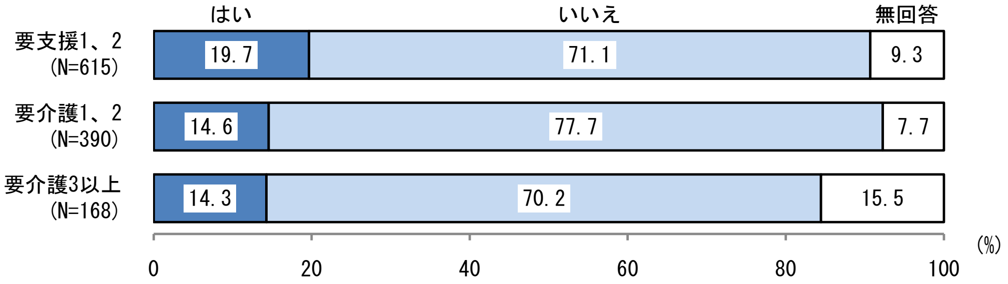
A票　問16　ご本人は認知症に関する相談窓口を知っていますか（1つに○）

認知症の相談窓口の認知については、「はい」（知っている）が 17.2%、「いいえ」（知らない）が 73.2%となっています。

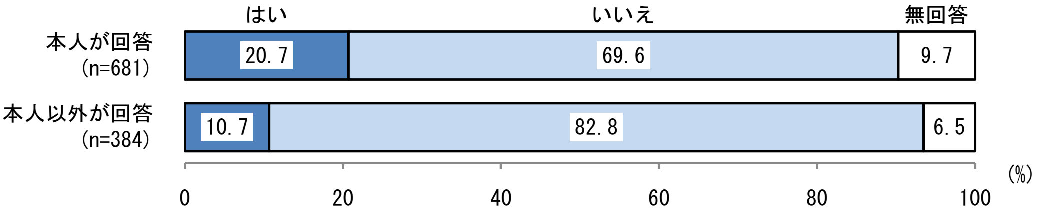
要介護度別にみると、「はい」（知っている）は要支援１、２で 19.7%と、要介護認定者に比べてやや多くなっています。



【要介護度別　認知症の相談窓口の認知】



【回答者別　認知症の相談窓口の認知】

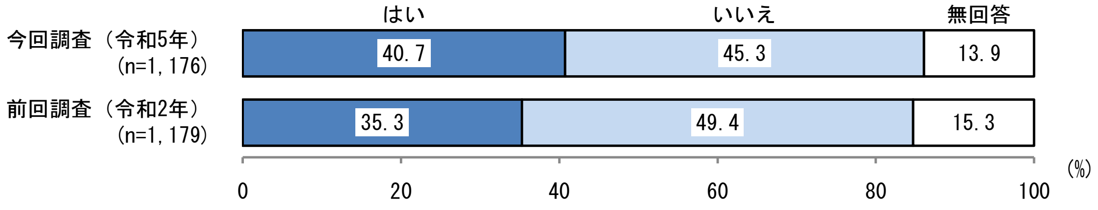


〔21〕将来、認知症になる（患う）可能性の認識の有無

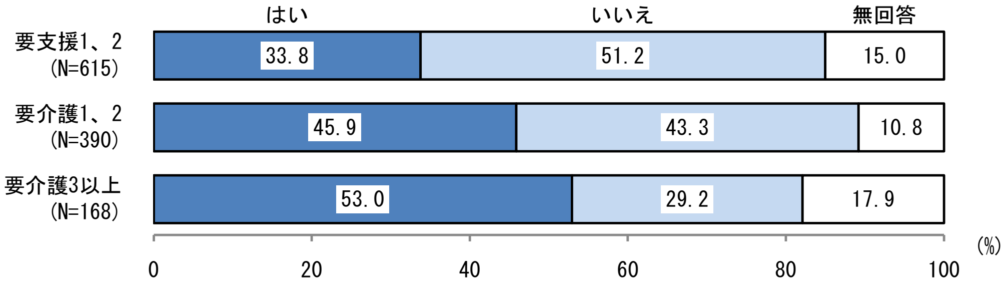
A票　問17　あなた（ご本人）は認知症になる（患う）と思いますか　（1つに○）

自身は認知症になると思うかについては、「はい」（認知症になると思う）が 40.7%、「いいえ」（認知症にならないと思う）が 45.3%となっています。前回調査に比べて、「はい」（認知症になると思う）が 5.4 ポイント増加しています。

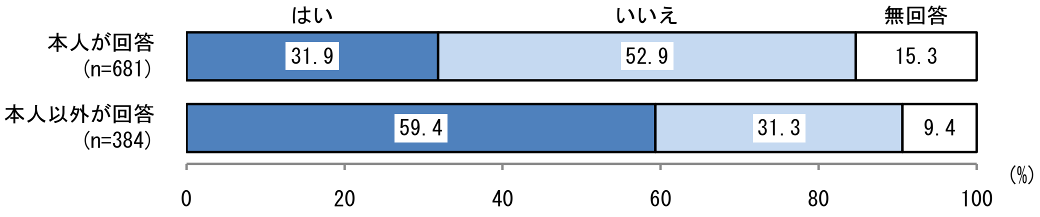
要介護度別にみると、「はい」（認知症になると思う）は要介護３以上で 53.0%と約半数を占めています。



【要介護度別　将来、認知症になる（患う）可能性の認識の有無】



【回答者別　将来、認知症になる（患う）可能性の認識の有無】

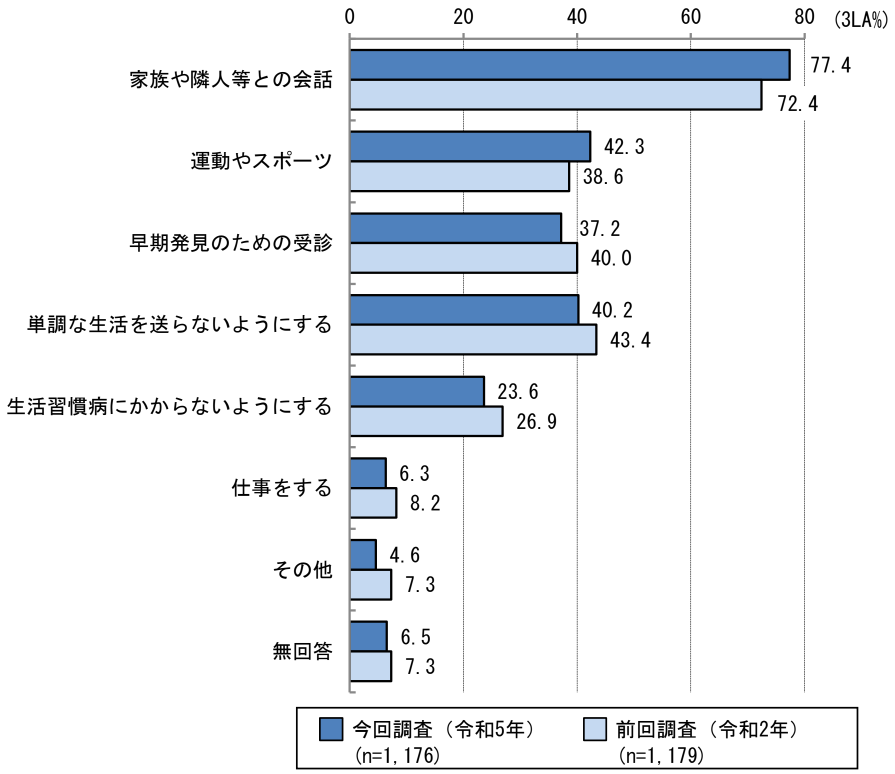


〔22〕認知症予防の方法として重要だと思うこと

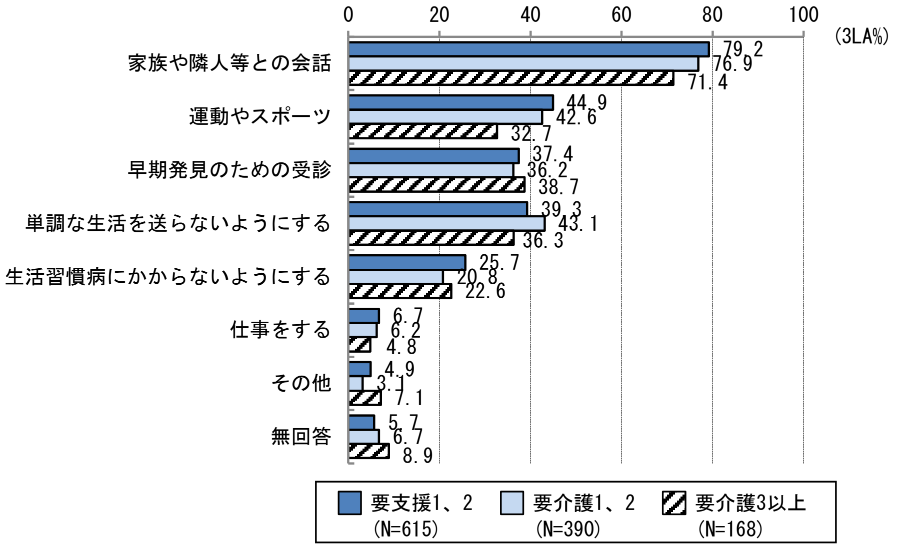
A票　問18　認知症予防の方法として、重要なことはどのようなことだと思いますか
（○は主なもの3つまで）

認知症予防の方法として重要だと思うことは、「家族や隣人等との会話」が 77.4%と最も多く、次いで、「運動やスポーツ」が 42.3%、「単調な生活を送らないようにする」が 40.2%となっています。

要介護度別にみると、すべての区分で「家族や隣人等との会話」が最も多く、次いで、要支援１、２では「運動やスポーツ」が 44.9%、要介護１、２では「単調な生活を送らないようにする」が 43.1%、要介護３以上では「早期発見のための受診」が 38.7%となっています。



【要介護度別　認知症予防の方法として重要なこと】

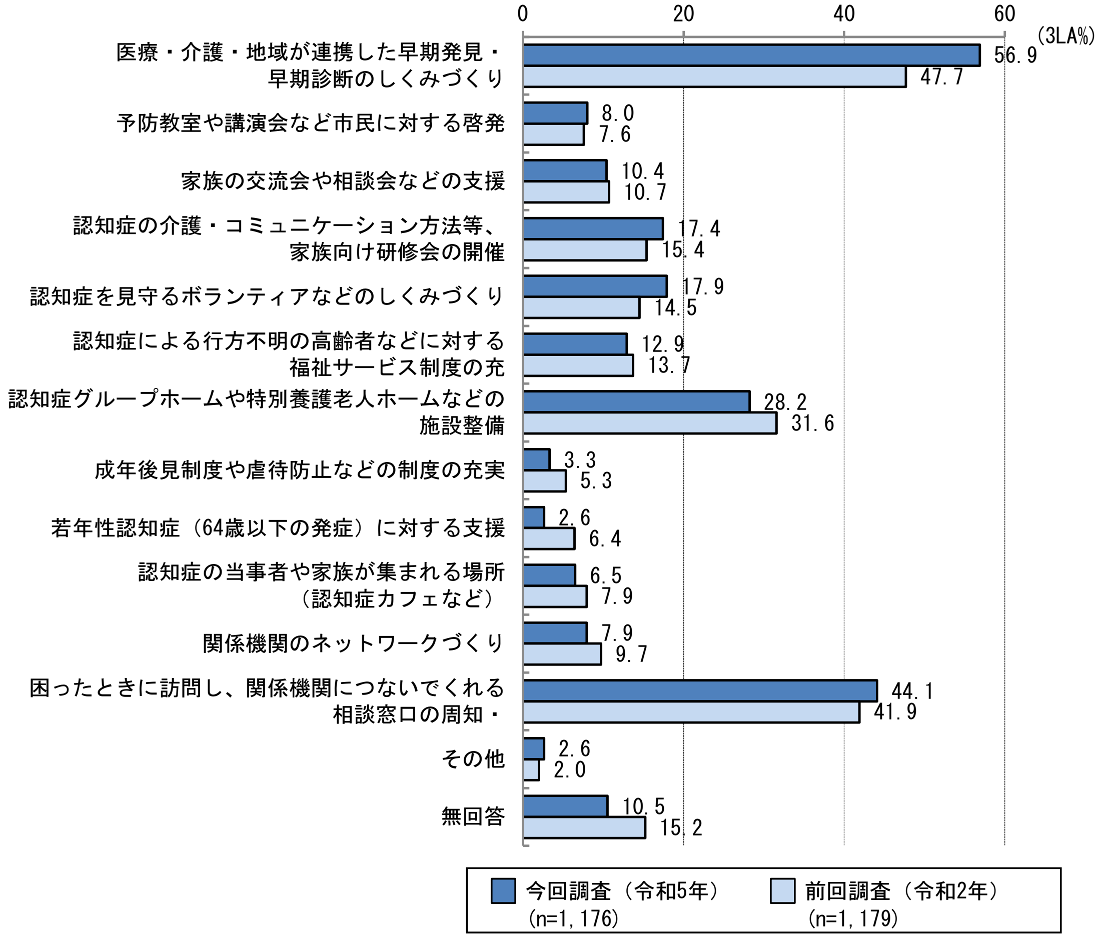


〔23〕認知症の人への支援に必要と思うこと

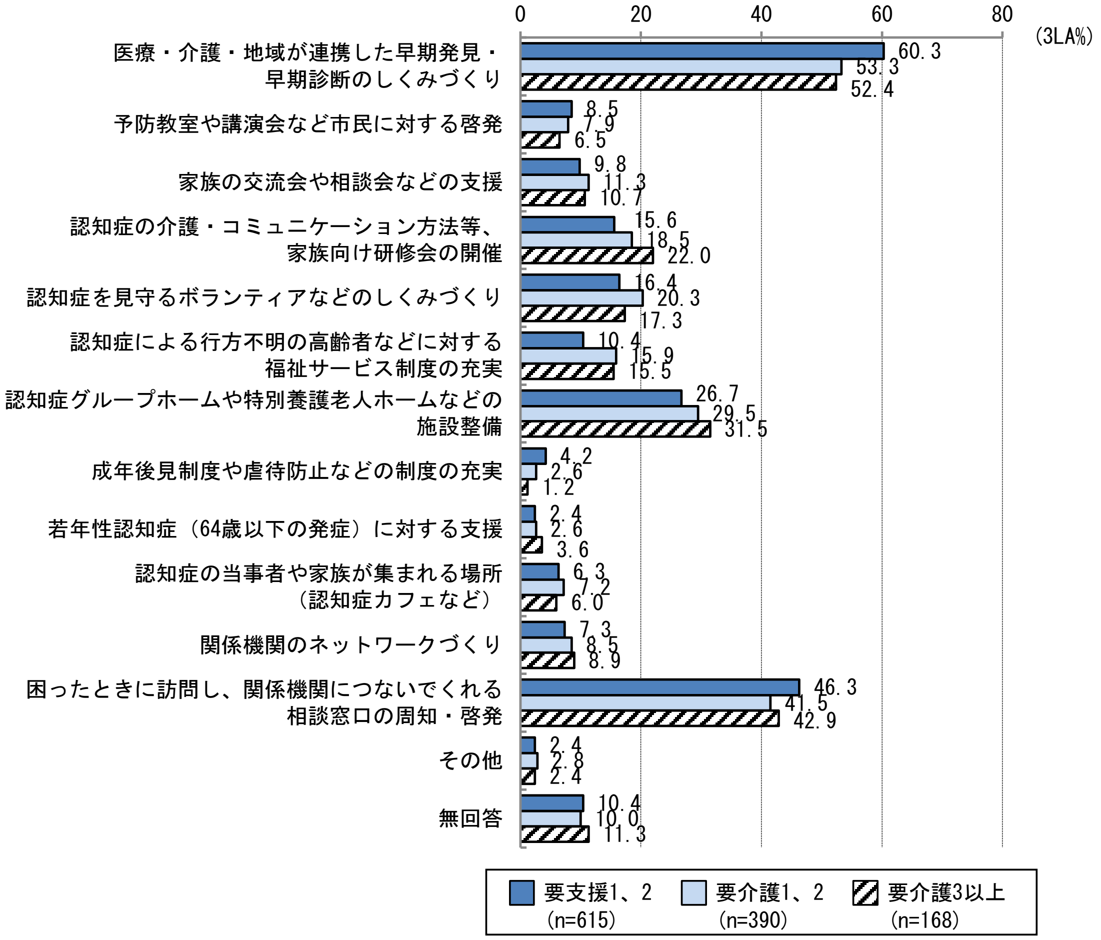
A票　問19　認知症の人への支援には、何が必要だと思いますか
（○は主なもの3つまで）

認知症の人への支援に必要なことについては、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が 56.9%と最も多く、次いで「困ったときに訪問し、関係機関につないでくれる相談窓口の周知・啓発」が 44.1%、「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」が 28.2%となっています。前回調査に比べて、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が 9.2 ポイント増加しています。

要介護度別にみると、すべての区分で「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が最も多くなっていますが、とくに要支援１、２で 60.3%と他の区分に比べて多くなっています。



【要介護度別　認知症の人への支援に必要なこと】

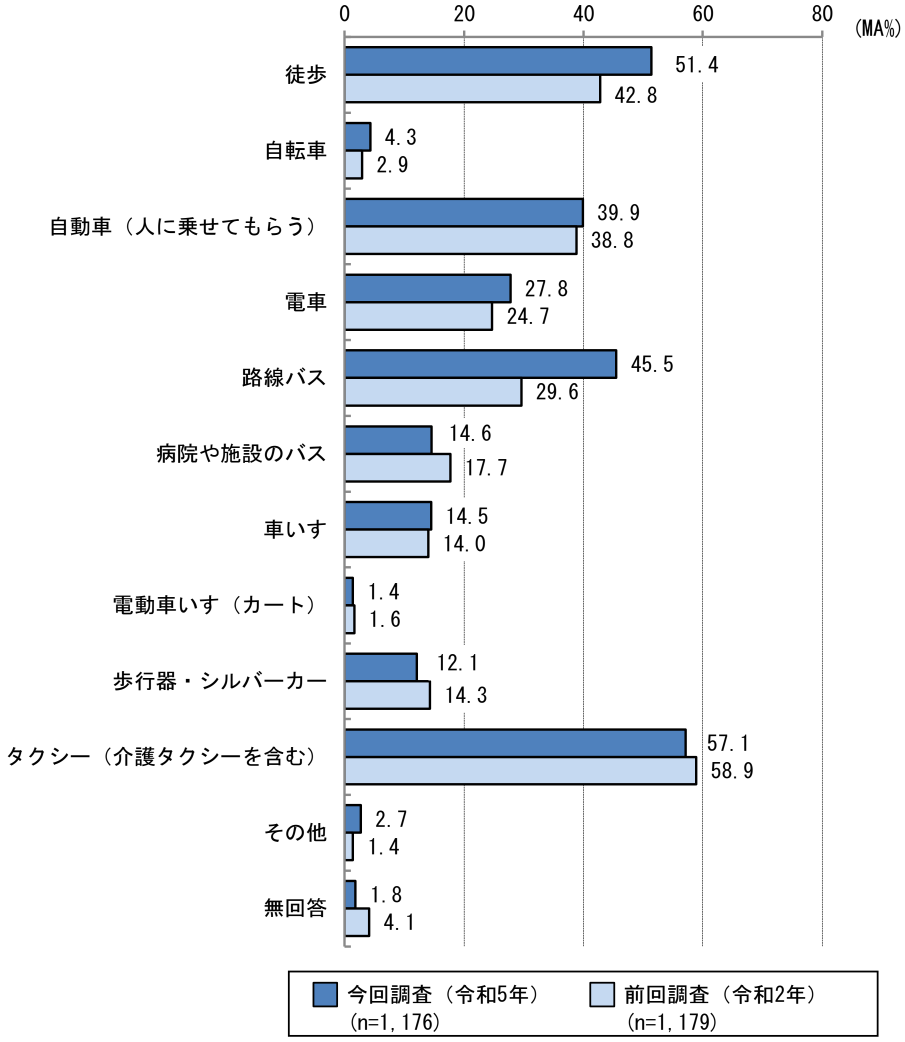


〔24〕外出時の移動手段

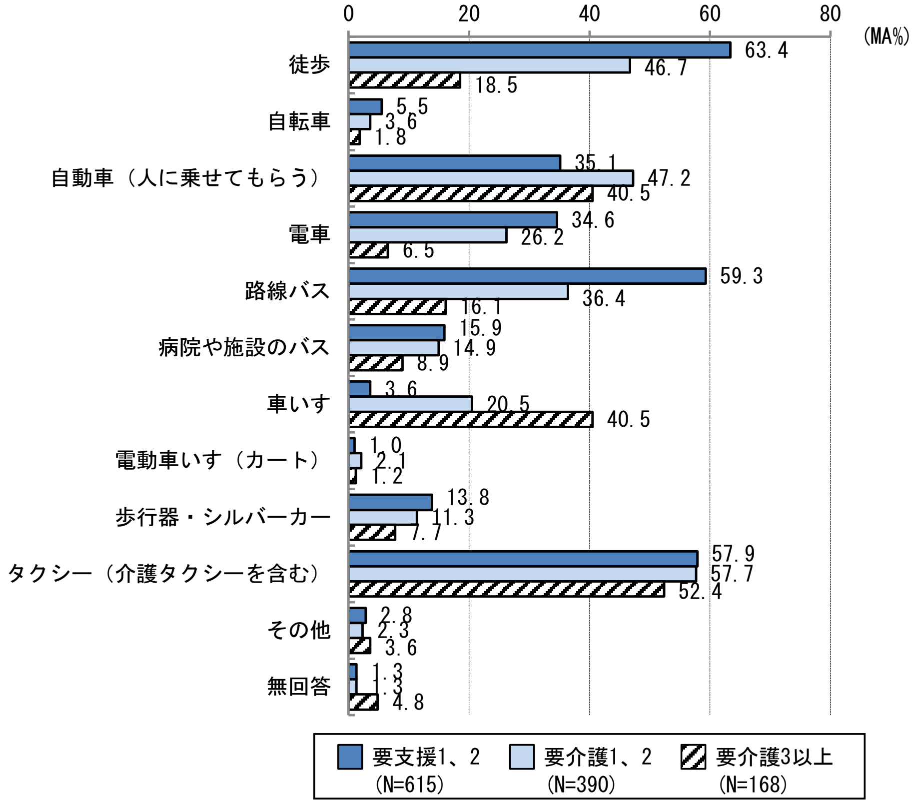
A票 問20 ご本人が、外出する際の移動手段は何ですか （○はいくつでも）

外出時の移動手段については、「タクシー（介護タクシーを含む）」が 57.1%と最も多く、次いで、「徒歩」が 51.4%、「路線バス」が 45.5%となっています。前回調査と比べて、「路線バス」が 15.9 ポイント、「徒歩」が 8.6 ポイント増加しています。

要介護度別にみると、要支援１、２では「徒歩」が最も多く、次いで「路線バス」となっています。要介護認定者では、「タクシー（介護タクシーを含む）」が最も多く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」となっており、要介護３以上では「車いす」も 40.5%と多くなっています。



【要介護度別　外出時の移動手段】

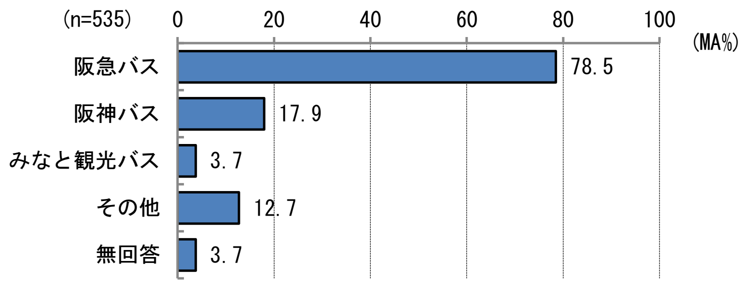


〔25〕普段利用する路線バス

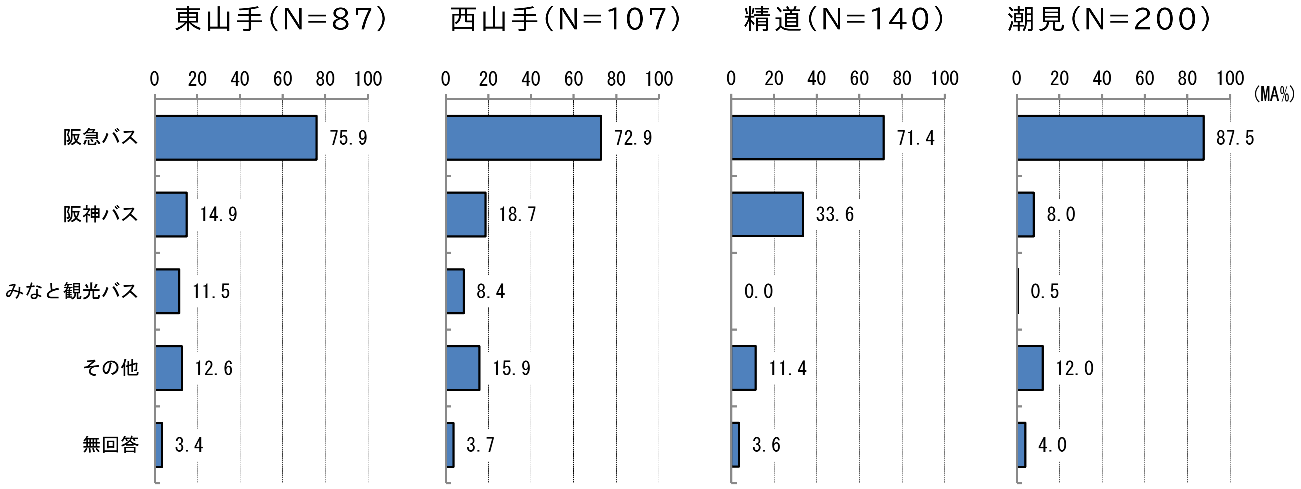
【問20で「5.路線バス」とお答えの方のみ】
A票　問20-1　ご本人が、普段利用する路線バスは何ですか（○はいくつでも）

普段利用する路線バスについては、「阪急バス」が 78.5%と最も多く、次いで、「阪神バス」が17.9%、「みなと観光バス」が 3.7%となっています。

居住地域別にみると、すべての地域で「阪急バス」が多くなっていますが、特に潮見生活地域で82.9%と最も多くなっています。



【居住地域別　普段利用する路線バス】

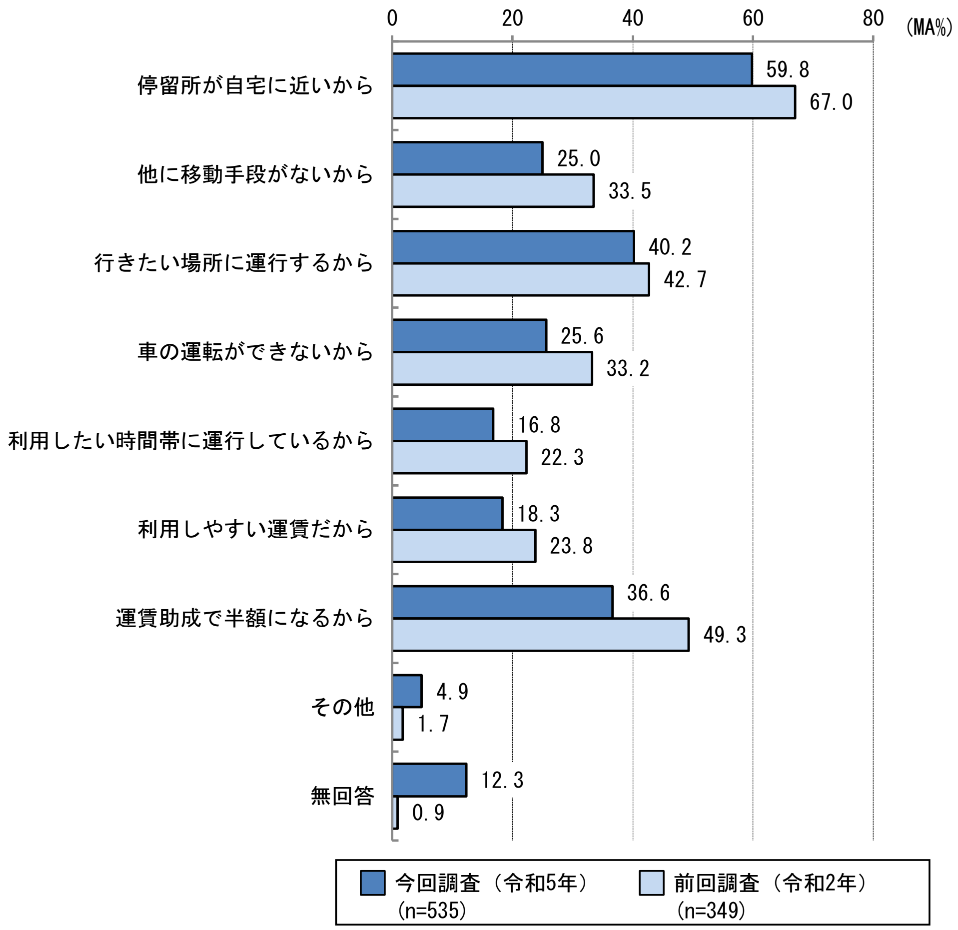


〔26〕路線バスを利用する理由

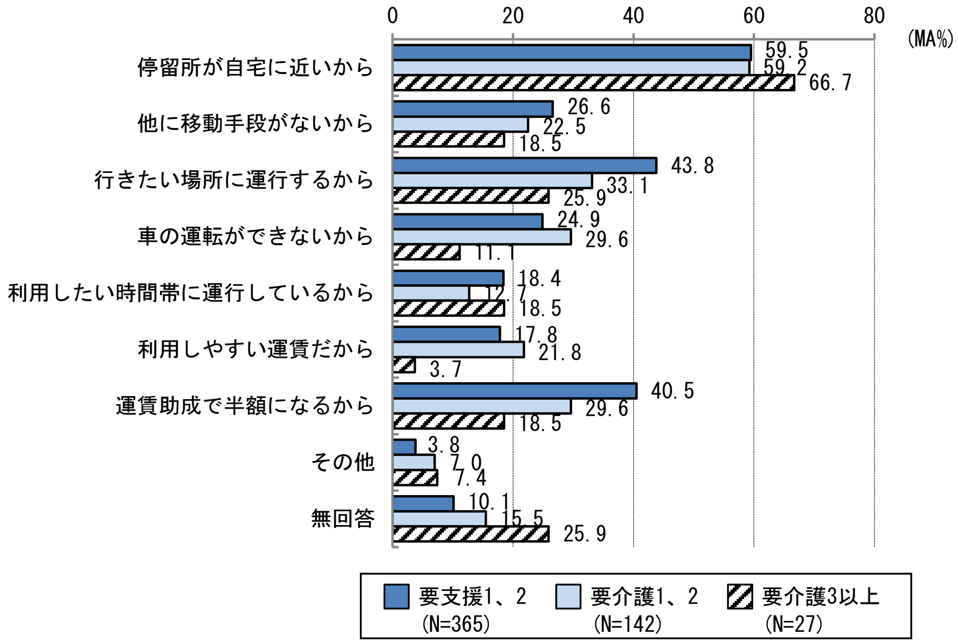
【問20で「5.路線バス」とお答えの方のみ】
A票　問20-2　ご本人が、路線バスを利用する理由は何ですか　（○はいくつでも）

路線バスを利用する理由については、「停留所が自宅に近いから」が59.8%と最も多く、次いで、「行きたい場所に運行するから」が 40.2%、「運賃助成で半額になるから」が 36.6%となっています。

年齢別にみると、65～74 歳では「行きたい場所に運行するから」が 46.4%、「車の運転ができないから」が 33.9%と他の年齢層よりも多く、85 歳以上では「停留所が自宅に近いから」が 64.6%と他の年齢層よりも多くなっています。



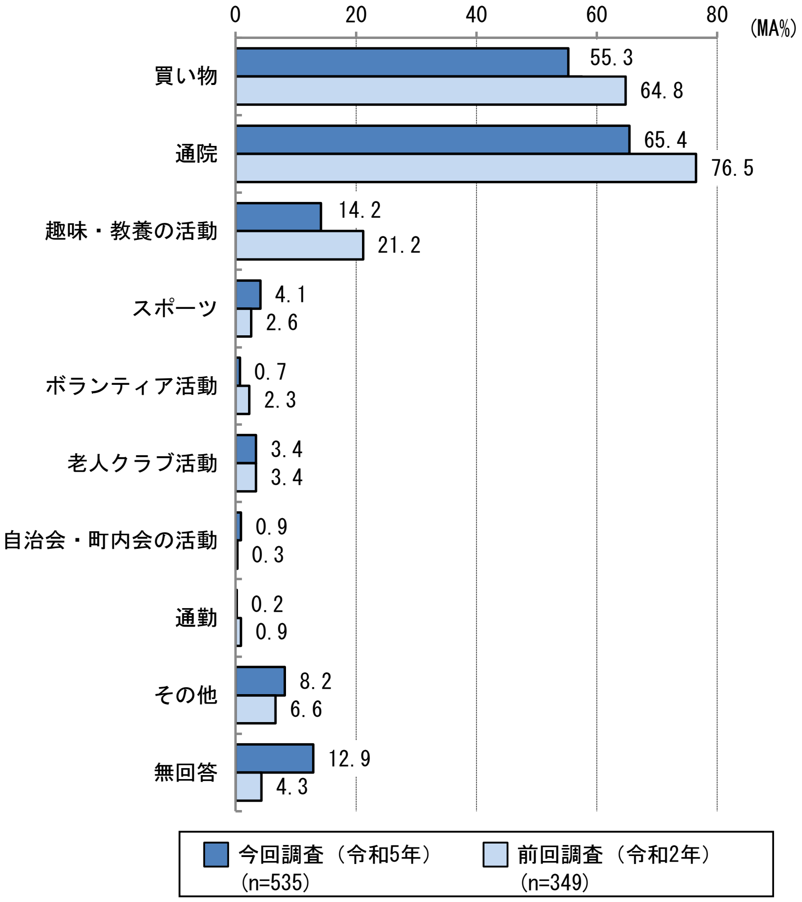
【要介護度別　路線バスを利用する理由】



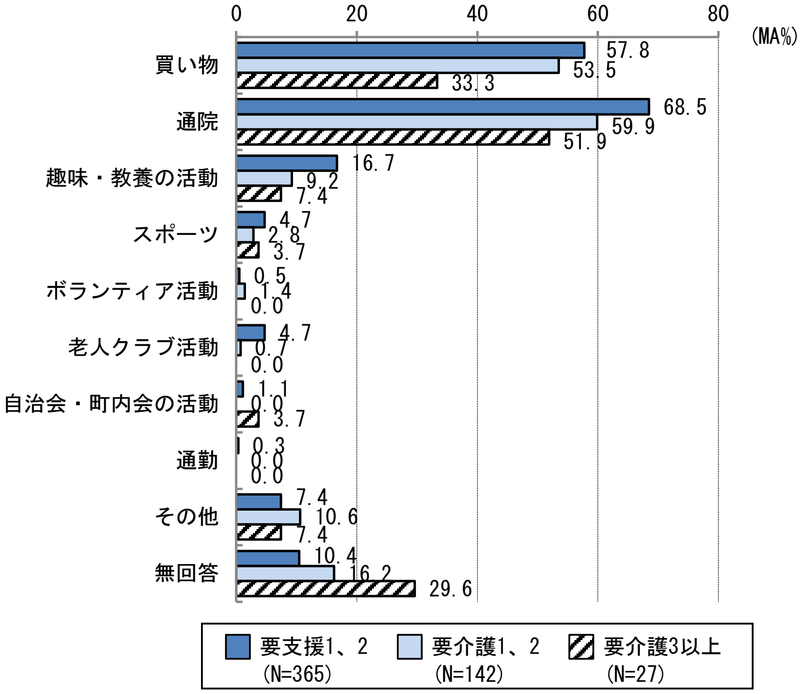
〔27〕路線バスを利用する目的

【問20で「5.路線バス」とお答えの方のみ】
A票　問20-3　ご本人が、路線バスを利用する目的は何ですか　（○はいくつでも）

路線バスを利用する目的については、「通院」が 65.4%と最も多く、次いで、「買い物」が 55.3%、「趣味・教養の活動」が 14.2%となっています。



【要介護度別　路線バスを利用する目的】

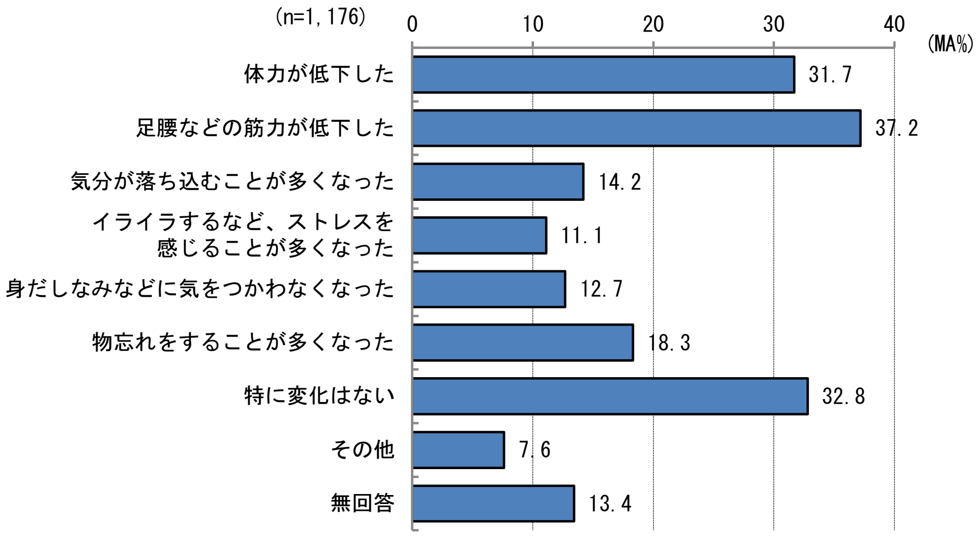


〔28〕新型コロナウイルス感染症の影響

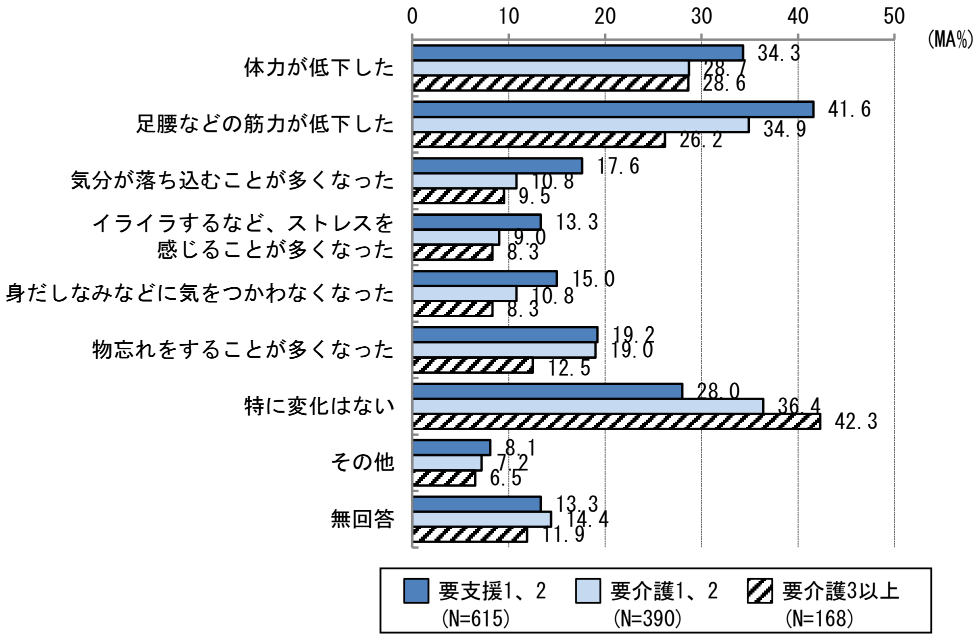
A票　問21　ご本人は、新型コロナウイルス感染症の影響により、以下のような変化はありましたか　（○はいくつでも）

新型コロナウイルス感染症の影響については、「足腰などの筋力が低下した」が 37.2%と最も多く、次いで、「体力が低下した」が 31.7%となっています。一方で、「特に変化はない」も 32.8%みられます。

要介護度別にみると、「足腰などの筋力が低下した」が要支援１、２で 41.6%と最も多くなっています。要介護認定者では「特に変化はない」が４割前後と最も多くなっています。



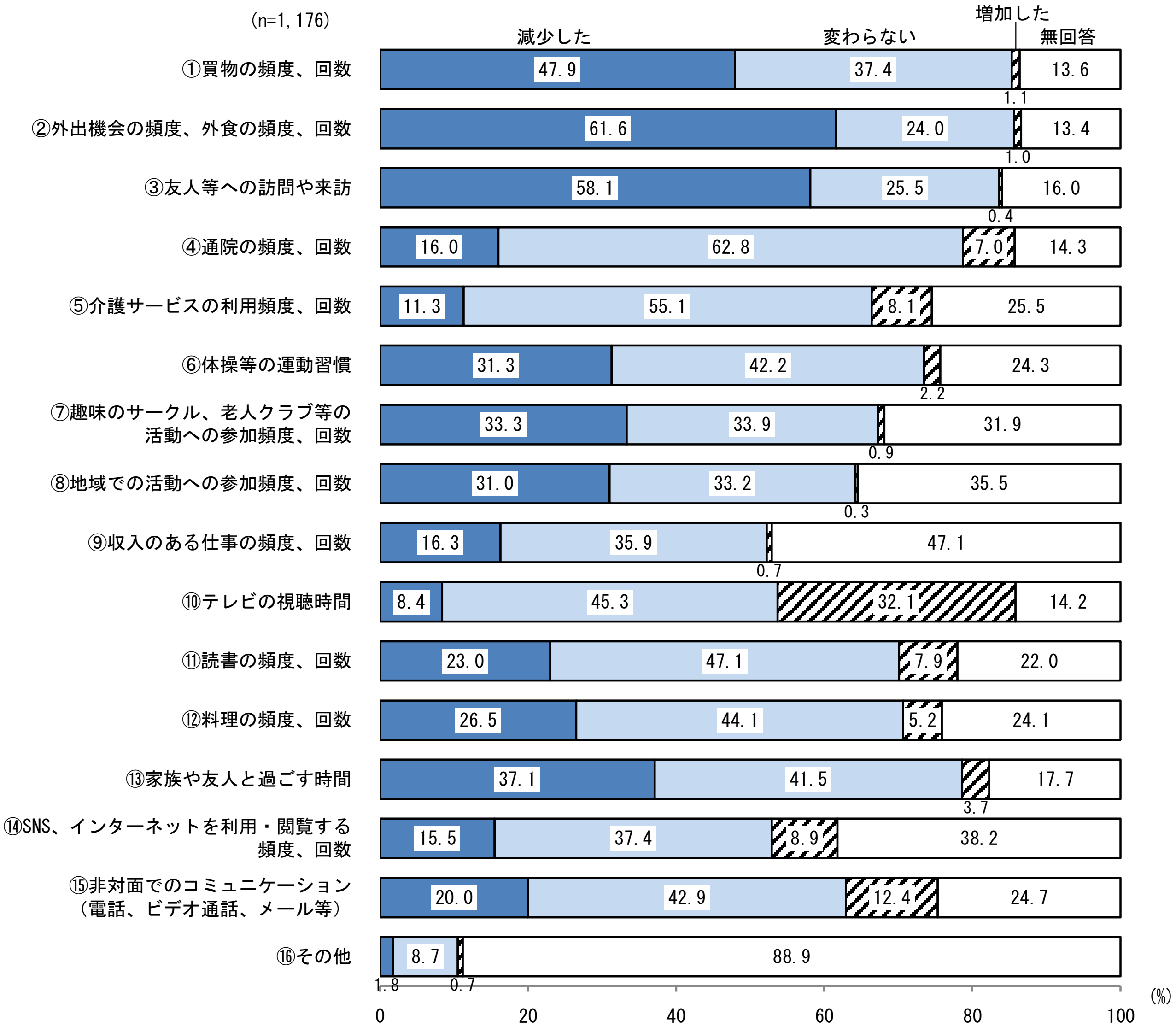
【要介護度別　新型コロナウイルス感染症の影響】



A票 問22 コロナ禍前と現在を比較して、ご本人の日常生活はどのように変化しましたか （それぞれに○は1つ）

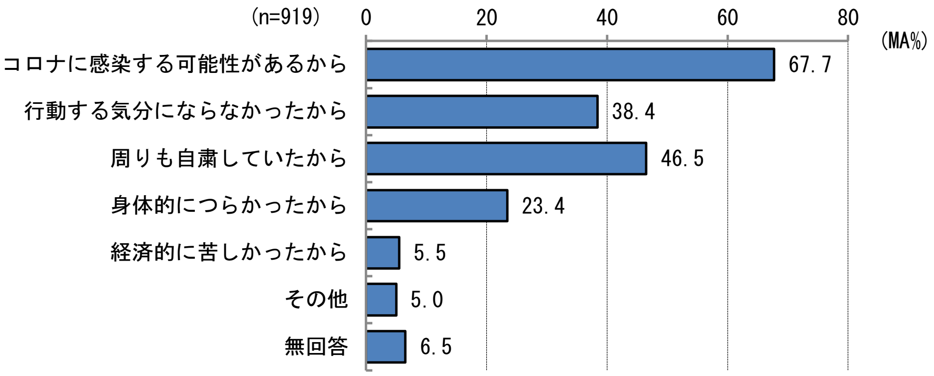
コロナ禍前と現在を比較して、日常生活はどのように変化したかについて、「減少した」は、「②外出機会の頻度、外食の頻度、回数」61.6%、「③友人等への訪問や来訪」58.1%、「①買物の頻度、回数」47.9%などと多くなっています。

一方、「増加した」は、「⑩テレビの視聴時間」で 32.1%と最も多く、「⑮非対面でのコミュニケーション（電話、ビデオ通話、メール等）」、「⑭SNS、インターネットを利用・閲覧する頻度、回数」で、１割前後みられます。

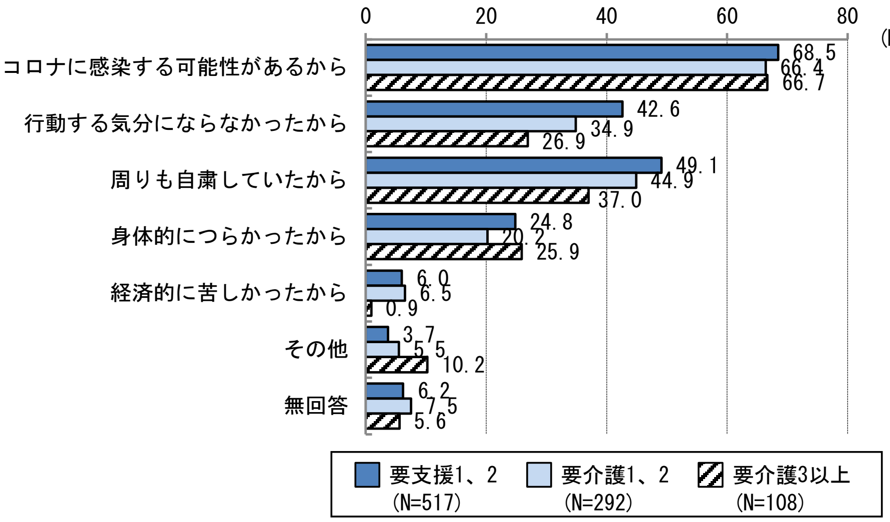


A票 問22-1 「減少した」を選択した理由は何ですか （○はいくつでも）

「減少した」を選択した理由については、「コロナに感染する可能性があるから」が67.7%と最も多く、次いで、「周りも自粛していたから」が46.5%、「行動する気分にならなかったから」が38.4%となっています。



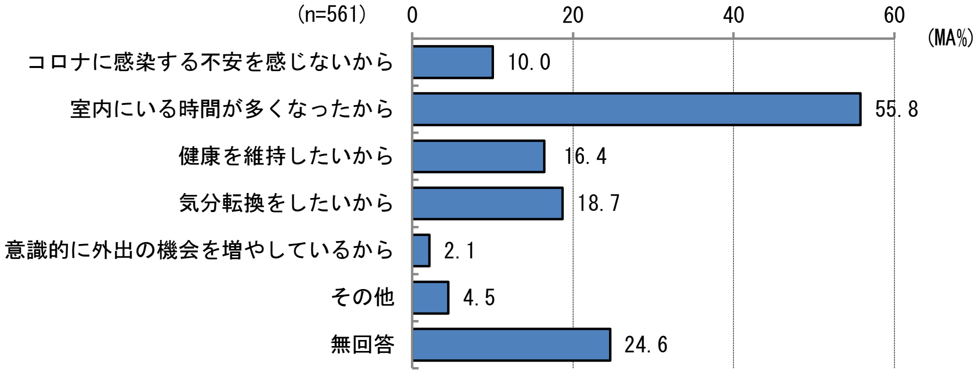
【要介護度別 「減少した」を選択した理由】



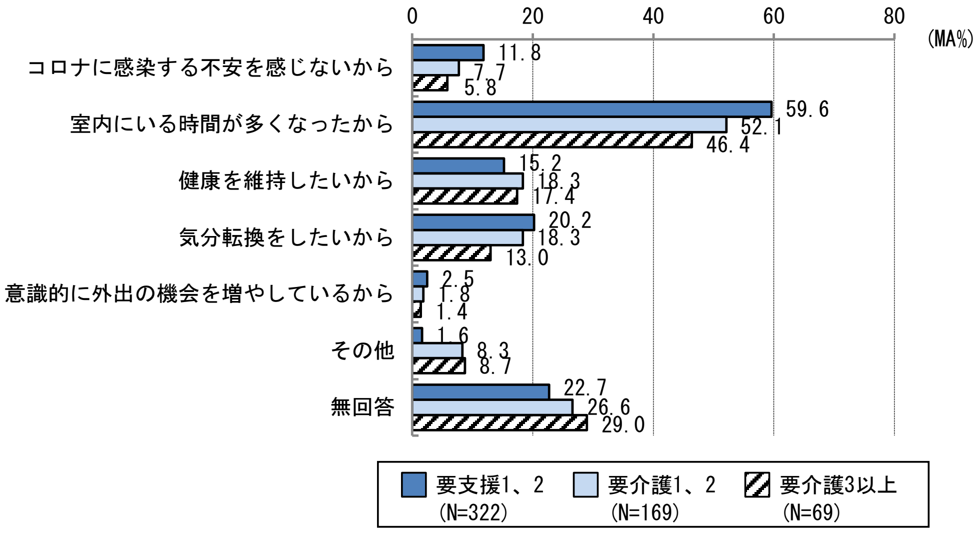
Ａ票　問22-2　「増加した」を選択した理由は何ですか　（〇はいくつでも）

「増加した」を選択した理由については、「室内にいる時間が多くなったから」が 55.8%と最も多く、次いで、「気分転換をしたいから」が 18.7%、「健康を維持したいから」が 16.4%となっています。

要介護別度にみると、すべての区分で「室内にいる時間が多くなったから」が最も多く、次いで、要支援１、２では「気分転換をしたいから」、要介護３以上では「健康を維持したいから」が多くなっています。



要介護度別 「増加した」を選択した理由】



〔29〕コロナ禍の後に取り組みたいこと（自由記述）

A票　問23　コロナ禍の後に、ご本人が取り組みたいことは何ですか（自由記述）

コロナ禍の後に取り組みたいことについてご意見をいただいたところ、37 件の回答がありました。内訳は下記のとおりで、「旅行やスポーツがしたい」が 13 件と最も多くなっています。

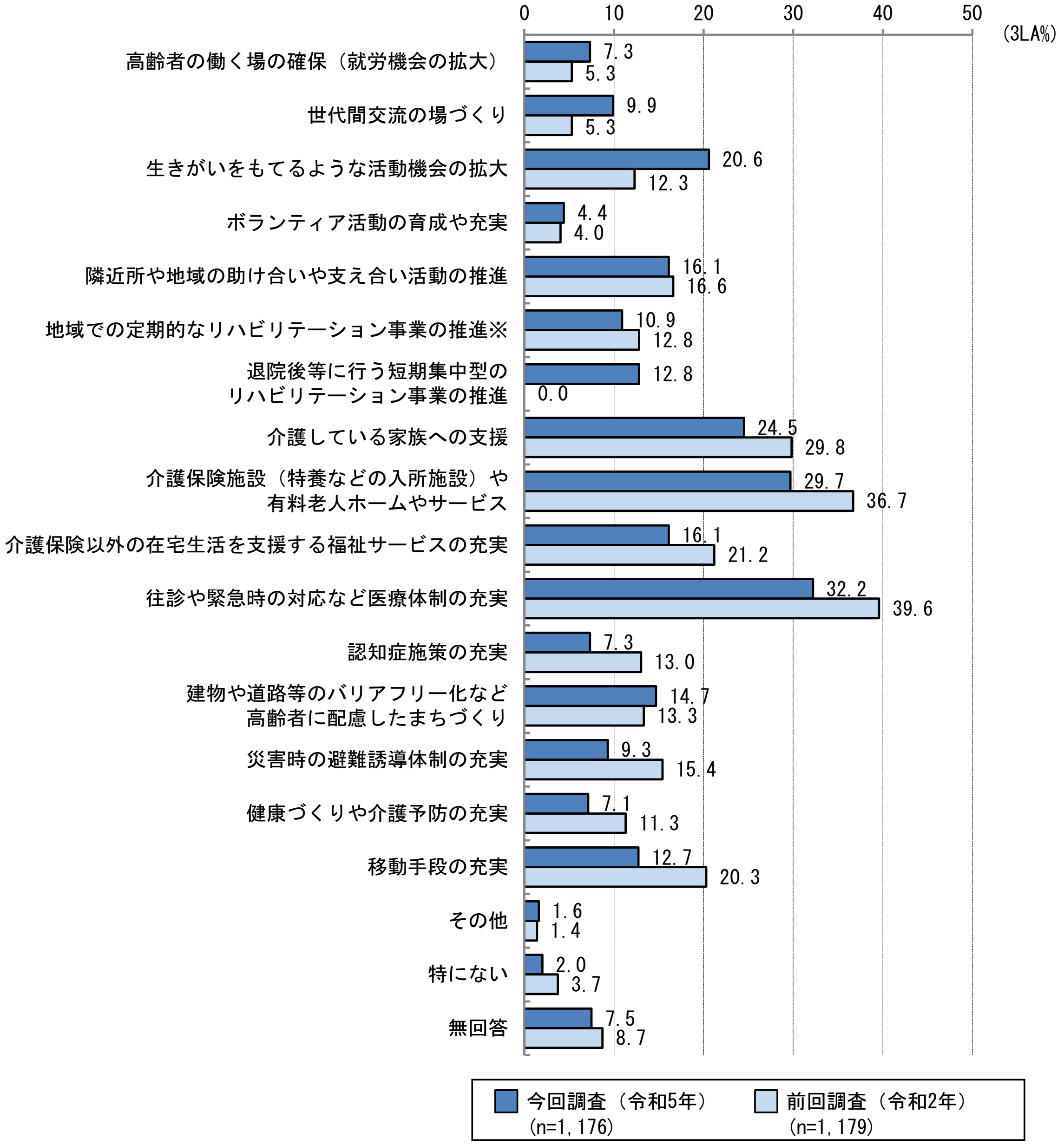
内容	件数
旅行やスポーツがしたい	13
食事や買い物に出かけたい	11
家族や友人に会いたい	3
コロナ前のように自由で普通の生活を送りたい	3
体力維持	1
特になし	6

〔30〕高齢者への支援に必要だと思うもの

A票　問24　高齢者への支援には、何が必要だと思いますか（〇は主なもの3つまで）

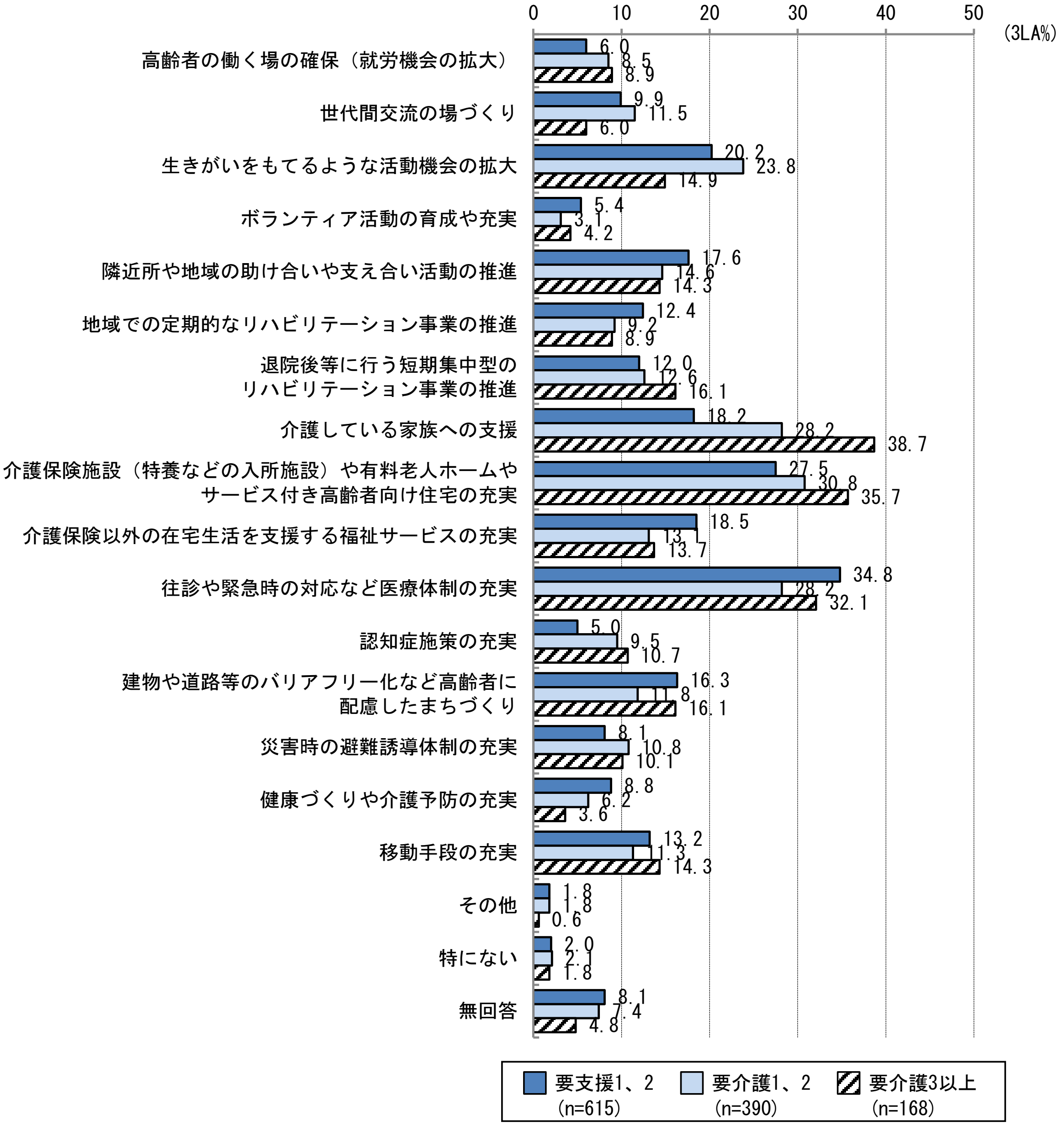
高齢者への支援に必要だと思うものについては、「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」が 32.2%と最も多く、次いで、「介護保険施設（特養などの入所施設）や有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の充実」が 29.7%、「介護している家族への支援」が 24.5%となっています。前回調査に比べて、「生きがいをもてるような活動機会の拡大」が 8.3 ポイント増加しています。

要介護度別にみると、要介護１、２では「介護保険施設（特養などの入所施設）や有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅の充実」、要介護３以上では「介護している家族への支援」が最も多くなっています。



※前回調査では項目なし

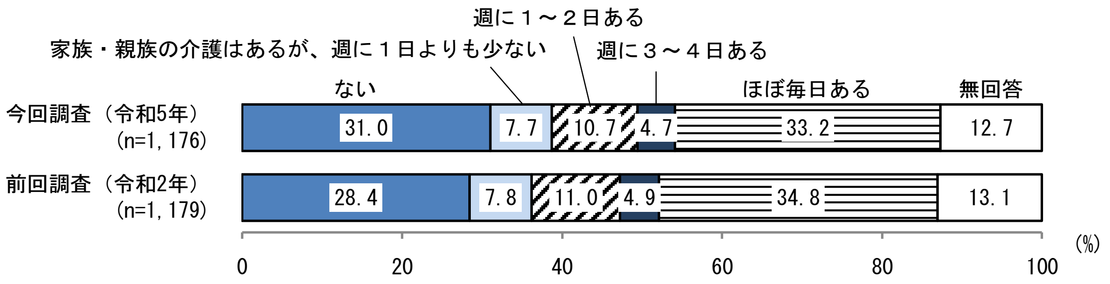
【要介護度別　高齢者への支援に必要だと思うもの】



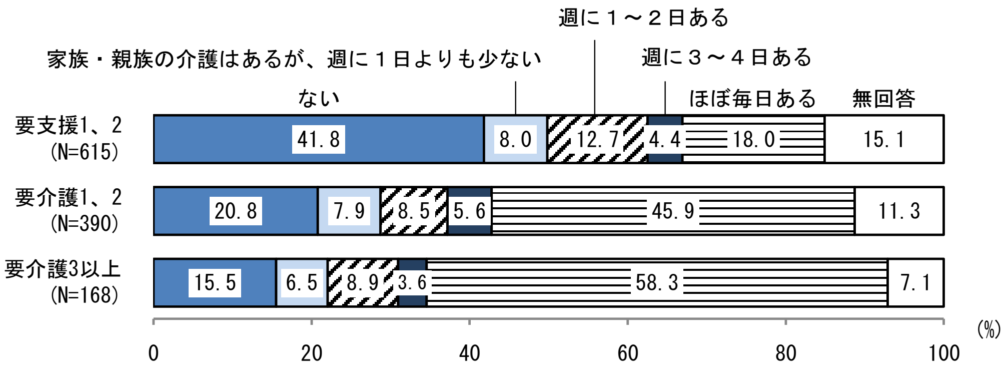
〔31〕家族・親族による介護の頻度

A票　問25　ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（1つに〇）
※同居していない子どもや親族等からの介護を含む

家族・親族による介護の頻度は、「ほぼ毎日ある」が 33.2%と最も多く、次いで、「ない」が 31.0%で、家族から介護を『受けている』（「ない」以外の合計）は 56.3%となっており、前回調査に比べて 2.2 ポイント減少しています。
要介護度別にみると、要支援１、２では「ない」が 41.8%で最も多く、要介護１、２では『受けている』が 67.9%、要介護３以上では 77.3%となっています。



【要介護度別　家族・親族による介護の頻度】

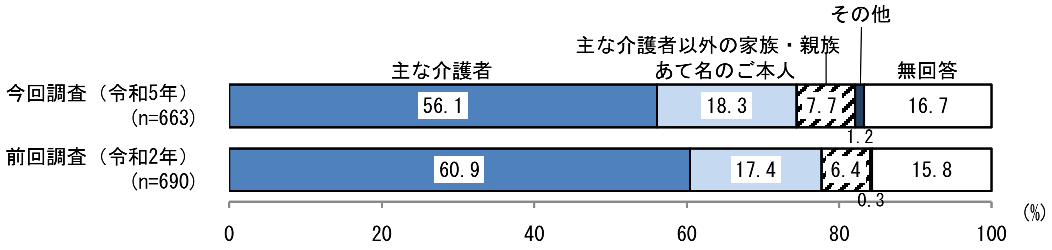


２　主なな介護者について

【Ａ票の問 25 で「２.」～「５.」（家族や親族の介護を受けている）を選択された方のみ】

〔１〕調査票の記入者

「主な介護者」が 56.1%と最も多く、次いで、「あて名のご本人」が 18.3%、「主な介護者以外の家族・親族」が 7.7%となっています。

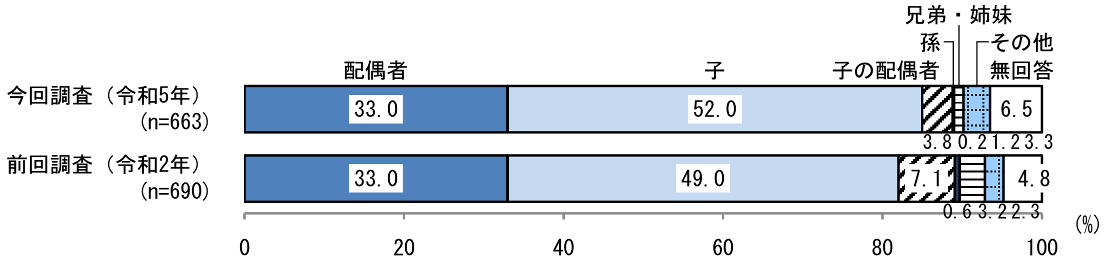


〔２〕介護者と調査対象との関係

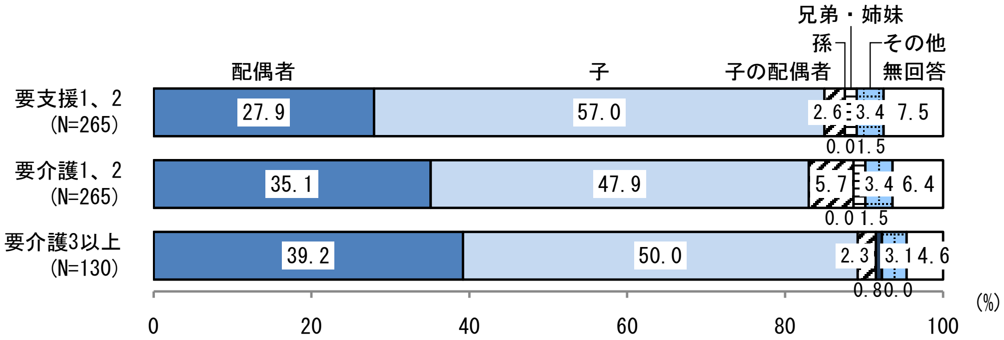
Ｂ票　問１　主な介護者の方は、どなたですか　（１つに○）

主な介護者は「子」が 52.0%と最も多く、次いで、「配偶者」が 33.0%、「子の配偶者」が 3.8%となっています。

要介護度別にみると、年齢があがるにつれて「配偶者」の割合が多くなる傾向がみられます。



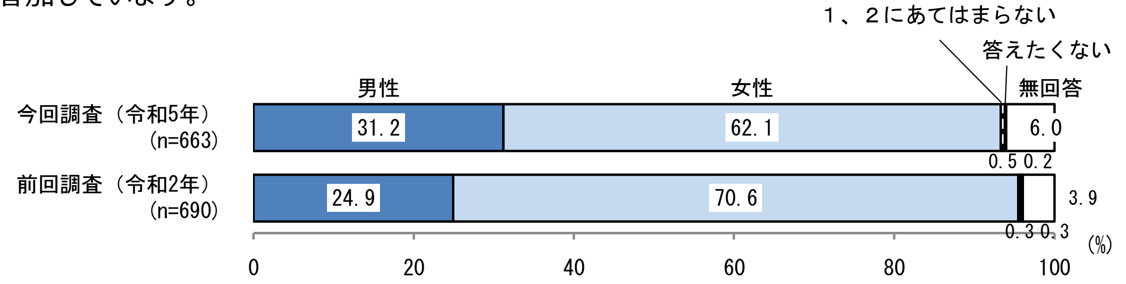
【要介護度別　介護者と本人の関係】



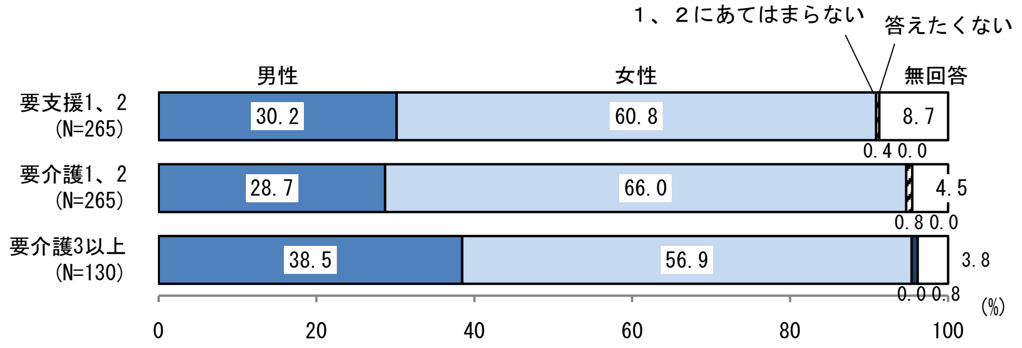
〔3〕主な介護者の性別

B票 問2 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つに○）

主な介護者の性別は、「女性」が62.1%と多くなっていますが、前回調査に比べて男性が6.3%増加しています。



【要介護度別 主な介護者の性別】

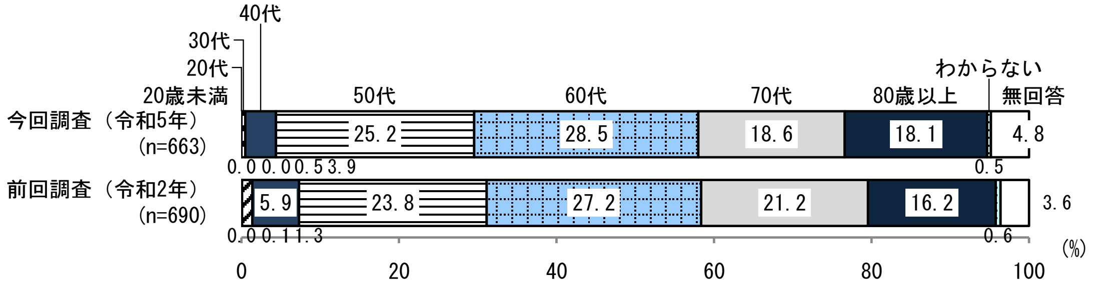


〔4〕主な介護者の年齢

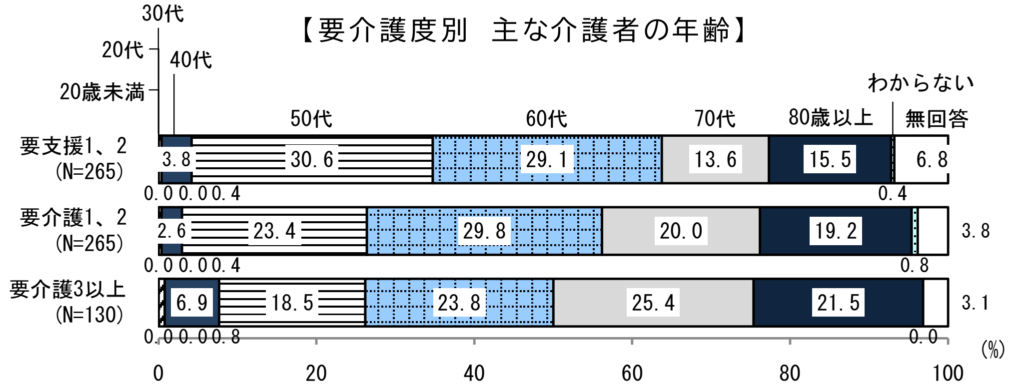
B票 問3 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つに○）

主な介護者の年齢は、「60 代」が 28.5%と最も多く、次いで、「50 代」が 25.2%となっています。60 代以上による介護が合計 65.2%と半数以上を占め、「80 歳以上」も 18.1%みられます。

要介護度別にみると、要介護認定者では「60 代以上」が約 7 割と多くなっています。



【要介護度別 主な介護者の年齢】

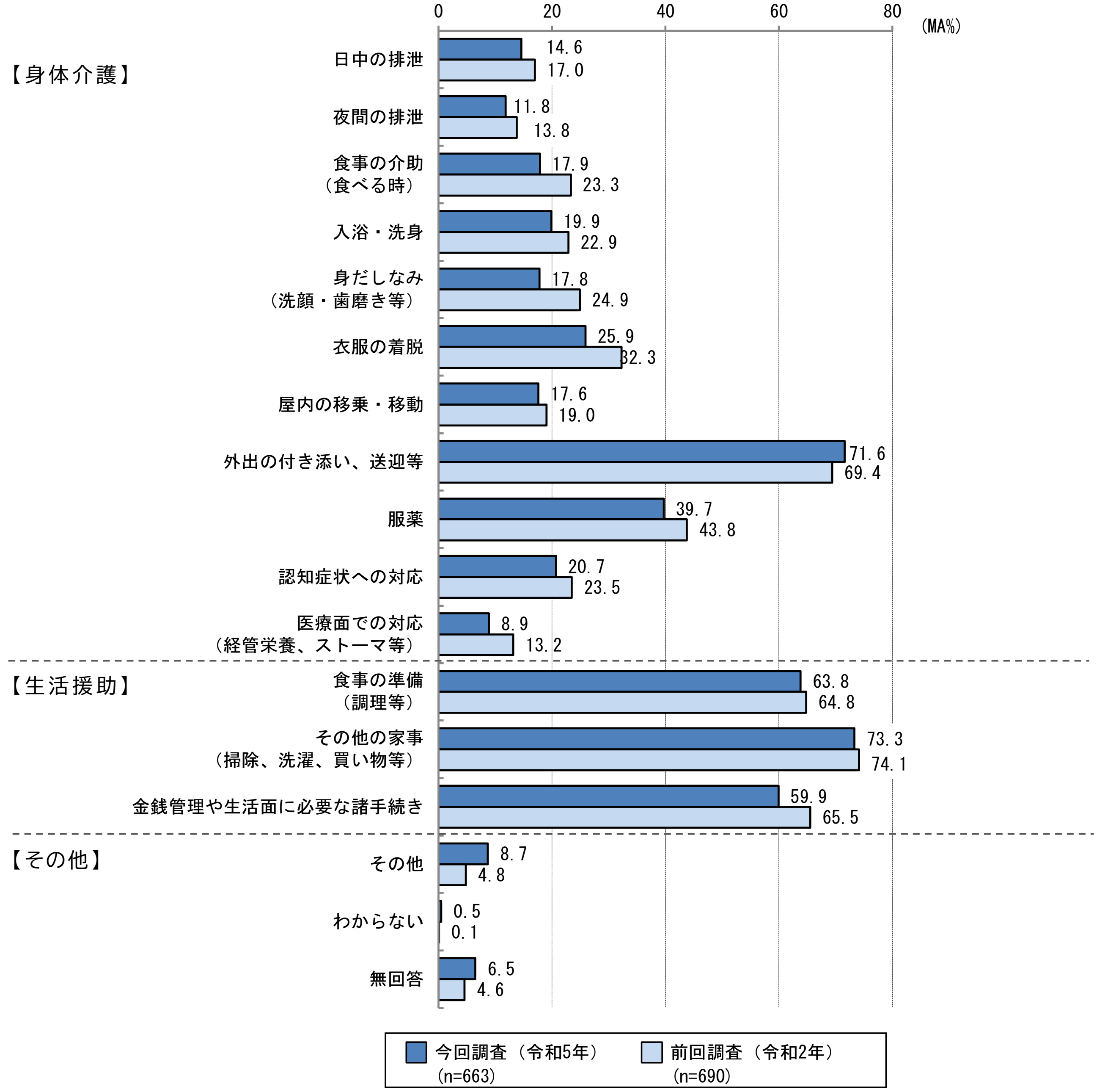


〔5〕主な介護者が行っている介護

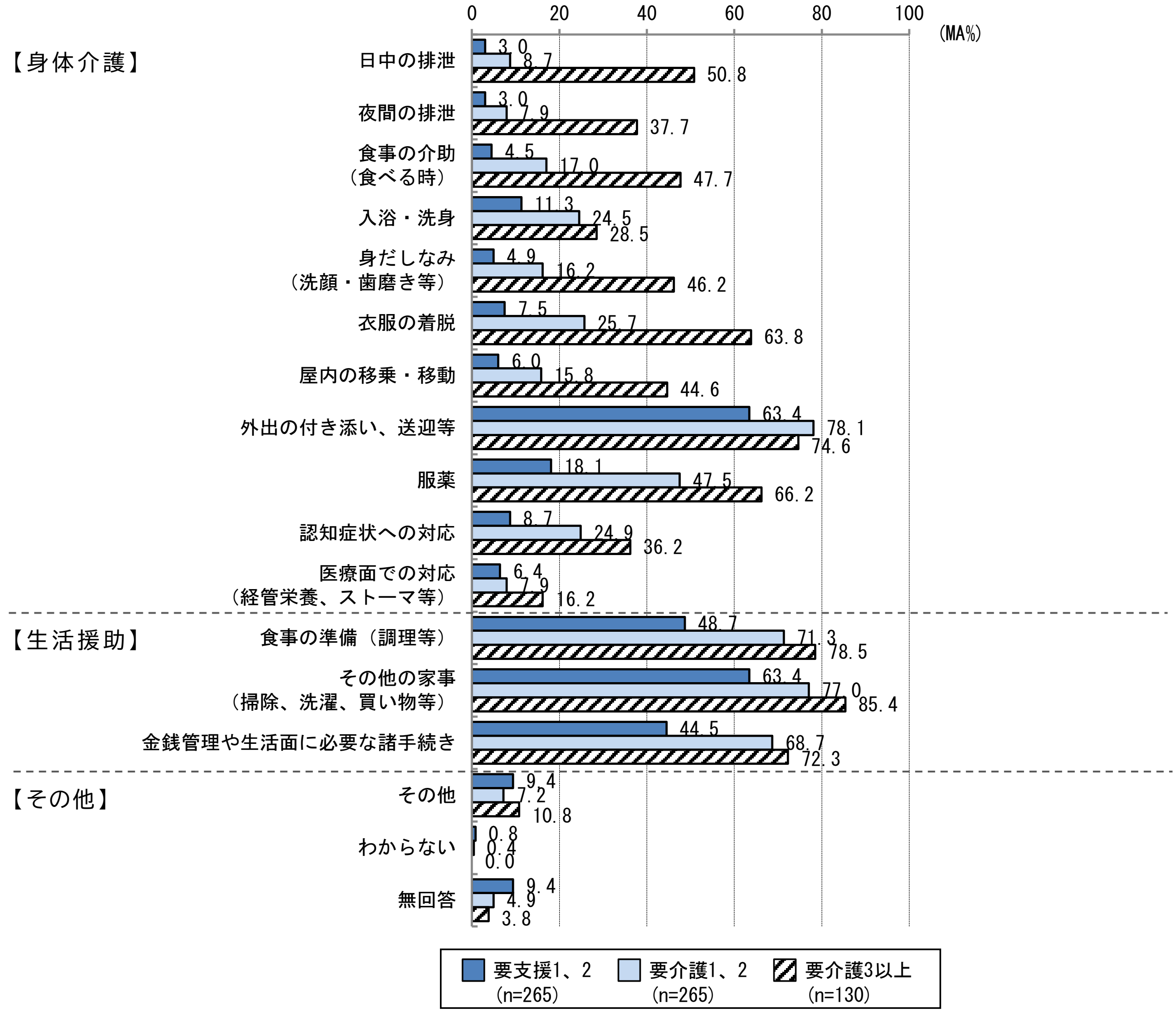
Ｂ票　問４　現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（○はいくつでも）

主な介護者が行っている介護は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 73.3％と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が 71.6％、「食事の準備（調理等）」が 63.8％となっています。

要介護度別にみると、要支援１、２、要介護１、２では「外出の付き添い、送迎等」が最も多く、要介護３以上は「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が最も多くなっています。



【要介護度別　主な介護者が行っている介護】

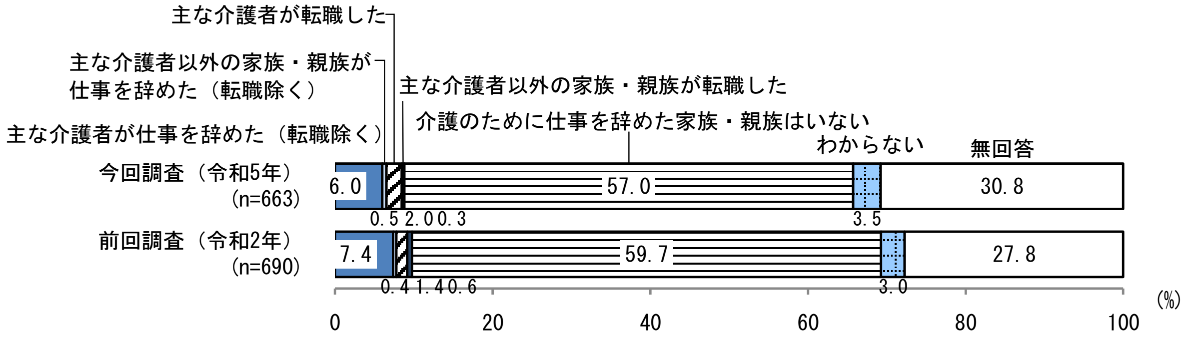


〔６〕介護のための離職の有無

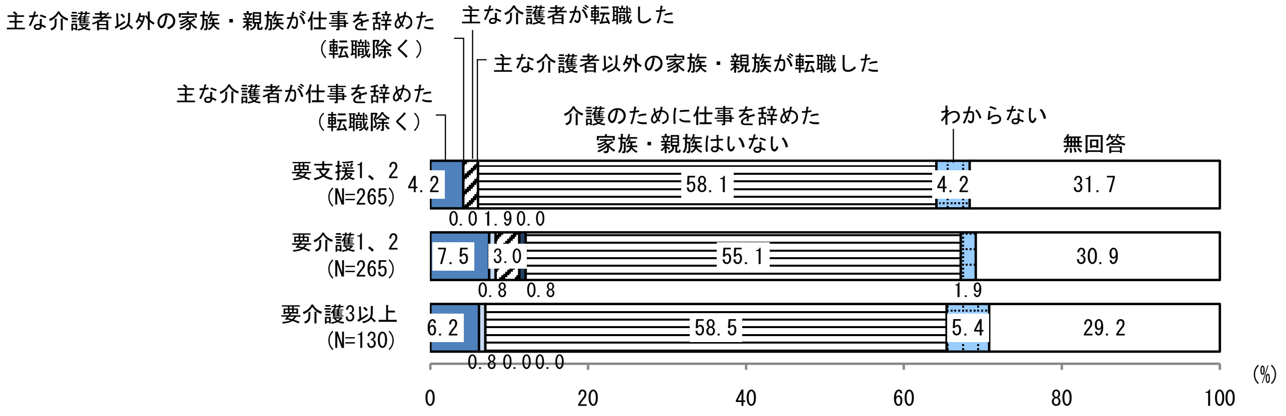
B票 問５　ご家族やご親族の中で、あて名のご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（1つに○）
※現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません。また、自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

介護のための離職については、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 57.0%と最も多くなっています。

要介護度別にみると、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」は要介護１、２で 7.5%、要介護３以上で 6.2%となっています。



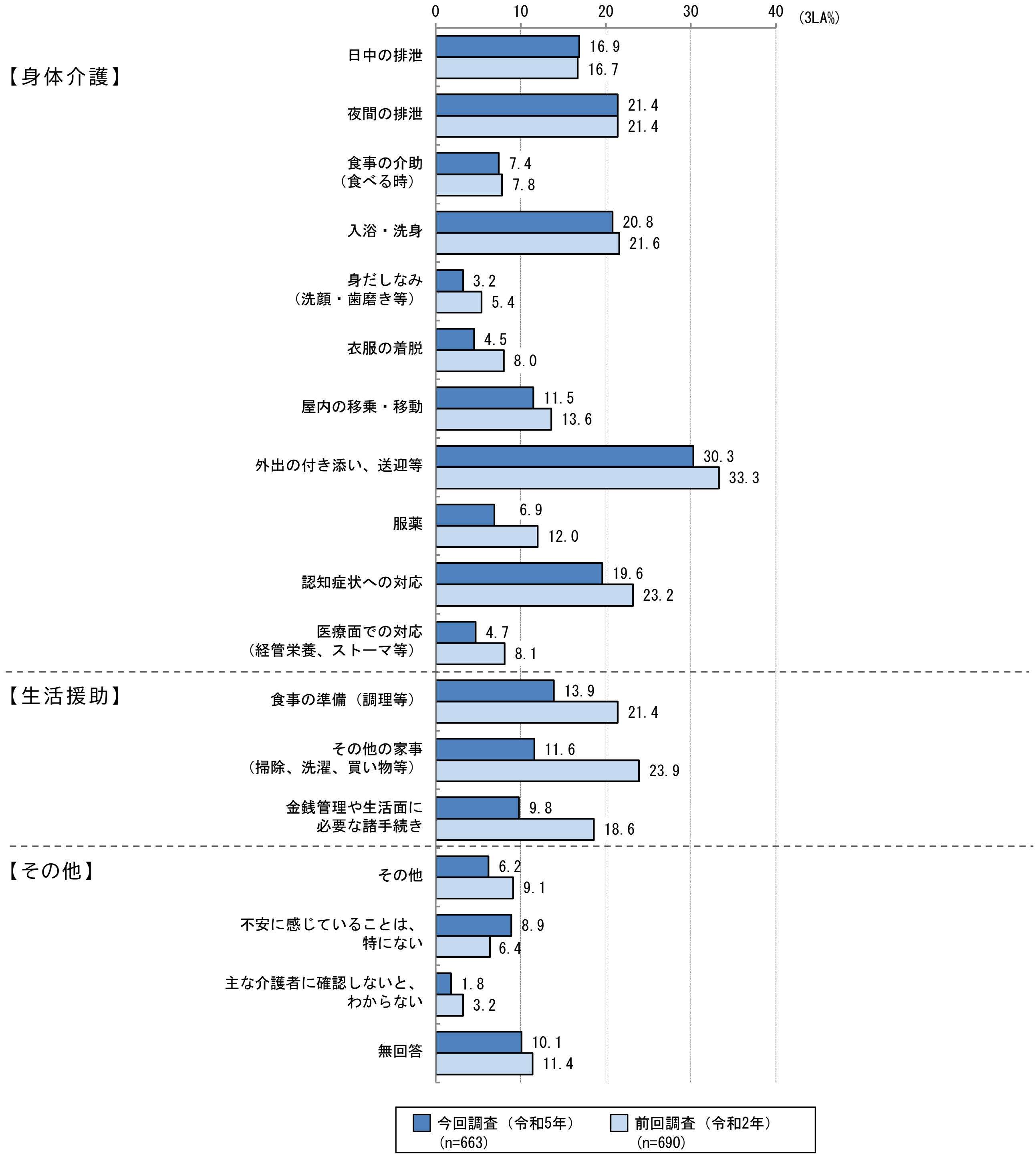
【要介護度別　介護のための離職の有無】



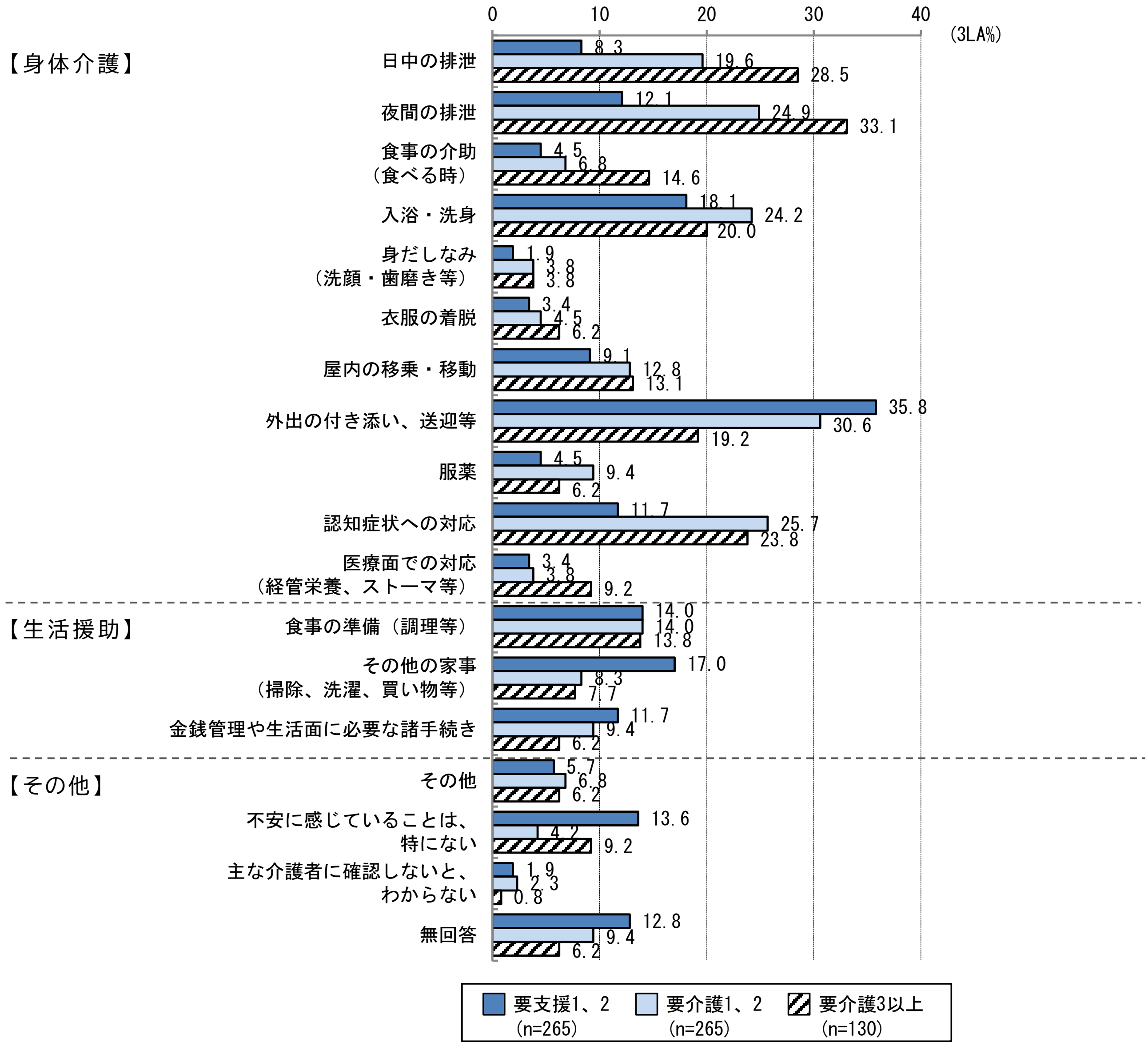
〔7〕主な介護者が不安に感じる介護

B票 問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください （1～17から主なもの3つまでに○）
※現状で行っているか否かは問いません

在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護は、「外出の付き添い、送迎等」が30.3%と最も多く、次いで、「夜間の排泄」が 21.4%、「入浴・洗身」が 20.8%となっています。。前回調査に比べて、「食事の準備（調理等）」が7.5ポイント、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 12.3 ポイント、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 8.8 ポイント減少しています。
要介護度別にみると、要支援１、２と要介護１、２では「外出の付き添い、送迎等」が最も多く、要介護３以上では「夜間の排泄」が、33.1%と最も多くなっています。



【要介護度別　介護者が不安に感じる介護】

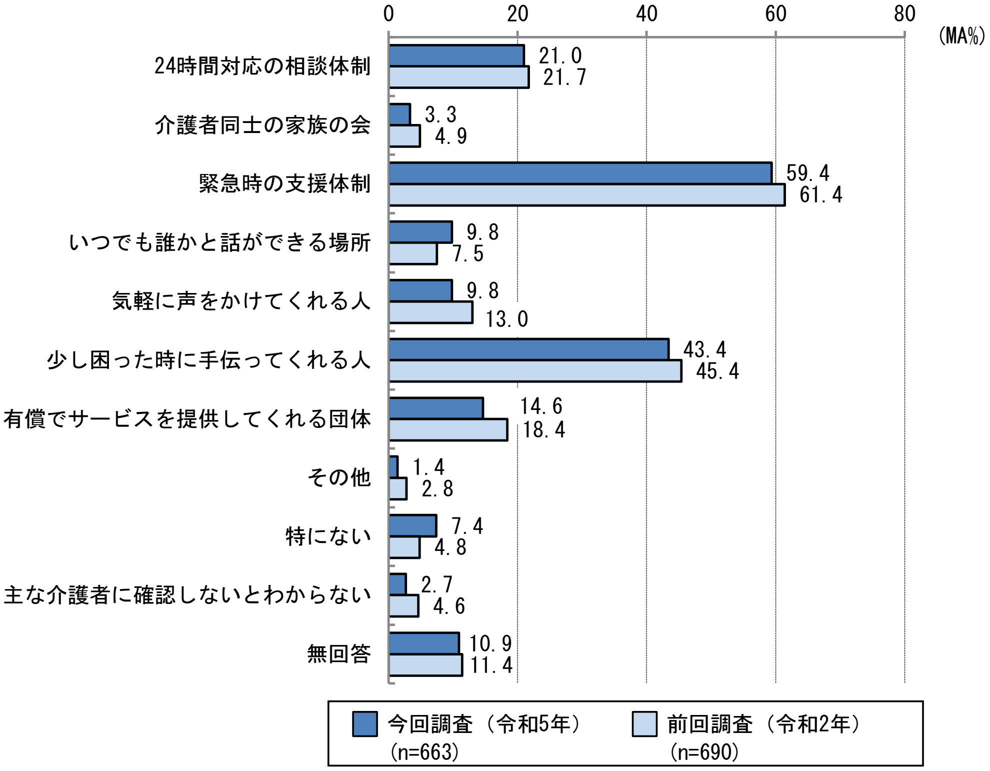


〔８〕現在の生活を継続するために必要と感じる地域での支援

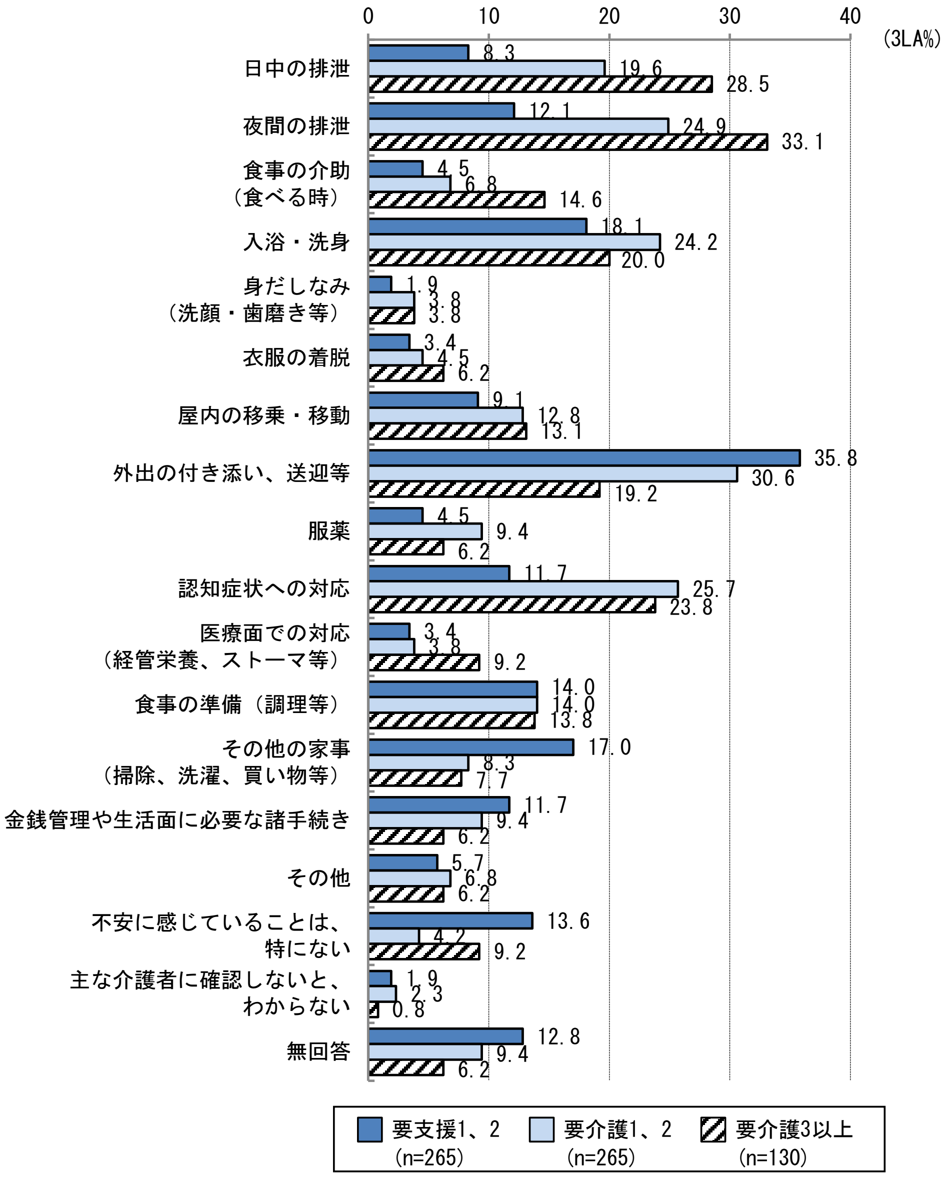
B票　問７　現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が必要だと感じる地域での支援は何ですか　（○はいくつでも）

現在の生活を継続するために必要と感じる地域での支援については、「緊急時の支援体制」が59.4%と最も多く、次いで、「少し困った時に手伝ってくれる人」が 43.4%、「24 時間対応の相談体制」が 21.0%となっています。

要介護度別にみると、上位３項目はどの区分も同じになっていますが、要介護１、２では「いつでも誰かと話ができる場所」が 12.5%、「有償でサービスを提供してくれる団体」が 17.4%と、他の区分に比べて多くなっています。



【要介護度別　現在の生活を継続するために必要と感じる地域での支援】



３　介護者の就労について

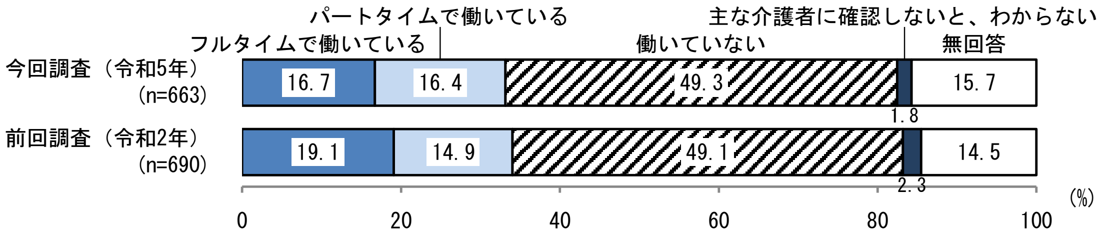
〔1〕主な介護者の勤務形態

B票　問８　主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（○は1つ）

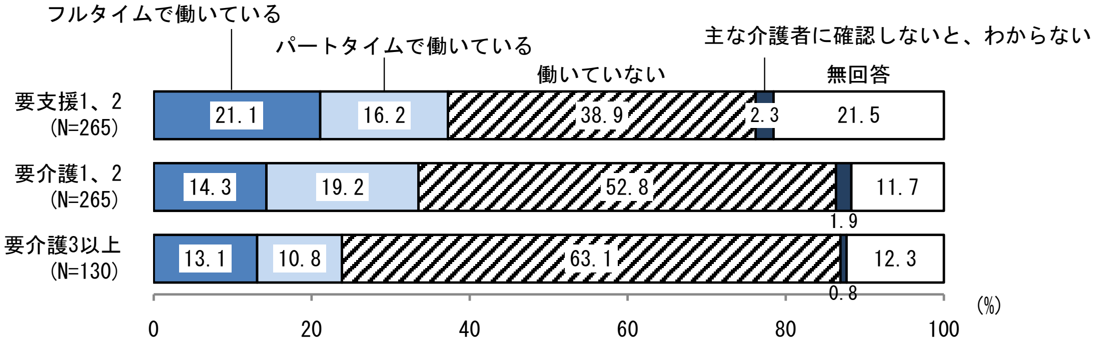
※「パートタイム」とは、「１週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

介護者の勤務形態については、「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた、『働いている』は合計 33.1%となっています。

要介護度別にみると、『働いている』は要支援１、２で 37.3%、要介護１、２で 33.5%、要介護３以上で 23.9%となっています。



【要介護度別　主な介護者の勤務形態】

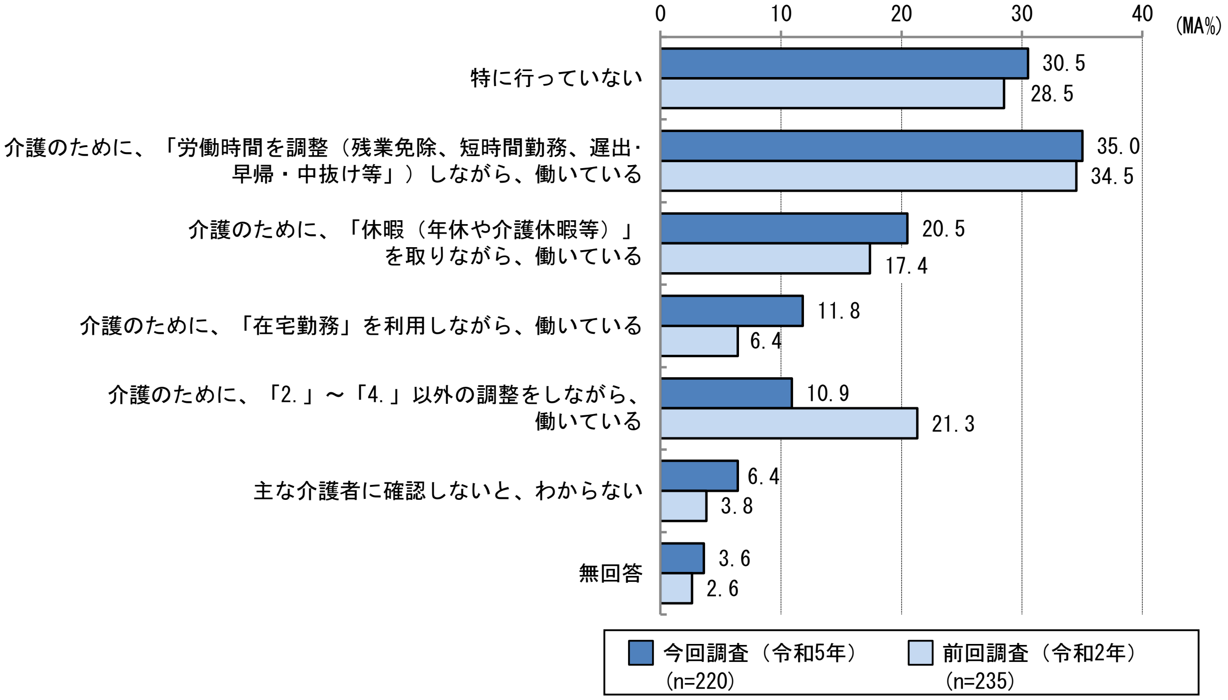


〔２〕主な介護者の方の働き方の調整

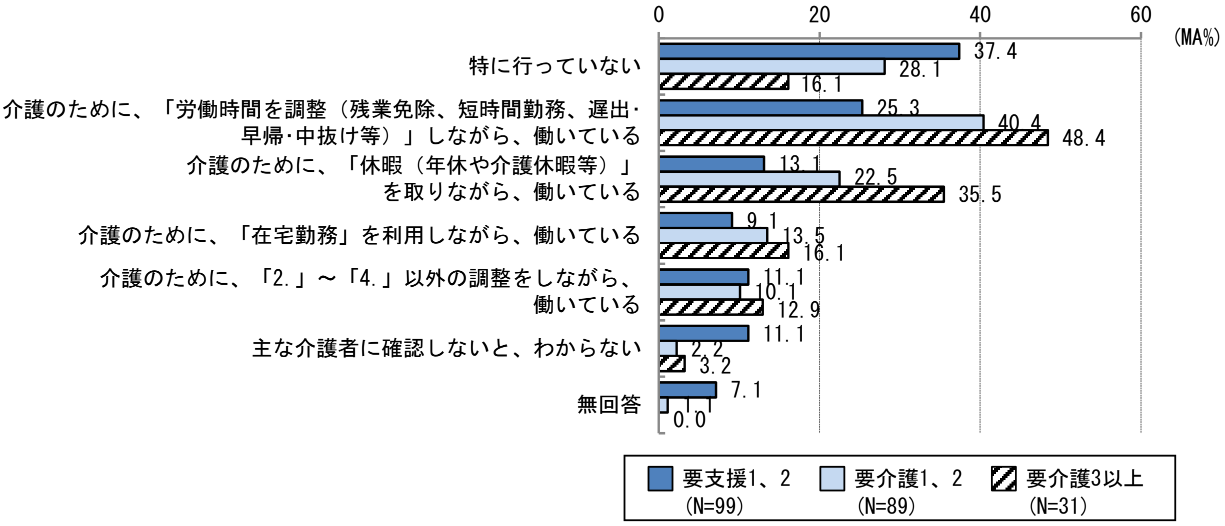
【問８で「1.」「2.」（働いている）とお答えの方のみ】
B票　問８-１　主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか　（○はいくつでも）

主な介護者の方の働き方については、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」の調節をしながら、働いている」が 35.0%と最も多くなっています。前回調査に比べて、「介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いてる」が 5.4 ポイント増加しています。

要介護度別にみると、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」は、要介護１、２で 40.4%、要介護３以上で 48.4%と最も多くなっています。



【要介護度別　主な介護者の方の働き方の調整】

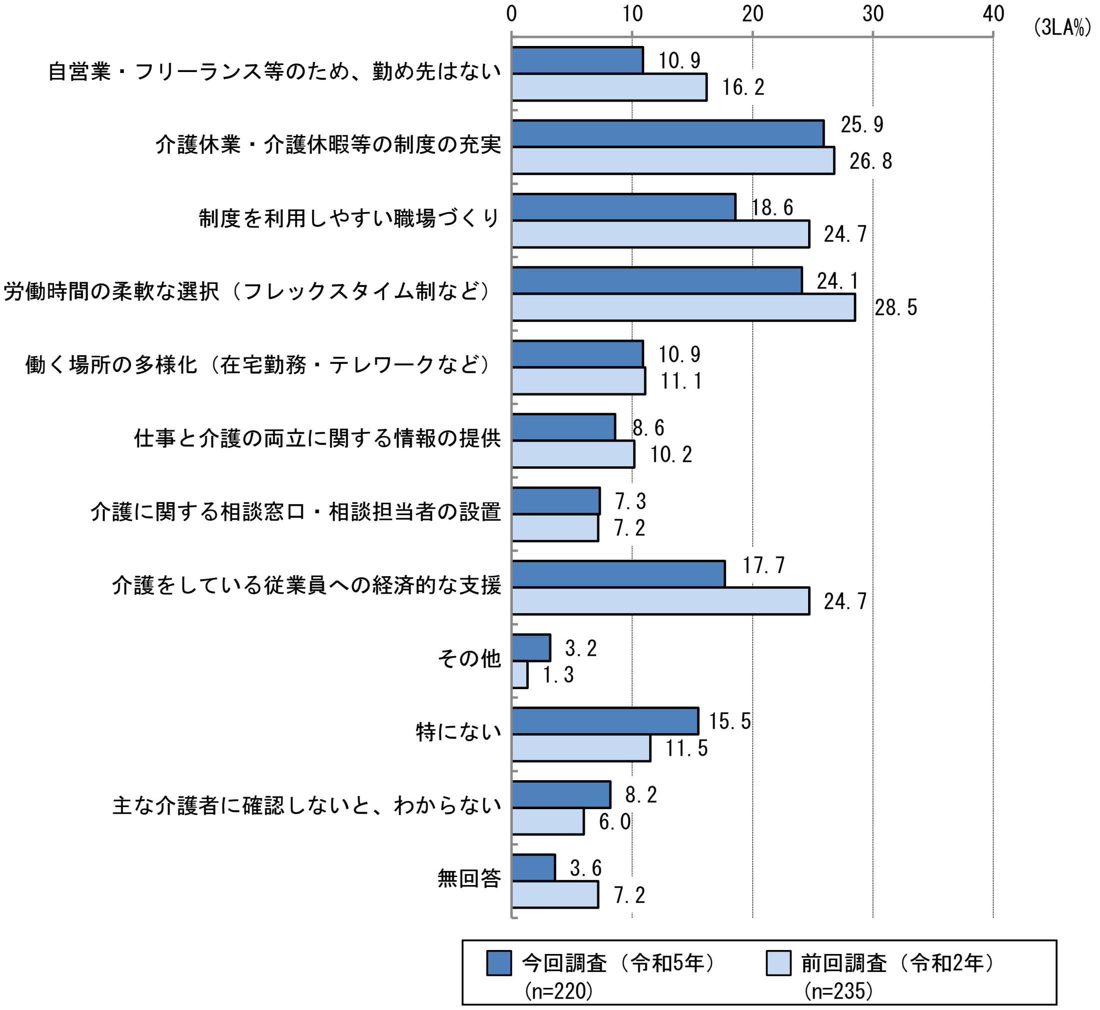


〔３〕就労の継続に効果的な勤め先からの支援

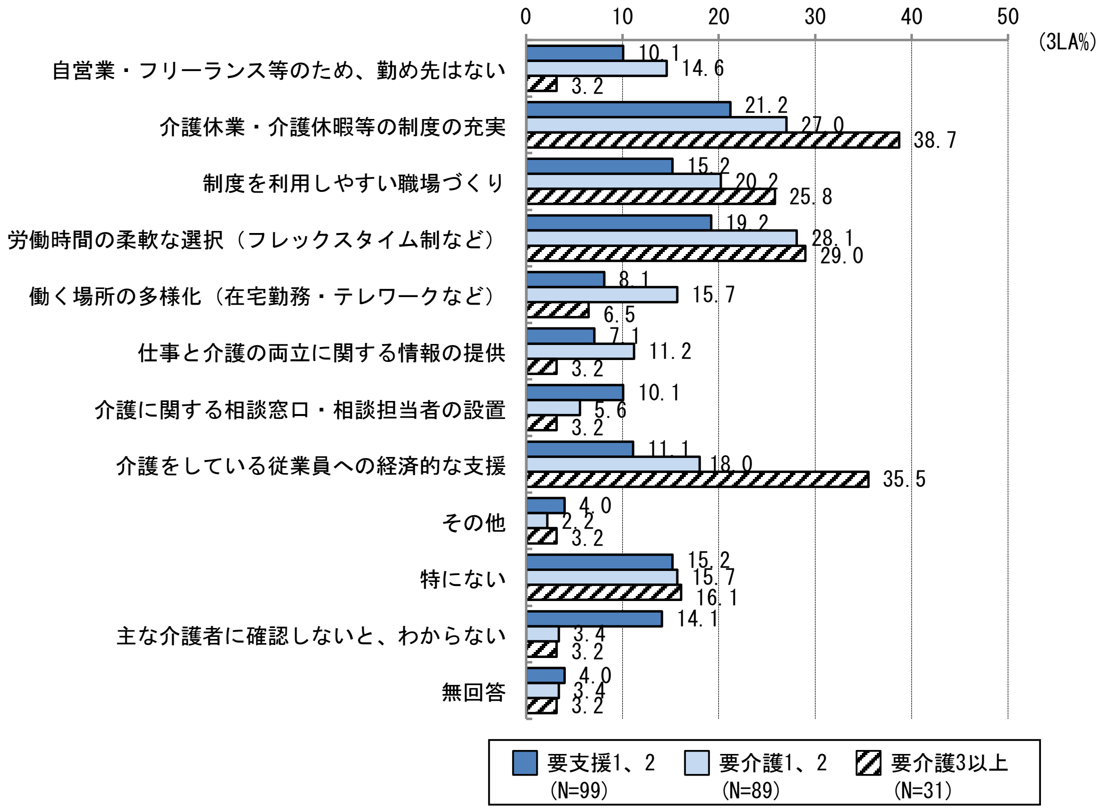
【問７で「1.」「2.」（働いている）とお答えの方のみ】
B票　問8-2　主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（主なもの3つまでに○）

就労の継続のために必要な支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が25.9%と最も多く、次いで、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 24.1%となっています。

要介護度別にみると、要支援１、２、要介護３以上では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が最も多く、要介護１、２では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が28.1%と最も多くなっています。



【要介護度別　就労の継続に効果的な勤め先からの支援】



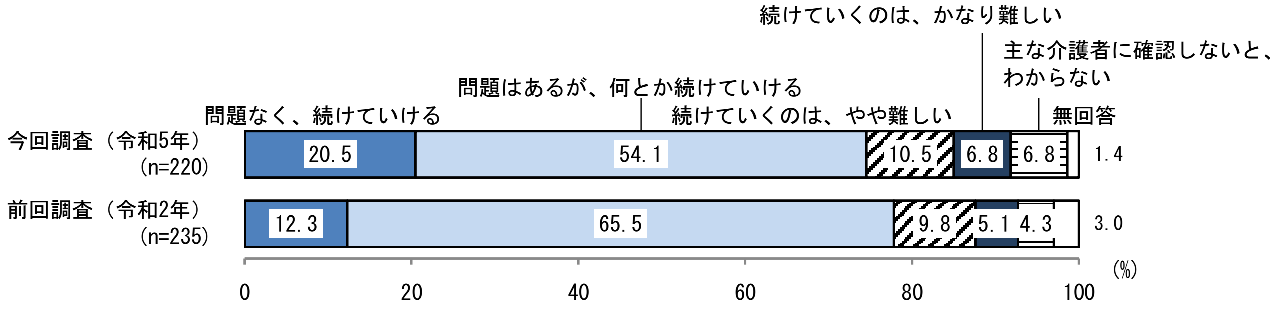
〔4〕主な介護者の就労継続の可否

【問７で「1.」「2.」（働いている）とお答えの方のみ】

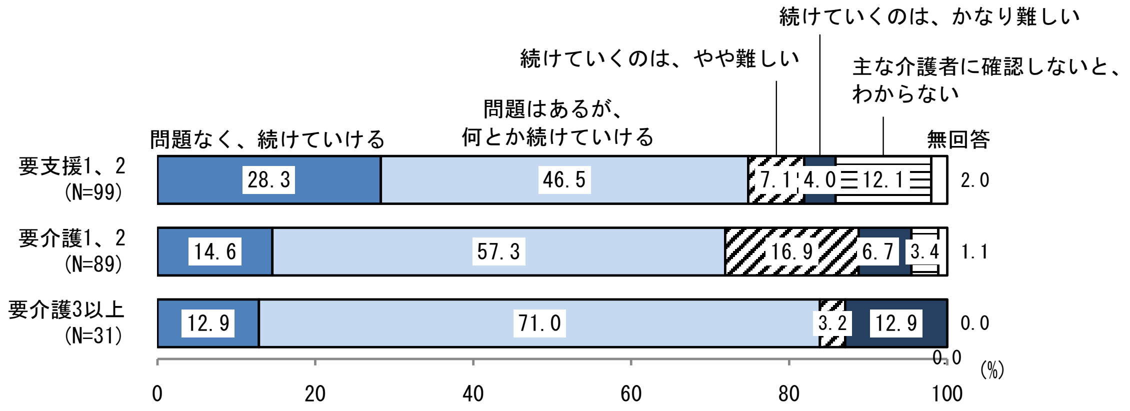
Ｂ票 問8-3 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つに○）

主な介護者の就労継続の可否について、「問題なく、続けていける」と「問題あるが、何とか続けていける」を合わせた『続けていける』は合計 74.6%となっていますが、「問題はある」と回答している人が 54.1%となっています。前回調査に比べて、「問題なく続けていける」は 8.2 ポイント増加しています。

要介護度別にみると、要支援 1 、2 では「問題なく続けていける」が 28.3%と、他の区分に比べて多く、要介護 3 以上では「続けていくのは、かなり難しい」が 12.9%と他の区分に比べて多くなっています。



【要介護度別　主な介護者の就労継続の可否】

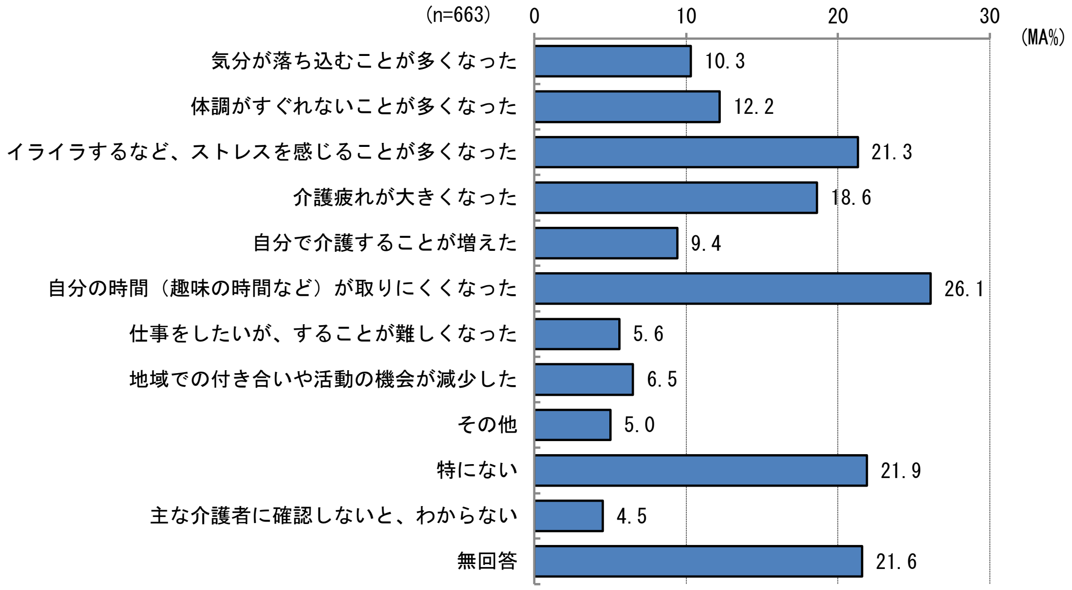


〔５〕新型コロナウイルス感染症が主な介護者に与えた影響について

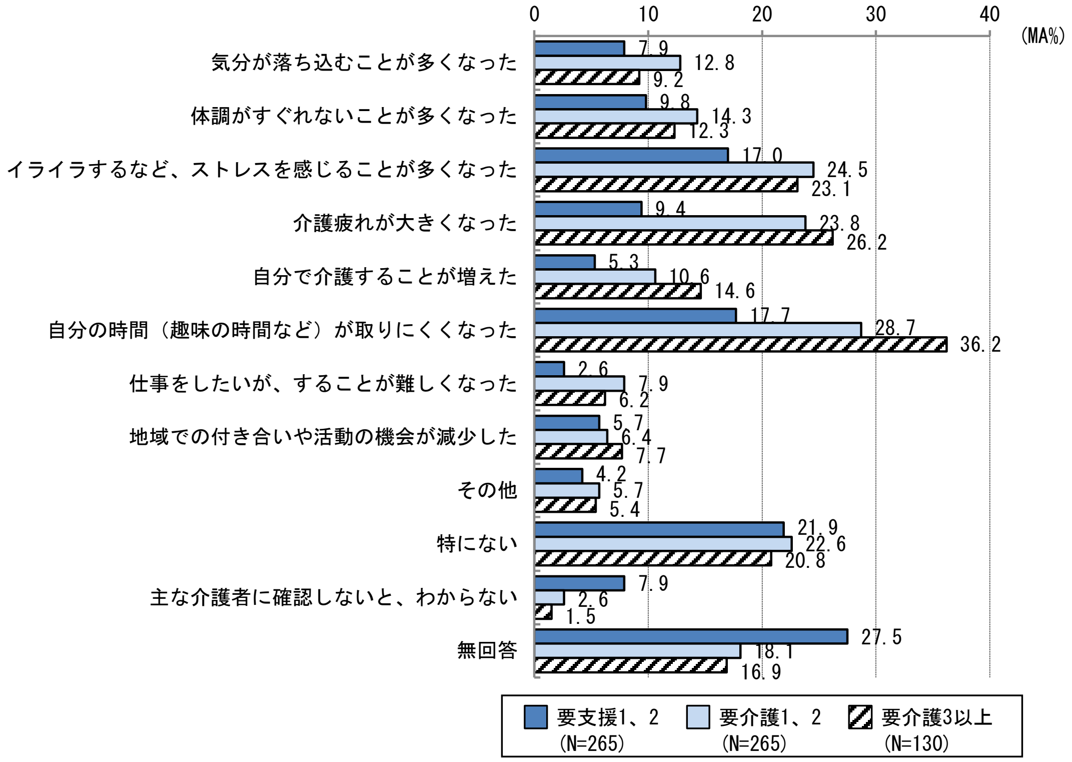
B票　問９　主な介護者の方は、新型コロナウイルス感染症の影響により、以下のような変化はありましたか（○はいくつでも）

新型コロナウイルス感染症の影響については、「自分の時間（趣味の時間など）が取りにくくなった」が 26.1％と最も多く、次いで、「イライラするなど、ストレスを感じることが多くなった」が 21.3％、「介護疲れが大きくなった」が 18.6％となっていますが、一方で「特にない」も２割ほどみられます。

要介護度別にみると、「自分の時間（趣味の時間など）が取りにくくなった」は要介護３以上で 36.2％と、他の区分に比べて多くなっています。



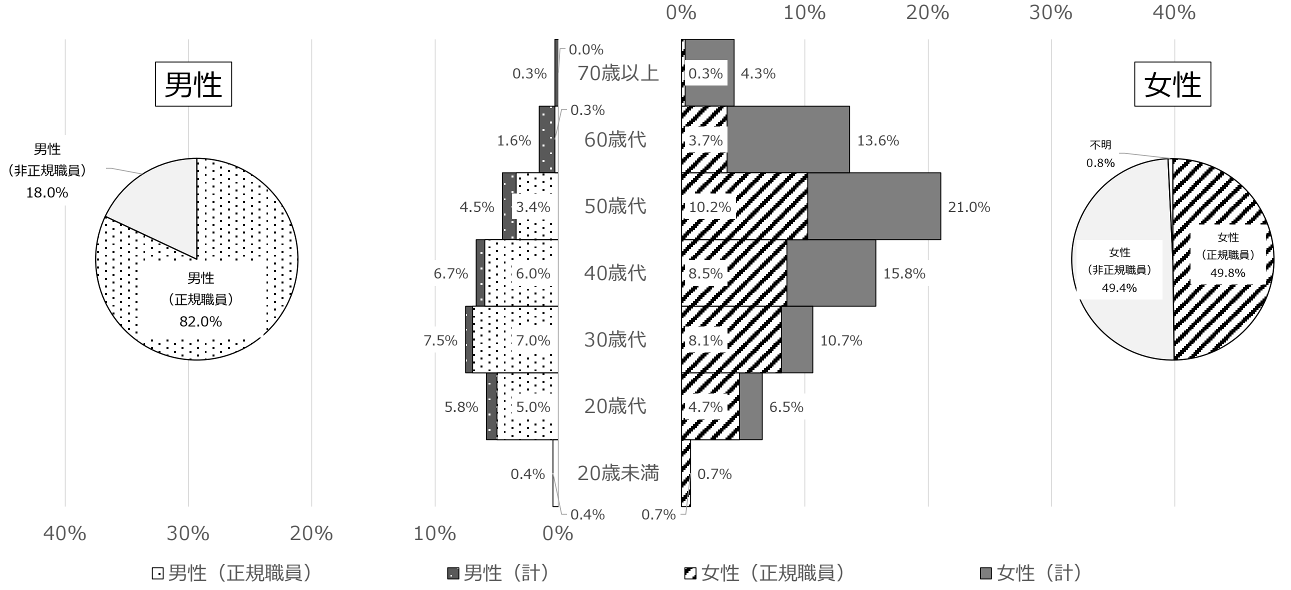
【要介護度別　新型コロナウイルス感染症の影響について】



3. 介護人材実態調査

〔1〕性別・年齢別の雇用形態の構成比（全サービス系統合計、n＝704）

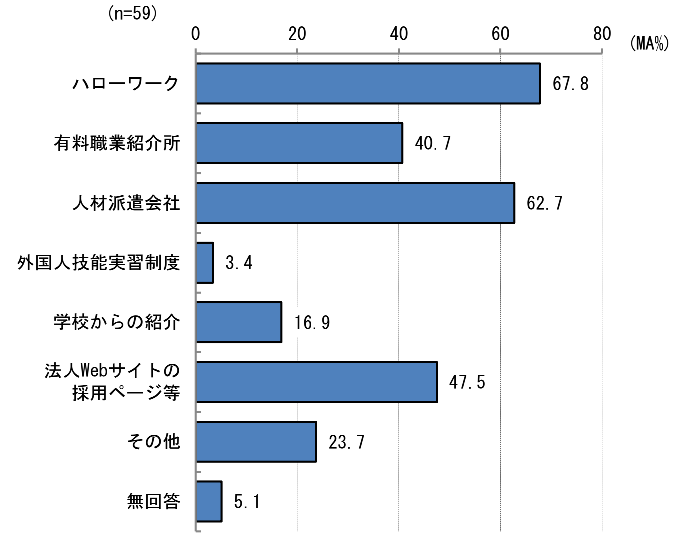
「性別・年齢別の雇用形態の構成比をみると、女性 50 歳代が全体の 21.0%と最も多く、次いで、女性 40 歳代が 15.8%となっています。男性は 30 歳代、40 歳代がやや多くなっていますが、すべての年齢層で 1 割未満となっています。また、男性は正規職員の比率が高いのに対し、女性 40歳代、50 歳代は正規職員と非正規職員が同程度、60 歳代、70 歳以上では非正規職員のほうが多くなっています。



〔２〕事業所の介護人材戦略等（採用ツール）

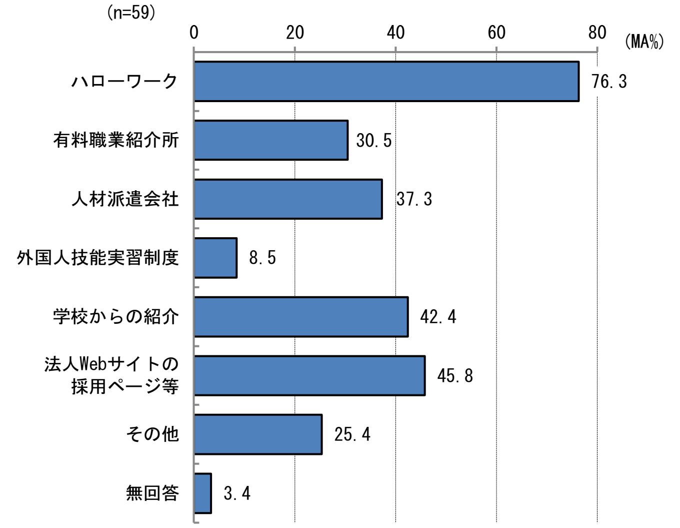
問３　過去５年間で活用した採用ツールについて、ご回答ください。（あてはまるすべてに○）

過去 5 年間で活用した採用ツールは、「ハローワーク」が 67.8%と最も多く、次いで、「人材派遣会社」が 62.7%、「法人 Web サイトの採用ページ等」が 47.5%となっています。



問４　今後、活用したい採用ツールについて、ご回答ください。（あてはまるすべてに○）

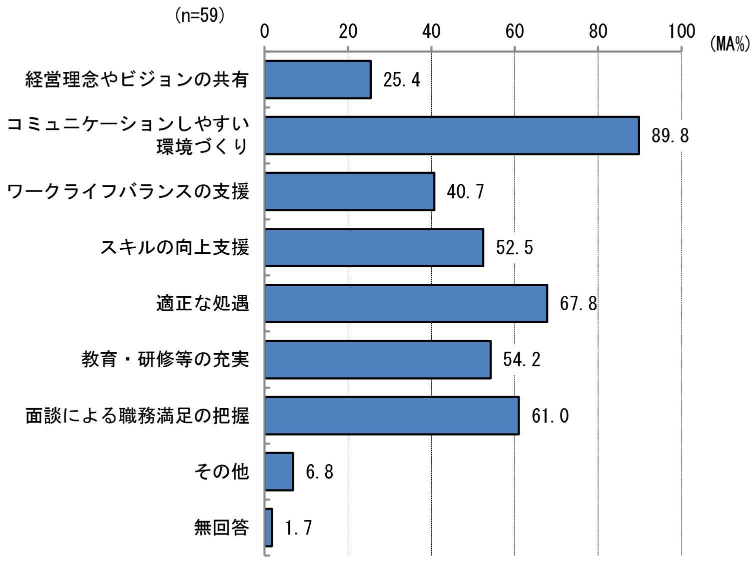
今後、活用したい採用ツールは、「ハローワーク」が 76.3%と最も多く、次いで、「法人 Web サイトの採用ページ等」が 45.8%、「学校からの紹介」が 42.4%となっています



［3］事業所の介護人材戦略等（離職防止・不足職種）

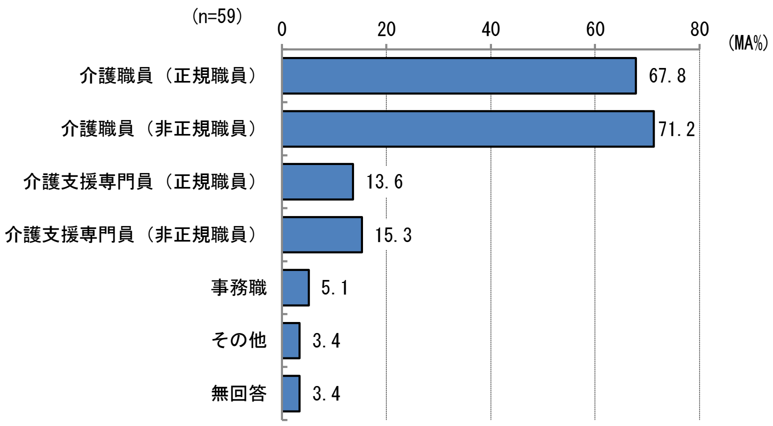
問５　人材の定着や離職防止のための取組について、ご回答ください。（あてはまるすべてに○）

人材の定着や離職防止のための取組については、「コミュニケーションしやすい環境づくり」が89.8%と最も多く、次いで、「適正な処遇」が67.8%、「面談による職務満足の把握」が61.0%となっています。



問６　介護専門職として、不足していると感じる職種について、ご回答ください。（あてはまるすべてに○））

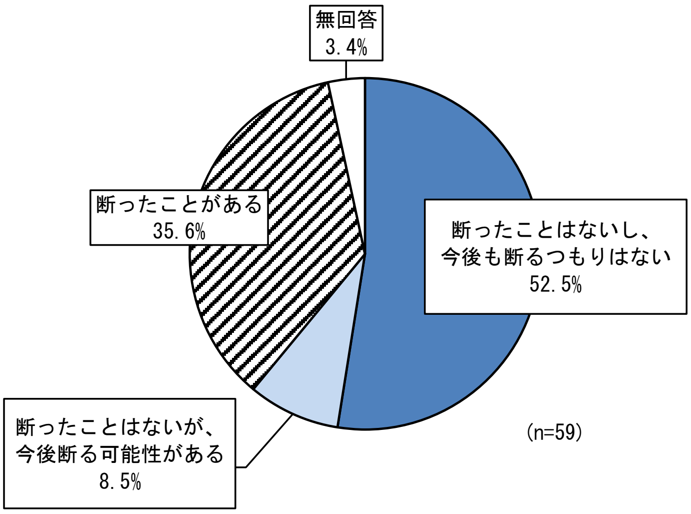
介護専門職として、不足していると感じる職種については、「介護職員（非正規職員）」が71.2%と最も多く、次いで、「介護職員（正規職員）」が67.8%となっています。



〔4〕事業所の介護人材戦略等（サービス提供）

問７　人員不足を理由として、サービス提供を断ったことはありますか。断ったことがある場合は、その理由もご記入ください。

人員不足を理由として、サービス提供を断ったことについては、「断ったことはないし、今後も断るつもりはない」が 52.5%と最も多く、「断ったことがある」は 35.6%となっています。



「断ったことがある」とお答えの事業所に、その理由を伺ったところ、計 19 件のご意見をいただきました。内訳は以下のとおりです。

内　　容	件数
希望の日時に適うスタッフがいなかったため	9件
コロナ感染等にて人員不足　受け入れ自体を拒否	4件
・入浴介助が出来ないと判断 ・重度の方で適正なケアが出来ないと判断 ・送迎運転手の不足 ・スタッフの高齢化により身体介護が受けられないため ・早朝と夜間のサービス提供を停止 ・職員の退職が相次いだため	各１件

〔５〕事業所の介護人材戦略等（離職者の勤務年数・人数）

問８　令和２年度及び令和３年度に自己都合で離職された各介護専門職等の方が貴施設等で勤務された年数に、人数をご記入ください。

令和２年度及び令和３年度に自己都合で離職された方の勤務年数別の人数について、回答のあった事業所の合計でみると、「介護職員（正規職員）」では「３年以上」が 54 人と最も多く、離職者数の合計は 123 人となっています。「介護職員（非正規職員）」では「１年未満」が 68 人と最も多く、離職者数の合計は 155 人となっています。「介護支援専門員」では正規職員、非正規職員を合わせて自己都合での離職者は１人となっています。

（単位：人）

		離職者の勤務年数			離職者数
		１年未満	１年以上３年未満	３年以上	合計
(1) 介護職員（正規職員）	人数	30	39	54	123
	事業所平均	1.7	1.6	2.5	
(2) 介護職員（非正規職員）	人数	68	45	42	155
	事業所平均	2.8	2.1	2.2	
(3) 介護支援専門員（正規職員）	人数	0	1	0	1
	事業所平均	0.0	0.5	0.0	
(4) 介護支援専門員（非正規職員）	人数	0	0	0	0
	事業所平均	0.0	0.0	0.0	
(5) 事務職	人数	2	0	1	3
	事業所平均	1.0	0.0	0.5	
(6) その他	人数	2	1	7	10
	事業所平均	0.7	0.5	1.8	

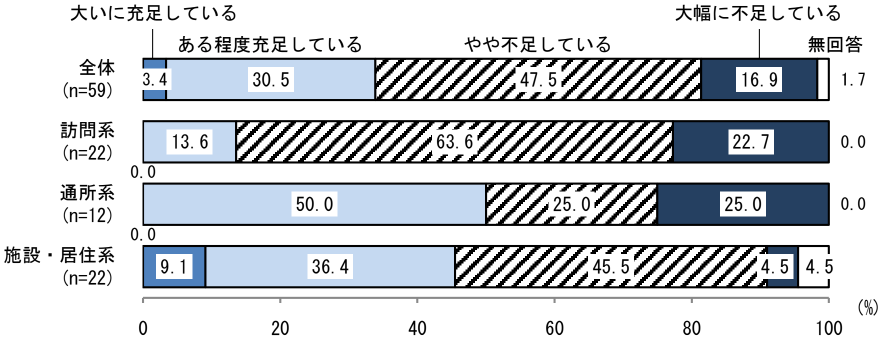
※人数は回答のあった事業所の合計数、平均は回答のあった事業所の平均値。

〔６〕事業所の介護人材戦略等（介護職員の充足）

問９　貴施設等において、現在の介護専門職の人数は充足していますか。（1つに○）

現在の介護専門職の人数の充足具合については、「大いに充足している」と「ある程度充足している」を合わせた『充足している』が合計 33.9％、「大幅に不足している」と「やや不足している」を合わせた『不足している』が合計 64.4％で、『不足している』と回答した事業所が６割強となっています。

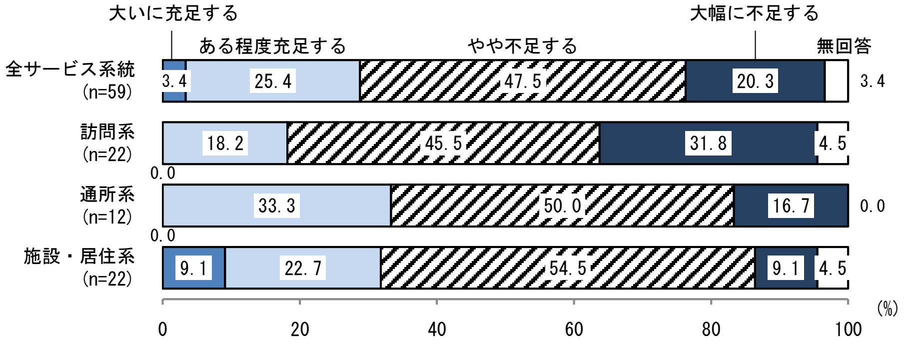
サービス系統別にみると、訪問系サービスで『不足している』が 86.3％と多くなっています。



問10　貴施設等において、今後５年間の介護職員の充足について見通しを教えてください。（1つに○）

今後５年間の介護職員の充足の見通しについては、「大いに充足する」と「ある程度充足する」を合わせた『充足する』が合計 28.8%、「大幅に不足する」と「やや不足する」を合わせた『不足する』が合計 67.8%で、『不足する』と回答した事業所が７割近くを占めています。

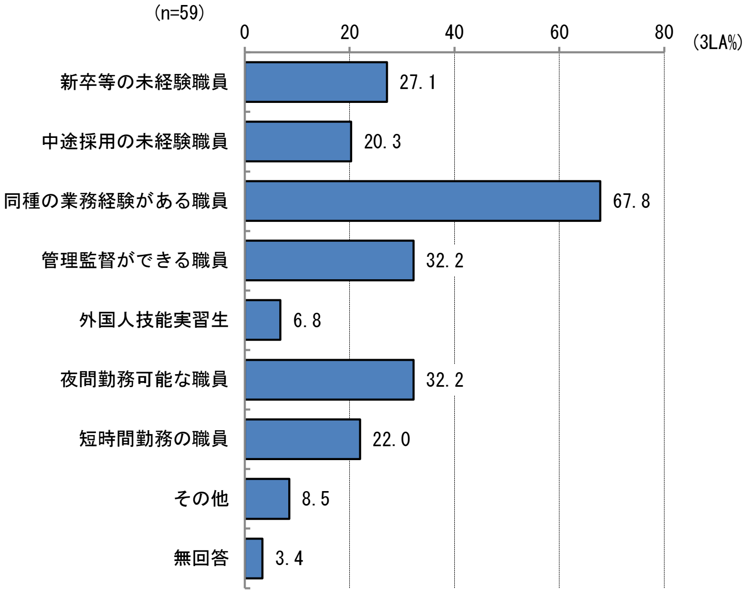
サービス系統別にみると、どの系統でも『不足する』が多くなっていますが、とくに、訪問系サービスで 77.3%と多くなっています。



〔7〕事業所の介護人材戦略等（採用したい人材）

問11　貴施設等で積極的に採用したい人材はどのような人ですか。（３つまでに○）

事業所で採用したい人材については、「同種の業務経験がある職員」が 67.8%と最も多く、次いで、「管理監督ができる職員」、「夜間勤務可能な職員」がそれぞれ 32.2%、「新卒等の未経験職員」が 27.1%となっています。



〔８〕事業所の介護人材戦略等（所属している方の勤務年数・人数・平均年齢）

問12　所属している各介護専門職の方の貴事業所での所属年数に人数をご記入ください。また、それぞれの専門職の方々の平均年齢をご記入ください。（小数点以下は四捨五入）

事業所に所属する各介護専門職員の勤務年数別の人数について、回答のあった事業所の合計でみると、「介護職員（正規職員）」では「１年以上 10 年未満」が 261 人と最も多く、平均年齢は45.9歳となっています。「介護職員（非正規職員）」でも「１年以上10年未満」が208人と最も多く、平均年齢は 53.9 歳となっています。

「介護支援専門員」では正規職員は「10 年以上」が ９ 人と最も多く、平均年齢は 44.2 歳、非正規職員は「１年以上 10 年未満」が ５ 人で最も多く、平均年齢は 60.6 歳となっています。

（単位：人）

		所属年数			平均年齢
		１年未満	１年以上10年未満	10年以上	
(1) 介護職員（正規職員）	人数	58	261	122	45.9歳
	事業所平均	2.1	5.9	3.6	
(2) 介護職員（非正規職員）	人数	61	208	115	53.9歳
	事業所平均	1.9	5.2	4.8	
(3) 介護支援専門員（正規職員）	人数	0	4	9	44.2歳
	事業所平均	0.0	0.4	0.9	
(4) 介護支援専門員（非正規職員）	人数	1	5	2	60.6歳
	事業所平均	0.2	0.6	0.3	
(5) 事務職	人数	1	14	8	39.4歳
	事業所平均	1.6	2.7	2.2	
(6) その他	人数	8	32	12	50.6歳
	事業所平均	1.1	2.7	1.5	

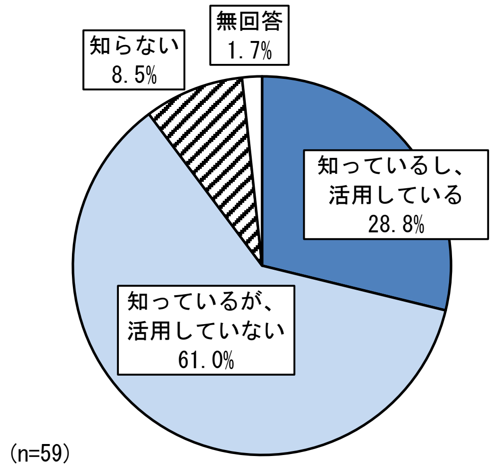
※人数は回答のあった事業所の合計数、平均は回答のあった事業所の平均値。

〔9〕事業所の介護人材戦略等（介護人材養成支援事業補助制度）

芦屋市が実施している下記施策について、ご回答ください。

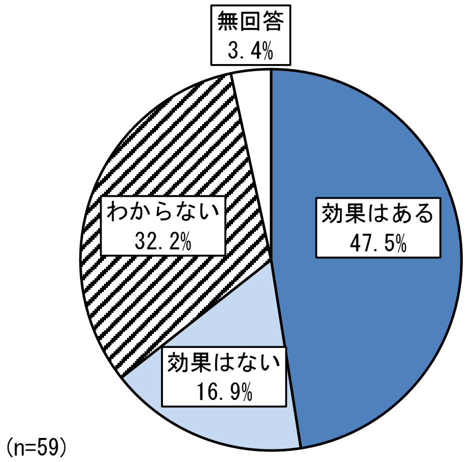
問13-1　介護人材養成支援事業補助制度※1をご存知ですか。
※介護人材養成支援事業補助制度…実務者研修及び介護職員初任者研修の受講費用を一部補助する事業

介護人材養成支援事業補助制度の認知については、「知っているし、活用している」が 28.8%、「知っているが、活用していない」が 61.0%、「知らない」が 8.5%となっています。



問13-2　介護人材養成支援事業補助制度※1は事業所運営に効果があると思いますか。

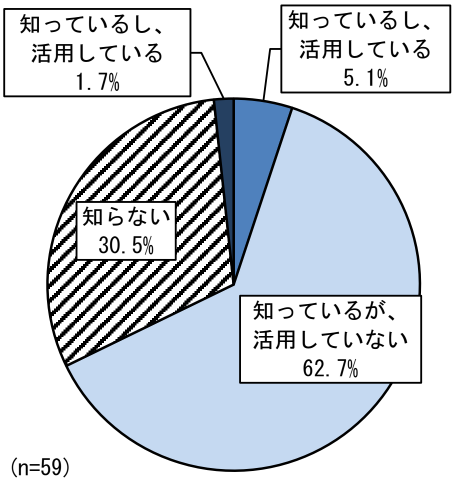
介護人材養成支援事業補助制度の効果については、「効果はある」が 47.5%、「効果はない」が 16.9%となっています。



〔10〕事業所の介護人材戦略等（生活支援型訪問サービス従事者研修）

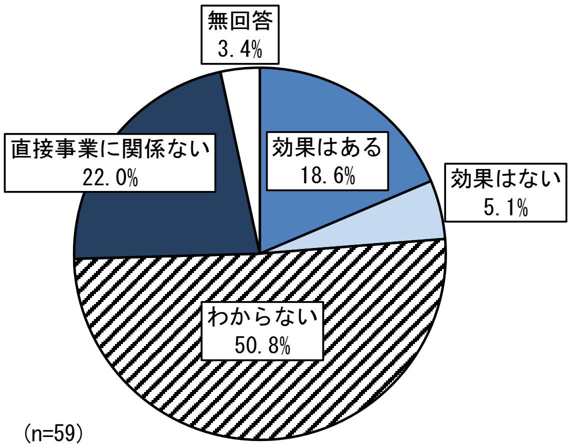
問13-3　生活支援型訪問サービス従事者研修※2をご存知ですか。
※２　生活支援型訪問サービス（買い物・調理・洗濯・掃除等の生活援助）の担い手を養成する研修業

生活支援型訪問サービス従事者研修の認知については、「知っているし、活用している」が5.1%、「知っているが、活用していない」が62.7%、「知らない」が30.5%となっています。



問13-4　生活支援型訪問サービス従事者研修※2は人材確保に効果があると思いますか。

生活支援型訪問サービス従事者研修の効果については、「効果はある」が18.6%、「効果はない」が5.1%、「わからない」が50.8%となっています。



第１０次芦屋すこやか長寿プラン２１
策定に向けたアンケート調査
報　告　書

発行　芦屋市こども福祉部 福祉室 高齢介護課

〒659-8501
兵庫県芦屋市精道町７－６

電話 0797-38-2044

FAX　0797-38-2060